公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第626集

川端山下遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その３）報告書

2017.3

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

川端山下遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その３）報告書

二〇一七・三

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

川 端 山 下 遺 跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その３）報告書

2017.3

国　土　交　通　省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

１．川端山下遺跡遠景（○印　南西から）

２．Ｂ５区２面細ヶ沢川旧流路右岸屋敷堀と推定される３、４号溝（北西から）

口絵 2

３．中世の出土遺物

４．吊り金具(拡大)　表(左)　裏(右)

５．南鐐二朱銀形土製品　表(左)　裏(右)

６．前橋藩窯製の陶磁器

序

群馬県の幹線道路である一般国道17号は、埼玉県深谷バイパスから伊勢崎・前橋の赤城山南麓を経由する「上武道路」として整備が進められてきました。「上武道路」は、物流の効率化、生活圏の拡大など産業、経済、観光の発展を担う道路として県民のみならず首都圏の人々の期待を集めています。

本道路の整備地域には、多くの遺跡が所在しており、改築工事の推進に伴い発掘調査が実施されてきました。発掘調査は79遺跡におよび65冊の報告書が刊行されています。本書は、平成24・25年度の川端山下遺跡における発掘調査の成果をまとめたものです。

川端山下遺跡は、群馬県の中央部、赤城山南西麓にある広瀬川低地帯に立地しています。発掘調査では、古墳時代の水田、古代の住居跡、中・近世の竪穴状遺構、溝等が確認されており、当時の人たちの土地利用と生活の様相を明らかにすることができました。

発掘調査から報告書刊行に至るまでに、国土交通省、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会文化財保護課をはじめとする関係機関及び地元関係者の皆さまには、多大なご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり衷心より感謝申し上げます。合わせて本報告書が地域の歴史を学ぶ資料として多くの皆様に活用されることを願いまして、序といたします。

平成29年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　中 野 三 智 男

例　　言

１．本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その３)による、川端山下遺跡の発掘調査報告書である。

２．川端山下遺跡は、群馬県前橋市川端町根岸30-1・4、31、32-1、34-1・2、36-1・4・5、38-1、39-1、40-1、46-1、52-1、53-1、54-1・4、道東163-1、164-1・3・4・6・7、165、山下177-1、178-1他に所在する。

３．事業主体　国土交通省関東地方整備局

４．調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

５．整理主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

６．発掘調査の体制と期間は次のとおりである。

平成24年度

調査担当　麻生敏隆(上席専門員)　長澤典子(主任調査研究員)

遺跡掘削請負工事　技研測量設計株式会社

地上測量　技研測量設計株式会社

履行期間　平成24年４月１日～平成25年３月31日

調査期間　平成24年12月１日～平成25年３月31日

調査面積　2,279.76㎡

平成25年度

調査担当　関根愼二(上席専門員・調査統括)　麻生敏隆(上席専門員)

遺跡掘削請負工事　技研測量設計株式会社

地上測量　技研測量設計株式会社

履行期間　平成25年４月１日～平成26年３月31日

調査期間　平成25年４月１日～平成25年６月30日

調査面積　5,752.00㎡

７．整理事業の体制と期間は次のとおりである。

平成28年度

整理担当　都木直人(主任調査研究員)

履行期間　平成28年４月１日～平成29年３月31日

整理期間　平成28年４月１日～平成28年９月30日及び平成28年12月１日～平成29年３月31日

８．本報告書作成関係者

編集　都木直人(主任調査研究員)

本文執筆　第１章１～３節　小島敦子(事業局長)・都木直人(主任調査研究員)

第１章４節・第２～４章　都木直人(主任調査研究員)

デジタル編集　齊田智彦(主任調査研究員)

遺構写真　発掘調査担当者

遺物写真　石坂茂(専門調査役)、大西雅広(上席専門員・資料統括)、関邦一(補佐(総括))、津島秀章(資料２課長(総括))、都木直人(主任調査研究員)

遺物観察・観察表執筆

縄文・弥生土器	石坂　茂(専門調査役)
土師器・須恵器・土製品	神谷佳明(専門調査役)
陶磁器	大西雅広(上席専門員・資料統括)
石器・石製品	津島秀章(資料２課長(総括))
金属製品・木製品	関　邦一(補佐(総括))
保存処理	関　邦一(補佐(総括))

９．石器・石製品の石材同定については飯島静男氏(群馬地質研究会会員)にお願いした。

10. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

11. 発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の方々に有益な助言と指導を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(五十音順、敬称略)

群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会文化財保護課

凡　　例

1．本書で使用した遺構平面図の座標は、全て国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)」を用いている。挿図中に使用した方位は、座標北を表している。

2．遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。

3．遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則として遺物実測図と同率とした。

4．遺物番号は出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。

5．本書の図版に使用したスクリーントーン及びマークは、次のことを示す。

遺構平面図　灰　炭　焼土　粘土　硬化面　撹乱

遺物実測図　灰釉　土器断面接合痕 ▼

石器実測図　摩耗痕の範囲　摩耗痕の範囲(断面図)　火打石潰れ部 …

6．遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示す。

● 土器・陶磁器　○ 土製品　▲ 石器・石製品　■ 鉄・金属製品

7．遺構の主軸方位・走向は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N―○°―Eとした。遺構の面積は、下端を計測した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し(　)で表し、途中で途切れている溝等の全長を推測した場合は〔　〕で表した。

8．住居の主軸方位については、カマドのある住居については、カマドの設置された方向を主軸として捉えた。カマドのない住居については、長軸方向を主軸とした。住居面積の計測はプラニメーターで３回行いその平均値を採用した。

9．土層断面の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1988年版』に基づいている。

10. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。

・計測値の(　)は現存値を、[　]は推定値を示す。

・計測値は、口：口径、底：底径、台：高台径、高：器高、長：長さ、厚：厚さ、摘：摘み径、孔：孔径、脚：脚底部径(以上単位はcm)、重：重量(単位はg)　最：最大径と略記した。

・胎土観察における砂粒の表現は、0.2mm以下を細砂粒、0.2～２mmを粗砂粒、２mm以上を小礫とした。色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1988年版』に基づいている。

11. 降下火山灰の名称と年代は以下の通りである。

As-A：浅間山Ａテフラ(天明三(1783)年)、As-B：浅間山Ｂテフラ(天仁元(1108)年)、As-Kk：浅間粕川テフラ(12世紀前半か)、Hr-FP：榛名山二ツ岳軽石(６世紀中葉)、Hr-FA：榛名山二ツ岳火山灰(５世紀末～６世紀初頭)、As-C：浅間山Ｃテフラ(３世紀末～４世紀初頭)

12. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院　地勢図１:200,000「長野」(平成18年11月１日発行)「宇都宮」(平成18年４月１日発行)

国土地理院　地勢図１:50,000「前橋」(平成10年３月１日発行)

国土地理院　地形図１:25,000「前橋」(平成22年12月１日発行)

国土地理院　地形図１:25,000「渋川」(平成14年10月１日発行)

前橋市　１:2,500前橋市現況図(平成21年測図)

目　　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第１章　調査の経過
　第１節　上武道路について・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　第２節　上武道路と埋蔵文化財 ・・・・・・・・・・・・ 2
　第３節　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　第４節　調査方法と経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第２章　周辺の環境
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　第３節　土層堆積状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

第３章　調査の内容
　第１節　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
　第２節　Ａ区の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・ 30
　　Ⅰ　近世〔第１面〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
　　1　Ａ１区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 30
　　2　Ａ２区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 30
　　Ⅱ　中・近世〔第２面〕・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
　　1　Ａ１区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 37
　　2　Ａ２区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 37
　　Ⅲ　古代〔第３面〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
　　1　Ａ１区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 46
　　2　Ａ２区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 46
　第３節　Ｂ・Ｃ区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・ 51
　　Ⅰ　近世〔第１面〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
　　1　Ｂ４区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 51
　　2　Ｂ５区、Ｃ１・４区の遺構と遺物・・・・・ 69
　　Ⅱ　中・近世〔第２面〕・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
　　1　Ｂ４・５区、Ｃ１・４区の遺構と遺物・・ 72
　　2　Ｃ２・３区の遺構と遺物・・・・・・・・・・ 93
　　Ⅲ　古代〔第３面〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
　　1　Ｂ５区、Ｃ１区の遺構と遺物 ・・・・・・・ 95
　　2　Ｂ４・６区、Ｃ３区の遺構と遺物・・・・・107
　　Ⅳ　古墳時代〔第４面〕・・・・・・・・・・・・・・・・109
　　1　Ｂ４区、Ｃ１区の遺構と遺物 ・・・・・・・109
　　2　Ｂ１・２区の遺構と遺物・・・・・・・・・・111
　　3　Ｂ６区、Ｃ３・４区の遺構と遺物・・・・・111
　　Ⅴ　古墳時代以前〔第５面〕 ・・・・・・・・・・・・113
　　1　Ｂ４区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・113
　　2　Ｂ２・３区の遺構と遺物・・・・・・・・・・115
　　3　Ｂ５区、Ｃ１区の遺構と遺物 ・・・・・・・115
　　Ⅵ　古墳時代以前〔第６面〕 ・・・・・・・・・・・・117
　　1　Ｂ５区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・117
　　2　Ｃ１区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・121

第４章　総括
　第１節　調査の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
　第２節　旧流路右岸に位置する中・近世の屋敷跡・122
　　1　はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
　　2　屋敷堀と推定される溝について ・・・・・・・123
　　3　屋敷跡と推定される遺構について・・・・・・123
　　4　旧流路左岸に位置する中・近世の屋敷跡と推察
　　される遺構について・・・・・・・・・・・・・・125
　　5　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・125
　第３節　前橋藩窯によって焼成された陶磁器 ・・・126
　第４節　南鐐二朱銀を模した銭形土製品 ・・・・・127

土坑計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・129
ピット計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133
写真図版
発掘調査報告書抄録

挿図目次

第１図　上武道路と遺跡の位置(国土地理院１/200,000地勢図「長野」「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用)・・・・・・・・・・・・　1
第２図　上武道路調査遺跡一覧(国土地理院１/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を拡大して使用)・・・・・・・・・・・・・・・・　3
第３図　上武道路８工区の遺跡(国土地理院１/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
第４図　川端山下遺跡周辺図(前橋市役所１/2,500前橋市現形図平成21年測図を使用)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
第５図　大・中グリッド設定図(国土地理院１/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)・・・・・・・・・・・　8
第６図　中・小グリッド設定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
第７図　調査区細分図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
第８図　川端山下遺跡周辺地形分類図(群馬県史編纂委員会『群馬県史』通史編１・付図２を改変)・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
第９図　川端山下遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院１/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)・・・・・・・　17
第10図　土層堆積状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
第11図　川端山下遺跡全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27・28
第12図　Ａ１・２区１～３面　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・　29
第13図　Ａ２区１面　１号溝、出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・　31
第14図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・・・　32
第15図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物(３)・・・・・・・・・・・・・・　33
第16図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物(４)・・・・・・・・・・・・・・　34
第17図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物(５)・・・・・・・・・・・・・・　35
第18図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物(６)・・・・・・・・・・・・・・　36
第19図　Ａ２区１面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・　37
第20図　Ａ２区２面　１号竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・　37
第21図　Ａ２区２面　２・４号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39
第22図　Ａ２区２面　２号溝断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40
第23図　Ａ２区２面　２・４号溝断面・・・・・・・・・・・・・・・・　41
第24図　Ａ２区２面　４号溝断面、２・４号溝出土遺物・・・・・・・　42
第25図　Ａ２区２面　１号地下式土坑・・・・・・・・・・・・・・・・　43
第26図　Ａ２区２面　２号地下式土坑・・・・・・・・・・・・・・・・　44
第27図　Ａ２区２面　１・２号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・　45
第28図　Ａ２区２面　１・２号地下式土坑出土遺物・・・・・・・・・　46
第29図　Ａ２区３面　１号住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
第30図　Ａ２区３面　３号溝、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・　48
第31図　Ａ２区３面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・　48
第32図　Ｂ４区１面　南西部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
第33図　Ｂ４区１面　北東部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・　50
第34図　Ｂ４区１面　１号竪穴状遺構、出土遺物・・・・・・・・・・　51
第35図　Ｂ４区１面　１号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
第36図　Ｂ４区１面　２～８号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54
第37図　Ｂ４区１面　２号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・　55
第38図　Ｂ４区１面　４・６号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・　56
第39図　Ｂ４区１面　１～７・９号土坑・・・・・・・・・・・・・・・　62
第40図　Ｂ４区１面　８・10・11・15・16・18～20・25号土坑・・・　63
第41図　Ｂ４区１面　12～14・17・21～24・28号土坑・・・・・・・・　64
第42図　Ｂ４区１面　２・11・16・20号土坑出土遺物・・・・・・・・　65
第43図　Ｂ４区１面　旧流路右岸のピット・・・・・・・・・・・・・　66
第44図　Ｂ４区１面　旧流路左岸のピット(１)・・・・・・・・・・・　67
第45図　Ｂ４区１面　旧流路左岸のピット(２)・・・・・・・・・・・　68
第46図　Ｂ４・Ｃ１区１面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・　69
第47図　Ｂ４区２面　北東部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・　70
第48図　Ｂ５区２面　北西部全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・　71
第49図　Ｃ１・４区２面　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・　72
第50図　Ｂ５区２面　３・４・13～16号溝・・・・・・・・・・・・・・　75
第51図　Ｂ５区２面　３・４・13～16号溝断面・・・・・・・・・・・・　76
第52図　Ｃ１区２面　９号溝と出土遺物、Ｂ５区２面　19号溝・・・　77
第53図　Ｂ５区２面　３・４号溝出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・　78
第54図　Ｂ５区２面　３・４号溝出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・　79
第55図　Ｂ５区２面　３・４号溝(３)、13・15号溝出土遺物・・・・　80
第56図　Ｃ１区２面　１号畑、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・　81
第57図　Ｂ４区２面　１号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　82
第58図　Ｃ１区２面　26号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　84
第59図　Ｃ１区２面　27号土坑、Ｂ５区２面　30～34号土坑・・・・　85
第60図　Ｂ５・Ｃ１区２面　土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・　86
第61図　Ｂ４区２面　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　88
第62図　Ｂ５区２面　ピット(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・　89
第63図　Ｂ５区２面　ピット(２)、出土遺物・・・・・・・・・・・・・　90
第64図　Ｃ４区２面　石垣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　91
第65図　Ｂ４・５区２面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・　92
第66図　Ｂ５・Ｃ１・Ｃ４区２面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・　93
第67図　Ｂ５・Ｃ１区３面　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・　94
第68図　Ｃ１区３面　12号溝、Ｂ５区３面　13・18号溝・・・・・・　96
第69図　Ｂ５区３面　１号畦断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・　97
第70図　Ｂ５区３面　１号耕作痕・・・・・・・・・・・・・・・・・・　98
第71図　Ｂ５区３面　35～37号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・　99
第72図　Ｂ５区３面　38・39号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・100
第73図　Ｂ５区３面　ピット群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
第74図　Ｂ５区３面　ピット(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
第75図　Ｂ５区３面　ピット(２)・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
第76図　Ｂ５区３面　260号ピット出土遺物・・・・・・・・・・・・・104
第77図　Ｂ５区３面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・105
第78図　Ｂ５・Ｃ１区３面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・106
第79図　Ｂ６区３面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・107
第80図　Ｂ４・Ｃ１区４面　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・108
第81図　Ｂ４区４面　１号水田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
第82図　Ｂ４区４面　１号水田断面・・・・・・・・・・・・・・・・・110
第83図　Ｃ１区４面　２号水田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
第84図　Ｂ区・Ｃ４区４面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・111
第85図　Ｂ４区５面　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・112
第86図　Ｂ４区５面　10・11・17号溝断面・・・・・・・・・・・・・114
第87図　Ｂ４区５面　遺構外出土遺物(１)・・・・・・・・・・・・・114
第88図　Ｂ４区５面　遺構外出土遺物(２)・・・・・・・・・・・・・115
第89図　Ｂ５区６面　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・116
第90図　Ｂ５区６面　20～22号溝断面、20・21号溝出土遺物・・・・118
第91図　Ｂ５区６面　40・41号土坑、278～283号ピット・・・・・・120
第92図　Ｂ５・Ｃ１区６面　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・121
第93図　Ｂ４・５区の溝全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
第94図　南鐐二朱銀を模した銭形土製品の群馬県内出土例・・・・・128

表目次

第１表　上武道路の調査遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
第２表　上武道路８工区調査遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・　6
第３表　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第４表　土坑計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　129
第５表　ピット計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　130

写真図版目次

PL. 1　1.　Ａ２区全景(南東から)
　　2.　Ｂ４区２面全景(南から)
PL. 2　1.　Ｂ４区１面調査風景(南東から)
　　2.　Ｂ５区２面全景(南から)
PL. 3　1.　Ｂ５区３面全景(南東から)
　　2.　Ｂ５区６面全景(北西から)
PL. 4　1.　Ｂ・Ｃ区調査区全景(北から)
　　2.　Ｃ１区２面調査風景(南から)
PL. 5　1.　Ａ２区１面１号溝全景(南から)
　　2.　Ａ２区１面１号溝土層断面(南から)
　　3.　Ａ１区調査区全景(北から)
　　4.　Ａ１区調査区確認面(北から)
　　5.　Ａ１区調査区確認面(北から)
PL. 6　1.　Ａ２区２面２号溝全景(西から)
　　2.　Ａ２区２面２号溝全景(東から)
　　3.　Ａ２区２面２号溝遺物出土状態(東から)
　　4.　Ａ２区２面２号溝土層断面東(西から)
　　5.　Ａ２区２面２号溝遺物出土状態(西から)
PL. 7　1.　Ａ２区２面２号溝全景(南東から)
　　2.　Ａ２区２面２号溝調査風景(西から)
　　3.　Ａ２区２面４号溝全景(南西から)
　　4.　Ａ２区２面４号溝全景(北から)
　　5.　Ａ２区２面２・４号溝全景(南から)
PL. 8　1.　Ａ２区２面１号堅穴状遺構、１号土坑全景(北から)
　　2.　Ａ２区２面２号土坑全景(西から)
　　3.　Ａ２区２面１号地下式土坑全景(南から)
　　4.　Ａ２区２面２号地下式土坑全景(南から)
PL. 9　1.　Ａ２区３面１号住居全景(南西から)
　　2.　Ａ２区３面３号溝全景(北から)
PL. 10　1.　Ｂ４区１面旧流路左岸全景(南から)
　　2.　Ｂ４区１面調査区北東部全景(南から)
　　3.　Ｂ４区１面調査区北東部全景(西から)
　　4.　Ｂ４区１面６号溝全景(南から)
　　5.　Ｂ４区１面１号堅穴状遺構土層断面(南から)
PL. 11　1.　Ｂ４区１面旧流路右岸全景(南から)
　　2.　Ｂ４区１面１号溝全景(北から)
　　3.　Ｂ４区１面１号溝全景(南から)
　　4.　Ｂ４区１面１～４号溝全景(北から)
PL. 12　1.　Ｂ４区１面１～４号溝全景(南から)
　　2.　Ｂ４区１面２号溝、２号土坑土層断面(南から)
　　3.　Ｂ４区１面３・４号溝土層断面(南から)
　　4.　Ｂ４区１面４号溝土層断面(東から)
　　5.　Ｂ４区１面５号溝土層断面(南から)
PL. 13　1.　Ｂ４区１面１号土坑全景(南から)
　　2.　Ｂ４区１面２号土坑全景(西から)
　　3.　Ｂ４区１面３号土坑全景(西から)
　　4.　Ｂ４区１面４号土坑全景(東から)
　　5.　Ｂ４区１面５号土坑全景(南西から)
　　6.　Ｂ４区１面６号土坑全景(西から)
　　7.　Ｂ４区１面７号土坑全景(南から)
　　8.　Ｂ４区１面８号土坑全景(西から)
PL. 14　1.　Ｂ４区１面９号土坑土層断面(南から)
　　2.　Ｂ４区１面10号土坑全景(南から)
　　3.　Ｂ４区１面11号土坑全景(南から)
　　4.　Ｂ４区１面12号土坑土層断面(東から)
　　5.　Ｂ４区１面13号土坑土層断面(東から)
　　6.　Ｂ４区１面14号土坑全景(東から)
　　7.　Ｂ４区１面15号土坑全景(南東から)
　　8.　Ｂ４区１面16号土坑全景(南東から)
PL. 15　1.　Ｂ４区１面16号土坑遺物出土状態(南東から)
　　2.　Ｂ４区１面28号土坑全景(南から)
　　3.　Ｂ４区１面２号ピット全景(南から)
　　4.　Ｂ４区１面14号ピット全景(南から)
　　5.　Ｂ４区１面18号ピット全景(南から)
　　6.　Ｂ４区１面25号ピット全景(南から)
　　7.　Ｂ４区１面30号ピット全景(東から)
　　8.　Ｂ４区１面33号ピット全景(南から)
　　9.　Ｂ４区１面44号ピット全景(南から)
　　10.　Ｂ４区１面46号ピット全景(南から)
　　11.　Ｂ４区１面50号ピット全景(南から)
　　12.　Ｂ４区１面51号ピット全景(南から)
PL. 16　1.　Ｂ４区１面51号ピット土層断面(南から)
　　2.　Ｂ４区１面52号ピット土層断面(西から)
　　3.　Ｂ４区１面53号ピット土層断面(南から)
　　4.　Ｂ４区１面53号ピット礎石検出状況(南から)
　　5.　Ｂ４区１面54号ピット全景(南から)
　　6.　Ｂ４区１面54号ピット礎石検出状況(南から)
　　7.　Ｂ４区１面55号ピット全景(南から)
　　8.　Ｂ４区１面58号ピット全景(西から)
　　9.　Ｂ４区１面59号ピット全景(南から)
　　10.　Ｂ４区１面65号ピット土層断面(南西から)
　　11.　Ｂ４区１面65号ピット全景(南西から)
　　12.　Ｂ４区１面67号ピット全景(南から)
　　13.　Ｂ４区１面70号ピット全景(東から)
　　14.　Ｂ４区１面70号ピット土層断面(東から)
　　15.　Ｂ４区１面72号ピット全景(南から)
PL. 17　1.　Ｂ５区２面全景(西から)
　　2.　Ｂ５区２面溝(北西から)
　　3.　Ｂ５区２面溝とピット群(北から)
　　4.　Ｂ５区２面ピット群(西から)
　　5.　Ｂ５区２面ピット群(北から)
PL. 18　1.　Ｂ５区２面３・４号溝全景(西から)
　　2.　Ｂ５区２面３・４号溝土層断面(西から)
　　3.　Ｂ５区２面３・４・15号溝土層断面(南から)
　　4.　Ｃ１区２面９号溝全景(北から)
　　5.　Ｃ１区２面９号溝土層断面(南東から)
PL. 19　1.　Ｂ５区２面13号溝全景(南から)
　　2.　Ｂ５区２面13号溝土層断面(北から)
　　3.　Ｂ５区２面14号溝土層断面(北から)
　　4.　Ｂ５区２面15号溝、33号土坑土層断面(北から)
　　5.　Ｂ５区２面16号溝全景(北から)
　　6.　Ｂ５区２面19号溝全景(東から)
　　7.　Ｂ５区２面19号溝全景(北西から)
　　8.　Ｂ５区２面３・４・15号溝全景(南から)
PL. 20　1.　Ｃ１区２面１号畑全景(西から)
　　2.　Ｃ１区２面１号畑全景(北から)
　　3.　Ｃ１区２面１号畑全景(南から)
　　4.　Ｃ１区２面１号畑土層断面(西から)
　　5.　Ｃ１区２面１号畑土層断面(西から)
PL. 21　1.　Ｂ４区２面１号井戸全景(南から)
　　2.　Ｂ４区２面１号井戸上部全景(西から)
　　3.　Ｂ４区２面１号井戸上部土層断面(西から)
　　4.　Ｂ４区南部旧流路(西から)
　　5.　Ｂ４区南部旧流路(東から)
PL. 22　1.　Ｃ１区２面26号土坑全景(北から)
　　2.　Ｃ１区２面26号土坑全景(北から)
　　3.　Ｃ１区２面26号土坑遺物出土状態(西から)
　　4.　Ｃ１区２面27号土坑遺物出土状態(東から)
　　5.　Ｃ１区２面27号土坑遺物出土状態(東から)
PL. 23　1.　Ｂ５区２面30号土坑全景(北から)
　　2.　Ｂ５区２面31号土坑全景(北から)
　　3.　Ｂ５区２面31号土坑遺物出土状態(南から)
　　4.　Ｂ５区２面31号土坑遺物出土状態(東から)
　　5.　Ｂ５区２面32号土坑全景(北から)
　　6.　Ｂ５区２面31・32号土坑全景(北西から)
　　7.　Ｂ５区２面34ａ・ｂ・ｃ号土坑全景(南から)

8．　Ｂ５区２面34ａ・ｂ・ｃ号土坑全景(西から)
PL. 24　1．　Ｂ４区２面旧流路左岸全景(南から)
2．　Ｂ４区２面77号ピット全景(南西から)
3．　Ｂ４区２面78号ピット全景(南から)
4．　Ｂ４区２面94号ピット全景(南から)
5．　Ｂ４区２面102・103号ピット全景(南から)
PL. 25　1．　Ｂ５区２面112号ピット全景(南から)
2．　Ｂ５区２面113号ピット全景(南から)
3．　Ｂ５区２面114号ピット全景(南から)
4．　Ｂ５区２面115号ピット全景(南から)
5．　Ｂ５区２面116号ピット全景(南から)
6．　Ｂ５区２面117号ピット全景(南から)
7．　Ｂ５区２面118号ピット全景(南から)
8．　Ｂ５区２面119号ピット全景(南から)
9．　Ｂ５区２面120・121号ピット全景(南から)
10.　Ｂ５区２面122号ピット全景(南から)
11.　Ｂ５区２面123号ピット全景(南から)
12.　Ｂ５区２面124号ピット全景(南から)
13.　Ｂ５区２面125号ピット全景(南から)
14.　Ｂ５区２面ピット群全景(南から)
15.　Ｂ５区２面調査区全景(南から)
PL. 26　1．　Ｃ４区２面１号石垣全景(東から)
2．　Ｃ４区２面１号石垣断面(南東から)
3．　Ｃ４区２面１号石垣上部(南から)
4．　Ｃ４区北壁土層断面(南から)
5．　Ｃ４区２面調査風景(南東から)
PL. 27　1．　Ｂ５区３面調査区全景(南から)
2．　Ｂ５区３面全景(北から)
3．　Ｂ５区３面全景(南から)
4．　Ｂ５区３面調査区北西ピット群(南西から)
5．　Ｂ５区３面調査区北西ピット群(西から)
PL. 28　1．　Ｃ１区３面12号溝全景(南から)
2．　Ｃ１区３面12号溝全景(西から)
3．　Ｂ５区３面13号溝全景(南西から)
4．　Ｂ５区３面13号溝全景(北東から)
5．　Ｂ５区３面13号溝土層断面(南から)
6．　Ｂ５区３面18号溝全景(東から)
7．　Ｂ５区３面18号溝全景(北東から)
8．　Ｂ５区３面18号溝土層断面(南から)
PL. 29　1．　Ｂ５区３面１号畦全景(南東から)
2．　Ｂ５区３面１号畦全景(北から)
3．　Ｂ５区３面１号畦全景(南東から)
4．　Ｂ５区３面１号畦全景(北から)
5．　Ｂ５区３面１号畦土層断面(南から)
PL. 30　1．　Ｂ５区３面耕作痕全景(北東から)
2．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(東から)
3．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(南から)
4．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(南から)
5．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(西から)
6．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(南から)
7．　Ｂ５区４面耕作痕検出状況(南から)
8．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(西から)
PL. 31　1．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(西から)
2．　Ｂ５区３面耕作痕検出状況(東から)
3．　Ｂ５区３面35号土坑全景(南から)
4．　Ｂ５区３面35号土坑土層断面(西から)
5．　Ｂ５区３面36号土坑全景(南から)
6．　Ｂ５区３面37号土坑全景(南から)
7．　Ｂ５区３面38号土坑全景(東から)
8．　Ｂ５区３面39号土坑全景(南から)
PL. 32　1．　Ｂ５区３面ピット群(南から)
2．　Ｂ５区３面190号ピット全景(南から)
3．　Ｂ５区３面191号ピット全景(南から)
4．　Ｂ５区３面192号ピット全景(南から)
5．　Ｂ５区３面193号ピット全景(南から)
6．　Ｂ５区３面194号ピット土層断面(南から)
7．　Ｂ５区３面195号ピット土層断面(南から)
8．　Ｂ５区３面195号ピット全景(南から)
9．　Ｂ５区３面196号ピット全景(南から)
10.　Ｂ５区３面197号ピット全景(南から)
11.　Ｂ５区３面199号ピット全景(南から)
12.　Ｂ５区３面200号ピット全景(南から)
PL. 33　1．　Ｂ５区３面203・260号ピット全景(東から)
2．　Ｂ５区３面260号ピット礎石出土状態(東から)
3．　Ｂ５区３面260号ピット礎石出土状態(西から)
4．　Ｂ５区３面204号ピット全景(南から)
5．　Ｂ５区３面204号ピット礎石出土状態(南から)
6．　Ｂ５区３面205号ピット全景(南から)
7．　Ｂ５区３面206号ピット全景(南から)
8．　Ｂ５区３面208号ピット全景(南から)
9．　Ｂ５区３面224号ピット全景(南から)
10.　Ｂ５区３面263号ピット礎石出土状態(南から)
11.　Ｂ５区３面263号ピット全景(南から)
12.　Ｂ５区３面ピット群(東から)
PL. 34　1．　Ｂ４区４面１号水田全景(西から)
2．　Ｂ４区４面１号水田全景(南から)
3．　Ｂ４区４面１号水田畦土層断面(南から)
4．　Ｂ４区４面北壁土層断面(南から)
PL. 35　1．　Ｃ１区４面２号水田全景(北から)
2．　Ｃ１区４面２号水田畦検出状況(東から)
3．　Ｃ１区４面２号水田畦検出状況(西から)
4．　Ｃ１区４面２号水田畦検出状況(南から)
5．　Ｃ１区土層断面(北から)
PL. 36　1．　Ｂ４区５面全景(北から)
2．　Ｂ４区５面全景(南から)
3．　Ｂ４区５面全景(西から)
4．　Ｂ４区５面10号溝全景(南から)
PL. 37　1．　Ｂ４区５面11号溝全景(南から)
2．　Ｂ４区５面11号溝土層断面(西から)
3．　Ｂ４区５面17号溝全景(北から)
4．　Ｂ４区５面17号溝全景(南から)
5．　Ｂ４区５面調査区北東部全景(西から)
6．　Ｂ４区５面17号溝土層断面(西から)
7．　Ｂ４区５面北壁土層断面(南から)
PL. 38　1．　Ｂ４区５面遺物出土状態(南から)
2．　Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)
3．　Ｂ４区５面遺物出土状態(北西から)
4．　Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)
5．　Ｂ４区５面遺物出土状態(東から)
PL. 39　1．　Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)
2．　Ｂ４区５面遺物出土状態(南から)
3．　Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)
4．　Ｂ４区５面遺物出土状態(南から)
5．　Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)
6．　Ｂ４区５面遺物出土状態(東から)
7．　Ｂ４区５面全景(南から)
8．　Ｂ４区５面北壁土層断面(南から)
PL. 40　1．　Ｂ５区６面全景(北西から)
2．　Ｂ５区６面全景(北から)
3．　Ｂ５区６面全景(西から)
4．　Ｂ５区６面全景(南東から)
5．　Ｂ５区６面全景(南から)
PL. 41　1．　Ｂ５区６面20～22号溝全景(北西から)
2．　Ｂ５区６面20号溝全景(東から)
3．　Ｂ５区６面20号溝全景(北西から)
4．　Ｂ５区６面20号溝土層断面(南から)
5．　Ｂ５区６面21号溝全景(北西から)
6．　Ｂ５区６面21号溝土層断面(南から)
7．　Ｂ５区６面21号溝、40号土坑土層断面(北から)
PL. 42　1．　Ｂ５区６面22号溝全景(北西から)
2．　Ｂ５区６面22号溝土層断面(南西から)
3．　Ｂ５区６面遺物出土状態(西から)

４．　Ｂ５区６面遺物出土状態(南から)
５．　Ｂ５区６面遺物出土状態(北西から)
６．　Ｂ５区６面遺物出土状態(南東から)
７．　Ｂ５区６面21号溝、40号土坑遺物出土状態(北西から)
８．　Ｂ５区６面40号土坑全景(南から)
PL．43　１．　Ｂ５区６面41号土坑全景(南から)
２．　Ｂ５区６面41号土坑全景(西から)
３．　Ｂ５区６面278号ピット全景(南から)
４．　Ｂ５区６面279号ピット全景(南から)
５．　Ｂ５区６面280号ピット全景(南から)
６．　Ｂ５区６面281号ピット全景(南から)
７．　Ｂ５区６面282号ピット全景(南から)
８．　Ｂ５区６面283号ピット全景(南から)
PL．44　１．　Ｂ５区トレンチ全景(南から)
２．　Ｂ５区東トレンチ(南から)
３．　Ｂ５区中央トレンチ(北から)
４．　Ｂ５区西トレンチ(北から)
５．　Ｂ５区東トレンチ遺物出土状態(南西から)
６．　Ｂ５区西トレンチ遺物出土状態(東から)
７．　Ｂ５区西トレンチ遺物出土状態(南から)
PL．45　１．　Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(南東から)
２．　Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(南から)
３．　Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(東から)
４．　Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(東から)
５．　Ｂ５区６面西トレンチ遺物出土状態(東から)
６．　Ｂ５区６面西トレンチ遺物出土状態(東から)
７．　Ｂ５区６面調査風景(北西から)
８．　Ｂ５区土層断面(南から)
PL．46　１．　Ａ１区調査区全景(南から)
２．　Ｂ１区調査区全景(北から)
３．　Ｂ２区調査区全景(北東から)
４．　Ｂ６区調査区全景(北から)
５．　Ｃ１区調査区全景(南から)
６．　Ｃ２区調査区全景(南西から)
７．　Ｃ３区調査区全景(西から)
８．　Ｃ４区調査区全景(南東から)
PL．47　１．　Ｂ４区土層堆積状況№２
２．　Ｂ４区土層堆積状況№４
３．　Ｂ４区土層堆積状況№５
４．　Ｃ１区土層堆積状況№９
５．　Ｃ１区土層堆積状況№10
６．　Ｃ３区土層堆積状況№12
７．　Ｃ４区土層堆積状況№13
PL．48　Ａ２区１面１号溝出土遺物
PL．49　Ａ２区１面１号溝、Ａ２区２面２・４号溝、１・２号地下式土坑、Ａ２区３面３号溝、遺構外出土遺物
PL．50　Ｂ４区１面１号堅穴状遺構、２・４・６号溝、２・11・20号土坑、Ｂ４・Ｃ１区１面遺構外、Ｃ１区２面９号溝、Ｂ５区２面３・４号溝出土遺物
PL．51　Ｂ５区２面３・４・13号溝、Ｃ１区２面27号土坑、１号畑出土遺物
PL．52　Ｂ５区２面30・31号土坑、Ｂ４・５区２面遺構外、Ｃ１・４区2面遺構外、Ｂ５区３面260号ピット、Ｃ１区３面遺構外、Ｂ６区３面遺構外、Ｂ区４面遺構外出土遺物
PL．53　Ｂ５区３面遺構外、Ｂ４区５面遺構外出土遺物
PL．54　Ｂ５区６面20・21号溝、Ｂ５・Ｃ１区６面遺構外出土遺物

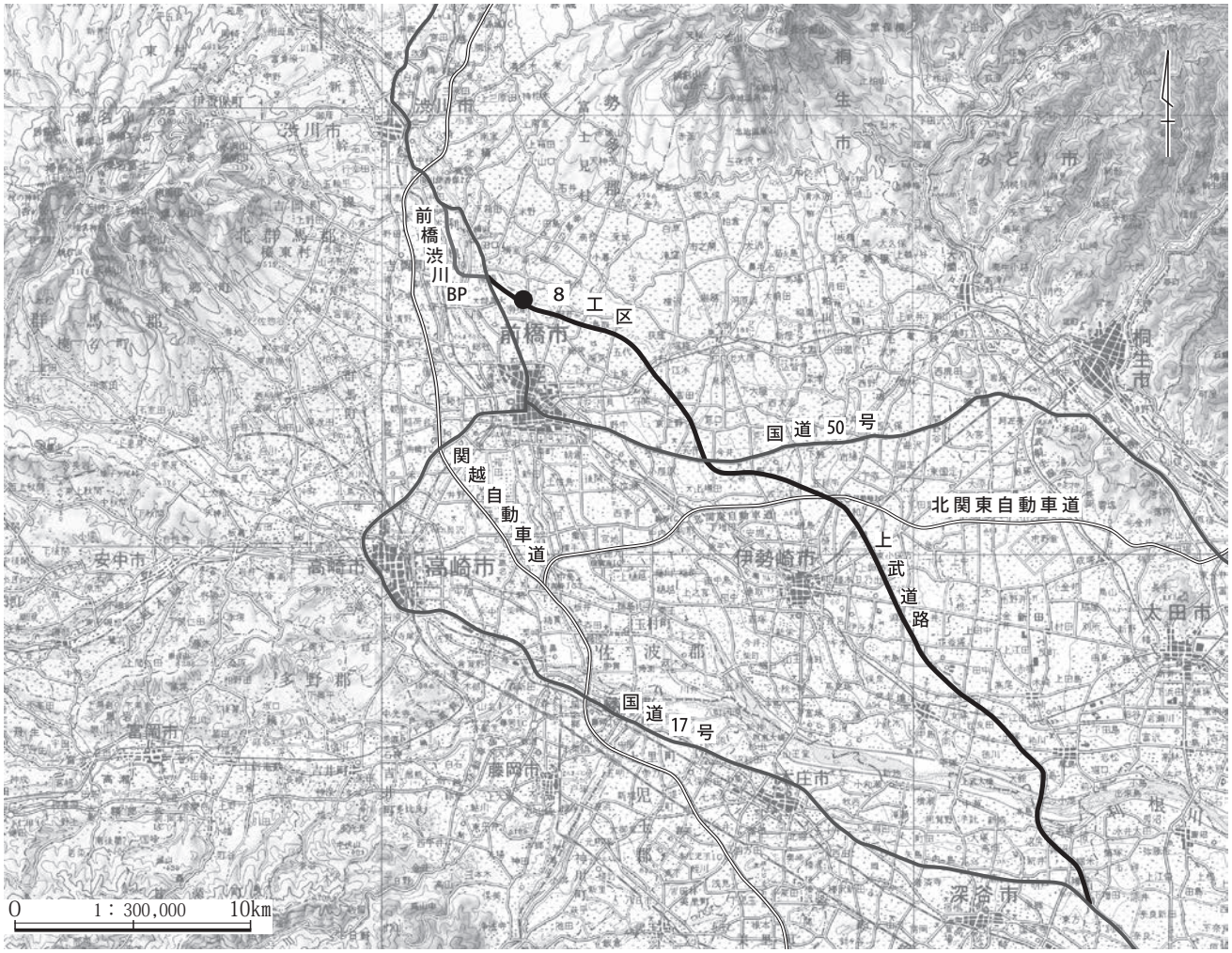
第１章　調査の経過

第１節　上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑の緩和及び地域活性化を目指して計画された大規模バイパスである。埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐してから、群馬県前橋市田口町で現道に接続するまでの延長40.5㎞の道路である。現道の西には、前橋渋川バイパス、鯉沢バイパス、計画中の上信自動車道が続いており、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待を集めている。平成10(1998)年には、前橋渋川バイパスを含む地域高規格道路『熊谷渋川連絡道路』として計画路線の指定を受け、群馬県では『幹線交通乗り入れ30分構想』の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

上武道路の建設事業は、昭和45(1970)年度に着手され、平成４(1992)年２月までには起点から国道50号までの延長27.4㎞区間の供用が開始された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元(1989)年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9㎞区間(７工区)が、平成20(2008)年６月に暫定２車線で供用が開始された。

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする８工区は、平成17(2005)年度に事業が着手され、平成24(2012)年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7㎞区間が暫定開通し、全線開通までの最終3.5㎞区間の工事と発掘調査された遺跡の整理作業が進められている。



第１図　上武道路と遺跡の位置(国土地理院１/200,000地勢図「長野」「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用)

第２節　上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内において有数の埋蔵文化財包蔵地が多く分布する地域である。群馬県は、昭和48(1973)年に文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53(1978)年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程はおおむね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの３つの区間に分けることができる。現在は、③の中程まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成７(1995)年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編『地域をつなぐ　未来へつなぐ－上武道路埋蔵文化財22年の軌跡－』が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた中世「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは７工区にあたる。ここでは17箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で確認された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等も注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは８工区にあたり、31箇所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が８－１工区、西が８－２工区と呼ばれている。調査は、平成18(2006)年度に８－１工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23(2011)年度からは８－２工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

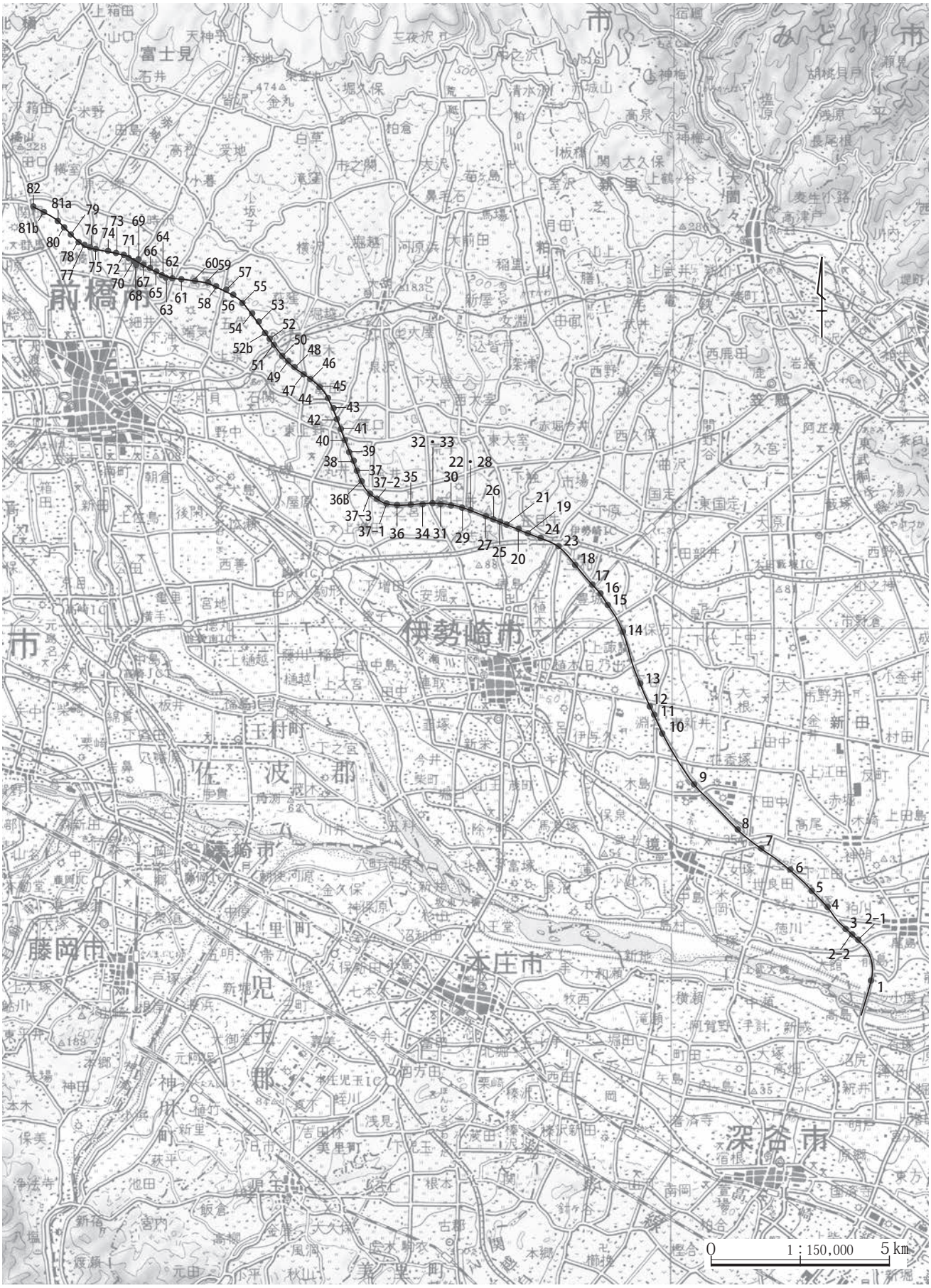
８－１工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、８－２工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が明らかになってきている。

遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器時代までの遺物が確認されている。特に広瀬川低地帯では最西端の田口下田尻遺跡で竪穴住居280軒の大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、Ｊが上武、Ｋが国道を指すＪＫを冠した遺跡略号が、南側の起点から順次算用数字を１から付している。８工区も、７工区の最終番号ＪＫ52に続けて、この略号を使用している。ただし、ＪＫ52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で７工区と８工区で分割されたことから、８工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはＪＫ52bをつけて７工区と区別している。また、ＪＫ59鳥取塚田遺跡は、水田遺構が想定されていたが、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番としなかった(第１表)。また、関根遺跡群は、田口下田尻遺跡、関根細ケ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたが、平成23(2011)年度に開始された田口下田尻遺跡を先行してＪＫ82としたことから、関根細ケ沢遺跡はＪＫ81ａ、関根赤城遺跡はＪＫ81ｂとした。

第３節　調査に至る経緯

上武道路７工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16(2004)年度末で終了した。その後の工事は順調に進み、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。また、同16年度には、国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工された結果、８工区は、東の開通部



第２図　上武道路調査遺跡一覧（国土地理院１/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を拡大して使用）

第１表　上武道路の調査遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査年度	時代							報告書		
(JK)				旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	通番	書名	刊行年
1	島耕地・早川附遺跡	太田市武蔵島町	調査除外								190	安養寺森西遺跡・大舘馬場遺跡・阿久津宮内遺跡 ※試掘結果を掲載	H6
2-1	阿久津宮内遺跡	太田市阿久津町	S60・62			●	●	●	●		190	安養寺森西遺跡・大舘馬場遺跡・阿久津宮内遺跡	H6
2-2	大舘馬場遺跡	太田市大舘町	S62				●		●				
3	安養寺森西遺跡	太田市安養寺町	S60・62				●	●	●				
5	下江田前遺跡	太田市世良田町	S48					●	●		113	飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡	H2
6	歌舞伎遺跡	太田市世良田町	S49・50				●	●	●		13	歌舞伎遺跡	S56
7	小角田前遺跡	太田市世良田町	S51・52		●		●	●	●		49	小角田前遺跡	S60
8	三ツ木遺跡	伊勢崎市境三ツ木・境西今井	S51		●	●	●	●	●		35(44)	三ツ木遺跡※44集(早川河川改修)と合冊	S59(60)
9	西今井遺跡	伊勢崎市境西今井、太田市新田下田中町	S50・51・54・55					●			57(69)	西今井遺跡※69集(早川河川改修)と合冊	S61(62)
10	下淵名塚越遺跡	伊勢崎市境下渕名	S52・53	●			●	●	●		114	下淵名塚越遺跡	H2
11	上淵名裏神谷遺跡	伊勢崎市境上渕名	S54				●	●			124	上淵名裏神谷遺跡・三室間ノ谷遺跡	H3
12													
13	三室間ノ谷遺跡	伊勢崎市三室町	S56				●	●					
14	三室坊主林遺跡	伊勢崎市三室町	S57		●		●		●		90	三室坊主林遺跡	H元
15	八寸大道上遺跡	伊勢崎市三室町	S57		●		●	●			91	八寸大道上遺跡	H元
16	書上下吉祥寺遺跡	伊勢崎市豊城町	S57・58		●		●	●	●		73	書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壱町田遺跡	S62
17	書上上原之城遺跡	伊勢崎市豊城町・三和町	S48・57・58					●	●				
	書上本山遺跡	伊勢崎市三和町	S59	●	●		●	●	●		140	書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡	H4
18	上植木壱町田遺跡	伊勢崎市三和町	S58・59				●	●	●		73	書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壱町田遺跡	S62
19	五目牛南組遺跡	伊勢崎市五目牛町	S59・60		●	●	●	●	●	●	139	五目牛南組遺跡	H4
20													
21	堀下八幡遺跡	伊勢崎市五目牛町・波志江町	S59	●	●			●			111	堀下八幡遺跡	H2
22	波志江今宮遺跡	伊勢崎市波志江町	S55・60		●		●	●		●	181	波志江今宮遺跡	H6
28													
23	上植木光仙房遺跡	伊勢崎市三和町	S58・59		●		●	●	●		80	上植木光仙房遺跡	S63
24	五目牛清水田遺跡	伊勢崎市五目牛町	S59・60		●		●	●	●		144	五目牛清水田遺跡	H4
25	波志江中峰岸遺跡	伊勢崎市波志江町	S60				●	●	●		182	飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡	H6
26	波志江六反田遺跡	伊勢崎市波志江町	S60	●	●			●	●		140	書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡	H4
27	波志江天神山遺跡	伊勢崎市波志江町	S60	●	●				●	●			
29	飯土井二本松遺跡	前橋市飯土井町	S60	●	●		●	●	●		113	飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡	H2
30	飯土井中央遺跡	前橋市飯土井町	S60・61	●	●		●				123	飯土井中央遺跡	H3
31	飯土井上組遺跡	前橋市飯土井町	S60・61		●		●	●	●		182	飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡	H6
32	二之宮宮東遺跡	前橋市二之宮町	S60・61					●	●	●	164	二之宮宮東遺跡	H5
33													
34	二之宮宮下東遺跡	前橋市二之宮町	S62				●	●	●		163	二之宮宮下東遺跡	H5
35	二之宮宮下西遺跡	前橋市二之宮町	S61	●	●		●	●	●		189	二之宮宮下西遺跡	H6
36	二之宮千足遺跡	前橋市二之宮町	S61・62	●	●		●	●	●		125	二之宮千足遺跡	H3
37-1	二之宮洗橋遺跡	前橋市二之宮町	S61・62				●	●	●		166	二之宮洗橋遺跡	H5
37-2	二之宮谷地遺跡	前橋市二之宮町	S61・62				●	●	●		162	二之宮谷地遺跡	H5
37-3	今井道上・道下遺跡	前橋市今井町	S61・62	●			●	●	●		187	今井道上・道下遺跡	H6
36B	今井道上Ⅱ遺跡	前橋市今井町	H13・14		●		●	●	●		367	今井道上Ⅱ遺跡	H17
37	荒砥北三木堂Ⅱ遺跡	前橋市今井町	H12・13・14	●							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(１)	H19
					●	●	●	●	●	●	421	荒砥北三木堂Ⅱ遺跡縄文時代～近世編	H19
38	荒砥北原Ⅱ遺跡	前橋市今井町	H12・13	●	●						395	荒砥北原Ⅱ遺跡	H18
39	荒砥前田Ⅱ遺跡	前橋市荒口町	H12～14		●	●	●	●	●	●	472	荒砥前田Ⅱ遺跡	H21
40	富田細田遺跡	前橋市富田町	H11・12					●	●		384	富田細田遺跡・富田宮下遺跡	H17
41	富田宮下遺跡	前橋市富田町	H11・12		●	●	●	●	●				
42	富田西原遺跡	前橋市富田町	H11・12	●							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(１)	H19
					●	●	●	●	●		483	富田西原遺跡	H21
43	富田高石遺跡	前橋市富田町	H12～14		●	●	●	●	●		494	富田高石遺跡	H21
44	富田漆田遺跡	前橋市富田町	H11～13	●							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(１)	H19
					●		●	●	●		372	富田漆田遺跡・富田下大日遺跡	H17
45	富田下大日遺跡	前橋市富田町	H12・13・14		●		●	●	●				
46	江木下大日遺跡	前橋市江木町	H13・14	●							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(１)	H19
					●		●	●			377	江木下大日遺跡	H18
47	萱野Ⅱ遺跡	前橋市江木町・堤町	H13～15		●		●	●			402	萱野Ⅱ遺跡	H18
48	堤沼上遺跡	前橋市堤町・亀泉町	H14～16	●							478	上武道路・旧石器時代遺跡群(２)	H21
					●		●	●			423	堤沼上遺跡	H19
49	亀泉坂上遺跡	前橋市亀泉町	H13～15		●		●	●	●		445	亀泉坂上遺跡	H20
				●							478	上武道路・旧石器時代遺跡群(２)	H21
50	亀泉西久保Ⅱ遺跡	前橋市亀泉町	H14～16		●		●	●	●		420	亀泉西久保Ⅱ遺跡・荻窪南田遺跡	H19
51	荻窪南田遺跡	前橋市荻窪町・上泉町	H14		●			●	●		420		H19
52	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市上泉町	H14～16		●			●			510	上泉唐ノ堀遺跡	H21
				●							478	上武道路・旧石器時代遺跡群(２)	H21
			H18～20	●							535	上武道路・旧石器時代遺跡群(３)	H23
					●			●	●		522	上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群	H23
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市上泉町	H18～20		●		●	●	●				
54	上泉武田遺跡	前橋市上泉町	H19	●							535	上武道路・旧石器時代遺跡群(３)	H23
					●			●	●		544	上泉武田遺跡・縄文時代以降編	H24
55	五代砂留遺跡群	前橋市五代町	H19		●		●	●	●		530	五代砂留遺跡群	H23
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市五代町・烏取町	H18～20	●							535	上武道路・旧石器時代遺跡群(３)	H23
					●		●	●	●		551	芳賀東部団地遺跡・縄文時代以降編	H24
57	烏取松合下遺跡	前橋市烏取町	H20		●		●	●	●		534	烏取松合下遺跡・胴城遺跡	H23
58	胴城遺跡	前橋市烏取町	H19～21		●	●	●	●	●				
				●							535	上武道路・旧石器時代遺跡群(３)	H23
59	烏取塚田遺跡	前橋市勝沢町	調査除外								—	—	—
60	堤遺跡	前橋市勝沢町	H20		●			●	●		568	堤遺跡	H24
61	小神明勝沢境遺跡	前橋市小神明町	H20		●	●	●	●	●		524	小神明勝沢境遺跡・小神明富士塚遺跡	H23
62	小神明富士塚遺跡	前橋市小神明町・上細井町	H20・21		●		●	●	●				
63	東田之口遺跡	前橋市上細井町	H20				●	●	●		523	東田之口遺跡	H23
64	丑子遺跡	前橋市上細井町	H20			●	●	●	●		558	丑子遺跡・上細井五十嵐遺跡	H24
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市上細井町	H20・21		●			●	●				
66	天王・東組屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	H20		●		●	●	●		575	天王・東組屋谷戸遺跡	H25
67		前橋市富士見町時沢	H20										
68	上町・時沢西組屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	H21				●	●	●		561	上町・時沢西組屋谷戸遺跡	H24
69		前橋市富士見町時沢	H21										
70	王久保遺跡	前橋市上細井町・富士見町時沢	H21・24					●	●		557	王久保遺跡	H24
71	新田上遺跡	前橋市上細井町	H24	●	●	●	●	●	●		591	新田上遺跡	H26
72	上細井中島遺跡	前橋市上細井町	H21・24		●	●		●	●		576	上細井中島遺跡	H25
73	上細井蝉山遺跡	前橋市上細井町	H21・24	●	●		●	●			560	上細井蝉山遺跡	H24
74	山王・柴遺跡群	前橋市青柳町・上細井町	H21～23・25	●		●	●	●	●		615	山王・柴遺跡群	H27
75	引切塚遺跡	前橋市青柳町	H24		●	●	●				602	引切塚遺跡・青柳宿上遺跡	H26
76	青柳宿上遺跡	前橋市青柳町・日輪寺町	H24	●	●	●	●		●				
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市日輪寺町	調査除外								—	—	—
78	諏訪遺跡	前橋市日輪寺町	調査除外								—	—	—
79	川端根岸遺跡	前橋市日輪寺町・川端町	H24		●	●	●	●	●			川端根岸遺跡	H28
80	川端山下遺跡	前橋市川端町	H24・25					●	●			川端山下遺跡	H28
81a	関根細ケ沢遺跡	前橋市関根町	H24				●	●	●		601	関根細ヶ沢遺跡	H26
81b	関根赤城遺跡	前橋市関根町	H24					●	●		582	関根赤城遺跡	H25
82	田口下田尻遺跡	前橋市田口町	H23・25				●	●	●			田口下田尻遺跡	H28

分と西の前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まった。

８工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況によると、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったことから、埋蔵文化財の発掘調査実施のための調整がおこなわれたのである。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18(2006)年２月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その３)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18(2006)年10月１日～平成29(2017)年３月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18(2006)年６月20日付で、調査期間の開始を３ヶ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18(2006)年７月から起点側から、上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前に、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、８工区の試掘調査が、平成18(2006)年４月25・26日、同年５月17・18日、同年８月11日、同年12月５～７日、平成19(2007)年８月16～27日、同年12月10日～ 14日、平成21(2009)年１月6日～8日、同年４月20日～５月７日、同年９月25～29日、平成22(2010)年12月６～ 20日、平成23(2011)年５月12～23日、同年８月22日～ 24日、同年10月18日の13回にわたって実施された。

川端山下遺跡を含む川端町地区の試掘調査は、平成23(2011)年５月12～23日に青柳町地区とともに行われた。川端山下遺跡においては、奈良・平安時代の竪穴住居を複数確認したが、近世以降の大規模な河道跡により大きく削られていた。試掘調査により竪穴住居が確認されたことから、群馬県教育委員会文化財保護課は、本遺跡の事業区域内で本調査が必要と判定した。

第４節　調査方法と経過

１．発掘調査の方法

(１)座標・グリッドの設定

発掘調査に用いた座標は、国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)」を用いた。第Ⅸ系の原点は、北緯36°00′00″、東経139°50′00″(千葉県野田市)である。グリッドは第Ⅸ系を用いて上武道路８工区全域を網羅できるようにＸ＝45,000、Ｙ＝－63,000を起点に、上武道路８工区調査遺跡の統一仕様とした。統一仕様では、１㎞四方を大グリッドとして１～100の番号を振り、第○区と呼称した。中グリッドは大グリッド内を100m四方に区切り、１～100の番号を振り、○区と呼称した。小グリッドは中グリッド内を５m四方に区切り、中グリッド南東隅を起点にＸ軸を１～20、Ｙ軸をＡ～Ｔとし、ＹＸ交点名で呼称した。

(２)調査の方法

調査の方法は、標準的な方法を用いた。表土除去は重機(バックホー)を用い、重層する遺構調査面も必要に応じて重機(バックホー)で掘削を行った。

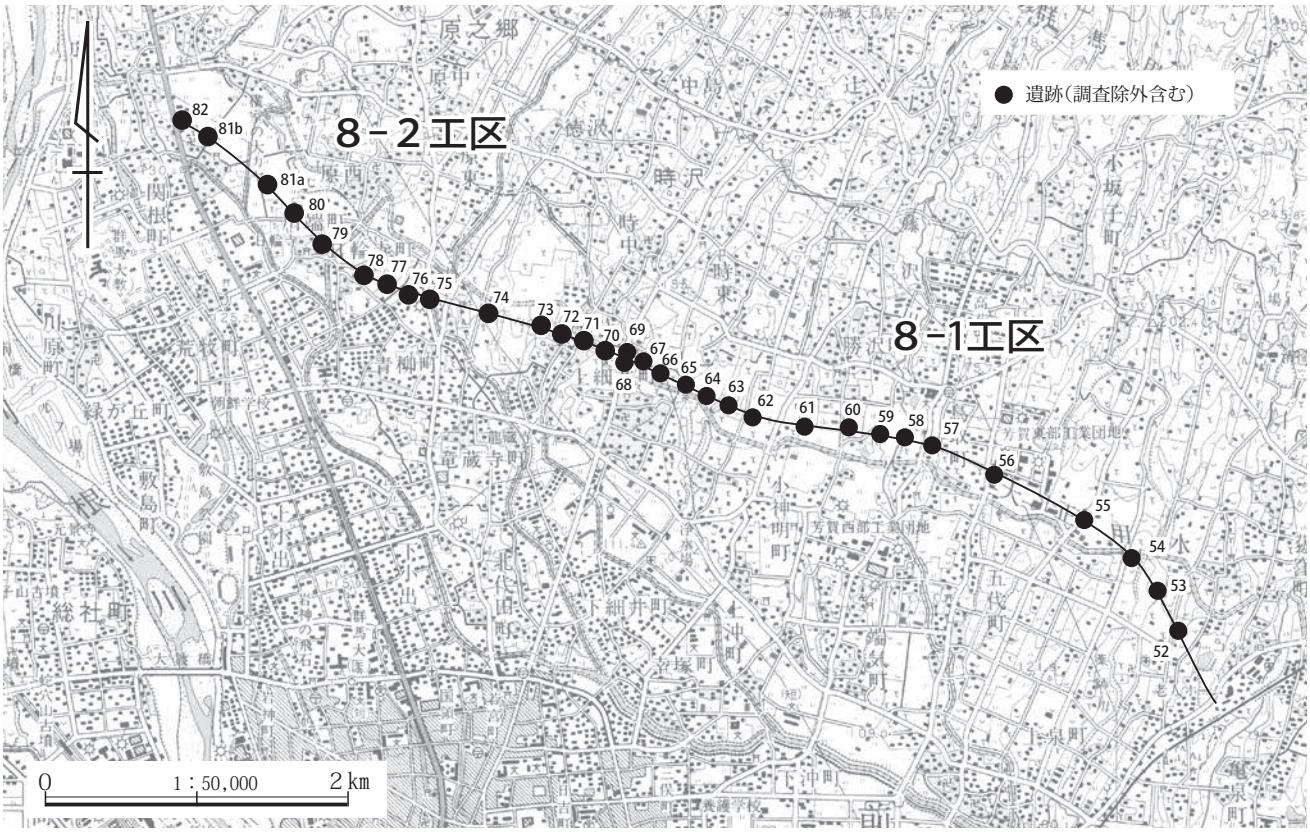
表土及び各文化層除去後、発掘作業員がジョレンを用いて直下の露呈面(遺構面)の平面精査を行い、遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定した後、発掘作業員が移植鏝等で掘削し、測量・写真等で記録した。Ａ区とＢ・Ｃ区の遺構番号は、通し番号とせず、Ｂ区とＣ区は通し番号とした。埋め戻しは重機(バックホー)を用いて行った。

(３)遺構測量

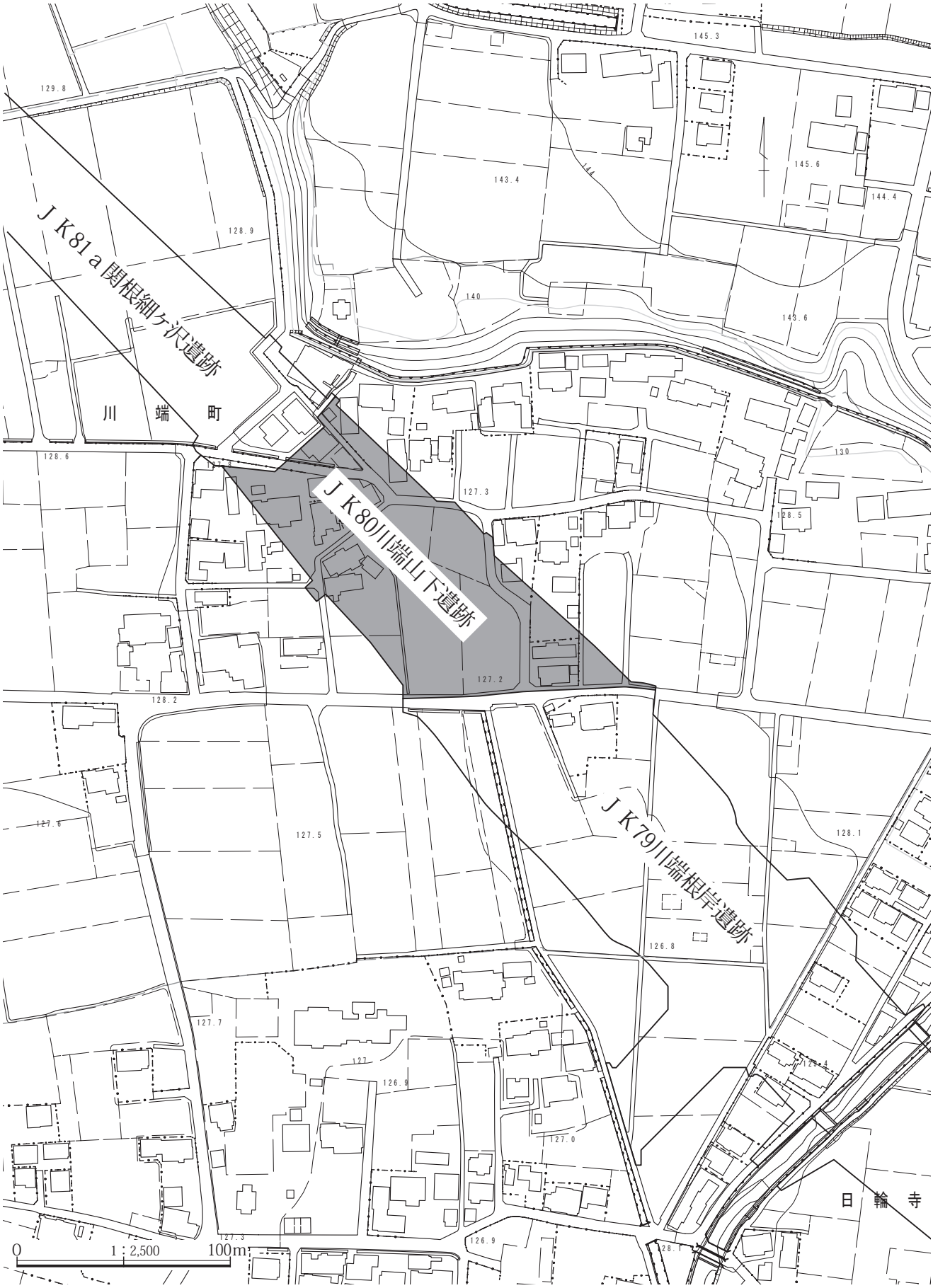
遺構図等の測量は、断面図は発掘作業員によるアナログ測量を行ったものを測量会社にデジタル化を委託し、平面図は測量会社にデジタル測量を委託して調査期間の短縮を図った。遺構図の縮尺は断面図・平面図とも1/20を基本とし、遺構の状況に応じて縮尺1/10・1/40等とした。

第２表　上武道路８工区調査遺跡一覧表

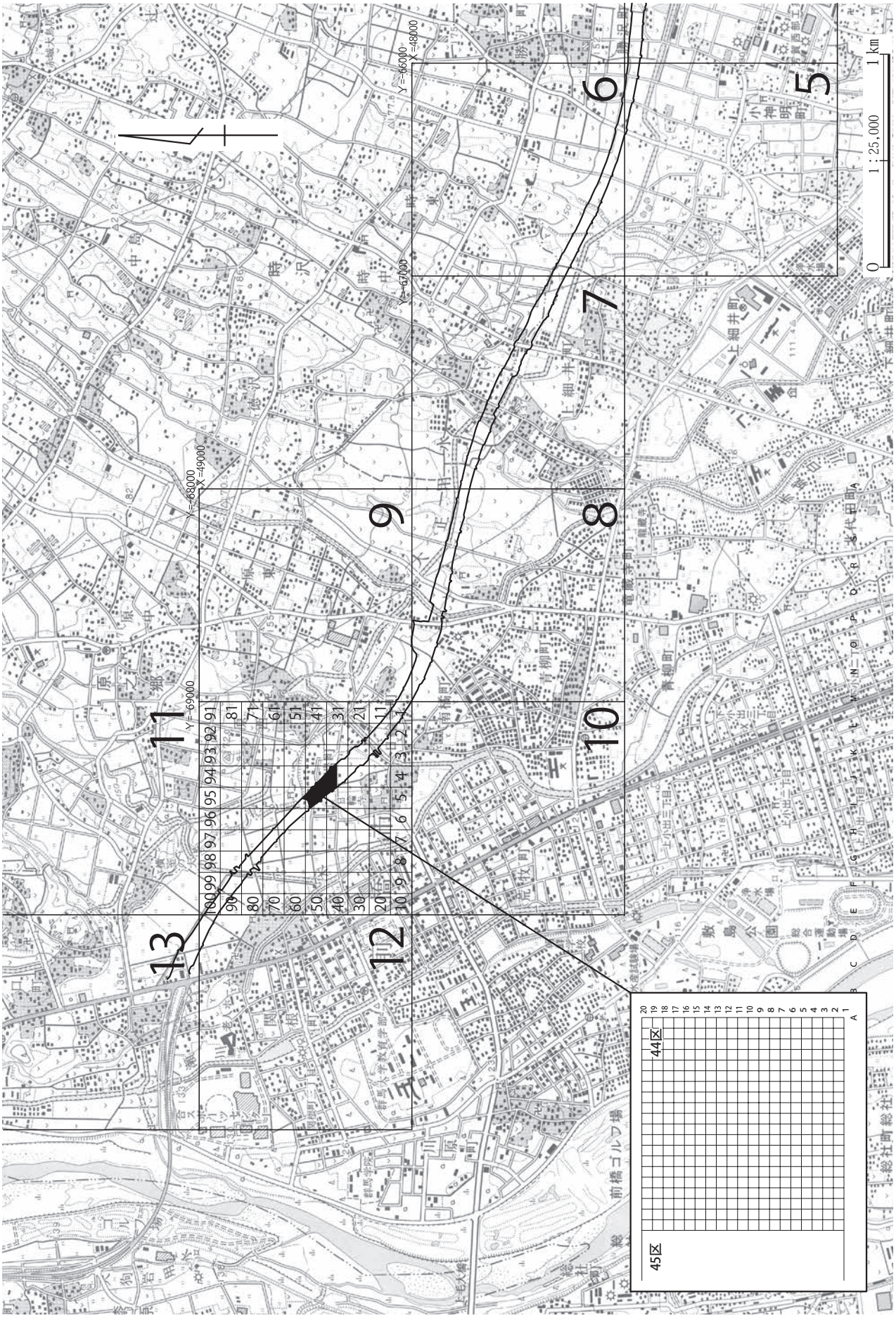
ＪＫNo.	遺跡名	所在地	旧市町村遺跡番号	新市町村遺跡番号（遺跡名）	調査年度	報告書刊行年度
52ｂ	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市上泉町	00774	前橋市0543遺跡	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市上泉町	00775		平成18・19・20年度	
54	上泉武田遺跡	前橋市上泉町	00773	前橋市0074遺跡	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留遺跡群	前橋市五代町	00772	前橋市0055遺跡	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市五代町・鳥取町	00357	前橋市0053遺跡	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下遺跡	前橋市鳥取町	00776	前橋市0023遺跡	平成20年度	平成23年度
58	胴城遺跡	前橋市鳥取町	00041		平成19・20・21年度	
59	鳥取塚田遺跡	前橋市勝沢町	—	—	調査除外	—
60	堤遺跡	前橋市勝沢町	00034	前橋市0045遺跡	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢境遺跡	前橋市小神明町	00778	前橋市0046遺跡	平成20年度	平成23年度
62	小神明富士塚遺跡	前橋市小神明町・上細井町	00403	前橋市0043遺跡	平成20・21年度	
63	東田之口遺跡	前橋市上細井町	00125	前橋市0039遺跡	平成20年度	平成23年度
64	丑子遺跡	前橋市上細井町	00134	前橋市0038遺跡	平成20年度	平成24年度
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市上細井町	00777	前橋市0037遺跡	平成20・21年度	
66	天王・東紺屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	00131		平成20・21年度	平成25年度
67		前橋市富士見町時沢	90094		平成20・21年度	
68	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	00798	前橋市0035遺跡	平成21年度	平成24年度
69		前橋市富士見町時沢	90097		平成21年度	
70	王久保遺跡	前橋市上細井町・富士見町時沢	00794		平成21・24年度	平成24年度
71	新田上遺跡	前橋市上細井町	00128	前橋市0034遺跡	平成24年度	平成26年度
72	上細井中島遺跡	前橋市上細井町	00787	前橋市0015遺跡	平成21・24年度	平成25年度
73	上細井蝉山遺跡	前橋市上細井町	00786		平成21・24年度	平成24年度
74	山王・柴遺跡群	前橋市青柳町	00795	前橋市0013遺跡 前橋市0014遺跡 前橋市0783遺跡	平成21・22・23・25年度	平成27年度
75	引切塚遺跡	前橋市青柳町	00434	前橋市0013遺跡	平成24年度	平成26年度
76	青柳宿上遺跡	前橋市青柳町	00325		平成24年度	
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市日輪寺町	—	—	調査除外	—
78	諏訪遺跡	前橋市日輪寺町	00144	前橋市0016遺跡	調査除外	—
79	川端根岸遺跡	前橋市川端町・日輪寺町	00807	前橋市0903遺跡	平成24年度	平成28年度
80	川端山下遺跡	前橋市川端町	00808		平成24・25年度	平成28年度
81a	関根細ケ沢遺跡	前橋市関根町	00802		平成24年度	平成26年度
81b	関根赤城遺跡	前橋市関根町	00803	前橋市0008遺跡	平成24年度	平成25年度
82	田口下田尻遺跡	前橋市田口町	00804		平成23・25年度	平成28年度



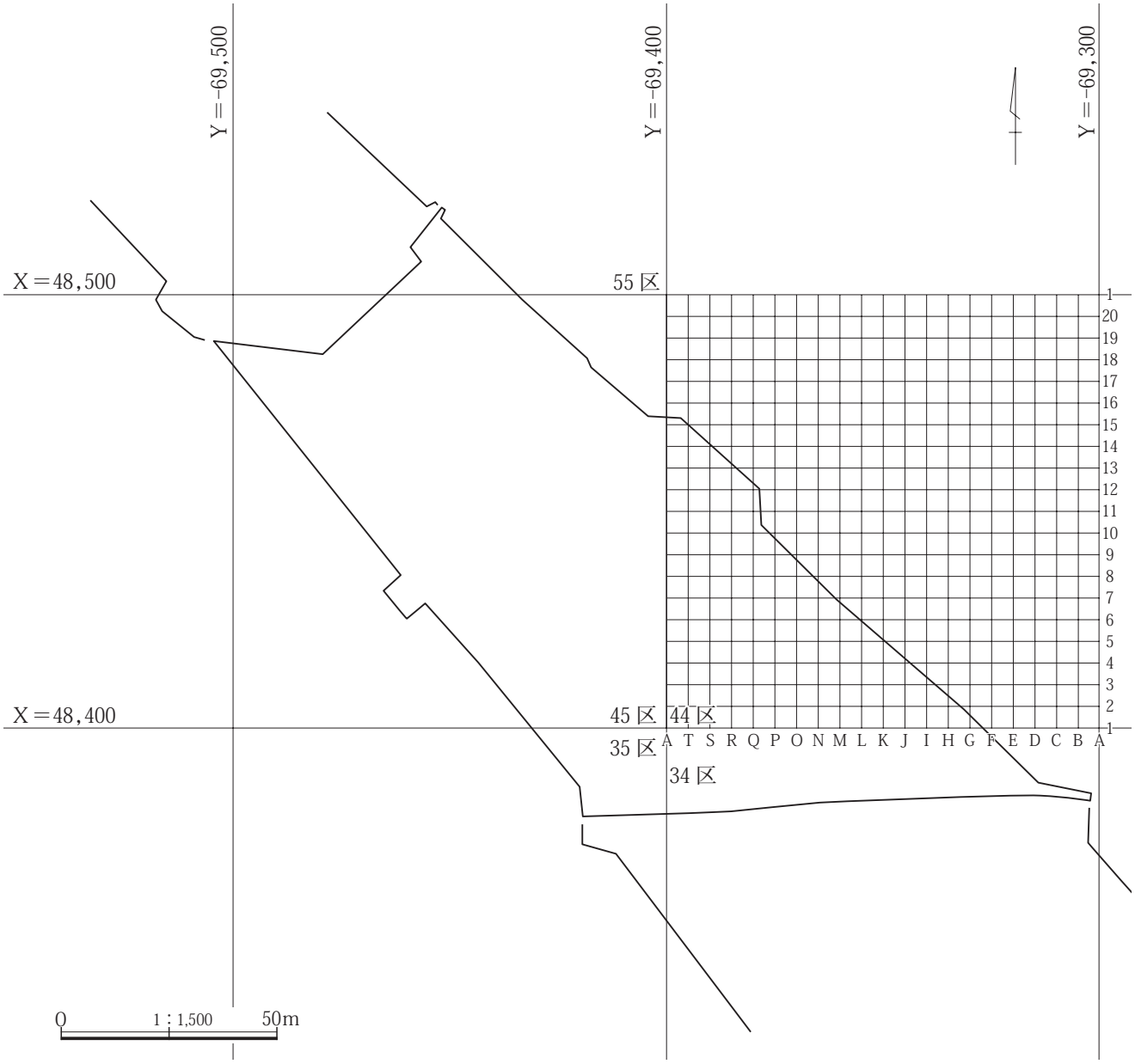
第３図　上武道路８工区の遺跡（国土地理院１/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用）



第４図　川端山下遺跡周辺図（前橋市役所１/2,500前橋市現形図平成21年測図を使用）



第５図　大・中グリッド設定図(国土地理院１/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)



第６図　中・小グリッド設定図

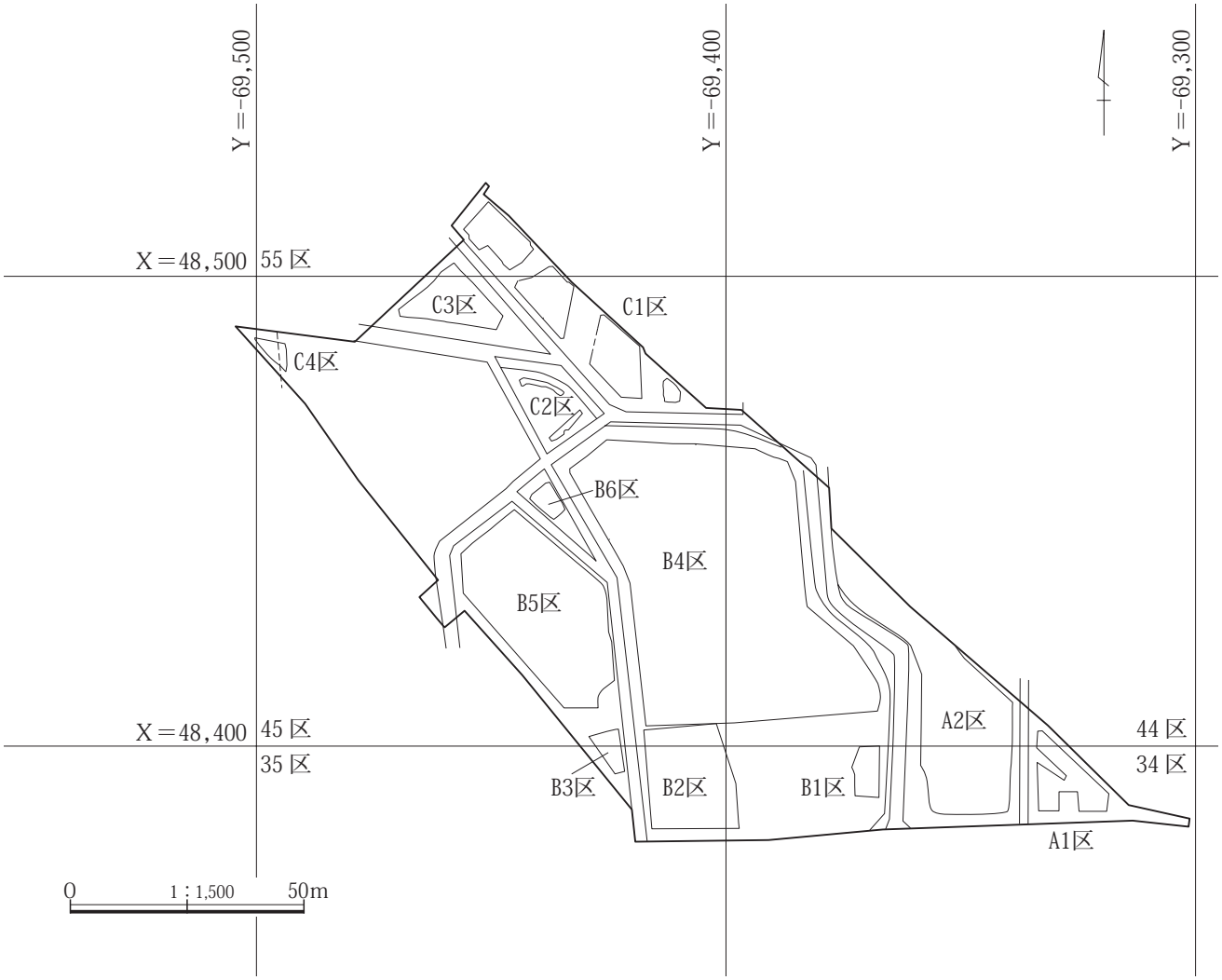
（４）遺構写真撮影

遺構等の写真撮影は、調査担当者が撮影した。ブローニー版モノクロフィルム６×７㎝判サイズ、デジタルカメラで撮影した。デジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、遺構略号・番号・撮影方向・内容を記号化したものに置き換えるリネーム作業を行った。遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、全景等を撮影し、さらに必要に応じて接写を行った。

２．発掘調査の経過

川端山下遺跡の発掘調査は、平成24(2012)年12月1日から平成25(2013)年６月30日までの７ヶ月間、8,031.76㎡を対象として実施した。

調査区内は、道路及び水路により分割されているため、その区画に従いＡ～Ｃ区を設定した。また、工事用道路によりさらに分割されることとなったため、枝番号を付し、Ａ１区、Ａ２区・・・・などと呼称した。発掘調査は、12月12日にＡ区（Ａ１区）の表土除去から着手し、６月11日にＣ区（Ｃ４区）の埋め戻しをもって終了した。そ



第７図　調査区細分図

の結果、第１面(近世面)、第２面(中・近世面)、第３面(古墳時代～平安時代面)、第４面(古墳時代・５世紀洪水堆積層下位面)、第５面(古墳時代以前・As-C層下位面)、第６面(古墳時代以前)が確認された(５世紀洪水堆積層・As-C層については第３章第３節参照)。Ａ区では、第１～３面、Ｂ・Ｃ区では、第１～６面が、部分的または全面的に重複した状況であった。そのため、重複して調査されたのは、Ａ区であり、Ｂ・Ｃ区については、ほぼ単独面として調査された。

なお、調査面として確認した調査区のうち、遺構・遺物が認められた調査区、遺物包含層が認められた調査区、遺構・遺物が認められなかった調査区は以下の通りである。

遺構・遺物が認められた調査区

第１面：Ａ２区、Ｂ４区、Ｃ１区

第２面：Ａ２区、Ｂ４・５区、Ｃ１・４区

第３面：Ａ(１)・２区、Ｂ５・６区、Ｃ１区

第４面：Ｂ４区、Ｃ１・４区

第５面：Ｂ４・５区、Ｃ１区

第６面：Ｂ５区、Ｃ１区

遺物包含層が認められる調査区

第４面：Ｂ１・２区、洪水堆積土層に遺物包含層

第５面：Ｂ２・３区、As-C軽石層下面に遺物包含層

遺構・遺物が認められなかった調査区

第１面：Ａ１区、Ｂ５区、Ｃ４区、

第２面：Ａ１区、Ｃ２・３区

第３面：Ｂ４区、Ｃ３区

第４面：Ｂ６区、Ｃ３区

また、Ｃ４区がある区画の中央から南東を占める用地は、埋蔵文化財試掘・確認のトレンチ調査の結果から遺構・遺物が発見されなかったため発掘調査が不要となり、調査を行わなかった。また、Ｂ１区とＢ２区の間の用地は、埋蔵文化財試掘・確認のトレンチ調査の結果、及び現場の発掘調査の結果により各々の内側に細ヶ沢川の旧流路の存在が推定されるため、調査を行わなかった。調査日誌抄録は以下の通りである。

平成24年度

平成24年12月

１日　調査担当２名着任

３～11日　調査着手、器材搬入、調査準備

12日　Ａ１区表土掘削、調査

13日　Ｂ１区表土掘削、調査

14日　Ａ２区表土掘削

18日　Ｂ２区全景写真撮影

19日　Ｂ３区全景写真撮影

26日　Ａ２区トレンチ調査

平成25年１月

24日　Ａ２区遺構調査継続　遺構確認作業

同年２月

27日　Ａ２区遺構調査継続　遺構掘削作業

同年３月

１日　Ａ１区全景写真撮影

５日　Ａ２区２号溝調査

６日　Ａ２区全景写真撮影

７日　Ａ２区遺構写真撮影

12日　Ａ２区２・４号溝全景写真

19日　埋め戻し開始

22日　Ａ２区トレンチ調査

25日　埋め戻し完了

26～28日　撤収作業

29日　調査終了

31日　調査担当２名離任

平成25年度

平成25年４月

１日　調査担当２名着任

３～10日　調査着手、器材搬入、調査準備

４日　国土交通省会議

11日　Ｂ４区表土掘削開始

12日　遺構調査開始

18日　Ｃ１区表土掘削開始、遺構調査開始

23日　Ｂ４区全景写真撮影

24日　Ｂ５区表土掘削開始

25日　Ｂ５区遺構調査開始

Ｃ１区全景写真撮影

26日　Ｂ４区洪水層上面（４面）遺構全景写真撮影

同年５月

１日　Ｂ４区全景再写真撮影

８日　Ｂ４区Ｃ黒土（５面）全景写真撮影

Ｂ６区掘削開始

９日　Ｂ６区調査開始　写真撮影

16日　Ｂ６区、埋め戻し

17日　Ｂ５区　全景写真撮影

Ｃ１区（東部）埋め戻し

22日　Ｃ１（中央部）写真撮影

23日　Ｂ４区、Ｃ１区（南部）埋め戻し

27日　Ｃ１区（中央部分）埋め戻し

28日　Ｂ５区５面全景写真撮影

31日　Ｃ３区表土掘削、調査

同年６月

４日　Ｂ５区６面全景写真撮影

Ｃ２区表土掘削、調査、埋め戻し　Ｃ３区埋め戻し

５日　Ｂ５区埋め戻し

Ｃ４区表土掘削開始

10日　Ｃ４区調査

11日　Ｃ４区埋め戻し

12～14日　写真整理　図面整理

24・25日　器材撤収作業

26日　プレハブ撤収作業

30日　調査担当２名離任

３．整理作業の経過と方法

整理作業は、国土交通省関東地方整備局の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれにあたることとなり、平成28（2016）年度に４月から９月までの６ヶ月間および12月から平成29（2017）年３月まで４ヶ月間の合計10ヶ月間実施した。

遺構図は、点検・修正・編集を行い、掲載図をデジタ

ルデータとして作成した。遺物は、接合・復元したものを写真撮影・実測・トレースした。遺構写真は、デジタル写真から編集を行った。また、これらの作業と並行して、本文原稿・遺物観察表等を執筆した。遺構図・遺物図・遺構写真・遺物写真・本文原稿・遺物観察表等のレイアウトを作成した後にデジタル編集を行い、本報告書を作成した。遺物・図面・写真等の記録資料については、遺物管理台帳および写真管理台帳を作成し、今後の活用に備えて遺物や図面の収納作業を行い群馬県埋蔵文化財調査センターに保管した。

なお、整理作業において、遺構名の変更、及び新たに遺構名を付したものが生じたため下記のとおり示す。これに伴う遺物注記について書きかえは行っていない。

遺構名(変更)

Ｂ４区２面　　旧　29号土坑　　新　１号井戸

遺構名(新規)

Ｂ５区２面　　284号ピット　　285号ピット

第２章　周辺の環境

第１節　地理的環境

川端山下遺跡は前橋市の北西部、前橋市川端町に所在する。群馬県庁から北へ約4.9㎞、赤城山南西麓から平野部へ移行したところに位置している。

前橋市は、平成の市町村合併において平成16(2004)年12月に旧勢多郡大胡町・宮城村・粕川村と、平成21(2009)年５月に旧勢多郡富士見村と合併した。また、前橋市は、平成13(2001)年４月１日に国から特例市に指定され、平成21年４月には群馬県内初の中核市に移行している。なお、富士見村の合併により、古代から親しまれてきた「勢多郡」の名称は事実上消滅した。

前橋市は、かつて「関東の華」と称された前橋城跡に県庁が所在しており、群馬県内における政治・経済・文化の中心都市である。県関連機関・施設はもとより、裁判所、営林局など国の出先機関、大学も集中しており、地方都市における司法・行政・立法機関が整備されている。さらに、金融保険業、民間の主要産業、新聞社、出版社等も集中しており、県内では高崎市と共に第３次産業の人口比率が高く、北関東の主要都市でもある。

また、前橋市は、関東平野の北西部に位置し、利根川が市街地の中央を北西から南東へ流れている。前橋市周辺の地形は、北東部に赤城山斜面、北西部に榛名山斜面、南西部の洪積台地の前橋台地、斜面と台地に挟まれた沖積低地の広瀬川低地、および現利根川氾濫原からなる。

赤城山の火山活動は、約50万年前からの「古期成層火山形成期」、約20万年前からの「新期成層火山形成期」、約4.5万年前からの「中央火口形成期」の３つの形成期からなる。「古期成層火山形成期」には溶岩流出やスコリア噴出により大規模な成層火山が形成され、最盛期には標高2,000m以上に達したと推定される。その後、山体崩落による岩屑なだれが発生し、赤城南麓の多田山や権現山、南西麓の橘山や箱田山などの流れ山が形成された。その後は、長い活動休止期があり河川等による山体の浸食が進んだ。「新期成層火山形成期」の山体は、浸食の進んだ古期成層火山を主に溶岩流とテフラが覆っていた。火砕流と噴火が特徴であった。「中央火口形成期」には、カルデラの形成が進み大沼が生まれた。約4.5万年前以降、カルデラ内で大規模な軽石噴火が発生し、噴出された軽石は偏西風に乗って太平洋岸にまで達していた。その後、長七郎山・地蔵岳などの中央火口丘群が形成された。小沼はその際水蒸気爆発によって生じた火口湖である。その後、活発な火山活動は確認されておらず、現在に至るまで浸食・堆積作用が続き、火山麓扇状地が形成されている。

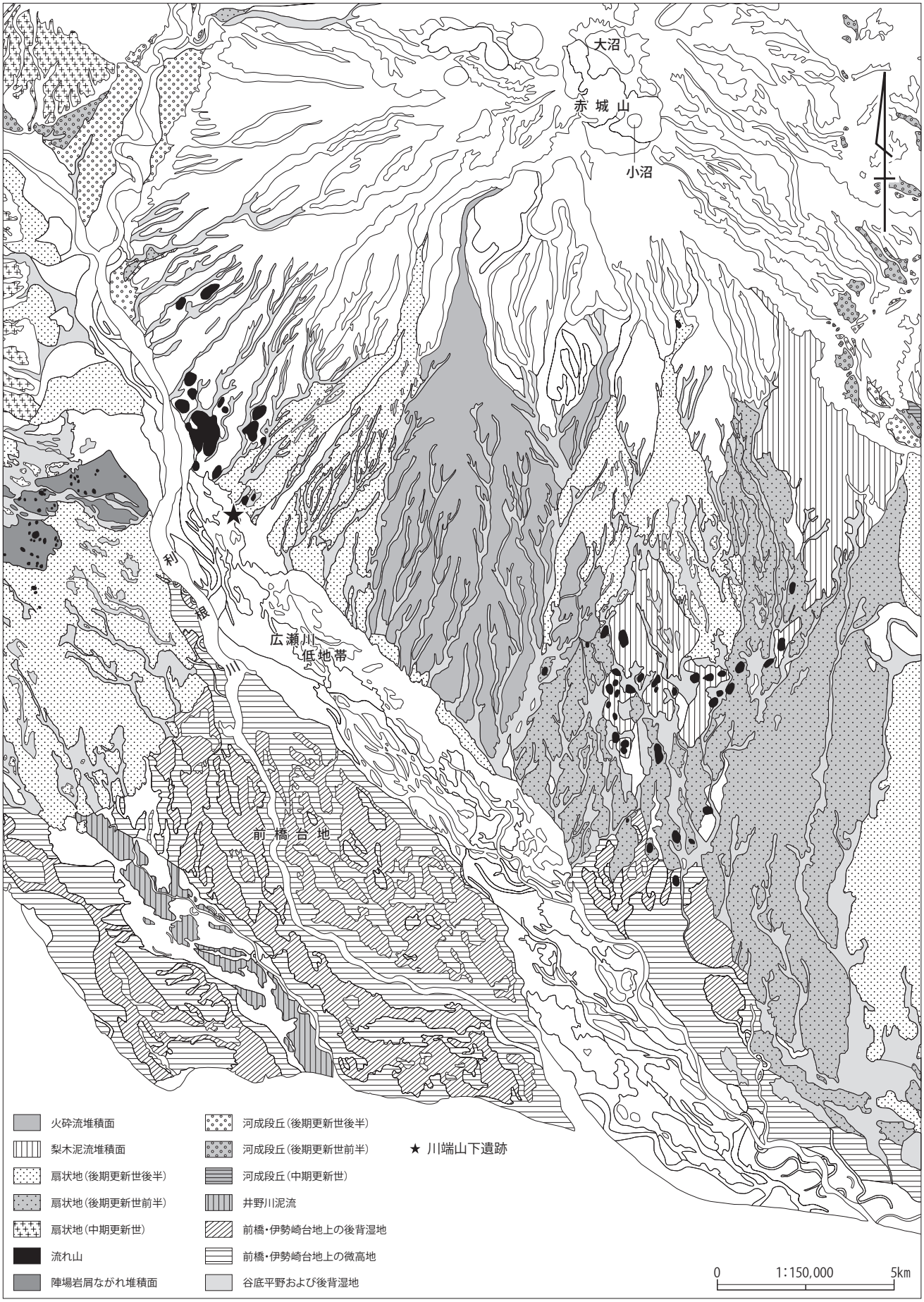
前橋台地は、浅間山の山体崩壊によって引き起こされた火山泥流堆積物である前橋泥流堆積物とそれを覆うローム層から形成されており、利根川が赤城・榛名山麓間から関東平野に流れ出たところに広がる緩傾斜の台地である。前橋泥流堆積物の上下からはAs-BPが確認されており、前橋泥流の堆積年代は約2.4万年前と推定される。広瀬川低地帯(沖積低地)は、前橋台地の北東側崖線と赤城山南麓斜面との間に挟まれ、市街地の北西から南東に走っている。広瀬川低地帯の幅は３㎞前後で、前橋台地との比高差は数mである。現在、利根川は前橋台地の中央を流下しているが、広瀬川の流量が、広瀬川低地帯を形成するには不足であると考えられることから、広瀬川低地帯が利根川の旧流路であったと推定されている。

本遺跡は、赤城山南西麓の広瀬川低地帯に位置している。細ヶ沢川、大堰川、桃ノ木川などの河川が密集しており、遺跡はそれらの後背湿地上にある。これらの河川は、遺跡の周辺でそれぞれ桃ノ木川に合流する。なお、本遺跡内には近代以前の細ヶ沢川の旧流路が存在している。

桃ノ木川左岸にあたる本遺跡周辺は、主に水田・畑地として利用されているが、南下するに従って桃ノ木川流域は市街地化が進んでいる。

第２節　歴史的環境

川端山下遺跡が立地する赤城山南西麓には、約３万年前の旧石器時代から中・近世に至るまで多くの遺跡が残されている。従来から継続されてきた上武道路建設に伴



第８図　川端山下遺跡周辺地形分類図（群馬県史編纂委員会『群馬県史』通史編１・付図２を改変）

う発掘調査により、その様相が明らかになりつつある。以下、周辺遺跡について各時代の概要を述べる。

１．旧石器時代

赤城山南西麓に位置する本遺跡周辺の旧石器時代遺跡は、これまで確認されてこなかったが、上武道路建設に伴う発掘調査で旧石器時代の石器群が出土しており、分布は希薄なものの､その様相が明らかになってきている。

前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、第９図11)においてAs-YP下から黒色頁岩製石器２点が出土した。前橋市0015遺跡(上細井蝉山遺跡、第９図12)においてはAs-OKを含む層から黒色頁岩製の石器２点が出土した。前橋市0023遺跡(胴城遺跡、第９図範囲外)においてはAs-YP下～As-OK1から黒曜石製を中心に石器79点が出土した。前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第９図18)においてはAs-YP下から硬質頁岩製と黒色安山岩製の石器109点が出土した。前橋市0049遺跡(鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡、第９図範囲外)においてはAs-YP下から硬質頁岩製を中心に石器350点が出土した。以上のように、川端山下遺跡周辺では、旧石器時代の遺跡が赤城山南西麓に位置している。

２．縄文時代

本遺跡周辺の縄文時代の遺跡は、扇状地内の藤沢川右岸と細ヶ沢川左岸に分布する傾向にある。前期遺跡が多く中期以降は減少する傾向は､県内の傾向と矛盾しない。

草創期の遺跡は前橋市0045遺跡(堤遺跡、第９図範囲外)で石槍の製作跡が見つかっている。前橋0045遺跡(小神明遺跡群湯気遺跡)、前橋市0046遺跡(端気遺跡群、小神明勝沢境遺跡、第９図範囲外)から有茎尖頭器が出土している。草創期の集落は城山遺跡(第９図範囲外)から確認されている。

早期の遺物は、前橋市0037遺跡(上細井五十嵐遺跡、第９図範囲外)、前橋市0046遺跡(端気遺跡群、第９図範囲外)から撚糸文土器が、前橋市0038遺跡(丑子遺跡、第９図範囲外)から条痕文土器が出土した。前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第９図11)・前橋市0015遺跡(上細井中島遺跡、第９図13)から早期遺物包含層が確認されており、撚糸文系から条痕文系の土器が出土している。

前期の遺跡は赤城山南西麓に分布している。前橋市0004遺跡(下庄司原西遺跡、下庄司原東遺跡、上庄司原東遺跡、富士見地区遺跡群陣場遺跡、第９図５)、前橋市0015遺跡(上細井蝉山遺跡、第９図13)、前橋市0037遺跡(上細井五十嵐遺跡、第９図範囲外)、芝山遺跡(第９図範囲外)、前橋市0748遺跡(富士見地区遺跡群愛宕山遺跡、第９図39)、前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第９図40)、下箱田向山遺跡(第９図範囲外)などから集落が確認されている。

中期の遺跡は、前橋市0015遺跡(上細井中島遺跡、第９図13)、前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第９図18)、瓜山遺跡(第９図74)などから集落が確認されている。前期に比すると遺跡数は減少している。

後期の遺跡は、前橋市0045遺跡(堤遺跡、小神明遺跡群九料遺跡、第９図範囲外)、前橋市0049遺跡(鳥取福蔵寺遺跡、第９図範囲外)などから集落が確認されている。遺跡数は少ない。

晩期の遺跡は、前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第９図11)から晩期千網式土器が出土している。これらの遺跡は河川性氾濫堆積物下で確認されたものである。遺跡数は後期と同様に少ない。

３．弥生時代

弥生時代の遺跡は、赤城山南西麓においては少ない。縄文時代晩期から、その傾向は続いている。発見された遺跡は後期の遺跡が多い。

前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第９図18)から中期、前橋市0045遺跡(小神明遺跡群湯気遺跡・倉本遺跡、第９図範囲外)から中期～後期、前橋市0038遺跡(丑子遺跡、第９図範囲外)から後期の集落が確認されている。前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、第９図11)、前橋市0903遺跡(川端根岸遺跡・川端山下遺跡、第９図１)からは中期の遺物が出土している。

４.古墳時代

古墳時代に移行し、本遺跡周辺の遺跡数は急増する。大規模集落が形成され、平野部において水田の分布が確

認される。『上毛古墳綜覧』によれば、旧富士見村に29基、旧南橘村に45基、旧芳賀村に64基、旧桂萱村に79基の古墳があったとされている。

前期は、前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第９図５)・前橋市0013遺跡(引切塚遺跡、第９図11)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第９図40)などから集落が確認されている。田中田遺跡では、Ｓ字状口縁台付甕や単口縁甕が出土した。また、前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第９図６)では、古墳時代初頭の大規模集落が形成されており水田遺構が見つかっている。前橋市0004・0847遺跡(上庄司原西遺跡、第９図５・68)からは集落の近くに周溝墓も確認されている。前橋市0013・0014遺跡(山王・柴遺跡群、第９図11・12)からは畠４群があり、As-C軽石降下前後であると確認されている。古墳時代初頭の生産域を示すものとして特筆される。

中期は、前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第９図６)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第９図40)などから集落が確認されている。前橋市0783遺跡(山王・柴遺跡群、第９図65)からは小石槨墓・方墳が確認されている。方墳の主体部は失われており、堀内にはHr-FAの堆積が見られた。これらは青柳古墳群とされるものであり５世紀後半～６世紀初頭と推定される。

後期から終末期にかけては、前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第９図５)・前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第９図６)・前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第９図11)・前橋市0016遺跡(南橘東原遺跡、第９図14)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第９図40)などから６世紀から７世紀の集落が確認されている。

また、古墳は、前橋市0764遺跡(九十九山古墳(富士見村16号古墳)、第９図55)から６世紀前半の前方後円墳が確認されている。前橋市0783遺跡(山王・柴遺跡群、第９図65)から６世紀後半～７世紀の円墳が確認され、横穴式石室の一部が認められた。赤城白川右岸では、前橋市0847遺跡(第９図68)、前橋市0858遺跡(引切塚古墳、第９図69)でも終末の古墳が確認されており、後期群集墳を形成していたと考えられる。

５．奈良・平安時代

群馬県は律令期においては、ほぼ上毛野国にあたり、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた。前橋市域はおよそ利根川左岸側が勢多郡、利根川右岸側が群馬郡に属した。古代において赤城山南西麓には古代勢多郡が設置されていた。『和名類聚抄』によれば、古代勢多郡には「深田、田邑、芳賀、桂萱、真壁、深渠、深澤、時澤、藤澤」の９郷があったとされている。本遺跡周辺では、真壁郷が渋川市北橘町真壁、時澤郷が前橋市富士見町時沢付近にそれぞれ比定される。群馬郡には国府・国分寺が置かれ、上野国の中心であった。

本遺跡周辺においては、前橋市0008遺跡(田口下田尻遺跡、田口上田尻遺跡、第９図６)・前橋市0011遺跡(旭久保遺跡、第９図９)・前橋市0016遺跡(南橘東原遺跡、第９図14)から、集落が確認されている。前橋市0008遺跡(田口下田尻遺跡、第９図６)、前橋市0035遺跡(王久保遺跡、上町・時沢西紺屋谷戸遺跡、第９図19)からは集落のほか鍛冶遺構が確認されている。前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第９図18)では、集落の中心を道路状遺構が東西に走る様相が確認されている。前橋市0843遺跡(青柳寄居遺跡、第９図66)からは平安時代の水田とその下層から集落が確認されている。前橋市0013・0014遺跡(山王・柴遺跡群、第９図11・12)では、As-Bに覆われたもの、及び、その下位から２面の水田が確認されている。

本遺跡の南西には、朝天山祈禱院日輪寺が位置している。日輪寺は弘仁２(811)年創立とされ、観音堂に十一面観世音像がまつられており県重要文化財に指定されている。寺域の区画南西隅に菅原神社が祀られており、日輪寺の鎮守であったとされる。

６．中・近世

中世には、赤城山南麓に荘園、公領の展開が見られた。特定の地域が荘園の変形として、荘(庄)、御厨、保などの私有地となり、他の土地は公領の郷であった。本遺跡周辺は、拝志荘(林荘)または青柳御厨に相当すると思われる。『富士見村誌』続編は、関連資料が、拝志荘の勢力下にあったと思われる旧細ヶ沢川以西の赤城山南西

第９図　川端山下遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院１/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用）

第３表　周辺遺跡一覧表

	遺跡№・ＩＤ・名称			旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
1	前橋市0903遺跡	04564	川端山下遺跡					○	○	○	○		集落。平安住居１、溝１。中世竪穴１、溝２、土坑２、地下式土坑２。近世溝１。	本報告書
		04563	川端根岸遺跡		○		○	○	○	○	○		集落、古墳溝９、水田２。平安住居４、土坑10。中世竪穴７、掘立柱２、溝37、道１、水田１。近世馬歯。	※１
		04572	関根細ヶ沢遺跡				○	○	○	○	○		集落、生産遺跡。古墳溝７、水田２、平安住居149、溝36、製鉄炉３、鍛冶１、中近世溝22、サク群８、耕作痕４など。	13
2	前橋市0001遺跡	02245	分布調査					○	○				散布地。	
3	前橋市0002遺跡	02235	岡市遺跡				○						散布地。	
4	前橋市0003遺跡	04275	分布調査		○		○	○	○				散布地。	
5	前橋市0004遺跡	00312	千手堂遺跡		○								集落。	
		00313	田口八幡Ⅰ遺跡					○	○				集落。平安住居14など。	52
		00314	田口八幡Ⅱ遺跡					○	○				集落、生産遺跡。平安住居24など。	53
		00317	天神窪遺跡		○								集落。	
		00332	八幡遺跡		○		○						集落。	
		02917	富士見地区遺跡群陣場遺跡		○			○	○				集落。縄文前期住居７、中期住居15、後期住居２。終末期円墳２、平安住居73など。	20
		02920	下庄司原西遺跡		○	○	○		○				集落。縄文前期住居４、土坑５、終末期円墳１、平安住居20、溝２、土坑、ピット。	
		04506	下庄司原東遺跡		○		○	○					集落。縄文前期住居５、中期住居１、古墳前期方形周溝墓３、前方後方形周溝墓１、古墳住居10、奈良平安住居41など。	
		02923	上庄司原西遺跡		○	○	○	○	○				集落。古墳前期方形周溝墓１、中期溝１、古墳住居6、奈良平安住居６など。	
		02925	上庄司原東遺跡		○	○	○		○				集落。縄文住居４、後期円墳２、平安住居７など。	
		02928	上庄司原北遺跡		△		○						集落。縄文前中期包含層、終末期円墳１。	
		02942	米野下原遺跡		○		○						散布地。	
		00344	試掘				○	○	○				集落。	
6	前橋市0008遺跡	04605	田口上田尻遺跡				○	○	○	○	○		集落、生産遺跡。古墳～平安住居311、畑26、近世復旧痕59、水田６など。	6
		04606	田口下田尻遺跡				○	○	○	○	○			
		04570	田口下田尻遺跡				○	○	○	○	○		集落、生産遺跡。	※２
		04571	関根赤城遺跡				○	○	○	○			集落、生産遺跡。古墳畑１、平安住居39、溝12.中近世溝７など。	11
7	前橋市0009遺跡	02126	関根内山遺跡								○		生産遺跡。江戸畑９、溝１など。	42
8	前橋市0010遺跡	00309	関根の寄居							○			城館。中世砦。	55
9	前橋市0011遺跡	02955	旭久保遺跡		○		○	○	○	○			集落。	24
		02956	旭久保Ｂ遺跡		○		○			○	○		集落。縄文中期包含層。古墳住居１、中近世溝１など。	24,27
		02957	旭久保Ｂ遺跡				○							
		02958	旭久保Ｃ遺跡		○		○	○	○	○			集落。	28
		02959	旭久保Ｃ遺跡		○		○		○	○				
		02960	旭久保Ｄ遺跡		○		○						集落。	32
		02961	旭久保Ｄ遺跡		○		○	○	○					
		02975	旭久保Ⅱ・Ⅲ遺跡		○				○				集落。縄文住居、溝。平安住居、溝。	31
		02973	旭久保Ⅲ遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	集落。	23,34
		02974	旭久保Ⅲ遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		02980	原之郷新川遺跡		○								散布地。	34
		02247	分布調査		○			○	○				散布地。	
		04593	試掘		○				○				散布地。	
10	前橋市0012遺跡	02986	原之郷下白川遺跡				○						散布地。	28,30,31
11	前橋市0013遺跡	00283	青柳遺跡				○						集落。古墳住居１。	46
		00284	青柳宿上遺跡	○	○	○	○	○					集落。旧石器、縄文住居１、古墳住居29、縄文早期包含層など。	14,46
		04554	宿上遺跡				○							
		00336	引切塚遺跡		○	○	○	○	○				集落。古墳住居29、横穴式石室１、奈良住居３、縄文早期包含層など。	14,36
		04557	引切塚遺跡				○							
		00338	引切塚Ⅱ遺跡				○						集落。古墳住居２など。	37
		03705	引切塚Ⅱ遺跡				○							
		03866	山王・柴遺跡群				○						集落。As-B下水田？	15

	遺跡№・ＩＤ・名称			旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
12	前橋市0014遺跡	00302	神明Ａ遺跡				○						集落。	
		00303	神明Ｂ遺跡				○						集落。	
		03052	念仏遺跡						○				散布地。	
		04555	山王・柴遺跡群		○		○		○	○			集落。As-B下水田？	15
		02248	分布調査		○		○	○	○				散布地。	
13	前橋市0015遺跡	03075	時沢西萩林遺跡				○		○				集落。	34,35
		03076	時沢西萩林遺跡				○		○					
		04492	時沢西萩林Ⅱ遺跡						○				集落。	
		03864	上細井中島遺跡	○	○				○	○	○		集落。縄文住居７、配石遺構、平安住居８、中近世掘立柱１、井戸３。	9
		03865	上細井蝉山遺跡	○	○		○	○	○				集落。旧石器、縄文前期集落、古墳１基、奈良・平安住居27など。	8
		02320	分布調査		○		○	○	○					
14	前橋市0016遺跡	00305	諏訪遺跡				○						集落。	
		02127	南橘東原遺跡				○	○	○	○			集落。古墳～平安住居52、掘立柱１、柱穴群。中世溝、土坑、道路２など。	54
15	前橋市0031遺跡	02250	分布調査		○		○	○	○				散布地。	
16	前橋市0032遺跡	00285	青柳宿前遺跡						○				集落。	39
		02798	青柳宿前遺跡						○					
		01311	青柳宿前Ⅱ遺跡						○				集落。平安住居、溝。	40
17	前橋市0033遺跡	00288	青柳寄居遺跡						○				集落。平安住居12、水田址など。	48
18	前橋市0034遺跡	00300	新田上遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○		集落。旧石器、縄文住居、配石、弥生住居、古墳住居、奈良・平安住居など。	12
		04561	新田上遺跡		○		○							
		03049	時沢四ッ塚遺跡		○		○						散布地。	
		03081	時沢原谷戸遺跡						○				集落。	32
19	前橋市0035遺跡	00293	王間久保遺跡		○		○						集落。	
		00343	薬師遺跡		○		○						集落。	
		03068	時沢宮東遺跡				○		○				集落。	33,35
		03069	時沢宮東遺跡				○		○					
		03070	時沢西高田遺跡				○	○	○				集落。平安住居10、柱穴30。	27,28,31
		03071	時沢西高田遺跡					○	○					
		03072	時沢西高田遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		03073	時沢西高田Ｂ遺跡						○				集落。平安住居、溝。土坑、柱穴。	28
		03077	時沢西紺屋谷戸遺跡					○	○				集落。奈良・平安集落、道路。	30
		03078	時沢西紺屋谷戸遺跡					○	○					
		03862	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡				○	○	○			○	集落。古墳～平安住居47など。	10
		03863	王久保遺跡				○		○	○	○		集落。古墳～平安住居25、掘立柱１、平安鍛冶１など。中近世溝８。	7
		04594	試掘								○		集落。	
20	前橋市0036遺跡	00334	八幡山の砦							○			城館。五輪塔、板碑。	55
21	前橋市0063遺跡	01312	八幡前遺跡						○	○			散布地。	
22	前橋市0068遺跡	02253	分布調査		○		○	○	○				散布地。	
23	前橋市0115遺跡	00263	若宮遺跡						○				集落。平安住居14、溝３など。	49
		04599	植野小開土遺跡				○						集落。	
24	前橋市0116遺跡	00043	勝山城							○			城館。	5
25	前橋市0124遺跡	00078	元景寺経塚遺跡								○		城館。	
		00154	総社城							○	○		城館。	55
		01383	試掘							○	○		城館。	43
26	前橋市0125遺跡	03879	総社町屋敷南遺跡		○		○						集落。	45
		04509	宝塔山古墳(総社村９号古墳)				○						古墳後期。	3,44
27	前橋市0126遺跡	02797	南橘村41号古墳				○						古墳。	3
		04615	神明古墳				○						古墳。	
28	前橋市0589遺跡	02943	横室古墳(富士見村13号古墳)				○						古墳(円墳10)。	3
29	前橋市0591遺跡	02950	富士見地区遺跡群初室古墳(富士見村７号古墳)				○						古墳。	22
30	前橋市0595遺跡	04351	試掘				○						集落。	
		04352	試掘					○						

	遺跡№・ＩＤ・名称			旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
31	前橋市0596遺跡	02953	陣場							○			城館。	5
32	前橋市0599遺跡	02983	原之郷白川遺跡				○						散布地。	
33	前橋市0603遺跡	04444	遠見山古墳(総社村６号古墳)				○						古墳。	3
		04443	蛇穴山古墳(総社村８号古墳)				○						古墳。	3,38
		04447	宝塔山古墳(総社村９号古墳)				○						古墳。	3,47
		04445	愛宕山古墳(総社村10号古墳)				○						古墳。	3,46
		04446	総社二子山古墳(総社村11号古墳)				○						古墳。	3, 4
		00016	稲荷山古墳(総社村12号古墳)				○						古墳。	3,51
34	前橋市0639遺跡	04454	分布調査					○	○				散布地。	
35	前橋市0725遺跡	02843	引田高堰遺跡		○				○		○		集落。縄文住居１、平安住居１など。	29,30
		02844	引田高堰遺跡		○				○					
		02850	引田宿原遺跡		○		○						集落。	16
		02851	引田諏訪三反田遺跡				○						散布地。	
36	前橋市0726遺跡	02845	富士見地区遺跡群赤城遺跡		○				○		○	○	集落。	21
		02938	富士見地区遺跡群長泉寺遺跡		○				○				集落。縄文住居２、平安住居４など。	
		02913	富士見地区遺跡群由森遺跡		○		○	○	○		○		集落。縄文住居２、平安住居23、掘立10など。	19
		02940	引田高橋遺跡		○		○						その他。	
37	前橋市0727遺跡	02854	米野広町遺跡		○		○						散布地。	
38	前橋市0741遺跡	02909	横室寄居							○			城館、その他。	55,56
		02914	富士見地区遺跡群寄居遺跡		○			○	○	○	○		城館、その他。中近世溝４など。	18
39	前橋市0748遺跡	02910	富士見地区遺跡群愛宕山遺跡		○				○				集落、生産。縄文住居12、土坑150、平安炭窯１など。	22
		02931	富士見地区遺跡群愛宕遺跡		○						○		生産遺跡。近世採石跡１。	
40	前橋市0749遺跡	02915	横室中遺跡		○								生産遺跡。	27
		02930	富士見地区遺跡群田中田遺跡		○	○	○		○				集落。縄文住居９、古墳前期住居37、後期住居24、溝１など。	17
41	前橋市0750遺跡	02936	富士見地区遺跡群田中遺跡		○		○						集落。縄文住居２、配石１など。	18
42	前橋市0751遺跡	02911	富士見地区遺跡群久保田遺跡		○		○	○	○				集落。縄文住居６、古墳住居１、奈良平安住居13など。	19
		02912	富士見地区遺跡群白川遺跡		○		○	○	○	○			集落。縄文住居２、古墳住居20、奈良平安住居14、掘立11など。	
43	前橋市0752遺跡	02944	森山古墳(富士見村６号古墳)				○						古墳。	3
		02945	道上古墳				○						古墳。	
44	前橋市0753遺跡	02946	荒井古墳(富士見村14号古墳)				○						古墳。	3,16
45	前橋市0754遺跡	02948	横室薊遺跡		○								散布地。	16,31
46	前橋市0755遺跡	02952	田島城							○			城館。	55
47	前橋市0756遺跡	02939	富士見地区遺跡群日向遺跡							○			城館。	22
		02954	森山城(引田城)							○			城館。	56
48	前橋市0757遺跡	02949	原之郷鎌塚遺跡		○		○						集落、散布地。	
		02951	田島上の台遺跡				○						散布地。	
49	前橋市0758遺跡	02977	富士見地区遺跡群岩之下遺跡		○		○	○	○				集落。縄文土坑３、古墳住居９、奈良平安住居15、掘立２など。	18
		02982	横室東沢口遺跡				○						散布地。	
50	前橋市0759遺跡	02962	原之郷鰻沢遺跡		△				○				集落。縄文土器片。平安住居２、掘立１、竪穴１、土坑、柱穴など。	26
		02963	原之郷鰻沢遺跡						○					
		04597	試掘						○				集落。	
51	前橋市0760遺跡	02976	原之郷東原遺跡		○			○	○				集落。縄文前期住居。奈良平安住居。	23
		02978	原之郷後原遺跡		○				○				集落。	
52	前橋市0761遺跡	02984	原之郷善養寺遺跡			○	○						集落。	28
53	前橋市0762遺跡	03724	富士見漏１号古墳				○						古墳。	

	遺跡№・ＩＤ・名称			旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
54	前橋市0763遺跡	02985	原之郷山ノ後遺跡			○							散布地。	
55	前橋市0764遺跡	02987	九十九山古墳(富士見村16号古墳)				○						古墳。前方後円墳。６世紀前半。上毛古墳総覧16号墳。	3
56	前橋市0765遺跡	02988	九十九山の砦							○			城館。	5
57	前橋市0766遺跡	02989	金山城							○			城館。	55
58	前橋市0767遺跡	02995	小沢的場遺跡				○		○	○	○		集落。古墳溝１、平安住居２、中近世溝１など。	25
		02996	小沢的場遺跡				○							
59	前橋市0769遺跡	03001	原之郷慶阿弥遺跡		○		○	○					集落。	
60	前橋市0773遺跡	03011	田島鉄砲林遺跡				○						散布地。	
61	前橋市0776遺跡	03016	十二遺跡		○								集落。	
62	前橋市0777遺跡	03051	時沢中島遺跡				○	○					墳墓。	
63	前橋市0778遺跡	03015	田島清水遺跡		○		○						散布地。	
64	前橋市0779遺跡	03012	鎌塚古墳(富士見村15号古墳)				○						古墳。	3
65	前橋市0783遺跡	04488	山王・柴遺跡群				○						古墳。	15
66	前橋市0843遺跡	03950	青柳寄居遺跡						○				生産遺跡。水田。	48
67	前橋市0846遺跡	00298	塩原塚古墳				○						古墳。	46
		01245	田口冠木遺跡・田口冠木遺跡１号古墳(南橘村24号古墳)				○						古墳。	3,41
		00340	富士塚古墳(南橘村28号古墳)				○						古墳。	3
		02233	南橘村32号古墳				○						古墳。	
		02234	南橘村33号古墳				○						古墳。	
		02236	諏訪古墳群				○						古墳。	
		02237	諏訪古墳群Ｂ(南橘村34・36・37号古墳)				○						古墳。	
		02238	諏訪古墳群Ｃ				○						古墳。	
		02239	冠木古墳群Ａ(南橘 村16～22号 古墳)				○						古墳。	
		02240	冠木古墳群Ｂ(南橘 村24～26号 古墳)				○						古墳。	
68	前橋市0847遺跡	02241	南橘村35号古墳				○						古墳。	3
		02921	下庄司原１号古墳・富士見村狐塚古墳(富士見村10号古墳)				○						古墳。円墳。上毛古墳総覧14号墳。	3,20
		03955	上庄司原１号古墳(富士見村８号古墳)				○						古墳。	
		02929	上庄司原２号古墳(富士見村９号古墳)				○						古墳。	
		02926	上庄司原３号古墳				○						古墳。	
		02924	上庄司原４号古墳(富士見村11号古墳)				○						古墳。	
		02918	陣場１号古墳(富士見村12号古墳)				○						古墳。	
		02919	陣場２号古墳				○						古墳。	20
		03952	富士見地区遺跡群陣場遺跡				○						古墳(円墳２)。	
		03953	上庄司原西遺跡				○						古墳(周溝墓１)。	
		03954	上庄司原東遺跡				○						古墳(円墳２)。	
		04428	上庄司原北遺跡				○						古墳(円墳１)。	
		04603	田口八幡Ｉ遺跡				○						古墳(円墳１)。	52
		04450					○						古墳。	
69	前橋市0858遺跡	00339	引切塚古墳(南橘村40号古墳)				○						古墳。	36
		04329	引切塚遺跡				○						古墳。	
70	前橋市0865遺跡	04169	試掘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	散布地。	43
71	前橋市0901遺跡	04583	試掘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	生産、その他。	

	遺跡№・ＩＤ・名称			旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
72	前橋市0913遺跡	04604	田口上田尻遺跡				○	○	○	○	○		水田、生産。	6
73	前橋市0943遺跡	04670	青柳寄居							○			城館。	56
74	瓜山遺跡				○		○						散布地、集落。縄文住居２など。	1，2
75	橘峠遺跡				○			○					散布地。	
76	遺跡名無し						○						古墳。	
77	遺跡名無し						○						古墳。	
78	遺跡名無し				○			○					散布地。	
79	遺跡名無し				○								散布地。	
80	遺跡名無し				○								散布地。	

文献

1	北橘村教育委員会1990『東篠遺跡・瓜山遺跡』
2	北橘村教育委員会2000『北橘村村内遺跡』Ⅶ
3	群馬県1938『上毛古墳綜覧』
4	群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編３
5	群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
6	群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』
7	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『王久保遺跡』
8	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井蝉山遺跡』
9	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井中島遺跡』
10	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上町・時沢西紺屋谷戸遺跡』
11	群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城遺跡』
12	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上遺跡』
13	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根細ヶ沢遺跡』
14	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『引切塚遺跡・青柳宿上遺跡』
15	群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『山王・柴遺跡群』
16	富士見村誌編さん委員会1979『富士見村誌』続編
17	富士見村教育委員会1986『田中田遺跡・窪谷戸遺跡・見眼遺跡』
18	富士見村教育委員会1987『富士見地区遺跡群 向吹張遺跡・田中遺跡・岩之下遺跡・寄居遺跡』
19	富士見村教育委員会1989『富士見地区遺跡群 白川遺跡・由森遺跡・久保田遺跡』
20	富士見村教育委員会1991『富士見地区遺跡群 陣場・庄司原古墳群』
21	富士見村教育委員会1993『富士見地区遺跡群 赤城遺跡・長泉寺遺跡』
22	富士見村教育委員会1994『富士見地区遺跡群 愛宕山遺跡・初室古墳・愛宕遺跡・日向遺跡』
23	富士見村教育委員会1997『平成８年度村内遺跡』
24	富士見村教育委員会1998『旭久保Ｂ遺跡』
25	富士見村教育委員会1998『小沢的場遺跡』
26	富士見村教育委員会1998『原之郷鰻沢遺跡』
27	富士見村教育委員会1998『平成９年度村内遺跡』
28	富士見村教育委員会1999『平成10年度村内遺跡』
29	富士見村教育委員会2001『引田高堰遺跡』
30	富士見村教育委員会2001『平成12年度村内遺跡』
31	富士見村教育委員会2002『平成13年度村内遺跡』
32	富士見村教育委員会2004『平成15年度村内遺跡』
33	富士見村教育委員会2006『時沢宮東遺跡』
34	富士見村教育委員会2007『時沢西荻林遺跡』
35	富士見村教育委員会2009『平成16～19年度村内遺跡』
36	前橋市教育委員会1985『引切塚遺跡』
37	前橋市教育委員会1993『引切塚Ⅱ遺跡』
38	前橋市教育委員会1996『市内遺跡発掘調査報告書』
39	前橋市教育委員会2000『市内遺跡発掘調査報告書』
40	前橋市教育委員会2001『市内遺跡発掘調査報告書』
41	前橋市教育委員会2004『年報』35
42	前橋市教育委員会2007『市内遺跡発掘調査報告書』
43	前橋市教育委員会2008『市内遺跡発掘調査報告書』
44	前橋市教育委員会2009『市内遺跡発掘調査報告書』
45	前橋市教育委員会2009『年報』40
46	前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』1
47	前橋市文化財研究会1976『蛇穴山古墳調査概報』
48	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1984『青柳寄居遺跡』
49	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1989『若宮遺跡』
50	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1996『総社愛宕山遺跡』
51	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『稲荷山古墳』
52	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅰ遺跡』
53	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅱ遺跡』
54	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2008『南橘東原遺跡』
55	山崎一1971『群馬県古城塁址の研究』上
56	山崎一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺編上

※１　平成28年度刊行予定

※２　平成28年度刊行予定

麓から西麓にかけて分布することから、現在の利根郡昭和村から赤城村を中心にして、北橘村、富士見村西部、前橋市田口町から日輪寺町へかけての広大な地域を拝志荘(林荘)としている。また、『南橘村誌』によると、青柳の鎮守は神明宮であり、龍蔵寺にも神明宮が祀られている。荒牧神社はかつて伊勢宮と称していた。現在も伊勢、伊勢東等の地名が残る。このことにより、青柳、龍蔵寺、日輪寺、荒牧の地は、いずれも青柳御厨としている。延文５(1360)年成立の『神鳳抄』という伊勢皇大神宮の所領を書き上げた記録には、「青柳御厨　布卅段百廿町　建永符八十町」とある。建永年間(1206～07年)に官符が出され、その田数は80町であったことが読み取れる。さらに、『前橋市史』によると青柳御厨は赤城白川が旧利根川に合流する沖積堆土上に位置していたとされている。『氏経卿記』は、貞和３(1347)年と宝徳４(1452)年の２度にわたり、青柳御厨関係の文書が遠江国蒲御厨内安間郷の文書とともに焼失した旨を証明する紛失状が作成されている。

関東地方が戦国時代に入ると、本遺跡周辺にもこの時期の城館が存在する。『富士見村誌』続編によると、前橋市0596遺跡(陣場、第９図31)は、文明９(1477)年に太田道潅が長尾景春と対陣した際の陣跡としている。また、本遺跡周辺には、前橋市0010遺跡(関根の寄居、第９図８)、前橋市0741遺跡(横室寄居、第９図38)・前橋市0943遺跡(青柳寄居、第９図73)などの寄居が分布している。寄居は、当時の統御組織に関連する呼称であり、長尾氏や桐生氏関係に限定して用いられた。本遺跡周辺のものは長尾氏に関係するものである。その他、本遺跡周辺には前橋市0036遺跡(八幡山の砦、第９図20)・前橋市0755遺跡(田島城､第９図46)･前橋市0756遺跡(森山城(引田城)、第９図47)・前橋市0765遺跡(九十九山の砦、第９図56)・前橋市0766遺跡(金山城、第９図57)などが存在する。これら城館は、16世紀のものが主体である。徳川家康が関東に入封後、前橋藩主は平岩氏にはじまり、酒井氏、松平氏と名門の大名に引き継がれていった。それに伴い本遺跡周辺の川端村付近は前橋藩領となる。

第３節　土層堆積状況

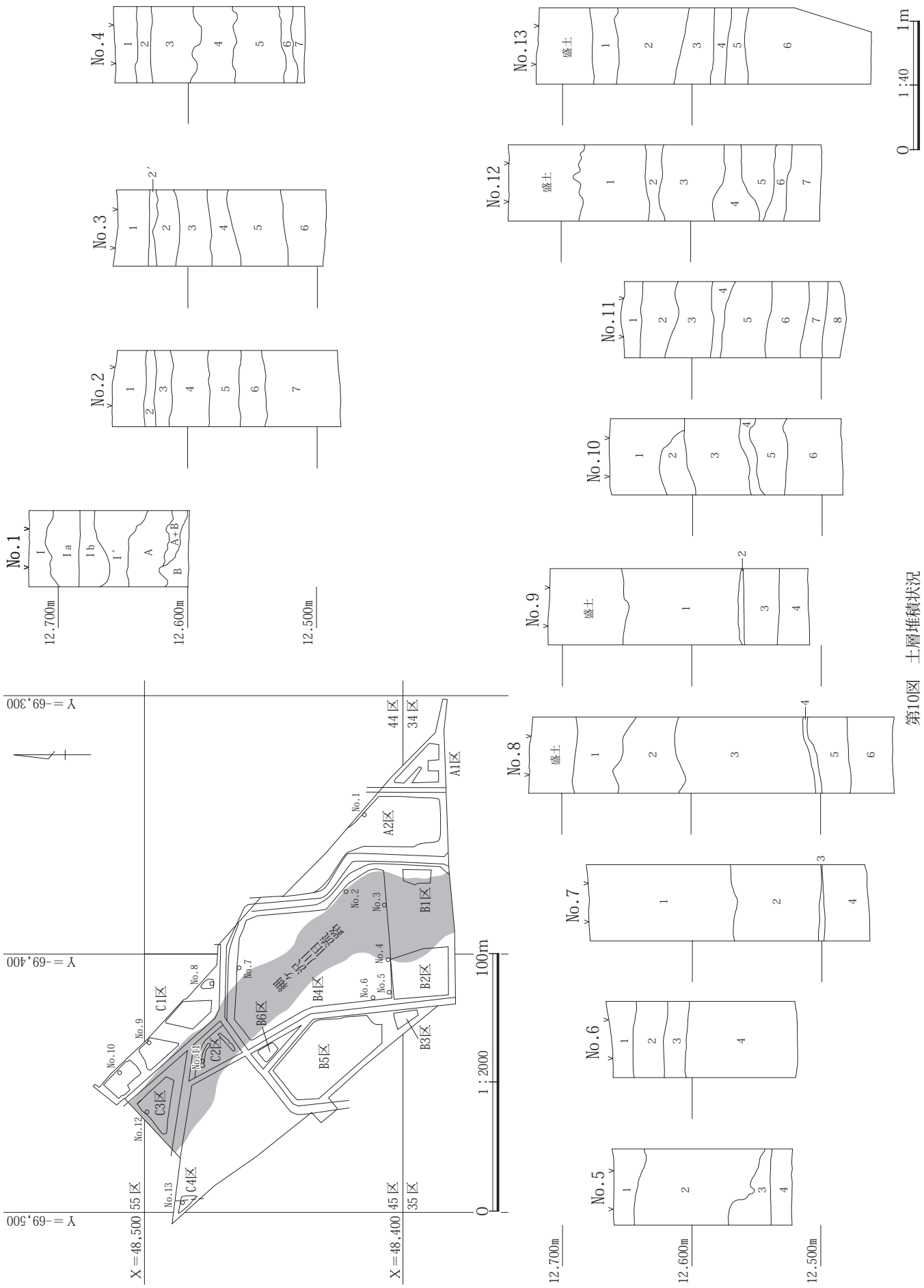
本遺跡は河川による浸食及びカスリン台風による洪水の影響を受けた土地にある。弥生時代から中・近世に至る土層において、調査区全体がカスリン台風による洪水層で覆われており、カスリン台風による影響がうかがえる。また、洪水層下の堆積状況は場所により異なるが、旧表土、耕作土が埋没している。

細ヶ沢川旧流路左岸にあるＡ区、Ｂ区東部、Ｃ東部の標高がやや高いのに対して、右岸にあるＢ区西部、Ｃ区西部の標高が低い傾向が観察された。現表土以下の土層堆積状況(柱状図)を第10図に示した。本遺跡では、統一した基本土層の設定は困難であり、各調査区における代表的な土層堆積状況を記載する。

本遺跡では、後世の削平が進んでおり浅間山噴火に伴うAs-B軽石がほとんど見られない。本来ならこの地域の地層の特徴的な堆積である。鍵層となるAs-C軽石は、遺跡全域で安定的に確認されており、黒褐色土、暗褐色土等、本遺跡の主体を成す土層に撹拌された状況で存在していることが多く､土層堆積状況として位置付けている。

土層堆積状況は、Ａ区とＢ区及びＣ区では、層位の厚さや高さを主体として様相が異なる。これも一重に、カスリン台風の影響の軽重と旧流路の氾濫の様相の違いによるものが大きいと考えられる。Ａ区は、調査区のほとんどが旧流路の左岸に位置しており、Ｂ区・Ｃ区は、調査区のほぼ中央を旧流路が通過していると思われる。

土層堆積状況は、Ａ区で１か所、Ｂ区で６か所、Ｃ区で６か所において確認した。土層堆積状況は、細ヶ沢川旧流路の右岸と左岸で異なる傾向が見られた。細ヶ川沢旧流路の左岸に位置するＢ区の№７、Ｃ区の№８・９・10については、Ac-C軽石を含む黒色土より上層は、洪水起源の砂質土が堆積しており、比較的土壌堆積が安定していた。これらの地点は、旧流路左岸の微高地に位置しており、カスリン台風、旧流路の影響が少なかったと考えられる。事実、道を挟んで同じ旧流路左岸にある№７と№８では、近くから複数面に及ぶ遺構が確認されている。本調査区において、この付近は自然災害による遺構の損失が免れたと推察される。それに対して細ヶ沢川旧流路の右岸に位置するＢ区の４・５・６については、攪


No.1
No.2
No.3
No.4
No.5
No.6
No.7
No.8
No.9
No.10
No.11
No.12
No.13
盛土
12.700m
12.600m
12.500m
1:40
1m
0
X＝48,500
X＝48,400
Y＝-69,500
Y＝-69,400
Y＝-69,300
55区
45区
35区
44区
34区
C1区
C2区
C3区
C4区
B1区
B2区
B3区
B4区
B5区
B6区
A1区
A2区
1:2000
100m

第10図　土層堆積状況

川端山下遺跡　土層堆積状況

土層堆積状況№１
Ⅰ　　現表土、耕作土
Ⅰａ　カスリン台風による洪水層(シルト質)
Ⅰｂ　カスリン台風による洪水層
Ⅰ′　旧表土
Ａ層　暗褐色土(10YR3/3)　細粒軽石若干含む。
Ｂ層　５世紀洪水層。

土層堆積状況№２
１　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石含む。(表土)
２　褐灰色土(10YR4/1)　砂粒主体。鉄分付着著しい。
３　褐灰色土(10YR4/1)　砂粒主体。
４　暗褐色土(10YR3/3)　小礫含む。
５　暗褐色土(10YR3/3)　小礫多く含む。砂粒主体。(洪水砂層)
６　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　鉄分付着する。
７　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　白色軽石含む。鉄分付着著しい。

土層堆積状況№３
１　暗褐色土(10YR3/3)　小礫含む。(表土)
２　褐灰色土(10YR4/1)　砂粒主体。
２′褐灰色土(10YR4/1)　砂粒主体。鉄分付着著しい。
３　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石含む。砂粒主体。
４　褐灰色土(10YR4/1)　砂粒主体。均質。白色軽石含む。
５　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　砂粒主体。
６　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　小礫含む。砂粒主体。

土層堆積状況№４
１　暗褐色土(10YR3/3)　均質土。(表土)
２　褐灰色土(10YR4/1)　砂粒主体。鉄分付着する。
３　褐灰色土(10YR4/1)　白色軽石含む。砂粒主体。
４　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石、小礫含む。砂粒主体。
５　にぶい黄橙色土(10YR5/3)　鉄分付着する。均質土。
６　にぶい黄橙色土(10YR5/3)　砂粒主体。
７　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂粒主体。均質土。

土層堆積状況№５
１　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石含む。(表土)
２　黒褐色土(10YR3/1)　白色軽石、小礫含む。
３　浅黄橙色土(10YR8/3)　鉄分付着著しい。
４　暗褐色土(10YR3/3)　小礫多く含む。砂粒主体。(洪水砂層)

土層堆積状況№６
１　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石含む。(表土)
２　褐灰色土(7.5YR4/1)　白色軽石含む。砂粒主体。
３　暗褐色土(7.5YR3/3)　白色軽石、小礫含む。砂粒主体。
４　浅黄橙色土(10YR3/3)　鉄分付着著しい。

土層堆積状況№７
１　灰黄褐色土(10YR6/2)　上半部は表土層、下半部はHr-FP粒・浅黄橙色砂粒僅かに含む。
２　浅黄橙色土(10YR8/3)　鉄分付着著しい。
３　黄橙色粘土(10YR8/6)　洪水最下層。
４　黒褐色土(10YR3/2)　上半部はAs-C少量、下半部はAs-C多量含む。粘性強い。

土層堆積状況№８
１　褐灰色土(10YR6/1)　上半部は表土、下半部はHr-FP少量含む。
２　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質土。
３　浅黄橙色土(10YR8/3)　鉄分付着著しい。
４　黄橙色土(10YR8/6)　粘質土。洪水最下層。
５　黒褐色土(10YR3/2)　上半部はAs-C少量、下半部はAs-C多量含む。粘性強い。
６　黒褐色土(10YR2/2)　やや砂質。

土層堆積状況№９
１　黄色土(2.5Y8/8)　洪水砂主体。
２　黄橙色粘質土(10YR8/6)　粘性強い。As-C混黒色土上面の水田面に最初に堆積。
３　黒褐色土(10YR2/2)　上半部より下半部にAs-Cの混入が多い。
４　黒褐色土(10YR3/2)　３層より粘性が強い。

土層堆積状況№10
１　極暗褐色土(7.5YR2/3)　白色粒子含む。
２　明褐灰色砂質土(7.5YR7/2)　鉄分やや付着する。
３　褐灰色土(7.5YR6/1)　As-C粒少量含む。やや粘性。鉄分やや付着する。砂質土。
４　にぶい橙色土(7.5YR7/3)　Hr-FP細粒・細礫僅かに含む。上半部やや粘性、下半部やや砂質。
５　黒褐色土(10YR2/2)　As-C混入。
６　灰褐色土～黒褐色土(7.5YR4/2～3/2)　As-C混入なし。灰褐色土は粘質土。

土層堆積状況№11
１　表土
２　褐灰色土(7.5YR4/1)　砂粒主体。軽石多い。
３　暗褐色土(7.5YR3/3)　砂粒、軽石粒多い。
４　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂主体。
５　黒褐色土(10YR3/1)　粘質土。
６　褐灰色土(10YR4/1)　砂質土。
７　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質土。
８　褐灰色土(10YR5/1)　砂礫層。

土層堆積状況№12
１　にぶい褐色土(7.5YR5/3)　近世洪水層か。上部に鉄分の付着が多く、水田床土の可能性。
２　暗褐色土(7.5YR3/4)　砂礫を多く含む。
３　褐灰色土(7.5YR6/1)　浅黄橙色砂をブロック状に少量、カーボン細粒僅かに含む。砂質土。洪水層か？
４　褐灰色土(7.5YR4/1)　粘質土。
５　灰褐色土(7.5YR4/2)　４層に類似するが、４層よりも砂の混入が多い。
６　灰褐色土(7.5YR4/2)　鉄分付着著しい。
７　暗褐色土(7.5YR3/4)　砂礫層。

土層堆積状況№13
１　褐色土(7.5YR4/3)　表面。砂礫含む。
２　褐色土(7.5YR4/4)　３層の土混入。(すき込み)
３　褐色土(7.5YR4/6)　暗褐色土ブロック少量含む。
４　暗褐色土(10YR3/3)　砂利と小石の混在。
５　暗褐色土(10YR3/4)　砂・砂礫主体。川の堆積物。
６　灰黄褐色砂(10YR5/2)　砂主体。鉄分付着。川の堆積物。

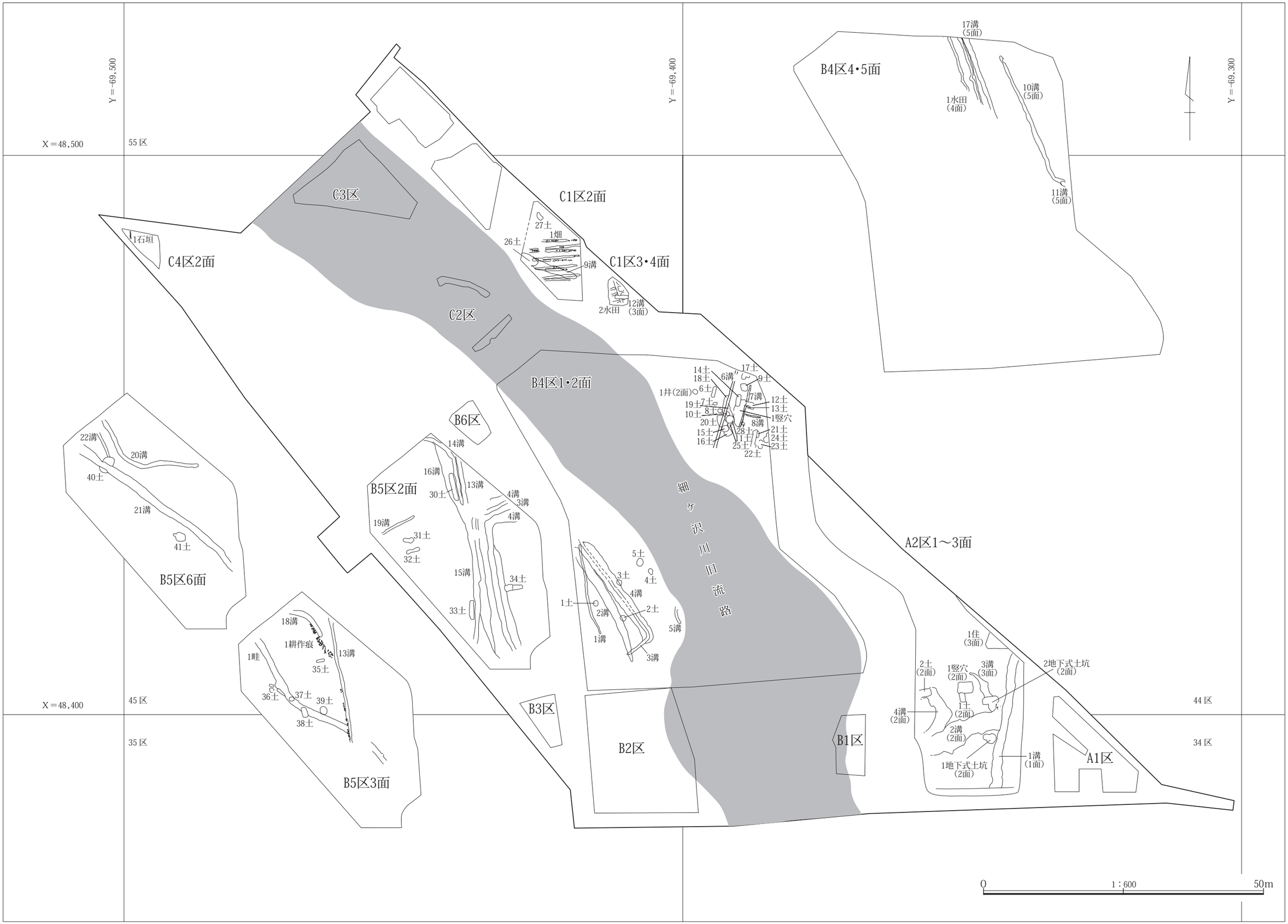
乱が広範囲に及び、さらに、後世の耕作等により削平の結果、安定した土壌堆積が観察できない傾向にある。これは本調査区の特徴である。

各土層堆積状況を概観して調査面の設定をすると次のようである。第10図№１は、Ａ２区北東壁の土層堆積状況である。整地面は確認されなかった。Ⅰ層は、現代の耕作土である。Ⅰa・bはカスリン台風による砂層である。Ⅰ′は、シルト質の黒褐色土、旧表土である。Ａは暗褐色土で細粒軽石を含み、Ｂは５世紀の洪水層である。指標となるテフラ等により、各年代の比定は、次の通りである。５世紀洪水層上面の上から古代から中・近世まで（１～３面）の遺構か確認されている。５世紀洪水層上面（４面）、５世紀洪水層下面（５・６面）は、本調査区では遺構が確認できなかった。

第10図№２～７は、Ｂ区各壁の土層堆積状況である。№２は東壁、№３～５は南壁、№６は西壁、№７は北壁の土層堆積状況である。整地面は確認されなかった。№２～６の１層及び№７の１層上部は、表土である。№２の２～５層、№３・４の２～４層、№５の２層、№６の２・３層は、№７の１層下部は、褐灰色土、暗褐色土及び黒褐色土で、砂粒や小礫が混入している。旧流路による影響を受けている。年代の比定としては、１～３面に相当する。№２の６・７層、№３・４の５・６層、№５の３層、№６の４層、№７の２層は、小礫を含む砂質土で鉄分の付着が著しい５世紀洪水層である。５世紀洪水層上面は４面に相当する。№７の４層は、５世紀洪水層下のAs-Cを含む黒褐色土である。５面に相当する。６面に相当する土層が確認できなかった。

第10図№８～13は、Ｃ区各壁の土層堆積状況である。№８はＣ１区南壁、№９・10はＣ１区東壁、№11はＣ２区北壁、№12はＣ３区北壁、№13はＣ４区北壁の土層堆積状況である。整地面は確認されなかった。№８・11の１層、№13の１層は、表土である。№８の２層、№11の２・３層、№13の２～５層は、褐灰色土、暗褐色土で、砂粒や小礫が混入している。旧流路による影響を受けている。年代の比定としては、１～３面に相当する。№８の３層、№９の１・２層、№10の２・３層、№12の４・５層、№13の６層は、鉄分の付着が著しい５世紀洪水層である。５世紀洪水層上面は４面に相当する。№８の５層、№９の３層、№10の５層は、５世紀洪水層下のAs-Cを含む黒褐色土である。この上面は５面に相当する。№８の６層、№９の４層、№10の６層はAs-Cを含まない黒褐色土であり、６面に相当すると考える。

参考文献
北橘村誌編纂委員会1975『北橘村誌』
群馬県文化事業振興会1977『上野国郡村誌』1
勢多郡誌編纂委員会1958『勢多郡誌』
群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編１
群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編３
富士見村誌編纂委員会1954『富士見村誌』
富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編
前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』1
前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』2
前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』5
南橘村誌編纂委員会1955『南橘村誌』
群馬県1950『カスリン颱風の研究』
群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
飯森康広2015「環濠屋敷をめぐる研究動向と地域状況」『群馬県玉村中世史研究』1　玉村中世史研究会
今井善一郎1943「拝志庄考」『上毛文化』71　上毛文化会
今井善一郎1959「拝志庄の位置について」『群馬文化』27　群馬文化の会
久保田順一2009『中世前期上野の地域社会』 岩田書院
須藤聡2015「上野国周辺の伊勢神宮領形成についての一考察」『群馬県玉村中世史研究』1　玉村中世史研究会
谷口寛次1995「拝志牧と拝志荘」『群馬歴史散歩』132　群馬歴史散歩の会
都丸十九一1995「拝志牧(荘)の位置について」『群馬文化』241　群馬地域文化研究協議会
山崎一1971『群馬県古城塁址の研究』上
山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』上巻
山崎一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺編上
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根細ヶ沢遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『引切塚遺跡・青柳宿上遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『山王・柴遺跡群』
群馬県総務部市町村課2015『平成27年度群馬県市町村要覧』
群馬県地質図作成委員会1995『群馬県10万分の１地質図』
前橋市教育委員会2013『前橋市遺跡分布地図』
マッピングぐんま
http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top



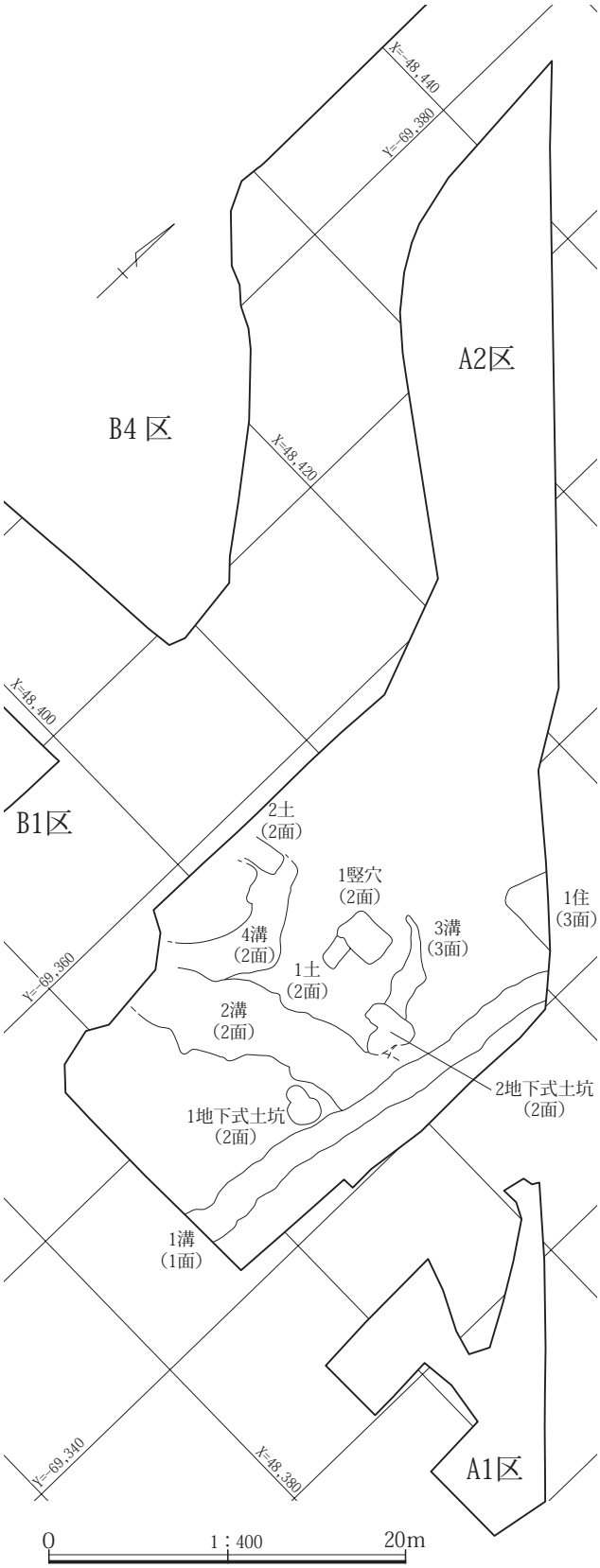
第11図　川端山下遺跡全体図

第３章　調査の内容

第１節　調査の概要

川端山下遺跡Ａ２区では、近世(江戸時代)の溝１条、中世(室町時代)の竪穴状遺構１基・溝２条・地下式土坑２基・土坑２基、及び古代(平安時代)の竪穴住居１軒・溝１条を検出した。出土遺物においては、中世(室町時代)の溝から在地系土器の灯火台、地下式土坑から銅製品の太刀の吊り金具が出土している。灯火台からは特殊な遺構の存在が推測される。12世紀後半には、赤城山南麓地帯に秀郷流の藤原氏の一族が分散していた。藤原氏は東福寺建立とゆかりが深く、調査区北接周辺には「東福寺」の口伝が残っており関係が考慮される。

川端山下遺跡Ｂ１・２・３区では、古墳時代の洪水堆積土層、及びAs-C下層に２枚の遺物包含層が想定されたが遺構は検出されなかった。川端山下遺跡Ｂ４・５・６区、及びＣ１・２・３・４区では、近世、中世、古代(５世紀洪水層上面)、古墳時代前期、４世紀以前と面調査が行われている。全体で、井戸１基、溝22条、土坑40基、ピット278基、畑１枚、水田２面、耕作痕１条の遺構が検出されている。上面から概観していくと、中・近世においては、複数の土坑やピットが集中している。ピットの中には礎石の存在や形状などから柱穴と考えられるものがあり、掘立柱建物の基礎と推察され、屋敷の規模が推定される。これらは出土遺物から中・近世と考えられる。Ｂ４区南西部、Ｂ５区で検出された溝の中には、ピットや土坑を囲むようにコの字状を呈する溝があることから、屋敷に伴う周堀であると推察される。調査区域のほぼ中央に細ヶ沢川の旧流路が幾筋も見られ、その東西の両端に微高地が存在しており、ここに溝や屋敷が存在していた景観が想定される。また、Ｃ１区では畑が検出されている。時期は埋没土の様相及び出土遺物から中世以降と考えられる。Ｂ５区・Ｃ１区からは、古代の用水路と考えられる溝、水田の畦、耕作痕も検出されており、奈良・平安時代においては、生活の様相を伝える遺構や遺物が認められた。古墳時代においては、Ｂ４区北東部、Ｃ１区から、５世紀に発生した洪水下から水田の



第12図　Ａ１・２区１～３面　全体図

畦などが見つかった。Ｂ５区のさらに下面の包含層からは、弥生時代中期の土器の破片と石鏃などの石器が僅かに出土した。溝や土坑等の遺構も検出されたが、これらは土器の時代に伴うか明瞭でない。縄文時代においては、明確な遺構は確認に至っていない。

本遺跡においては、発掘段階では面調査が行われており、本稿の掲載については発掘時の面調査を基準としている。ただし、遺構によっては、面を重複して検出されているものがあり、その旨は本文において指摘した。

第２節　Ａ区の遺構と遺物

Ⅰ　近世〔第１面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上にあるシルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、Ａ区の１面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地に位置している。全体的には遺構に乏しく削平も進んでいるため、検出されたのは近世の溝１条のみであった。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を多く受けていると考えられる。出土遺物は近世の陶磁器が多く含まれており、時期の想定に矛盾はない。

１　Ａ１区の遺構と遺物

遺構や遺物は認められなかった。

２　Ａ２区の遺構と遺物

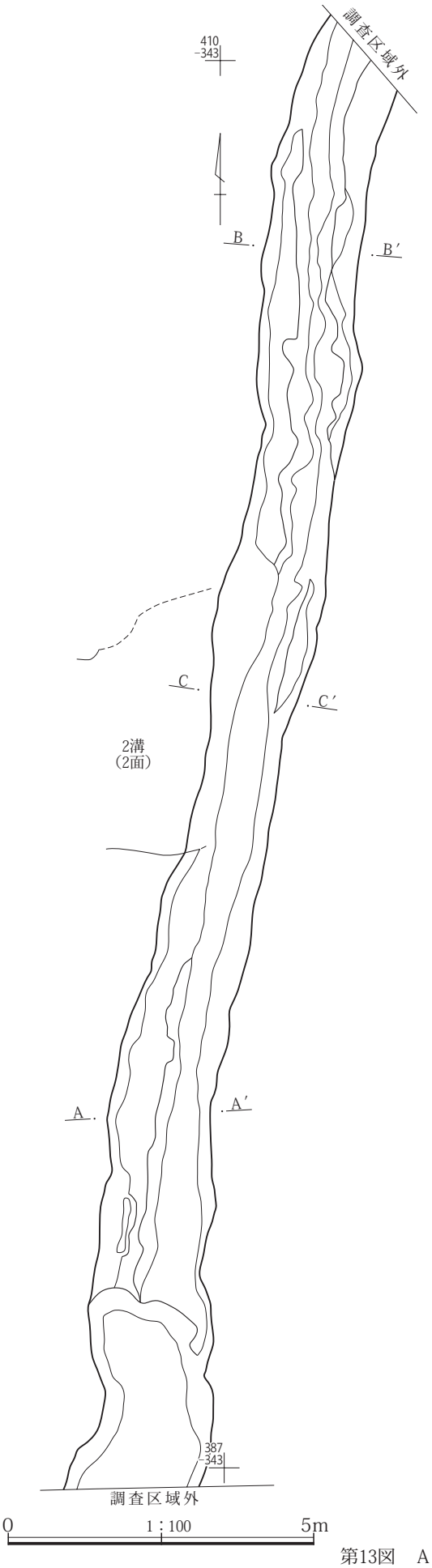
（１）溝

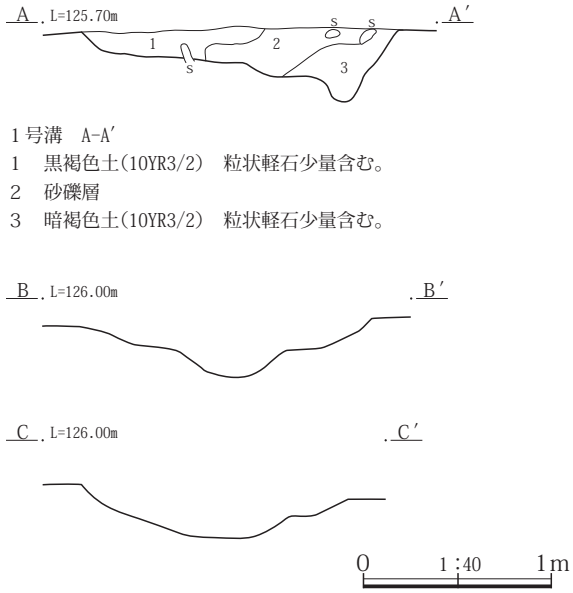
本調査区の１号溝は、ほぼ南北に直進する。地形は細ヶ沢川の旧流路方向に傾斜しており、傾斜方向に垂直に位置する。溝幅は一定で、形状は整っている。出土遺物より、近年まで使用されていたと推察される。埋没土に細粒軽石を含む土層が観察される。近世以降の溝であると考えられるが、溝の使用時期及び使用期間等について明瞭にするための資料は得られていない。

１号溝（第13～18図　PL. 5・48・49）

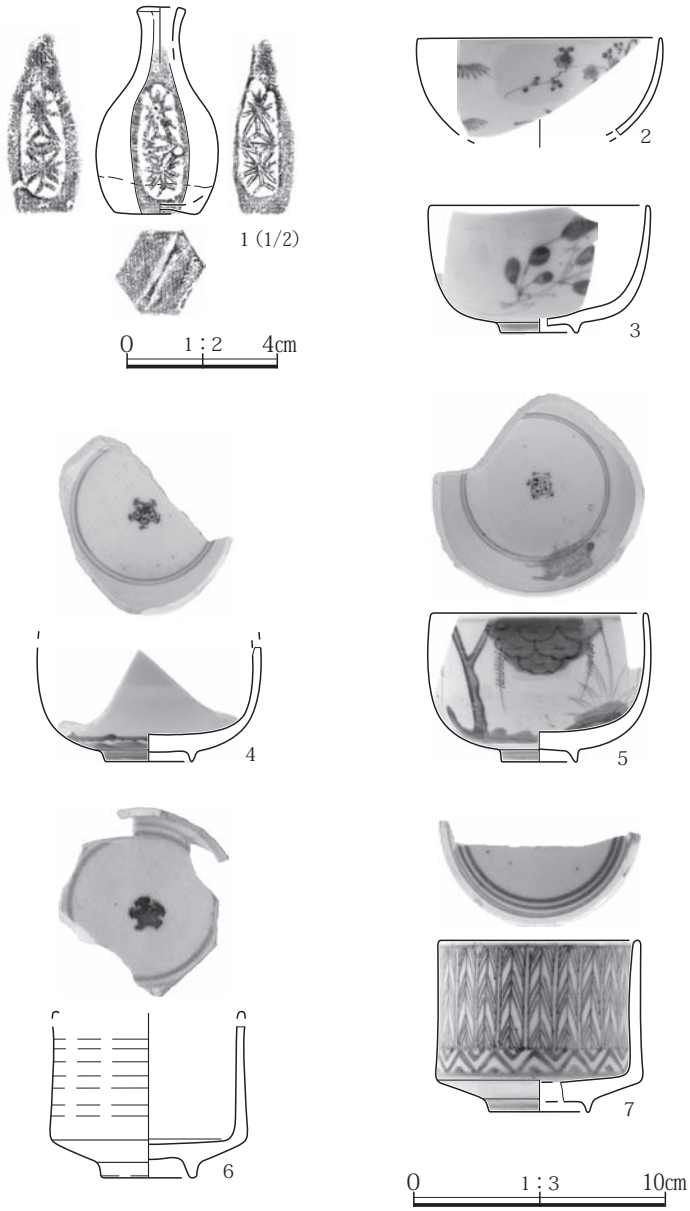
位置：387～410・-343

規模：長さ(23.82) m × 幅1.25 ～ 1.95m　**残存深度**：0.12～0.38m　**走行方位**：N―10°―E　**遺物**：陶磁器・土器87点、ミニチュア（徳利）２点（１・46）、染付丸碗１点（２）、染付小丸碗２点（３・５）、染付碗５点（４・８・９・10・11）、青磁染付筒形碗１点（６）、染付筒形碗１点（７）、染付広東碗１点(12)、小杉碗１点(13)、碗１点(14)、京焼風碗１点(15)、陶胎染付碗３点(16・17・18)、刷毛目碗１点(19)、腰錆碗１点(20)、尾呂碗３点(21・22・23)、染付鉢１点(24)、灯火皿５点(25・26・27・28・29)、灯火受皿１点(30)、白磁皿１点(31)、青緑釉皿２点(32・33)、京焼風皿１点(34)、皿７点(35・36・38・39・40・41・42)、鉄絵皿１点(37)、菊皿２点(44・45)、輪禿皿１点(43)、小香炉２点(47・48)、筒形香炉２点(49・50)、瀬戸・美濃陶器（不詳）３点(51・57・58)、土瓶３点(52・53・54)、平碗１点(55)、瓶１点(56)、すり鉢５点(60・61・62・63・64)、甕５点(65・66・67・68・69)、皿２点(70・71)、内耳鍋４点(72・73・76・77)、片口鉢２点(74・75)、鍋４点(78・79・80・81)、焙烙６点(82・83・84・85・86・87)、鉢１点(88)、耳壺１点(59)、須恵器１点（甕89）、銅製品２点（キセル97・98）、鉄製品３点（小刀99・鏃100・火打ち金101）、石製品７点（砥石７点90・91・92・93・94・95・96）を図示した。すべてが埋没土からの出土であった。上記の出土遺物の中で土瓶３点(52・53・54)、すり鉢１点(60)は、前橋藩窯で焼成されたものである。非掲載遺物として、灰釉陶器（杯類１片）、石製品12片（砥石）、石造物３点（板碑片）、礫石器１点（敲石）、剥片石器２点（剥片）が出土している。　**重複**：２号溝（２面）と重複している。１号溝が新しいと考える。　**所見**：細粒軽石を含む暗褐色土が、その上部に細粒軽石を含む黒褐色土が埋没していた。形状は、およそ直線であり、ほぼ南北に走行しており、おおよそ北から南へ傾斜している。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は丸底である。幅はほぼ変わない。残存深度は一部深いところもあるが、およそ一定である。南北方向を示す走行の溝はＢ４・５区でも見られるが、それらの溝と並行するものではない。また、区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等は、用排水路の一つと考えられる。出土遺物・溝の形状及び埋没土等より、近世以降の溝であると推察される。

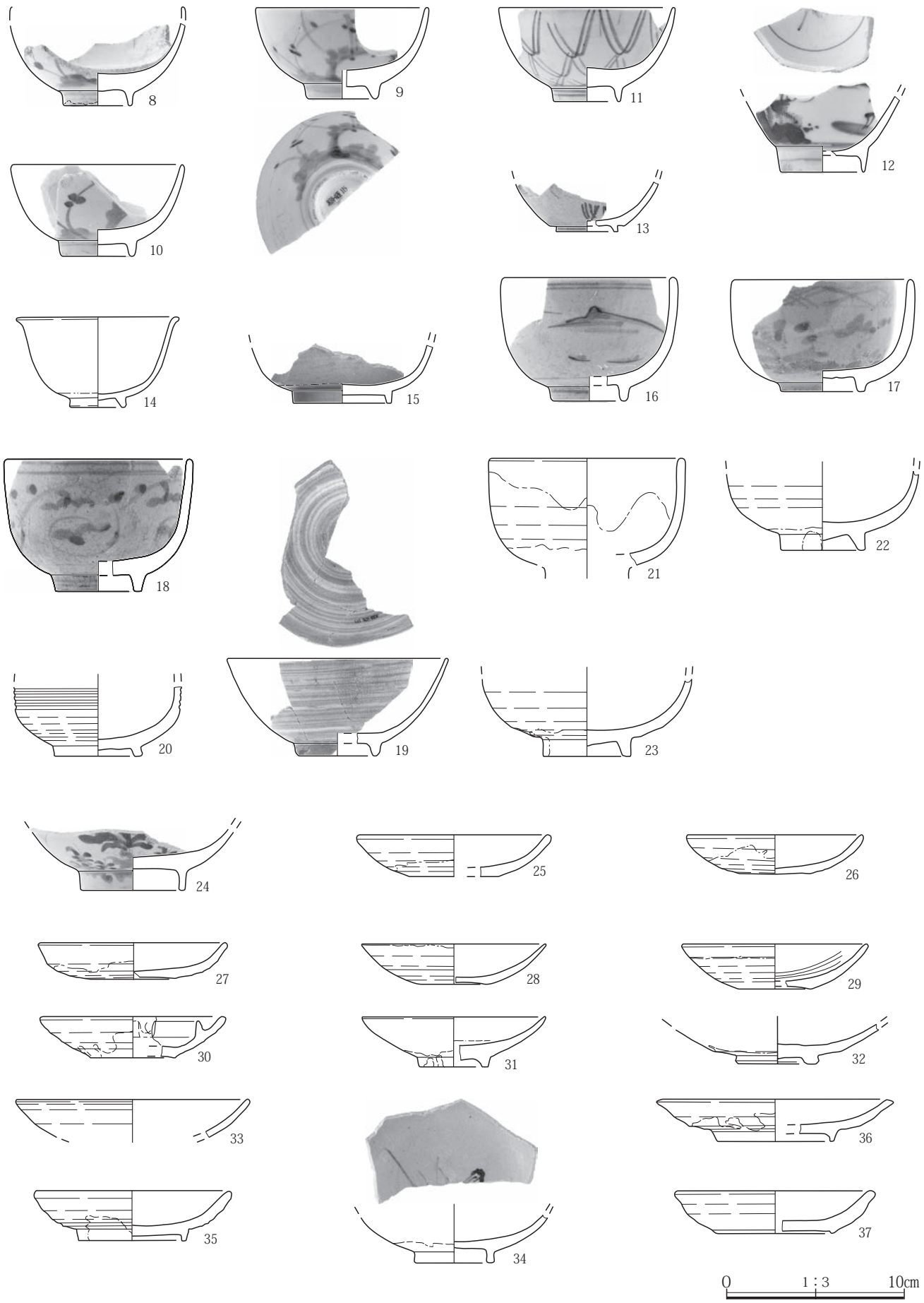




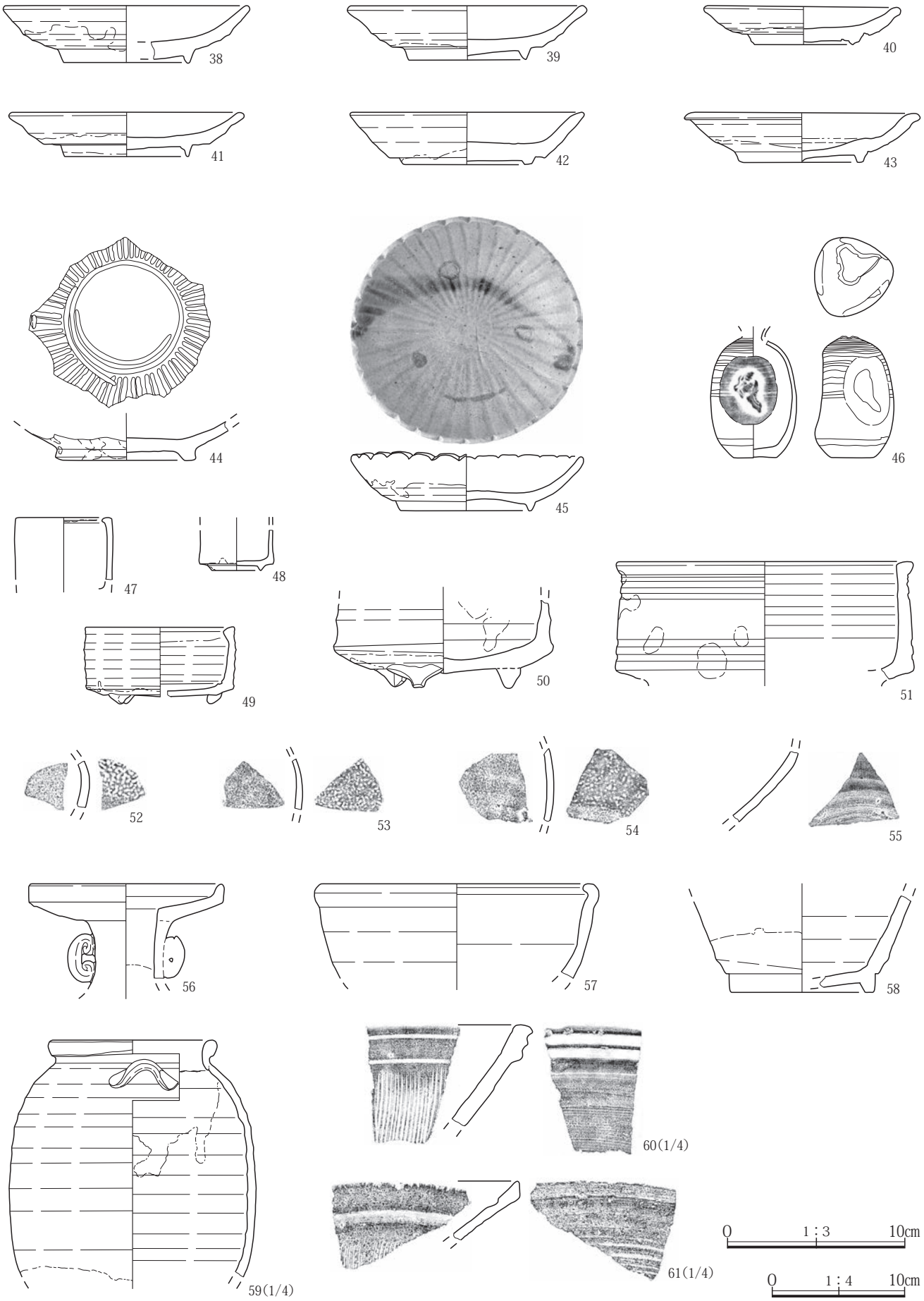
１号溝　A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　粒状軽石少量含む。
2　砂礫層
3　暗褐色土(10YR3/2)　粒状軽石少量含む。



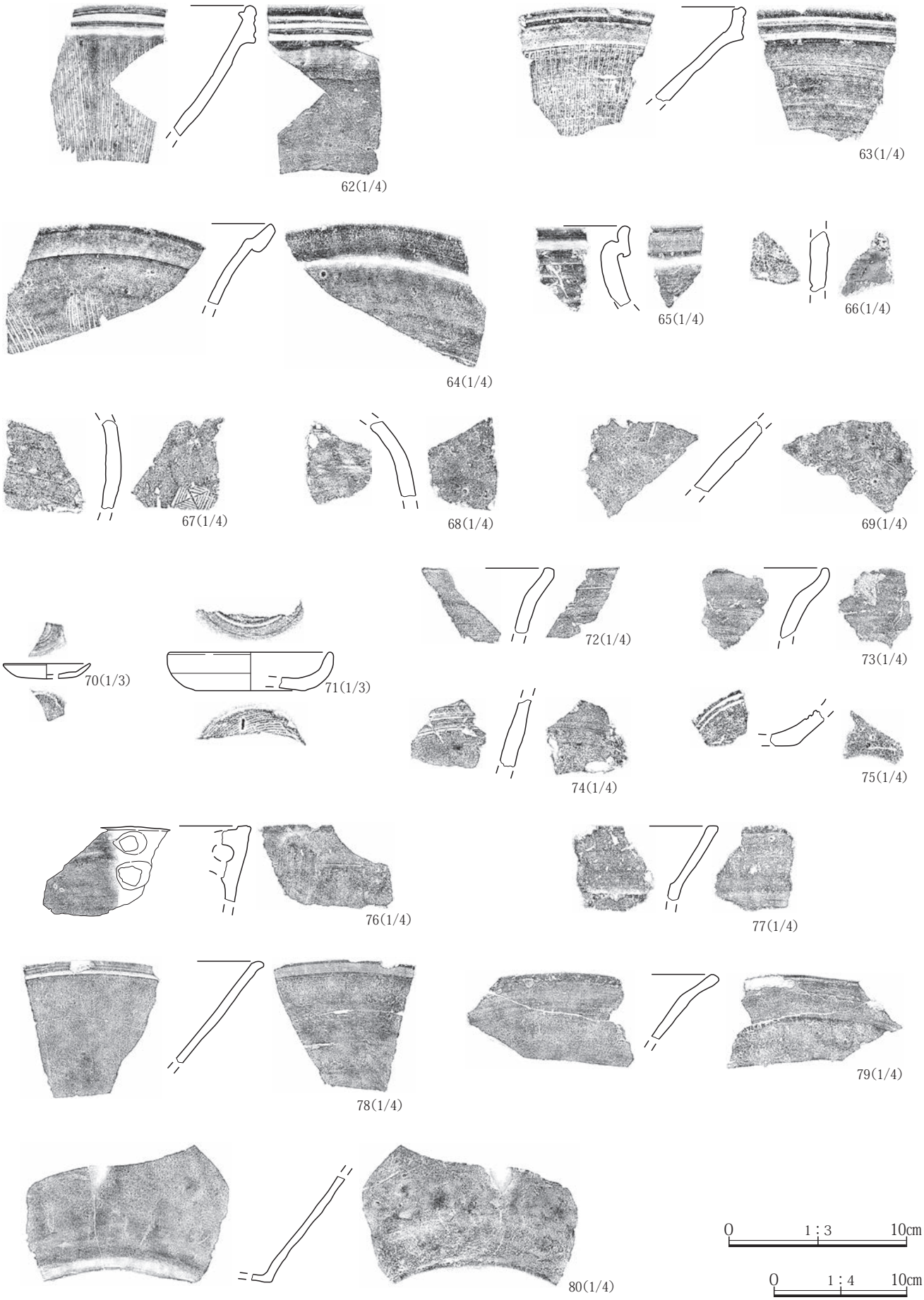
第13図　Ａ２区１面　１号溝、出土遺物（１）



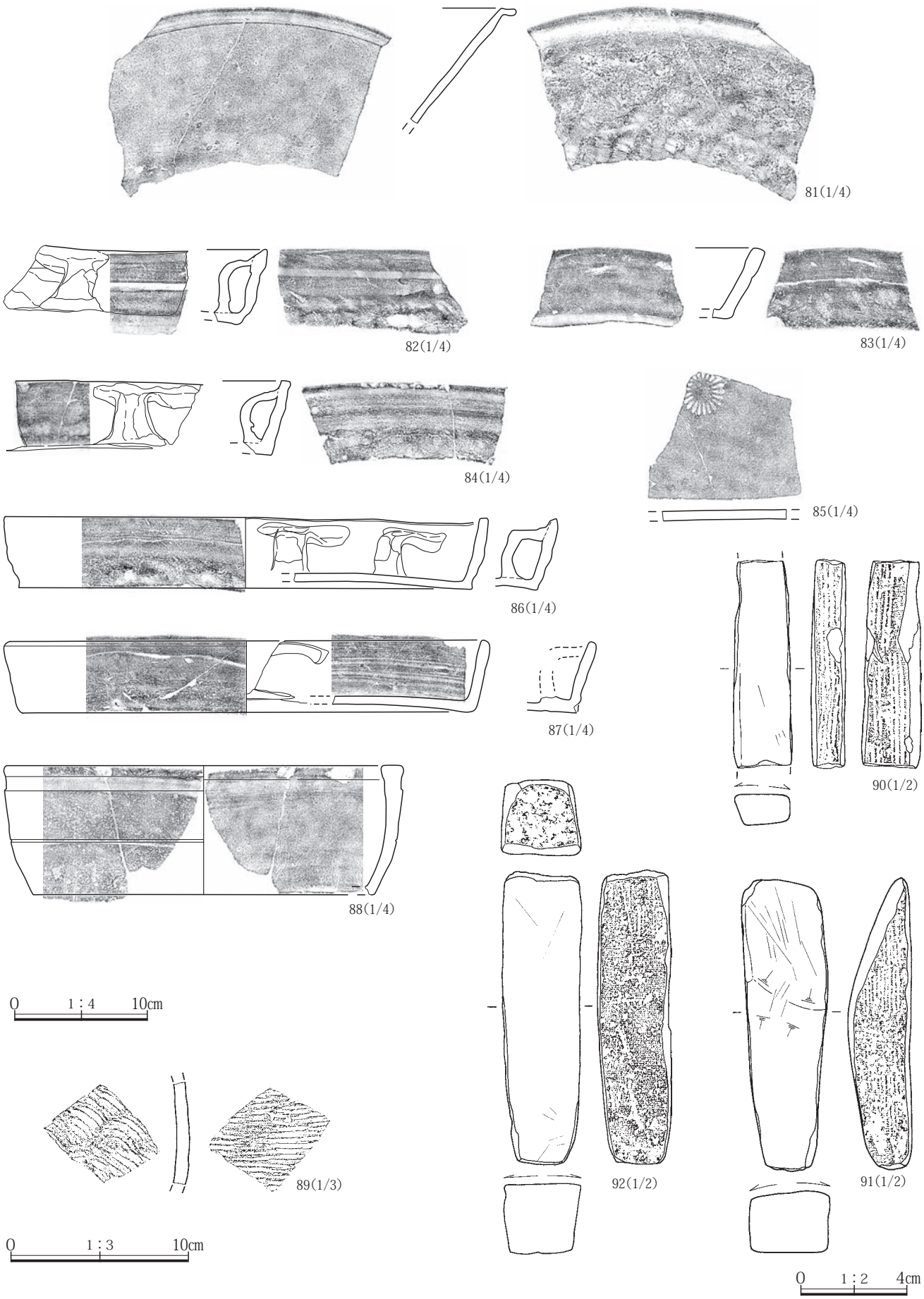
第14図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物（２）



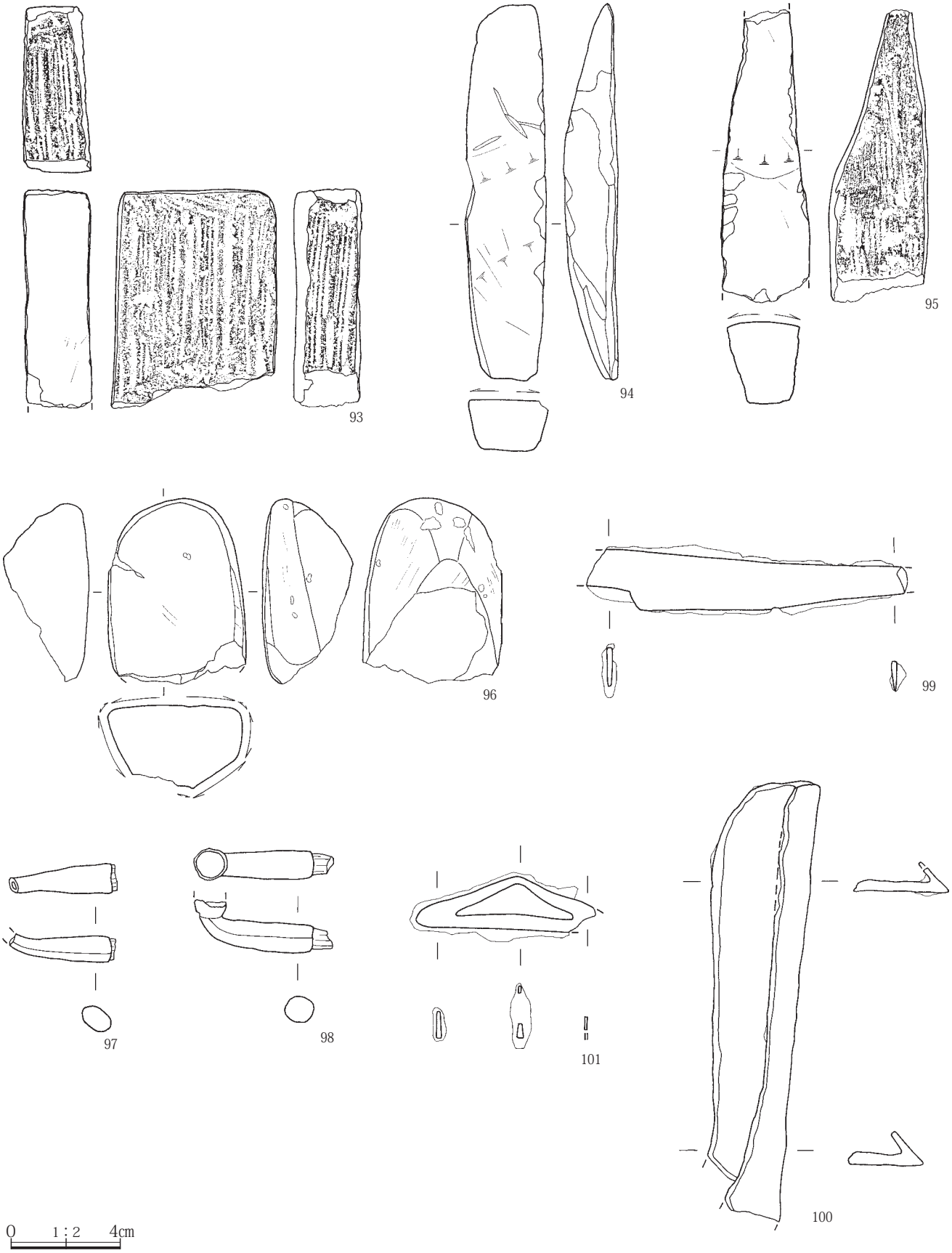
第15図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物（３）



第16図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物（４）



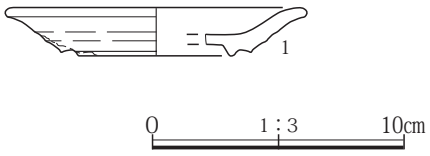
第17図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物（５）



第18図　Ａ２区１面　１号溝出土遺物（６）

（２）遺構外出土遺物（第19図）

Ａ２区１面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、陶磁器１点（皿１）を掲載した。出土遺物は近世の陶器であり、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、土師器（杯類１片、甕類２片）、須恵器（杯類１片、甕類１片）、剥片石器２点（剥片）、石造物１点（板碑片）が出土した。



第19図　Ａ２区１面　遺構外出土遺物

Ⅱ　中・近世〔第２面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上、シルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、Ａ区の２面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地に位置している、竪穴状遺構１軒、溝２条、地下式土坑２基、土坑２基が検出された。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。出土遺物は少量であった。古代から続いている２号溝の底部では、土師器・須恵器に加え灰釉陶器等が含まれているものの、調査面の時期の想定に矛盾はない。

１　Ａ１区の遺構と遺物

遺構や遺物は認められなかった。

２　Ａ２区の遺構と遺物

（１）竪穴状遺構

本調査区における１号竪穴状遺構は、微高地上に立地している。南には２号溝が、周囲には土坑や地下式土坑が位置している。２号溝を中心に、竪穴状遺構、地下式土坑、土坑の遺構が構成されている。

１号竪穴状遺構（第20図　PL.８）

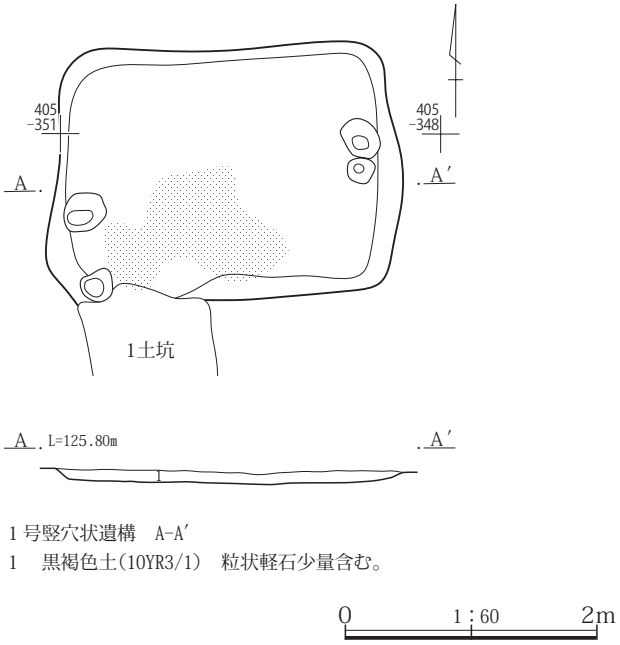
位置：403～406・-348～-351

規模形状：各辺はやや曲線を描く。特に東辺、南辺、西辺は外側に張り出している。東西に長い隅丸長方形を呈している。長軸長2.74m、短軸長1.98mである。　**埋没土**：黒褐色土で埋没している。粒状軽石を少量含む。同一土層で一気に埋没しており、人為的な埋め戻しであると推察される。**壁面**：残存状況は良くない。壁高は0.08～0.10mである。　**長軸方位**：N―89°―E　**床面**：若干の起伏があるものの、およそ平坦である。東がやや高く上がっている。中央から南にかけて硬化面が確認できた。掘り方は認められなかった。

施設：東壁、西壁直下、及び南西隅にピット状の掘り込みを確認するものの、柱穴等の施設であるか明瞭でない。

重複：土層の関係より１号土坑に前出していると考える。

遺物：掲載すべき遺物は認められない。非掲載遺物として、土師器（甕類４片）、灰釉陶器（杯類１片）が出土している。　**所見**：長方形で大型の掘り込みではある。床面の硬化面は観察できるものの、炉等の施設も見られないことから竪穴状遺構とした。南壁は１号土坑にやや壊されている。本遺構の時期は、形状等から中世に位置付けられる。



第20図　Ａ２区２面　１号竪穴状遺構

（２）溝

本調査区の溝は、低地に位置しており、細ヶ沢川の旧流路方向から流れ込んでいる。自然の流路を使用して、底部に石を敷き詰めることにより流路を調節している。水の取り入れ施設の可能性が指摘できる。埋没土にAs-Bを含むことが多い。中世以降の溝であると考えられる。下層にAs-Bを含まない砂礫、シルト層、砂層があり、部分的に、古代から使用されていた痕跡が見て取れる。各々の溝の時期及び時期差等については、明瞭にするための資料は得られていない。

２号溝(第21～24図　PL.６・７・49)

位置：393～401・-343～-356

規模：長さ(13.84)ｍ×幅2.84～4.44m　**残存深度**：0.83～1.75(中世までは0.85)ｍ　**走行方位**：Ｎ―67°―Ｅ

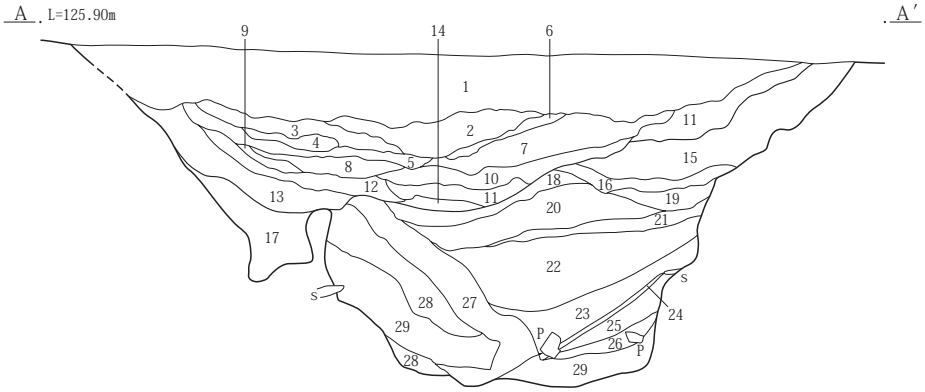
遺物：土師器２点(羽釜４・５)、須恵器１点(甕６)、灰釉陶器２点(椀２・３)、土器１点(灯火台１)、鉄製品１点(７)、古銭１点(８)を図示した。非掲載遺物として、土師器(甕類２片)、灰釉陶器(甕類１片)が出土している。灯火台は出土例が少なく、周辺に特殊な遺構の存在が推定される。　**重複**：１・３・４号溝と重複している。１号溝(１面)は後出しており関連はないと考える。４号溝から２号溝へ流れ込んでいたと推察される。３号溝(３面)については、古代に使用されていた時期の２号溝に流れ込んでいたと考えられる。　**所見**：底部は砂礫、シルト層、砂層で埋没しており、上部の暗褐色土を含んで浸食を受けている。浸食後、As-Bが多量に混入した黒褐色土で埋没している。浸食後は中世に使用された溝であると考えられる。浸食以前の層が観察されるところからは、羽釜が出土しており古代から使用されていたと推察される。やや蛇行しているものの、流れは一定の方向を示している。ほぼ東西に走行しており、溝の東西両端の高低差を見ると、西が高く東が低い。西から東へ傾斜方向に流れる。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底を呈する。幅は若干の広狭はあるものの安定している。残存深度は一部深いところもあるが、およそ一定である。４号溝からの流れを、２号溝の流れとは逆方向に鋭角で受け止めている。底部に礫が多量に確認されており、自然の流路に手を加え、安定した流れを確保していたと推察される。この溝の機能等は、施設規模や底部に石を敷き詰める等の施工の仕方から、区画溝の可能性は低く、用水路として設けられたものであると考えられる。また、３号溝との合流付近の底面には、断面より古代と推察される土層が確認された。古代には、３号溝との合流があったと推察される。本溝の形状及び埋没土等より、おおよそは中世以降に使用された溝であると思われるが、一部には、古代より使用された形跡を残す。

４号溝(第21・23・24図　PL.７・49)

位置：396～405―-352～-357

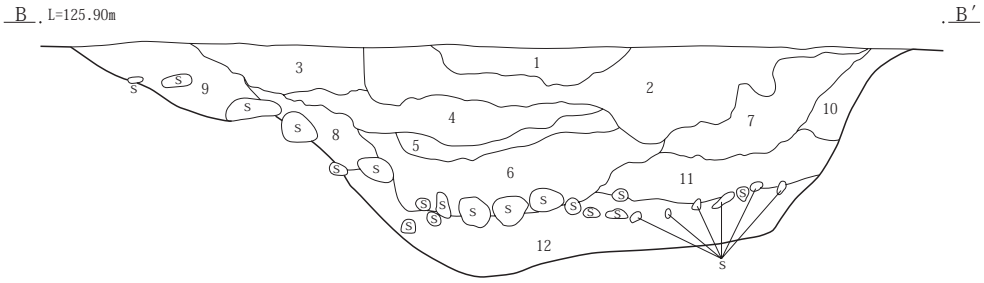
規模：長さ(9.48)ｍ×幅1.94～2.56m　**残存深度**：0.86～0.98m**走行方位**：Ｎ―33°―Ｗ、Ｎ―30°―Ｅ　**遺物**：土器１点(Ⅲ９)を図示した。　**重複**：２号溝、２号土坑と重複している。４号溝から２号溝へ流れ込んでいたと推察される。　**所見**：埋没土は、上部がAs-Bが多量に混入した黒褐色土で、下部は粒状軽石を含むシルト質の暗褐色土及び褐色土である。底部は、砂礫を含むシルト質の灰黄褐色土である。２号溝の上部の埋没土と類似している。溝の主体は、時計回りに湾曲しながら南北に走行しており、傾斜方向に流れる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南東が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底を呈する。幅は若干の広狭はある。残存深度は一部深いところがある。中央の湾曲部を境に、北部に比べて南部は幅が広がっている。４号溝からの流れは、２号溝の流れとは逆方向に鋭角で交わっている。２号溝同様、底部には礫が多量に敷き詰められており、自然の流路に手を加え、安定した流れを確保していたと推察される。この溝の機能等は、２号溝同様、施設規模や底部に石を敷き詰める等の施工の仕方から、区画溝の可能性は低く、用水路として設けられたものであると考えられる。溝の形状及び埋没土等より、中世以降の溝であると考える。

第21図　Ａ２区２面　２・４号溝



２号溝　A-A′

1　黒褐色土(10YR3/1)　As-B極多量、粒状軽石少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-B極多量、粒状軽石含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　As-B多量、細粒状軽石若干含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)とにぶい褐色土(7.5YR5/4)砂質塊状の混土。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-B多量､細粒状軽石若干含む。（３層に近い質）
6　黒褐色土(10YR3/1)　As-B多量、塊状As-C混入。
7　黒褐色土(10YR3/1)　As-B含む砂混入。(砂質土)
8　黒褐色土(10YR3/1)　As-B少量含む砂混入。(砂質土)
9　黒褐色土(10YR3/1)とにぶい褐色土(7.5YR5/4)砂質塊状の混土。４層より暗い。
10　砂層　砂の堆積層離により分層。
11　砂層　砂の堆積層離により分層。
12　黒褐色土(10YR3/1)　砂質土。As-B、砂多量、粒状炭化物含む。
13　黒褐色土(10YR3/2)　砂質土。As-B、にぶい黄褐色(7.5YR5/4)砂質塊状土含む。
14　細砂層
15　暗褐色土(10YR3/3)　粗粒軽石少量含む。シルト質土。
16　砂礫
17　砂礫(水流により28層の下位がオーバーハング状態になり、その際生じた空間に砂礫が流入したのか)
18　シルト層　シルト層の堆積層離により分層。
19　シルト層　シルト層の堆積層離により分層。
20　砂層
21　シルト層　シルト層の堆積層離により分層。
22～26　砂層　砂の堆積層離により分層。24層までは斜位に流入し、23～22層はレンズ状に、21・20層は平らに堆積。
27　黒褐色土(7.5YR3/1)　シルト質土。夾雑物ない。
28　褐灰色土(7.5YR5/1)　シルト質土。夾雑物ない。
29　径１㎜前後の小礫層

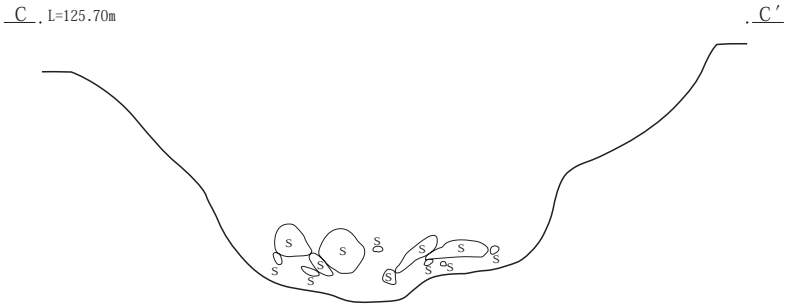


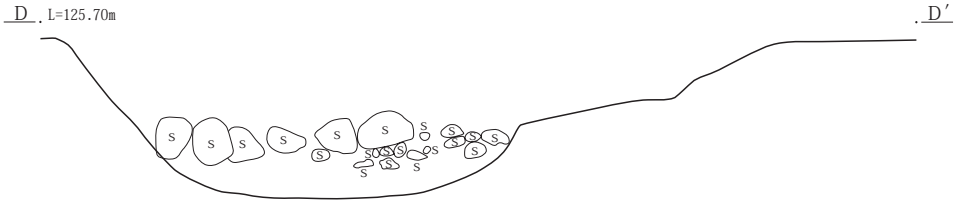
２号溝　B-B′

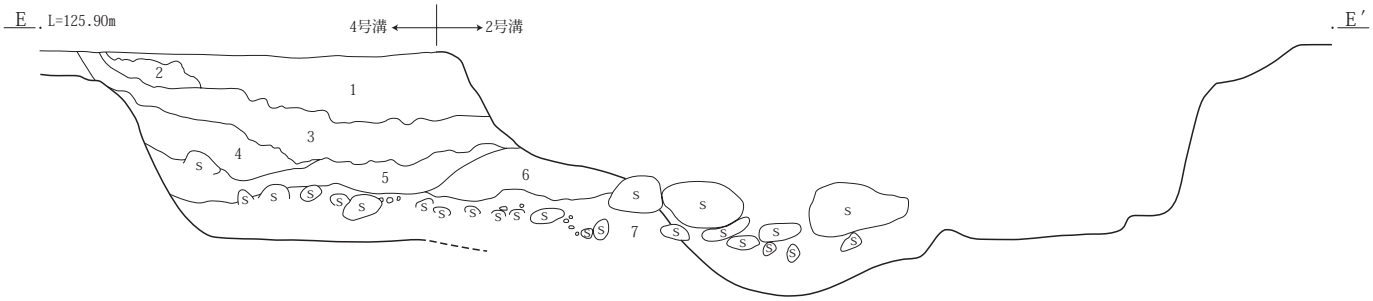
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-B極多量、粗大塊状暗褐色土(10YR3/3)含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　As-B極多量、細粒状軽石少量含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-B多量、塊状にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-B多量、塊状にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)含む。砂(河砂状)混入。
5　黒褐色土(10YR3/2)　砂(河砂状)主体。
6　砂とシルトのラミナー
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　粒状軽石含む。シルト質。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　地山のにぶい黄褐色土(7.5YR7/3)が濁った状態。シルト質。
9　黒褐色土(10YR3/2)　As-B多量、粗粒・小塊状にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)シルト含む。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　粒状軽石、にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)塊状含む。シルト質。
11　灰黄褐色土(10YR4/2)　粒状軽石微量、細礫含む。
12　砂礫層

0　1:40　1m

第22図　Ａ２区２面　２号溝断面

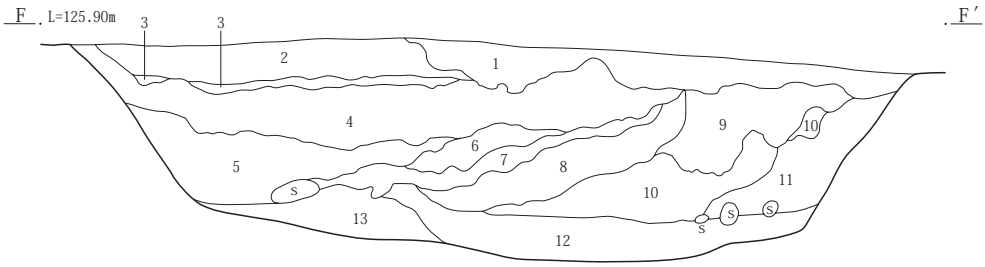






２・４号溝　E-E′

1　黒褐色土(10YR3/2)　As-B主体。塊状のAs-B多量含む。(追分火砕流など塊状化している)
2　黒褐色土(10YR3/2)　As-B混土。
3　黒褐色土(10YR2/2)　粗粒軽石若干、粒状軽石含む。シルト質。
4　暗褐色土(10YR3/3)　粒状軽石含む。シルト質。
5　暗褐色土(10YR3/3)　粒状軽石微量含む。シルト質。
6　褐色土(10YR4/4)　塊状のにぶい黄褐色土(7.5YR3/2)若干、粒状軽石極微量含む。
7　灰黄褐色土(10YR6/2)　砂礫含む。シルト質。

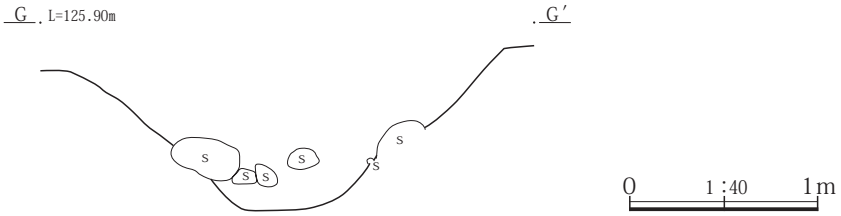


２号溝　F-F′

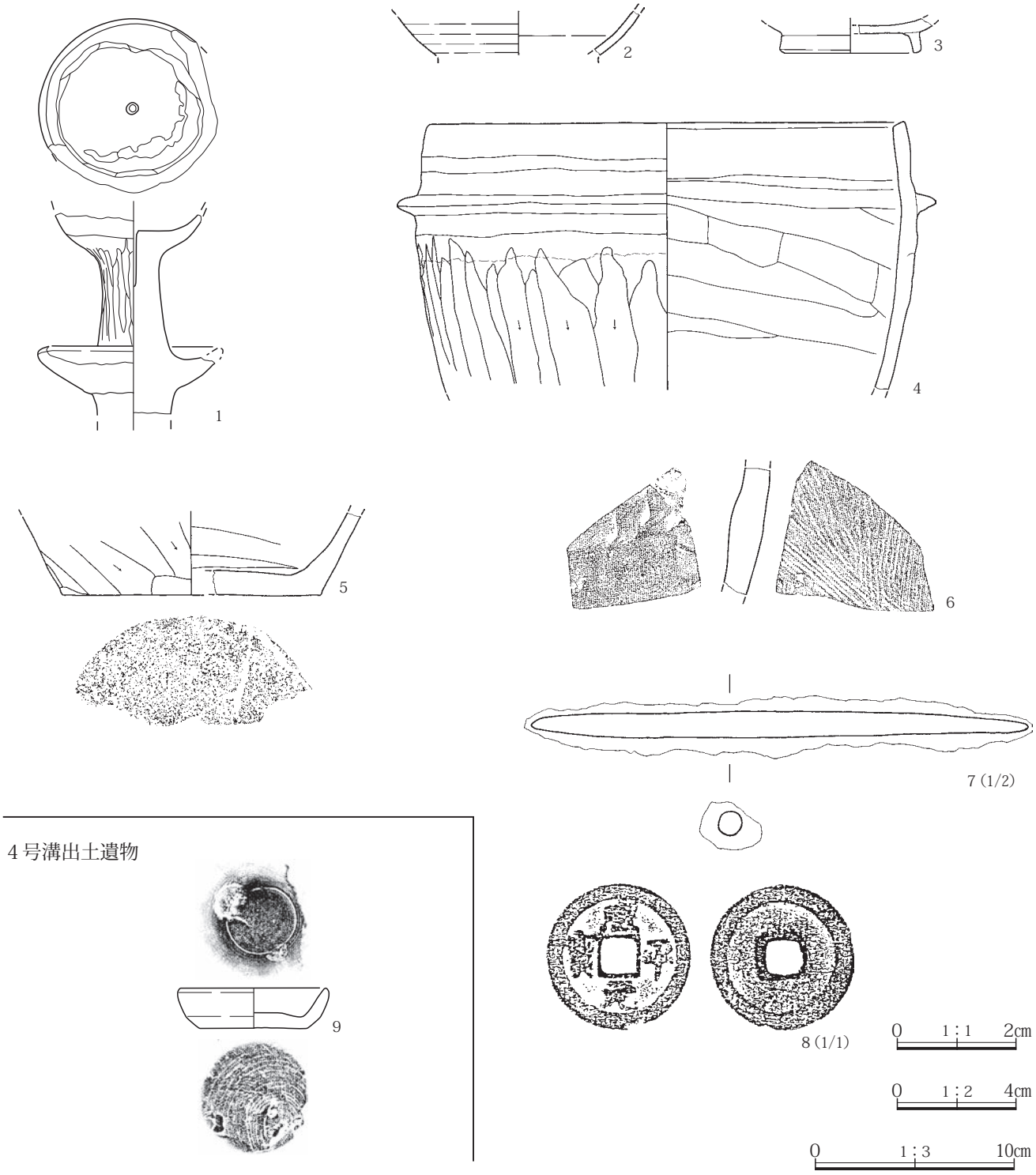
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　As-B多量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　As-B多量、粒状軽石少量含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)　As-B混入。硬質。路面上の硬化層。
4　黒褐色土(10YR2/2)　小塊状褐灰色土(10YR4/1)、As-B混入。
5　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土(7.5YR3/2)小塊、礫含む。
6　黒褐色土(10YR2/2)　As-B極多量含む。
7　As-B純層
8　黒褐色土(10YR3/2)　粒状軽石含む。シルト質。
9　暗褐色土(10YR3/3)　粒状軽石少量含む。シルト質。
10　暗褐色土(10YR3/4)　地山のにぶい黄褐色土(7.5YR7/2)の二次堆積。濁った発色。シルト層。
11　灰黄褐色土(10YR4/2)　地山のにぶい黄褐色土(7.5YR7/2)ブロック混入。シルト層。
12　砂礫層
13　暗褐色土(10YR3/3)　砂含む。シルト質層。

0　1:40　1m

第23図　Ａ２区２面　２・４号溝断面



２号溝出土遺物



４号溝出土遺物

第24図　Ａ２区２面　４号溝断面、２・４号溝出土遺物

（３）土坑

Ａ区の土坑（第25～28図　PL. ８・49）

概要：Ａ２区では２基の地下式土坑と２基の土坑を調査した。地下式土坑は、溝との関係を推察させるように、溝の両岸に位置している。また、土坑内部に出入りする際の控えと推測される施設が観察されている。地下式土坑、土坑ともに、形態は、大きく２種類に分類できる。一つは、平面形が隅丸長方形であり断面形が逆台形を呈し、底面が平坦なものである。もう一つは、平面形が楕円形であり断面形がやはり逆台形を呈し、底面が平底のものである。これらの地下式土坑、及び土坑は、近接する竪穴状遺構や溝と主軸方位が一致または直交している場合が多い。

所見：埋没土は粒状軽石、粗粒状軽石を含む黒褐色土及び暗褐色土であることから、溝や竪穴状遺構等、周囲の遺構と時期差が少ないと考えられる。ただし、１・２号土坑が、周囲の遺構に関連した施設であるか明瞭でない。

１号地下式土坑（第25・28図　PL. ８・49）

位置：395・-345

形状：楕円形を２つ組み合わせたものである。主体部・従属部共に、平底で断面形は逆台形を呈する。

規模：全体の長さ2.34m幅1.78m（主体部）、幅1.03m（従属部）

深度：0.98m（主体部）、0.92m（従属部）

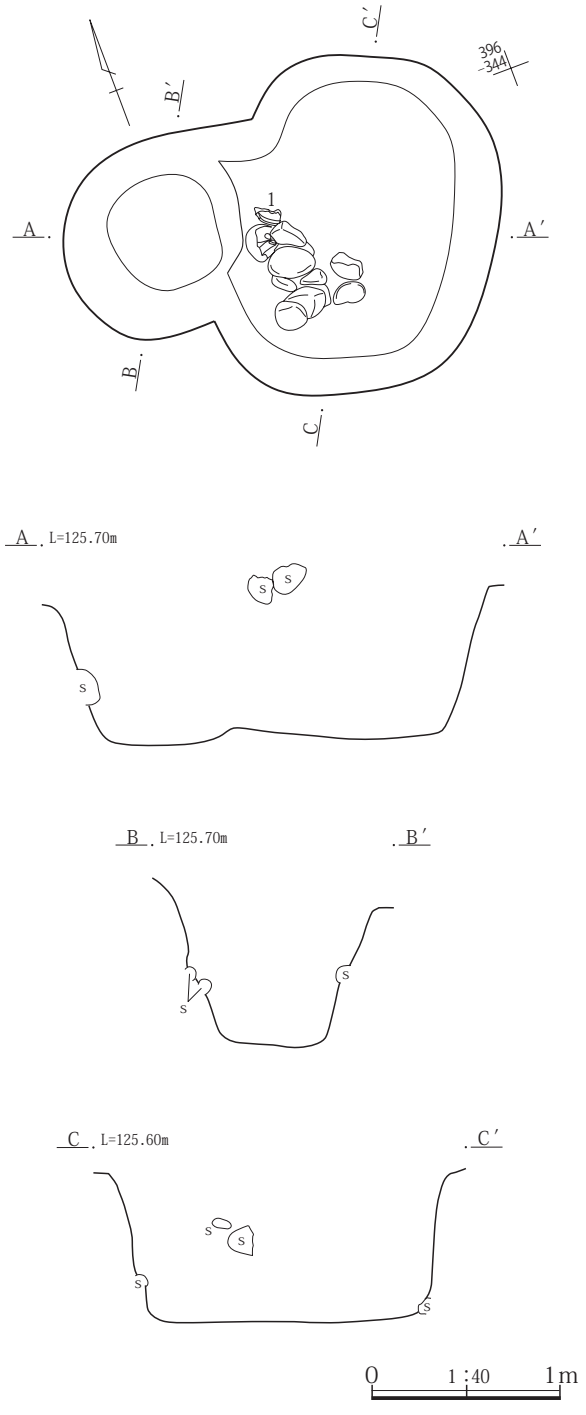
主軸方位：N―57°―W

埋没土層：不明である。主体部の土層の底部、中層部、上部の各々に礫が観察された。従属部は中層部に礫が観察された。

重複：なし

遺物：石製品１点（石臼（上）（１））を掲載した。非掲載遺物として、石製品１点（石臼）が出土した。

所見：本地下式土坑は、主体部と従属部の２つの部分に分かれる。使用目的は明確に確認できなかったが、主体部を貯蔵施設として、従属部を主体部の入口の導入部として、使用した可能性を指摘する。本地下式土坑から２号溝にかけて掘り込み及び平坦な部分を溝際に確認できる。作業時における溝との関連を推察させる。確認面及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。その他、近接する１号竪穴状遺構、１・２号土坑、４号溝との関連が想定されるが、明瞭な資料は得られていない。時期は矛盾しないと考える。ただし、２号地下式土坑については、２号溝を挟んで対象的に位置しているため、２号溝とともに関連が推察される。



第25図　Ａ２区２面　１号地下式土坑

２号地下式土坑(第26・28図　PL. ８・49)

位置：402・-345

形状：隅丸長方形を２つ組み合わせたものである。主体部、従属部共に、平底で断面形は逆台形を呈する。

規模：全体の長さ2.68m幅2.88m(主体部)、幅1.34m(従属部)

深度：0.71m(主体部)、0.61m(従属部)

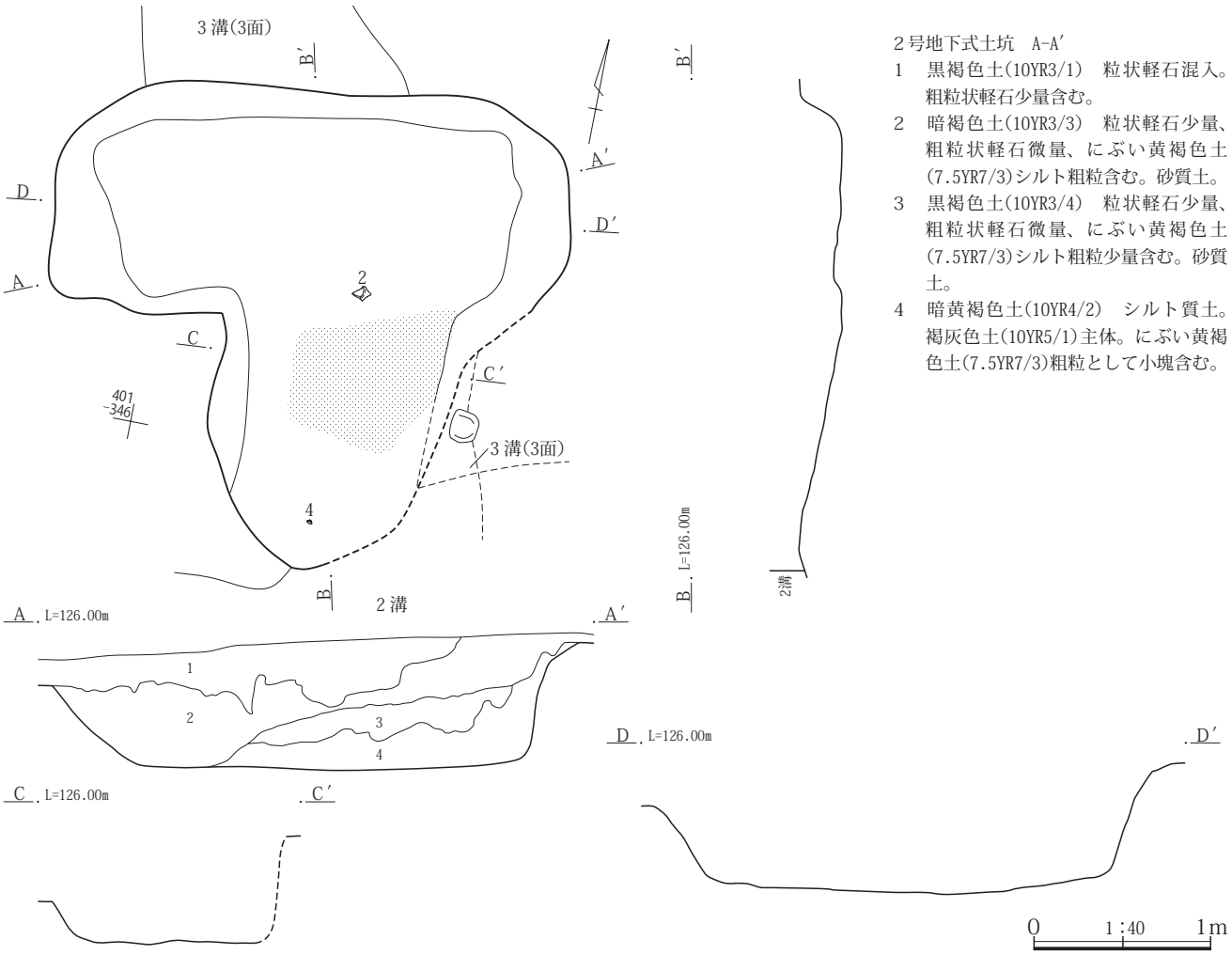
主軸方位：N―82°―E

埋没土層：主体部の床面付近は、シルト質の暗黄褐色土で埋没している。その後は、粒状軽石を含んだ黒褐色土と暗褐色土が交互に埋没している。従属部の入口付近には硬化面が観察される。

重複：３号溝(３面)に後出している。

遺物：土器１点(皿３)、陶磁器１点(皿２)、銅製品１点(４)を図示した。銅製品は吊り金具である。足金物や帯取り金具ともいい、太刀(刀剣)の鞘を構成する一部である。佩用のため鞘の前半の位置に施した固定設備である。前後に２鐶あるのを原則としており、革緒か紐を持って帯から垂下した。吊り金具は古代より始まるとされている。本遺物は、それらより新しいと考えられるものの、明確な時期は不明である。

所見：本地下式土坑は、主体部と従属部の２つの部分に分かれる。使用目的は明確に確認できなかったが、主体部を貯蔵施設として、硬化面が観察されることから従属部を主体部入口の導入部として使用した可能性を指摘する。従属部は、２号溝に接しており、作業する上で、２号溝との関連が推察できる。確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。近接する１号竪穴状遺構や１・２号土坑、４号溝との関連が想定されるが、明瞭な資料は得られていない。時期は矛盾しないと考える。ただし、１号地下式土坑については、２号溝を挟んで対象的に位置しているため、２号溝とともに関連が推察される。



２号地下式土坑　A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　粒状軽石混入。粗粒状軽石少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　粒状軽石少量、粗粒状軽石微量、にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)シルト粗粒含む。砂質土。
3　黒褐色土(10YR3/4)　粒状軽石少量、粗粒状軽石微量、にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)シルト粗粒少量含む。砂質土。
4　暗黄褐色土(10YR4/2)　シルト質土。褐灰色土(10YR5/1)主体。にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)粗粒として小塊含む。

第26図　Ａ２区２面　２号地下式土坑

１号土坑(第27図　PL.８)

位置：403・-350

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.67×0.96m　**深度**：0.46m

主軸方位：N―６°―W

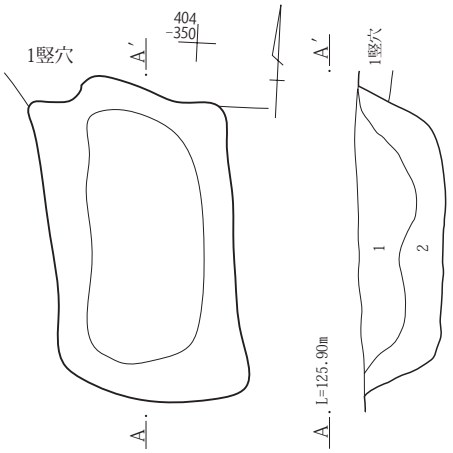
埋没土層：黒褐色土で埋没している。粒状軽石を含むが、上部の土層は、１号竪穴状遺構の土層に類似する。

重複：１号竪穴状遺構に後出する。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。重複する竪穴状遺構及び近接する地下式土坑、溝とは時期が矛盾せず、関連が想定されるものの、明瞭にするための資料は得られていない。

１号土坑



１号土坑　A-A′
1　黒褐色土(10YR3/1)　粒状軽石含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　粒状軽石少量含む。

２号土坑(第27図　PL.８)

位置：403・-356

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(2.12)×1.35m　**深度**：0.43m

主軸方位：N―78°―E

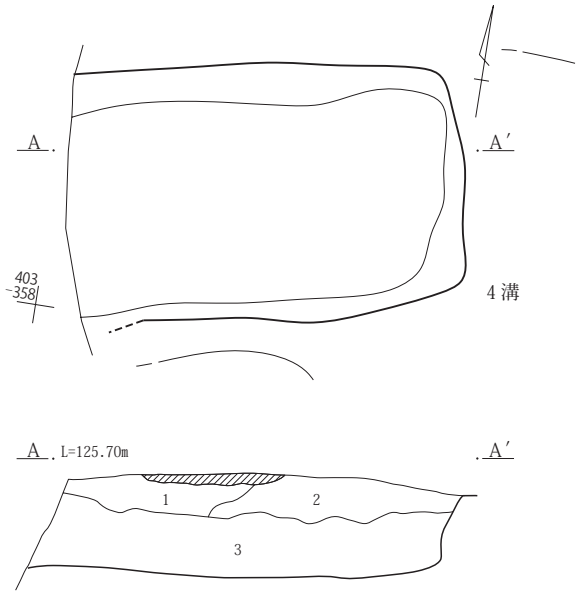
埋没土層：黒褐色土で埋没している。下部は小塊状である。上部は、ロームブロックと粒状軽石を含む。西部を旧流路に浸食されている。

重複：４号溝と重複する。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以降の可能性を有すると思われる。近接する竪穴状遺構及び土坑、地下式土坑、溝とは時期が矛盾せず、関連が想定されるものの、明瞭にするための資料は得られていない。

２号土坑



２号土坑　A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　小塊少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粒状軽石微量含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　小塊含む。

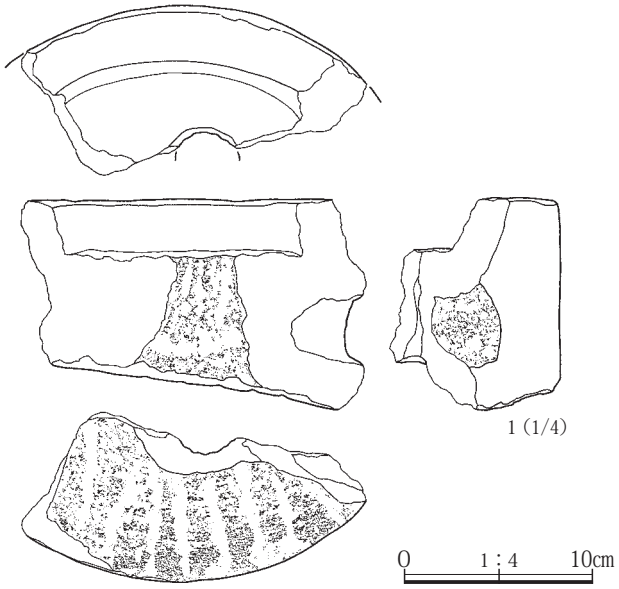
0　1:40　1m

第27図　Ａ２区２面　１・２号土坑

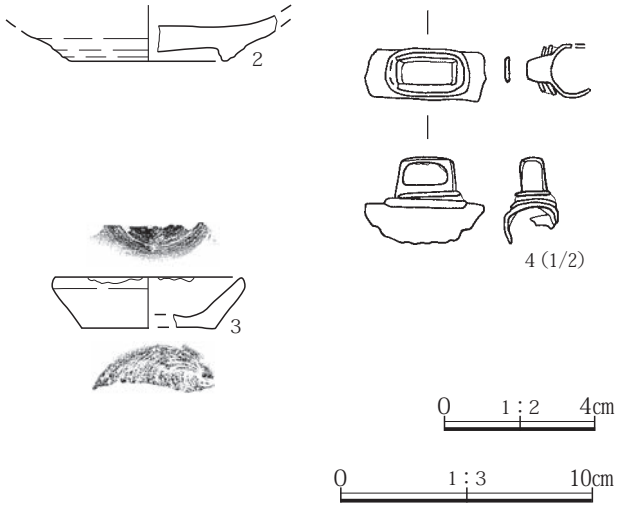
(４)遺構外出土遺物

Ａ２区２面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物は確認できなかった。

１号地下式土坑



２号地下式土坑



第28図　Ａ２区２面　１・２号地下式土坑出土遺物

Ⅲ　古代〔第３面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層の上、細粒軽石を含む暗褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、Ａ区の３面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地に位置している、竪穴住居１軒、溝１条が検出された。遺構面の大半は細粒軽石を含む暗褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響は受けていないと考えられる。遺物は豊富ではないが、土師器、須恵器が出土しており調査面の時期の想定に矛盾はない。

１　Ａ１区の遺構と遺物

人の足跡が検出された。時期については、古代に比定する明確な資料がないが、土層より本項に位置づけた。（写真図版PL. ５－４・５参照）

２　Ａ２区の遺構と遺物

（１）住居

本調査区における住居は、細ヶ沢川の旧流路東の微高地に立地している。確認された住居は、旧流路に対して微高地の縁辺部にあたると考えられる。調査区の北東方向へ集落が展開していた可能性が推察できる。

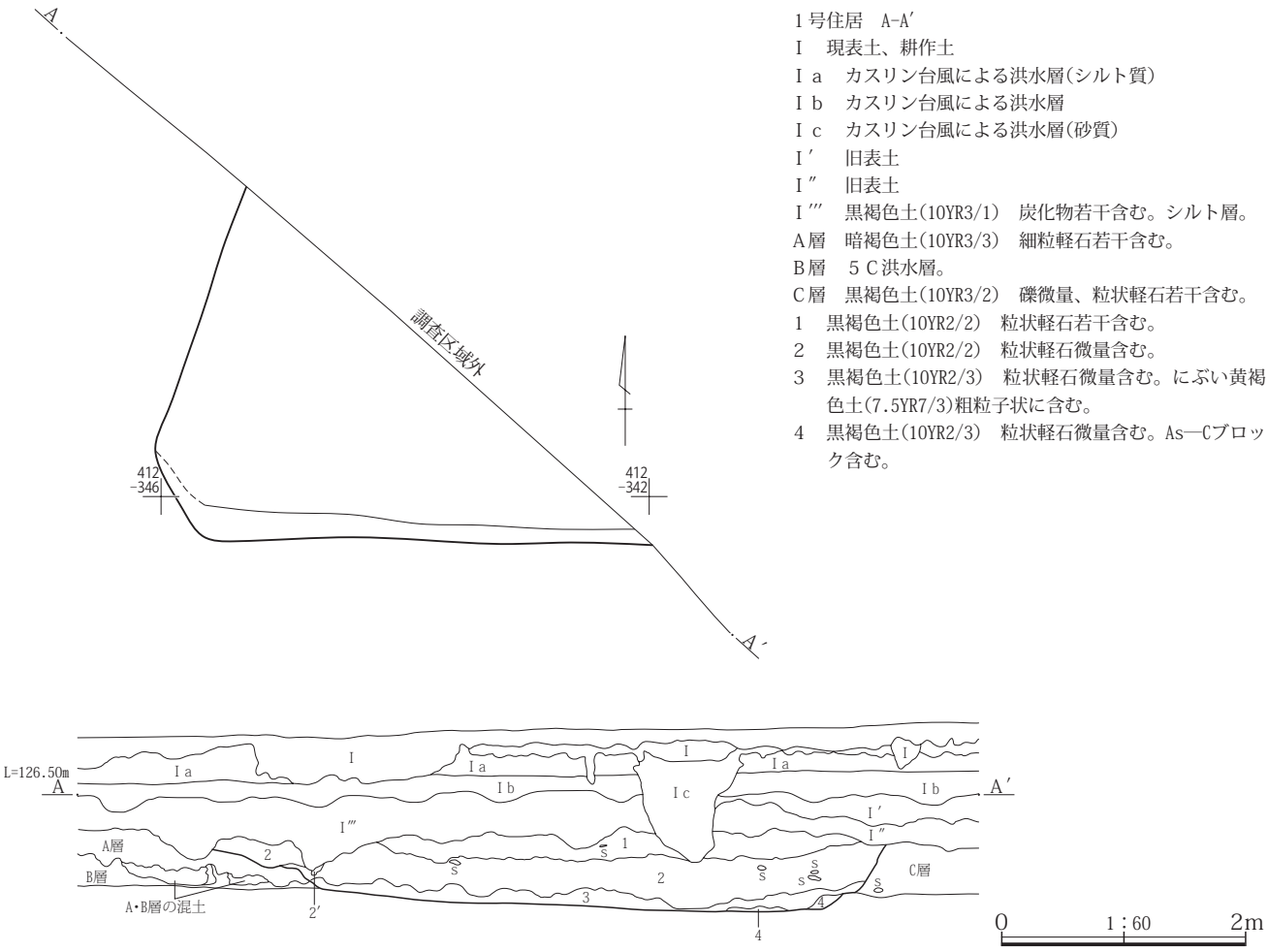
１号住居（第29図　PL. ９）

調査区東部の微高地に立地している。住居中央部から北東部にかけて調査区域外にあるため、全容が明らかでない。残存状態は良好でない。

位置：411～415・-342～-346にある。

規模形状：東西長：3.92m以上　南北長：2.58m以上である。西辺、南辺共に直線的で、南西隅でやや鋭角に交わっている。方形を呈すると推察されるが、明瞭でない。

埋没土・壁：黒褐色土で埋没している。全体的に粒状軽石を僅かに含む。床面近くにはAs-Cブロックを、中位にはローム粗粒子を含む。壁際から流れ込み、レンズ状に重なっている。自然堆積であると思われる。壁高0.55mである。　**方位**：N―109°―E　**面積**：(4.84)㎡　**床面**：北西から南東に傾斜している。確認される範囲で北西部が、12cm程高い。中央付近が若干レンズ状に落ち込んでいる。床面は起伏がなく滑らかである。　**掘り方**：確認されない。　**壁溝**：認められなかった。　**ピット（柱穴）**：認められなかった。　**貯蔵穴**：認められなかった。　**床下土坑**：認められなかった。　**カマド**：認められなかった。調査区域外に位置すると推察される。　**重複遺構**：認められない。　**遺物**：認められない。　**所見（帰属時期）**：確認面、住居の形状から、平安時代の住居であると推察するが、時代を明確に比定するための資料が得られなかった。



１号住居　A-A′
Ⅰ　現表土、耕作土
Ⅰａ　カスリン台風による洪水層(シルト質)
Ⅰｂ　カスリン台風による洪水層
Ⅰｃ　カスリン台風による洪水層(砂質)
Ⅰ′　旧表土
Ⅰ″　旧表土
Ⅰ‴　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物若干含む。シルト層。
Ａ層　暗褐色土(10YR3/3)　細粒軽石若干含む。
Ｂ層　５Ｃ洪水層。
Ｃ層　黒褐色土(10YR3/2)　礫微量、粒状軽石若干含む。
１　黒褐色土(10YR2/2)　粒状軽石若干含む。
２　黒褐色土(10YR2/2)　粒状軽石微量含む。
３　黒褐色土(10YR2/3)　粒状軽石微量含む。にぶい黄褐色土(7.5YR7/3)粗粒子状に含む。
４　黒褐色土(10YR2/3)　粒状軽石微量含む。As―Cブロック含む。

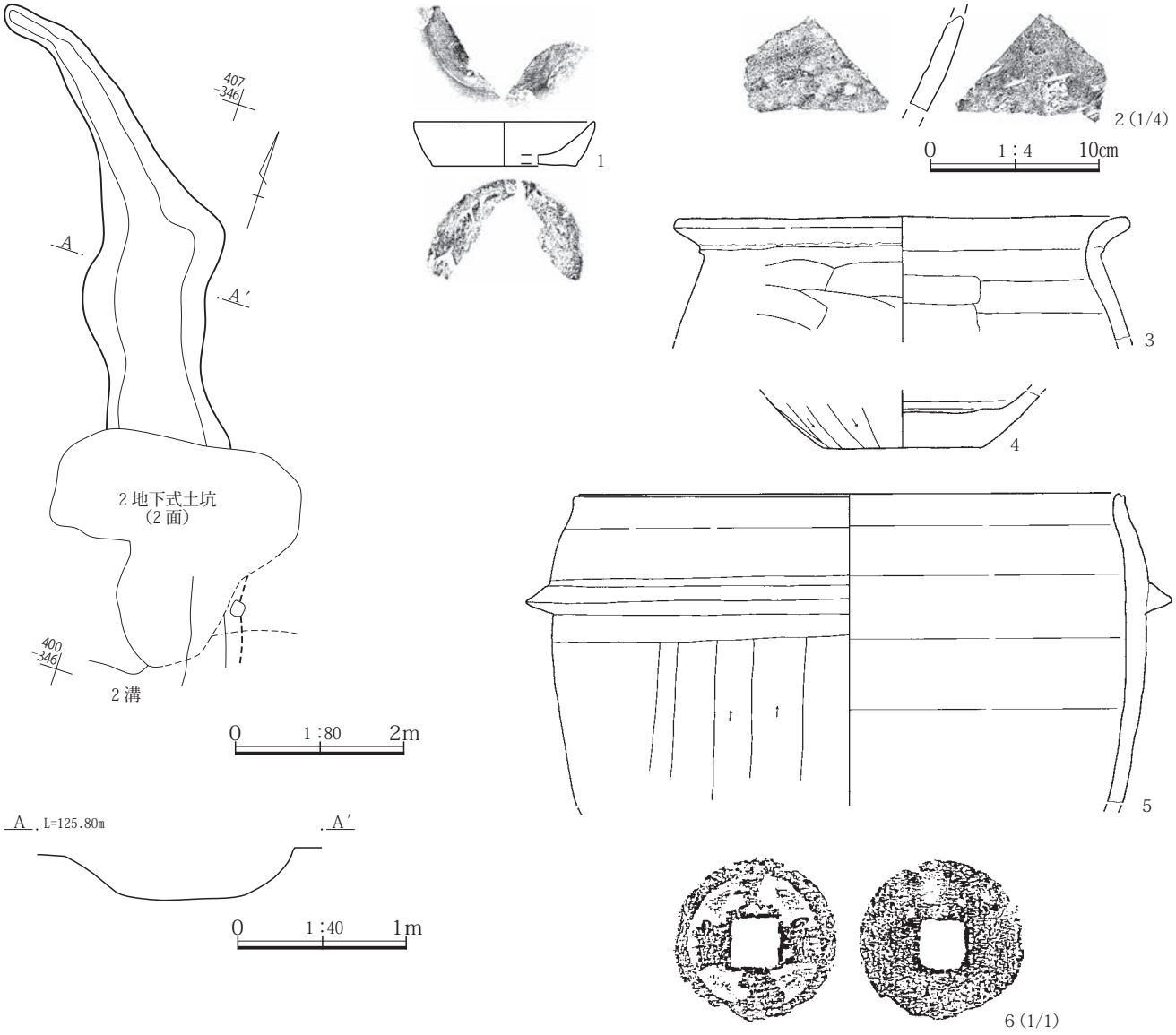
第29図　Ａ２区３面　１号住居

(２)溝

本調査区の溝は、傾斜方向に対して、垂直に位置する。削平が進んでおり、全容が明瞭でない。自然流路を生かして利用されていたと推察される。埋没土にAs-Bを含んでおり、古代以降の溝であると考えられる。溝の時期及び同調査区の他の溝との時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

３号溝(第30図　PL. ９・49)

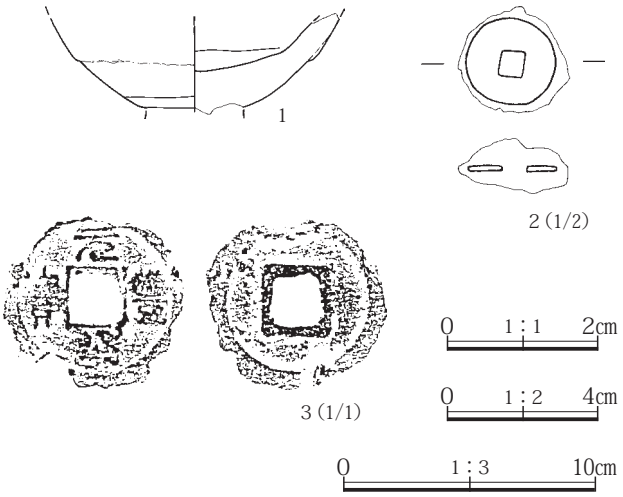
位置：401～407・-344～-349　**規模**：長さ(8.50)ｍ×幅0.30～1.42ｍ　**残存深度**：0.32ｍ　**走行方位**：Ｎ―48°―W、Ｎ―27°―W　**遺物**：土師器２点(甕(３・４))、須恵器１点(羽釜(５))、土器１点(皿(１))、陶磁器１点(甕１点(２))、古銭１点(６)を図示した。非掲載遺物として、土師器(甕類10片、杯類９片)、須恵器(甕類３片、杯類２片)が出土している。　**重複**：２号地下式土坑(２面)に前出しており、２号溝(２面)と重複している。３号溝が古代の２号溝に流れ込んでいる可能性が高い。３号溝は、古代の２号溝より新しく、２面の２号溝より古いと考えられる。　**所見**：埋没土は不明である。調査区中央から傾斜方向の南南東に流れ出し、古代に使用されていた部分の２号溝に合流すると推察される。南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は逆台形で、底面は平らである。幅は、流れ出しは狭く、南下するに従って広くなる。残存深度は、２号溝に近づくに従って深くなる。２号溝に合流すると思われるものの、本溝に平行、直交する他の溝は存在せず、区画溝の可能性は低い。４号溝(２面)と同様に時計回りにやや湾曲して２号溝に合流する傾向にある。この溝の機能等は、４号溝(２面)同様、区画溝の可能性は低く、用水路として設けられたものであると考えられる。溝の形状及び出土遺物より、10世紀前半の溝であると思われる。



第30図　Ａ２区３面　３号溝、出土遺物

（３）遺構外出土遺物（第31図　PL.49）

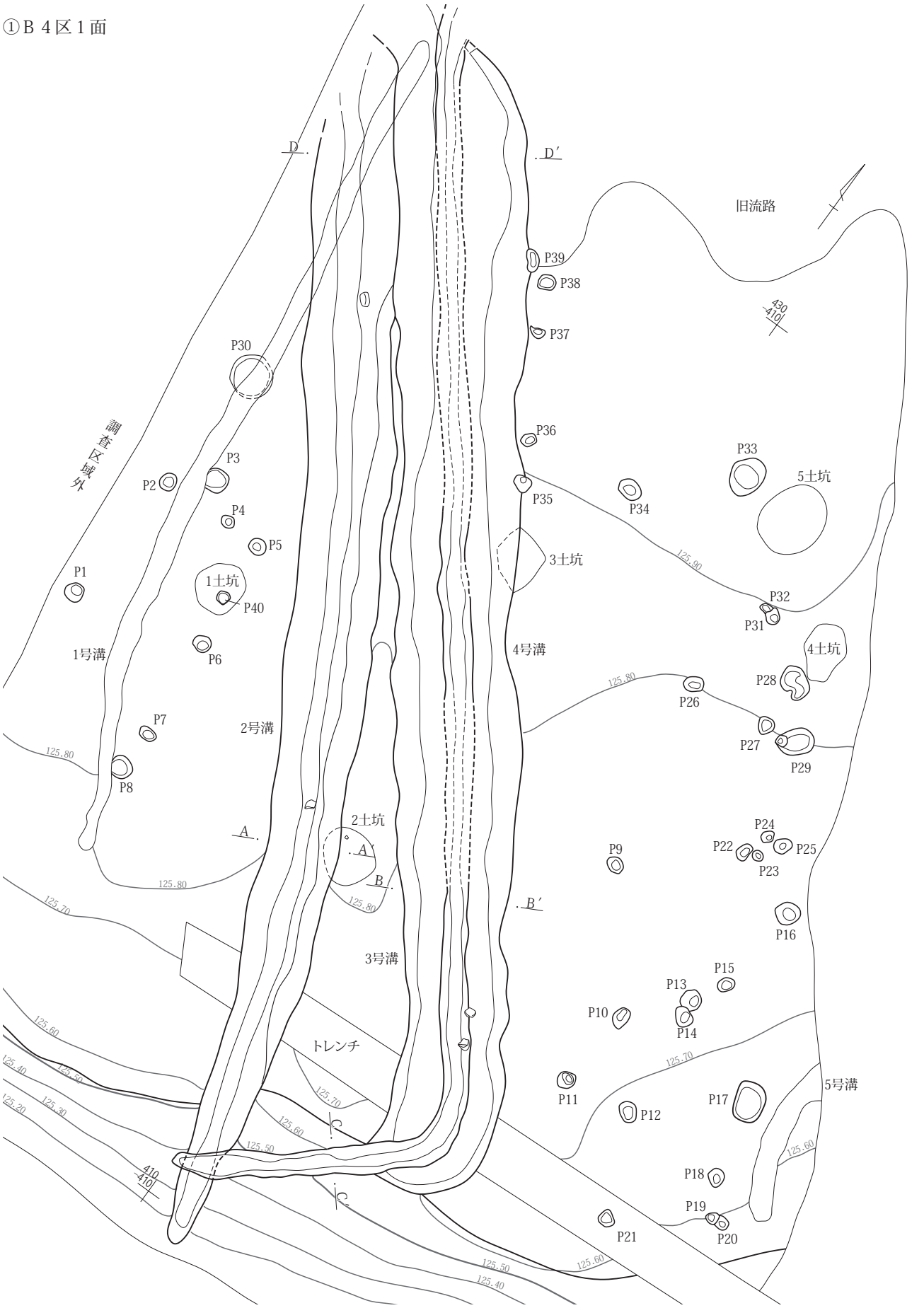
Ａ２区３面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、土師器１点（高杯（１））、古銭２点（２・３）を掲載した。ただし、（２）については、２面から３面にかけての出土であった。出土遺物は主に10世紀代の土器であり、本調査面の時期におおむね矛盾しない。



第31図　Ａ２区３面　遺構外出土遺物

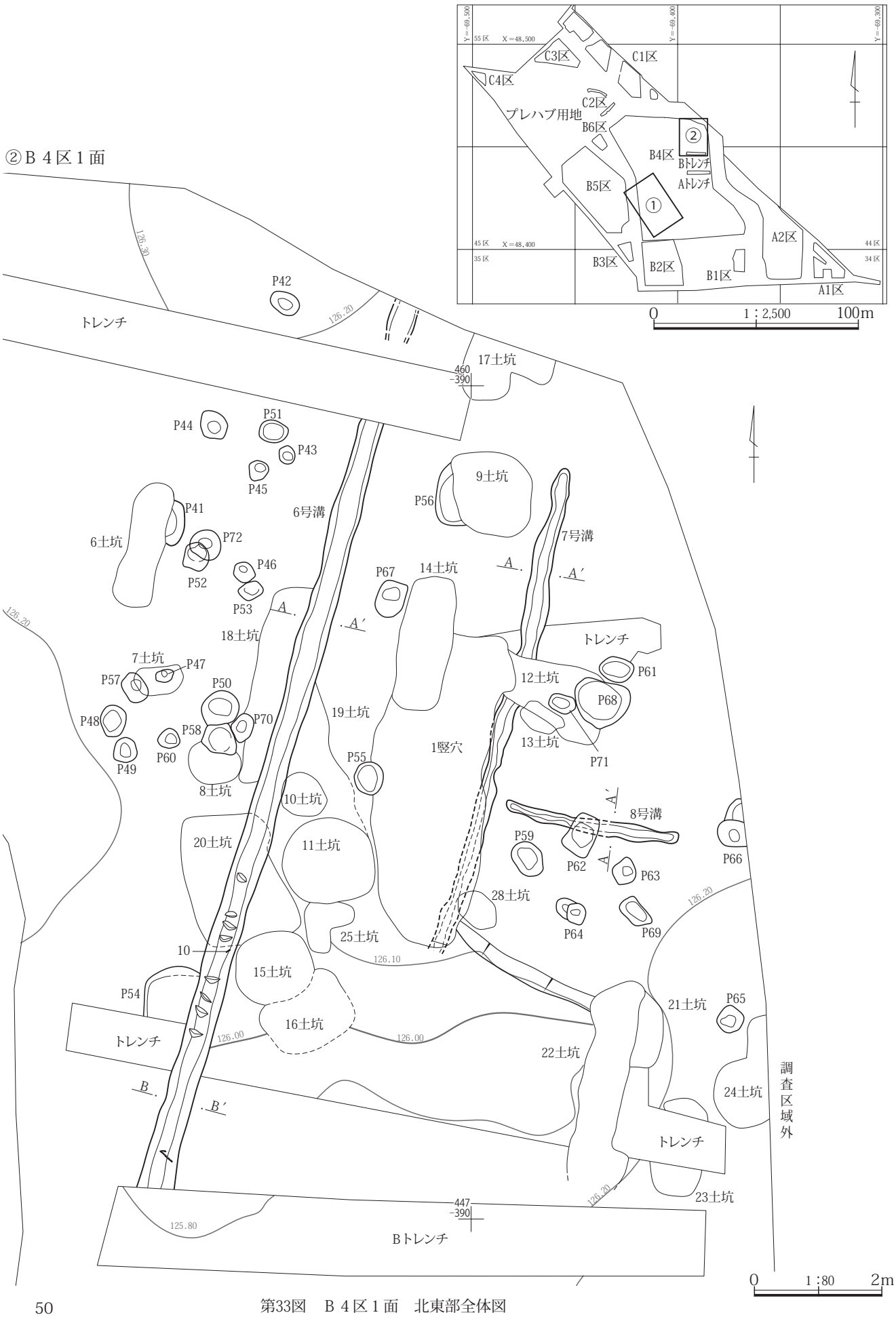
参考文献
前橋市史編さん委員会1973『前橋市史　第２巻』
群馬県史編さん委員会1991『群馬県史』通史編２
群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編３
末永雅雄1981『日本上代の武器』

①Ｂ４区１面



第32図　Ｂ４区１面　南西部全体図

0　1：100　5m



第33図　Ｂ４区１面　北東部全体図

第３節　Ｂ・Ｃ区の遺構と遺物

Ⅰ　近世〔第１面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上、シルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、Ｂ・Ｃ区の１面として調査を行った。遺構は、細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している、竪穴状遺構１軒、溝８条、土坑26基、ピット78基が検出された。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。遺構の検出状況から、微高地に建物が位置し、特に旧流路の右岸には周囲に堀が巡っている様相が想定される。遺物は少なく一部下層からの流入があるが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

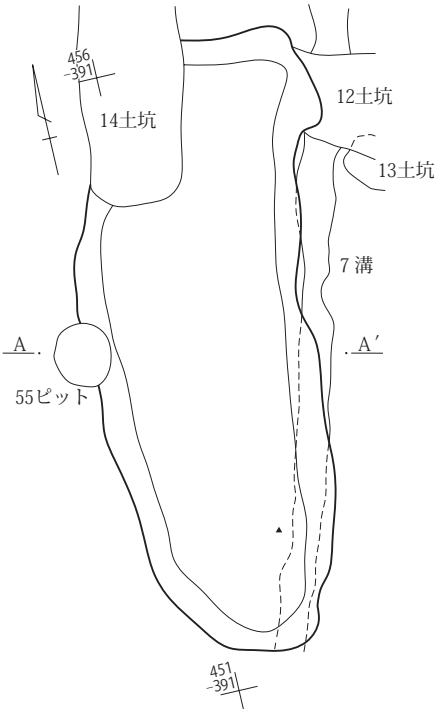
１　Ｂ４区の遺構と遺物

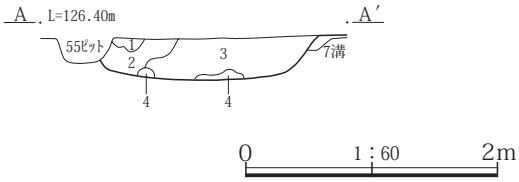
（１）竪穴状遺構

本調査区における竪穴状遺構は、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地に位置している。本遺構は、６・７号溝に平行に走行している。周囲には、土坑やピットが確認され、屋敷跡と推察されるものの、復元ができるまでの資料が見つからなかった。本竪穴状遺構は屋敷跡に関連する施設の可能性がある。

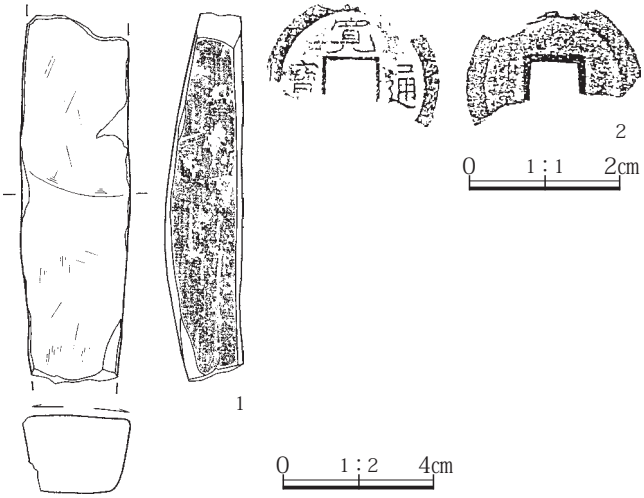
１号竪穴状遺構（第34図　PL.10・50）

位置：451～456・-389～-391　**規模形状**：南北に長い隅丸長方形を呈している。北辺・東辺はほぼ直線であり、西辺は湾曲している。南辺は西辺が湾曲しているため短い。長軸長4.86m、短軸長1.74mである。　**埋没土・壁**：おおよそ褐色土で埋没している。その後、西壁際に暗褐色土、黒褐色土が埋没する。白色粒子、黄褐色・黄橙色砂粒を含んでいる。主体の褐色土は一気に埋没しており、人為的な埋め戻しであると思われる。壁高は0.35mである。　**長軸方位**：N―11°―E　**床面**：短軸方向はレンズ状に掘り下げられている。表面は滑らかである。中央が低く、西壁、東壁際が高い。掘り方は認められなかった。　**施設**：確認できない。　**重複**：14号土坑、55号ピットに前出しており、７号溝、12号土坑と重複している。





１号竪穴状遺構　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/3)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。
3　褐色土(10YR4/4)　白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。



第34図　Ｂ４区１面　１号竪穴状遺構、出土遺物

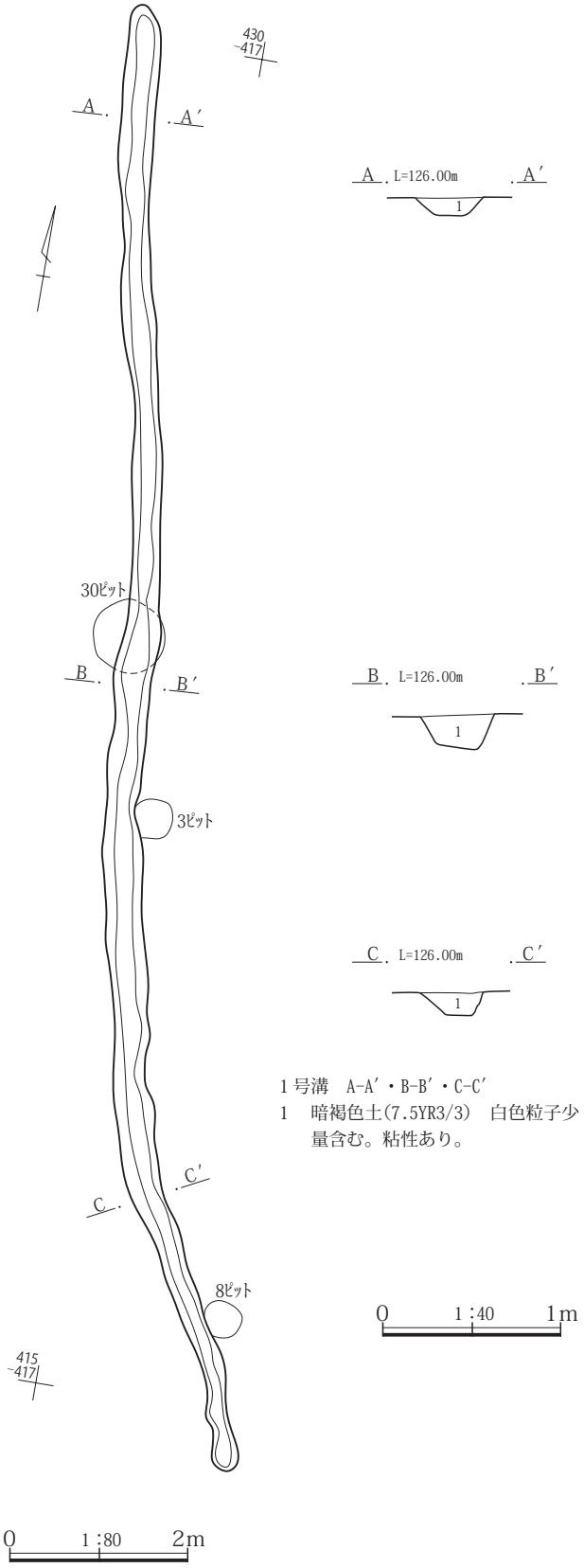
遺物：石製品１点(砥石１)、古銭１点(２)を図示した。非掲載遺物として、剥片石器１点(打製石斧)が出土している。　**所見**：南北に長い隅丸の方形で大型の掘り込みではあるが、床面の硬化はなく、炉等の施設も見られないことから竪穴状遺構とした。本竪穴状遺構の使用目的は明確にできなかったが、微高地に位置する建物に由来するものであると推察する。時期は、形状及び埋没土等から中・近世以降に位置付けられる。

(２)溝

本調査区のほぼ中央に細ヶ沢川の旧流路が幾筋も見られ、その東西の両端に微高地が確認される。溝はその微高地上に位置している。流路の左岸の微高地には、ほぼ平行に区画溝の様相を呈している溝が確認されている。流路の右岸には、屋敷を囲むと推察される形状の溝が認められた。埋没土にAs-Bを含むことが多く、Hr-FPを僅かに含むこともある。中・近世以降の溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

１号溝(第35図　PL.11・12)

位置：414～431・-415～-419　**規模**：長さ(16.56)m×幅0.22～0.44m　**残存深度**：0.10～0.19m　**走行方位**：N―９°―W　**遺物**：認められない。　**重複**：２・３・４号溝、３・８号ピットに後出している。30号ピットと重複している。　**所見**：暗褐色土で埋没していた。白色粒子を含み、粘性がある。南北方向に走行しており、傾斜方向に流れる。ほぼ直線を呈しており、南端がやや東側に曲がって消滅しており、その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は逆台形である。幅は中央部がやや広いが全体としては一定である。残存深度はやや浅い。本溝と、２・３・４号溝との関連の可能性は低いと思われる。Ｂ５区２面の19号溝は、本溝にほぼ直交すると思われるが、関連は明瞭でない。この溝の機能等は、区画溝の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、近世以降の溝であると推察される。



第35図　Ｂ４区１面　１号溝

２号溝(第32・36・37図　PL.11・12・50)

位置：409～430・-408～-419　**規模**：長さ(22.04)ｍ×幅0.64～1.64m　**残存深度**：0.68m　**走行方位**：Ｎ―28°―Ｗ　**遺物**：陶磁器２点(鎬蓮弁文碗１点(１)、口禿皿１点(２))、石製品１点(石鉢(３))、鉄製品１点(４)を図示した。　**重複**：土層の状況より、３・４号溝に前出、２号土坑に後出している。　**所見**：おおよそ黒褐色土で埋没している。白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-FPを含む。レンズ状に埋没しており、自然堆積であると考えられる。溝は、東側にやや膨らむが、ほぼ直線である。北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れるものの、底面の高さは調整されていると考える。形状より３・４号溝は屋敷の周堀の可能性がある。本溝は３・４号溝以前の屋敷の周堀と推定され、３・４号溝は、新しく掘り直したものであると考える。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅は北部より途中まで一定であるが、南部にいくほど削平により狭くなり、谷の手前で消滅している。本溝の残存深度は３・４号溝より深く、機能等は、区画を呈するものである。土層や形状、微高地に土坑やピット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況から、屋敷堀に推定される施設であると考える。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

３・４号溝(第32・36・38図　PL.11・12・50)

位置：412(３号溝410)～431・-405～-419　**規模**：３号溝長さ(25.88)ｍ×幅0.44～0.56m、４号溝長さ(22.16)ｍ×幅1.72～2.48m　**残存深度**：３号溝0.08～0.25m、４号溝0.36～0.54m　**走行方位**：Ｎ―36°―Ｗ(３号溝一部Ｎ―53°―Ｅ)　**遺物**：４号溝から石製品１点(砥石(５))、鉄製品１点(６)を図示した。非掲載遺物として、土師器(甕類１片、杯類３片)、灰釉陶器(杯類１片)が出土している。(３号溝)　**重複**：２号溝、３号土坑に後出している。35･39号ピットに前出している。　**所見**：底部の溝(３号溝)は、黒褐色土で埋没している。白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-FPを含む。４号溝部分の底部は、暗褐色土で、その後黒褐色土で埋没している。やはり、白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-FPを含む。レンズ状に埋没しており、自然堆積であると思われる。北西から南東へ直線的に走行しており、南東隅でほぼ直角に南西方向へ曲がり、傾斜方向に走行している。その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南は低い。溝の断面形は基本的には、レンズ状で、底面は丸底である。幅は一定で南東隅で曲がるのを機に狭くなり傾斜と共に消滅する。残存深度は、２号溝に比べると浅いが、２号溝と同様に、区画を呈している溝であると推定される。この溝の機能等は、土層や南東隅が直角に曲がる形状、及び微高地に土坑やピット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷の周堀の可能性がある。さらに、２号溝を掘り直したものであると思われる。また、４号溝底部における３号溝の役割は、明瞭ではない。埋没土及び形状より、Ｂ５区２面の３・４号溝と繋がる可能性を示唆しているが、南北方向の主軸方位が一致していないため、別施設と考えたほうが自然である。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

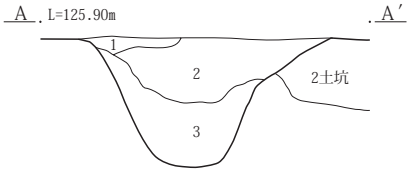
５号溝(第36図　PL.12)

位置：416～419・-401　**規模**：長さ(3.00)ｍ×幅0.36～0.48m　**残存深度**：0.16m　**走行方位**：Ｎ―15°―Ｗ　**遺物**：認められない。　**重複**：なし　**所見**：褐色土で埋没している。白色粒子、黄橙色砂粒を含む砂質土である。南北に走行し西側にやや湾曲している。傾斜方向に平行に流れる。南端で消滅しており、その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は半円形で、底面は丸底である。幅は一定である。残存深度は浅い。同一面の溝、ピット、土坑との関連は明瞭でない。また、区画を呈している溝か明瞭でない。この溝の機能等を明確にする資料は見つからなかった。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

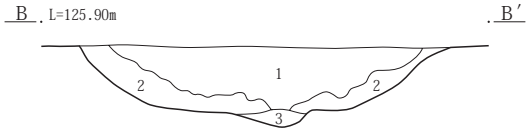
６号溝(第33・36・38図　PL.10・50)

位置：447～461・-391～-395　**規模**：長さ(14.26)ｍ×幅0.36～0.52m　**残存深度**：0.12～0.44m　**走行方位**：Ｎ―16°―Ｅ　**遺物**：陶磁器１点(青緑釉皿(７))、土器１点(焙烙１点(８))、銅製品１点(９)、鉄製品１点(10)を図示した。　**重複**：10・18・19・20号土坑、54号ピットに後出している。　**所見**：暗褐色土で埋没している。白

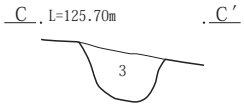
２号溝

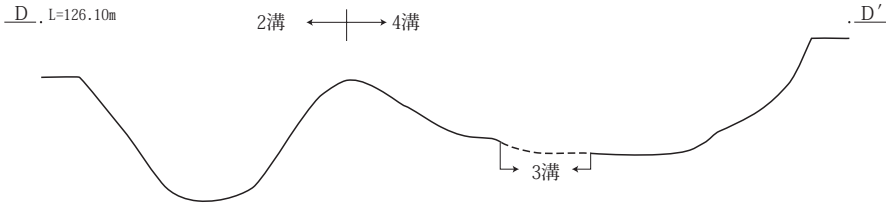


３・４号溝



３号溝

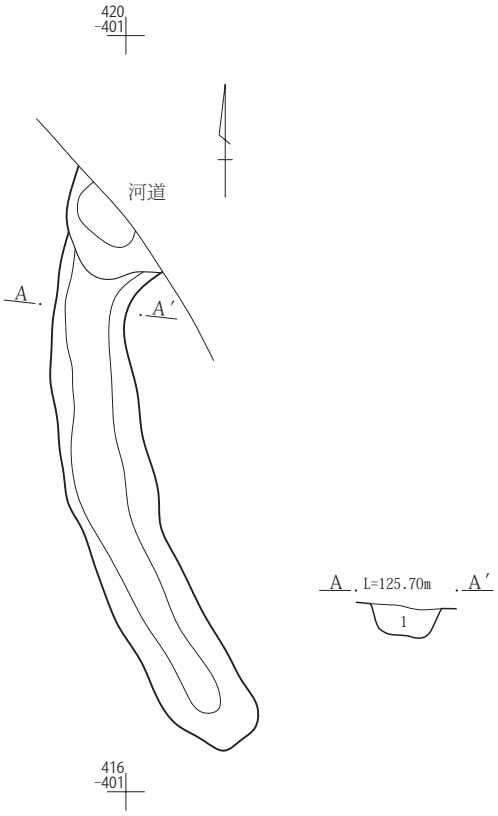




２号溝　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子多量、黄橙色砂粒少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/3)　白色粒子多量、黄橙色砂粒少量含む。やや粘性あり。
3　黒褐色土(10YR2/3)　白色粒子多量、黄橙色砂粒・Hr-FP細粒僅かに含む。粘性強い。

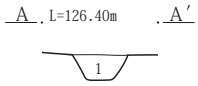
３・４号溝　B-B′・C-C′
1　黒褐色土(10YR3/3)　白色粒子少量、黄橙色砂粒・Hr-FP細粒僅かに含む。２層よりやや粘性あり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子、黄橙色砂粒少量、Hr-FP細粒僅かに含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子少量、黄橙色砂粒・Hr-FP細粒僅かに含む。やや粘性あり。

５号溝

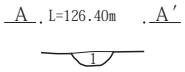


６号溝

７号溝



８号溝



５号溝　A-A′
1　褐色土(10YR4/4)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。やや砂質。

６号溝　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子多量、黄橙色砂粒少量含む。

７号溝　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子多量、黄橙色砂粒少量含む。

８号溝　A-A′
1　明黄褐色土(10YR7/6)　やや砂質。

0　1:40　1m

第36図　Ｂ４区１面　２～８号溝

色粒子、黄橙色砂粒を含む。形状はほぼ直線であり、北北東方向から南南西方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、半円形で、底面は丸底である。幅は一定である。残存深度はやや浅い。７号溝が平行に、８号溝が垂直に走行している。この溝の機能等は、７・８号溝と類似しており、区画溝及び側溝の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、近世以降の溝であると推察される。

７号溝(第33・36図　PL.10)

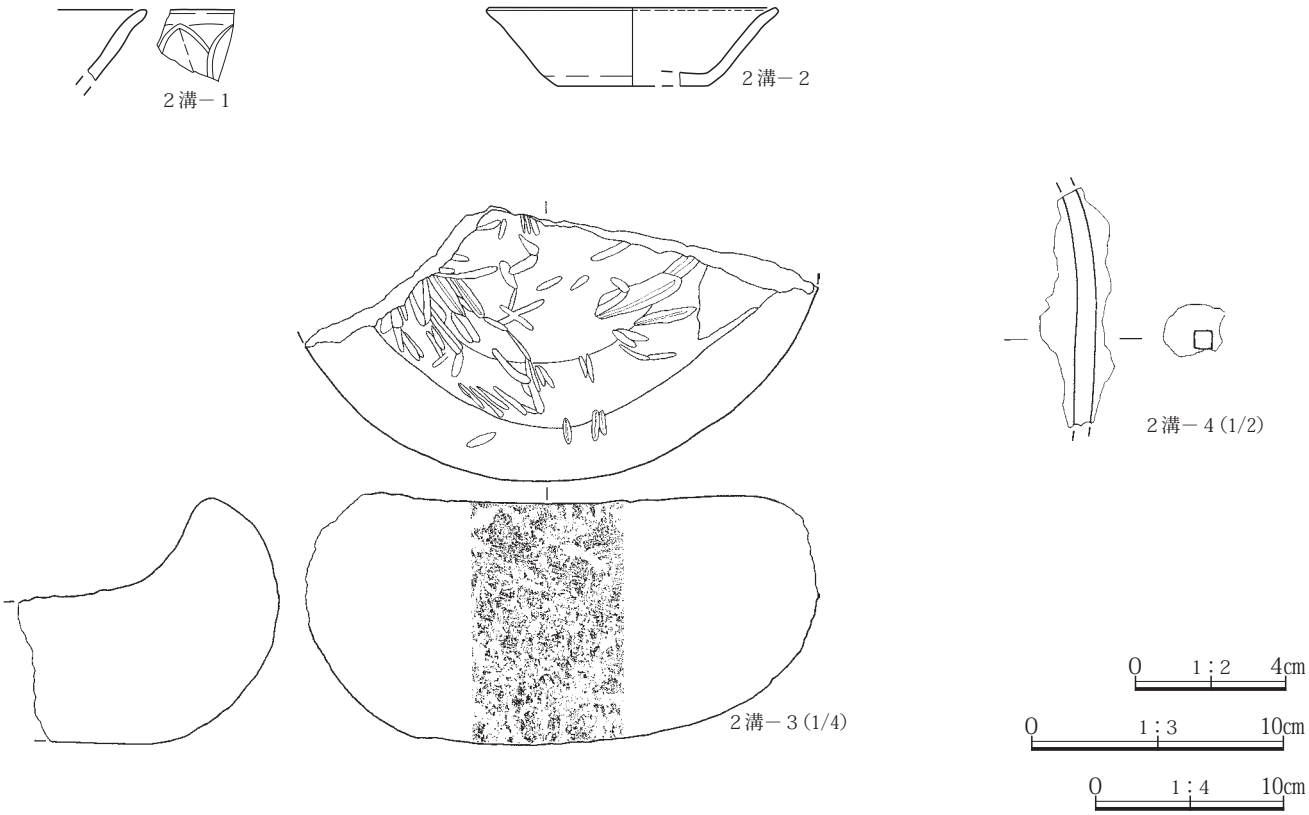
位置：451～458・-388～-390　**規模**：長さ(7.66)ｍ×幅0.22～0.36m　**残存深度**：0.14m　**走行方位**：Ｎ―14°―Ｅ　**遺物**：認められない。　**重複**：１号竪穴状遺構、12号土坑に前出している。28号土坑と重複している。

所見：埋没土は、暗褐色土であり、白色粒子、黄橙色砂粒を含む。形状はほぼ直線であり、北北東方向から南南西方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には半円形で、底面は丸底である。幅は一定である。残存深度はやや浅い。６号溝が平行に、８号溝が垂直に走行している。この溝の機能等は、６・８号溝と類似しており、区画溝、及び側溝の一つと考えられる。溝の形状及び周囲の様相より、近世以降の溝であると推察される。

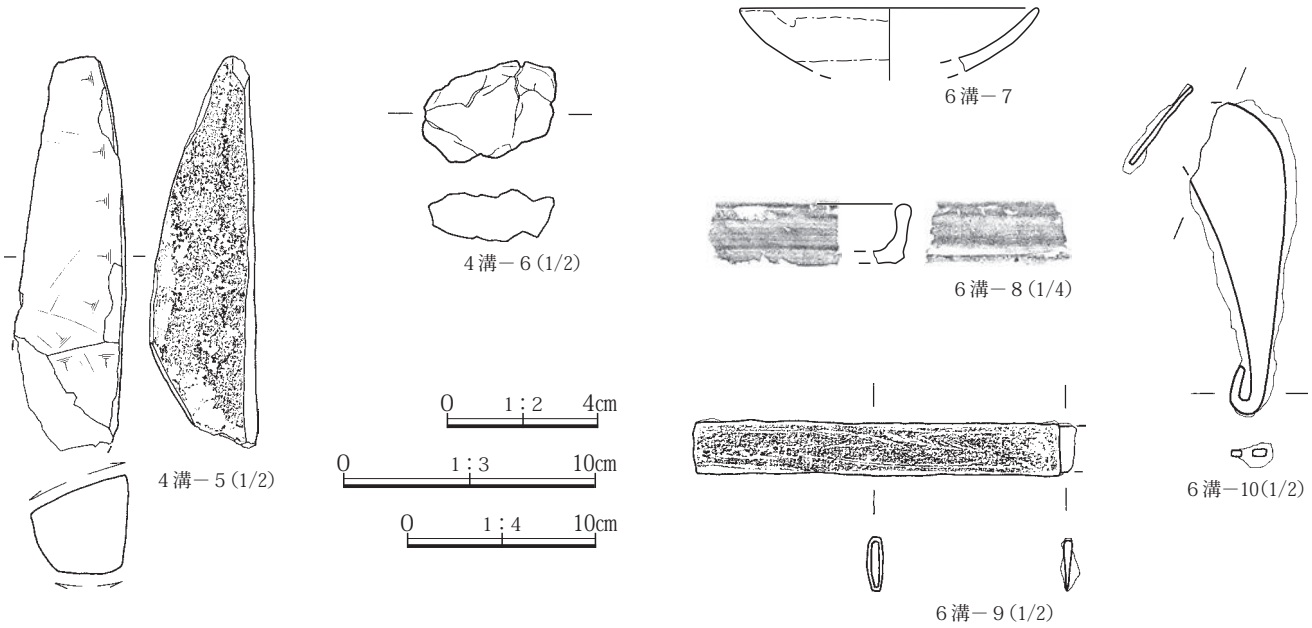
８号溝(第33・36図　PL.10)

位置：453・-386～-389　**規模**：長さ(2.74)ｍ×幅0.14～0.28m　**残存深度**：0.08m　**走行方位**：Ｎ―79°―Ｗ

遺物：認められない。　**重複**：62号ピットに前出している。　**所見**：埋没土は、明黄褐色土であり、やや砂質である。形状はほぼ直線であり、ほぼ東西に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の東西両端部の高低差を見ると、東が高く西が低い。溝の断面形は基本的には、半円形で、底面は丸底である。幅は一定である。残存深度はやや浅い。６・７号溝にほぼ垂直に走行している。この溝の機能等は、６・７号溝と類似しており、区画溝及び砂質のため用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び周囲の様相より、近世以降の溝であると推察される。



第37図　Ｂ４区１面　２号溝出土遺物



第38図　Ｂ４区１面　４・６号溝出土遺物

（３）土坑

Ｂ４区の土坑(第39～42図　PL.12～15・50)

概要：Ｂ４区１面では、26基の土坑を調査した。土坑が検出された位置は細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸に分けられる。細ヶ沢川の旧流路右岸では、屋敷に伴うと推察される溝の内外に観察できる。平面形は楕円形が多く、断面形は逆台形を呈している。一方、細ヶ沢川の旧流路左岸には、微高地の屋敷跡と思われる遺構群の中に集中して確認できる。形態は、大きく２種類に分類できる。一つは、平面形が隅丸長方形であり断面形が逆台形を呈し、底面が平坦なものである。もう一つは、平面形が楕円形であり断面形が逆台形を呈し、底面がやや丸みを帯びたものである。隅丸長方形の土坑の方位は、互いに一致している場合が多い。（詳細については第４表に記した。）

所見：旧流路右岸の微高地においては、屋敷堀と推察される溝周辺に１～５号土坑が検出されている。埋没土は、黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土などである。白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-FPなどを含んでおり、周囲の遺構の埋没土と矛盾していない。特に、１・２号土坑は３・４号溝の内側に位置しており、屋敷に直接関連する施設であると推察される。３・４・５号土坑は溝の外側にあり、使用目的は明瞭でない。旧流路左岸の微高地においては、屋敷跡を構成していると推察される竪穴状遺構、溝、土坑、ピットが集中して検出されている。６～25・28号土坑の埋没土は、暗褐色土、褐色土、黄橙色土等である。白色粒子、黄橙色砂粒などを含んでおり、周囲の遺構の埋没土と矛盾していない。特に、６・14・18・22号土坑、及び１号竪穴状遺構は主軸方位が合っており、互いに関連する施設の可能性を窺わせる。ピット群も含めて建物の可能性があるが、復元には至らなかった。

１号土坑(第39図　PL.13)

位置：419・-417

形状：楕円形である。断面形はレンズ状を呈する。底面は丸底である。

規模：0.95×0.91m　深度：0.13m

主軸方位：N―34°―E

埋没土層：黒褐色土、及び灰黄褐色土で埋没している。黒色砂を含む。

重複：40号ピット

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

２号土坑(第39・42図　PL.12・13・50)

位置：417・-410

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面はレンズ状である。

規模：1.08×〔0.94〕m　**深度**：0.37m

主軸方位：N―49°―W

埋没土層：黒褐色土、暗褐色土で埋没している。白色粒子、Hr-FP細粒含む。粘性あり。

重複：２号溝に前出している。

遺物：陶磁器１点(山茶碗(１))を図示した。非掲載遺物として、土師器１片(甕類)が出土している。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

３号土坑(第39図　PL.13)

位置：423・-411

形状：平面形は明瞭でない。断面形はレンズ状を呈する。底面は明瞭でない。

規模：(1.23)×(0.91)m　**深度**：0.35m

主軸方位：不明

埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子、Hr-FP細粒を含む。粘性あり。

重複：４号溝に前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

４号土坑(第39図　PL.13)

位置：425・-405

形状：平面形は不整形である。断面形はレンズ状を呈する。底面は平底である。

規模：1.08×0.81m　**深度**：0.20m

主軸方位：N―24°―W

埋没土層：にぶい黄褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

５号土坑(第39図　PL.13)

位置：427・-407

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.38×1.15m　**深度**：0.25m

主軸方位：N―10°―E

埋没土層：にぶい黄褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

６号土坑(第39図　PL.13)

位置：457・-395

形状：長楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.99×0.57m　**深度**：0.30m

主軸方位：N―14°―W

埋没土層：褐色土、暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：41号ピットに後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

７号土坑(第39図　PL.13)

位置：455・-394

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：0.77×0.43m　**深度**：0.14m
主軸方位：N―82°―E
埋没土層：褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。
重複：47号ピットに前出しており、57号ピットに後出している。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

８号土坑(第40図　PL.13)
位置：454・-394
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：0.84×(0.50)m　**深度**：0.16m
主軸方位：N―77°―W
埋没土層：黄橙色土、暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。
重複：58号ピットに前出している。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

９号土坑(第39図　PL.14)
位置：458・-389
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：1.56×1.28m　**深度**：0.32m
主軸方位：N―43°―W
埋没土層：壁際は黒褐色土、黄橙色土で埋没している。本体は、暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。
重複：56号ピットに後出している。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

10号土坑(第40図　PL.14)
位置：453・-392
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面はレンズ状である。
規模：〔0.73〕×0.66m　**深度**：0.21m
主軸方位：N―70°―W
埋没土層：おおむね暗黒褐色土で埋没している。底部は、褐灰色土、黄橙色土で埋没している。炭化物粒、白色粒子を含む。砂質である。
重複：６号溝に前出しており、19号土坑に後出している。
遺物：非掲載遺物として、土師器１片(甕類)が出土している。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

11号土坑(第40・42図　PL.14・50)
位置：452・-392
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面には段差がある。
規模：1.53×1.36m　**深度**：0.33m
主軸方位：N―71°―W
埋没土層：底部や壁際を灰白色土やにぶい黄橙土の粘質土を貼っている。全体は褐色土で埋没しているが、中央部分は炭化物を含んだ暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。
重複：19・25号土坑に後出している。
遺物:土器１点(焙烙(２))、鉄製品１点(３)を図示した。非掲載遺物として、礫石器１点(敲石)が出土している。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかったが、一旦埋め戻して、掘り返した形跡がある。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

12号土坑(第41図　PL.14)

位置：455・-388

形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(1.50)×0.86m　**深度**：0.25m

主軸方位：N―65°―W　**埋没土層**：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：13号土坑、71号ピットに後出しており、１号竪穴状遺構、７号溝、68号ピットに前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

13号土坑(第41図　PL.14)

位置：454・-388

形状：楕円形である。断面形は半円形を呈する。底面は丸底である。

規模：0.60×〔0.40〕m　**深度**：0.28m

主軸方位：N―55°―W

埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：12号土坑に前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

14号土坑(第41図　PL.14)

位置：456・-390

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：2.11×0.84m　**深度**：0.74m

主軸方位：N―10°―E

埋没土層：暗褐色土、褐色土で埋没している。白色粒子含み、砂質である。

重複：１号竪穴状遺構に後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね近世以降の新しい土坑の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

15号土坑(第40図　PL.14)

位置：450・-393

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.22×〔1.10〕m　**深度**：0.19m

主軸方位：N―75°―E

埋没土層：褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：16・20号土坑に後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

16号土坑(第40・42図　PL.14・15・50)

位置：450・-392

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.37×(0.88)m　**深度**：0.15m

主軸方位：N―56°―E

埋没土層：褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

重複：15号土坑に前出している。

遺物：陶磁器１点(碗(４))を図示した。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

17号土坑(第41図)
位置：460・-389
形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：(0.99)×1.38m　**深度**：0.22m
主軸方位：不明
埋没土層：不明
重複：なし
遺物：非掲載遺物として土器片１点が出土した。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。形状から掘り直しをしている形跡がうかがえる。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状からおおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

18号土坑(第40図)
位置：454・-393
形状：平面形は不明である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：3.03×(0.51)m　**深度**：0.19m
主軸方位：N―12°―E
埋没土層：不明
重複：６号溝、70号ピットに前出している。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

19号土坑(第40・42図)
位置：453・-392
形状：平面形は不明である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：不明　**深度**：0.24m
主軸方位：不明
埋没土層：不明
重複：６号溝、10・11号土坑に前出していると考える。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

20号土坑(第40図)
位置：452・-393
形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：2.05×0.14m　**深度**：0.14m
主軸方位：N―13°―W
埋没土層：不明
重複：６号溝、15号土坑に前出している。
遺物：陶磁器１点(すり鉢(５))を図示した。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

21号土坑(第41図)
位置：449・-387
形状：平面形は不明である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：1.19×(0.42)m　**深度**：0.29m
主軸方位：N―11°―E
埋没土層：褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。
重複：22号土坑に前出している。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

22号土坑(第41図)
位置：449・-387
形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：(3.08)×0.70m　**深度**：0.48m
主軸方位：N―９°―E
埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。

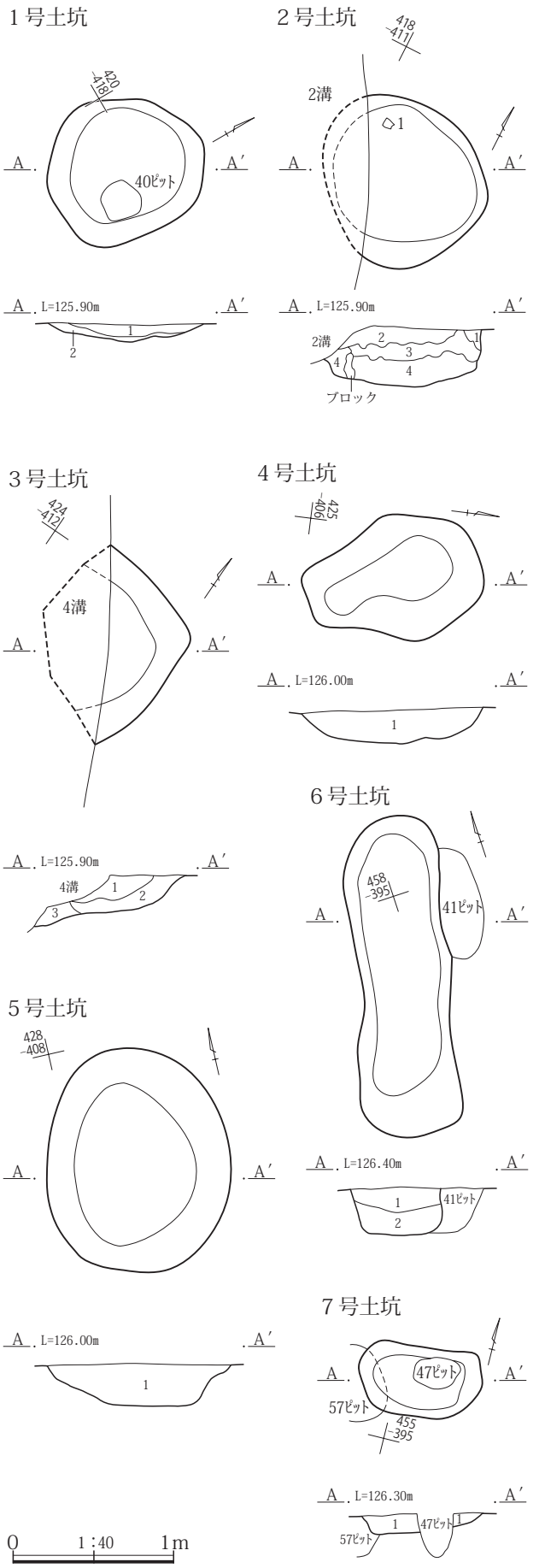
重複：21号土坑に後出している。
遺物：非掲載遺物として、土師器１片(甕類)が出土している。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

23号土坑(第41図)
位置：447・-386
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：1.53×0.81m　**深度**：0.08m
主軸方位：N―９°―E
埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。
重複：なし
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない

24号土坑(第41図)
位置：449・-385
形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：1.76×(0.85)m　**深度**：0.29m
主軸方位：N―７°―E
埋没土層：不明
重複：なし
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。形状から掘り直しをしている形跡がうかがえる。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

25号土坑(第40図)
位置：451・-392
形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：(0.76)×0.78m　**深度**：0.14m
主軸方位：N―０°
埋没土層：不明
重複：11号土坑に前出している。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

28号土坑(第41図)
位置：451・-389
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：0.77×0.48m　**深度**：0.22m
主軸方位：N―49°―W
埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。
重複：７号溝と重複している。
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。



１号土坑　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/3)　黒色砂多量、黄橙色砂粒少量含む。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)　黒色砂少量含む。

２号土坑　A-A′
1　黄橙色土(10YR5/6)　暗褐色土僅かに含む。砂質土。
2　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子多量、黄橙色砂粒・Hr-FP細粒僅かに含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・黄橙色砂粒少量、Hr-FP細粒僅かに含む。やや粘性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土塊少量含む。粘性締まり僅かにあり。

３号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅かに、黄橙色砂粒少量含む。やや粘性あり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・黄橙色砂粒少量、Hr-FP細粒僅かに含む。

４・５号土坑　A-A′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　白色粒子僅か、黄褐色砂・黄橙色砂粒少量含む。

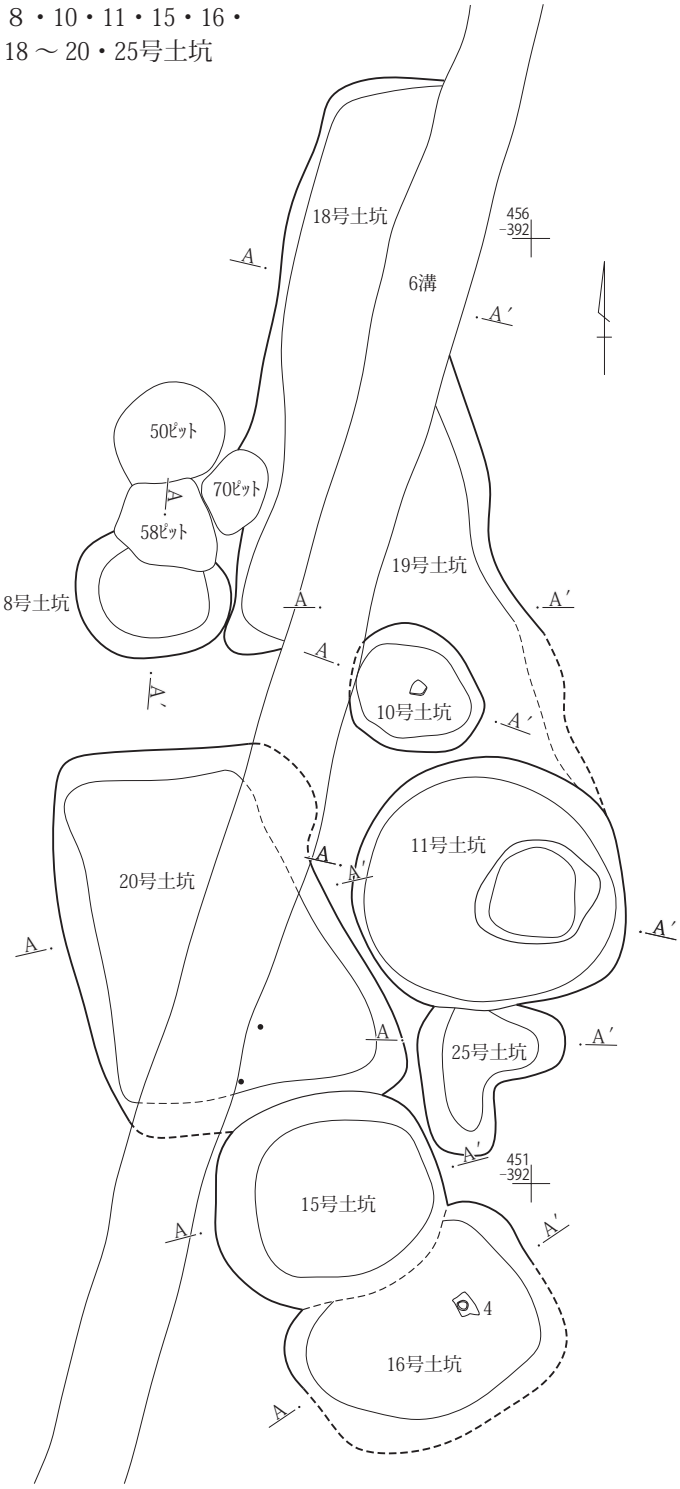
６号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子・黄橙色砂粒僅かに含む。
2　褐色土(10YR4/4)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。

７号土坑　A-A′
1　褐色土(10YR4/6)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。

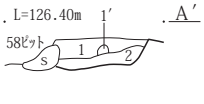
９号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子・黄橙色砂粒僅かに含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　白色粒子・黄橙色砂粒・砂礫少量含む。
3　黄橙色土(10YR7/8)　黄橙色砂粒多量含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　細礫・黄橙色砂粒少量含む。

第39図　Ｂ４区１面　１～７・９号土坑

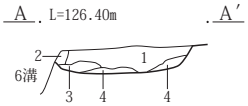
８・10・11・15・16・
18～20・25号土坑



８号土坑



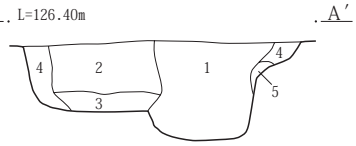
10号土坑



８号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅か、黄橙色砂粒少量含む。
1′ 黄橙色砂粒ブロック
2　黄橙色土(10YR7/8)　黄橙色砂粒多量含む。

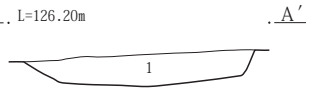
10号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　炭化物粒・黄橙色砂粒少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。
3　褐灰色土(10YR4/1)　白色粒子・黄橙色砂粒僅かに含む。
4　黄橙色土(10YR7/8)　黄橙色砂粒多量含む。

11号土坑

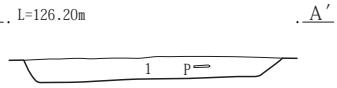


11号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・炭化物粒僅かに含む。
2　褐色土(10YR4/4)　白色粒子・黄橙色砂粒・灰白色粘土粒少量含む。
3　灰白色粘土(10YR8/2)　粘質土。
4　にぶい黄橙色土(10YR7/4)　灰白色粘土多量含む。粘土質。
5　黄橙色土(10YR7/6)　砂質土。

15号土坑



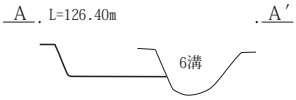
16号土坑



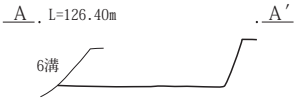
15号土坑　A-A′
1　褐色土(10YR4/6)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。

16号土坑　A-A′
1　褐色土(10YR4/4)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。

18号土坑

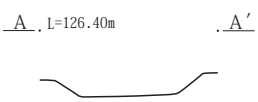


19号土坑



20号土坑

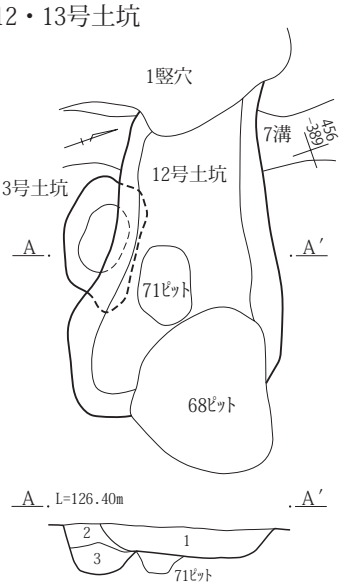
25号土坑



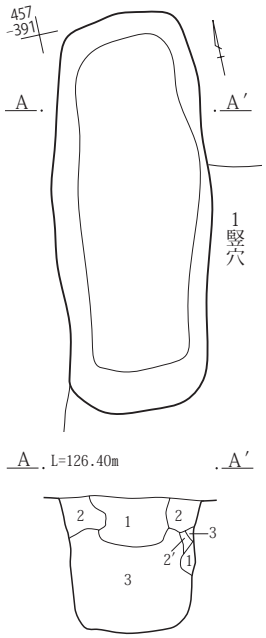
0　1:40　1m

第40図　Ｂ４区１面　８・10・11・15・16・18～20・25号土坑

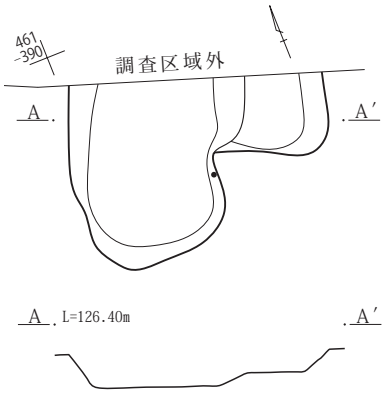
12・13号土坑



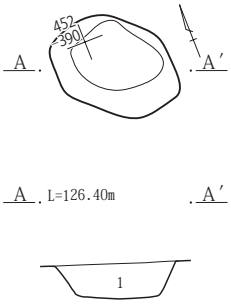
14号土坑



17号土坑



28号土坑

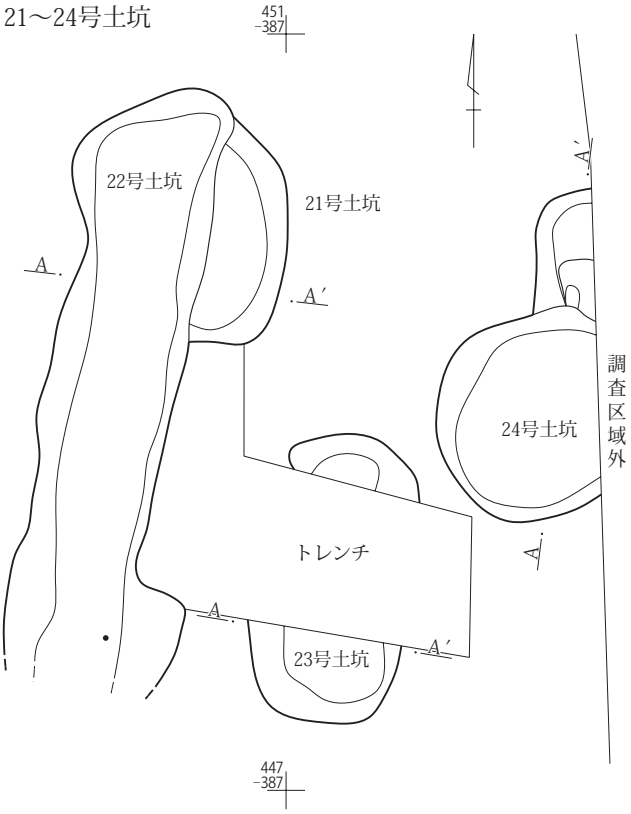


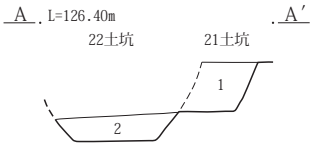
12・13号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子、黄橙色砂粒少量含む。(12号土坑)
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。(13号土坑)
3　暗褐色土(10YR3/3)　塊。(13号土坑)

14号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。
2　褐色土(10YR4/4)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。
2′褐色土(10YR4/4)　白色粒子含まない。
3　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・黄橙色砂粒少量、細礫僅かに含む。

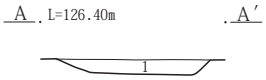
28号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅か、黄橙色砂粒少量含む。

21～24号土坑





23号土坑



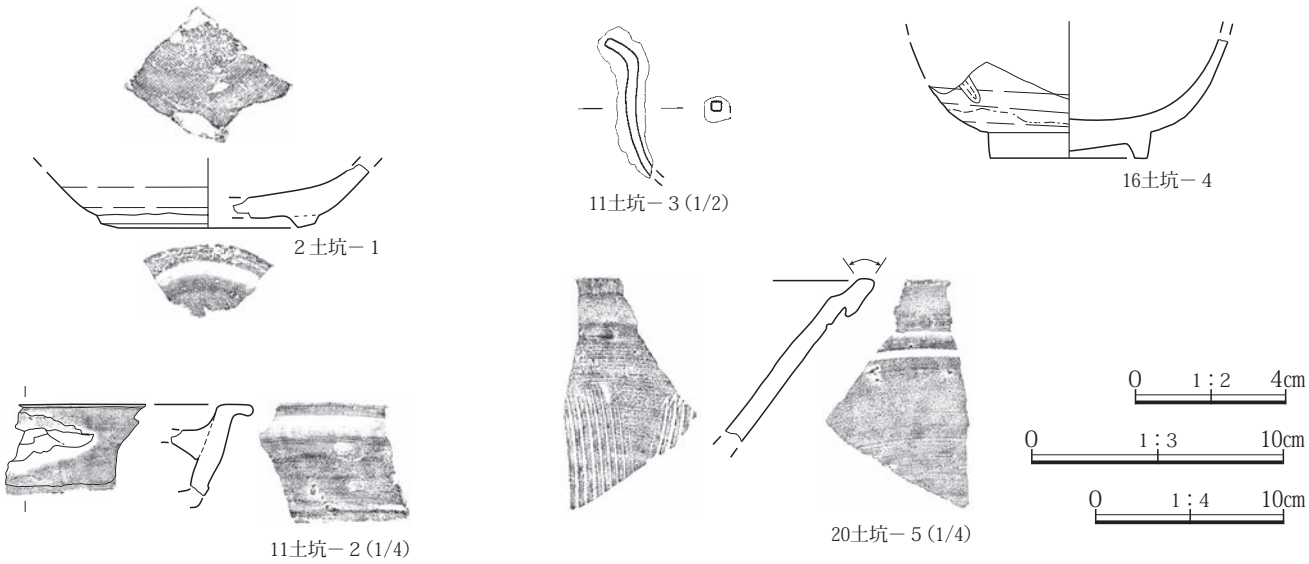
21・22号土坑　A-A′
1　褐色土(10YR4/4)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。
(21号土坑)
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅かに、黄橙色砂粒少量含む。
(22号土坑)

23号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子・黄橙色砂粒僅かに含む。

24号土坑

0　1:40　1m

第41図　Ｂ４区１面　12～14・17・21～24・28号土坑



第42図　Ｂ４区１面　２・11・16・20号土坑出土遺物

（４）ピット

Ｂ４区のピット群（第32・33・43～45図　PL.15・16）

概要：Ｂ４区１面の遺構は、細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している、竪穴状遺構１軒、溝８条、土坑26基が確認されている。また、ピット72基が検出された。そのうち40基は、細ヶ沢川の旧流路の右岸の屋敷堀と推定される溝の内外にある。一方32基は、細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地の屋敷跡一帯にある。両調査区共に、ピット群の中には、建物の柱穴として可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。また、竪穴状遺構、溝、土坑等周辺の遺構も微高地において屋敷を構成する要素である可能性が高いと思われる。旧流路右岸のピット群は、屋敷堀と推察される溝の内外に位置しているのに対して、旧流路左岸のピット群は、竪穴状遺構や土坑、溝と一体となるように位置している。旧流路の右岸と左岸で、屋敷の様相が異なっていると思われる。さらに、旧流路右岸の溝は、Ｂ５区２面の溝とつながる可能性があるものの、同一施設としては不自然であると考える。旧流路右岸の屋敷の構成はＢ５区まで広がる可能性が指摘できるのである。一方、旧流路左岸の屋敷跡の奥Ｃ１区の２面では、畑が検出されており、旧流路左岸の様相が推察される。ただし、屋敷の全体的な構成を具体的に指摘するだけの資料には欠けている。（詳細については第５表に記載した。）

旧流路右岸のピット群

位置：屋敷堀と推察される溝の内側に１～８・30・40号ピットが、その他９～29・31～39号ピットが屋敷堀と推定される溝の外側から検出された。溝の内側のピット群は建物の可能性があるものの復元には至らなかった。溝の外側のピット群については使用目的が確認できなかった。

重複：３・８号ピットは１号溝に前出しており、30号ピットは１号溝と重複している。35・39号ピットは３・４号溝に後出している。13号ピットが14号ピットに、19号ピットが20号ピットに後出している。

規模形状：多くが小型で楕円形を呈する。

埋没土：埋没土は、主に暗褐色土、黒褐色土である。稀ににぶい黄橙色土である。全体的に埋没土は類似している。白色粒子、黄橙色砂粒を含むことが多く、溝、土坑等周囲の遺構の埋没土と矛盾しない。

その他：柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、18・25号ピットがあげられる。

・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、13・14、19・20号ピットがあげられる。

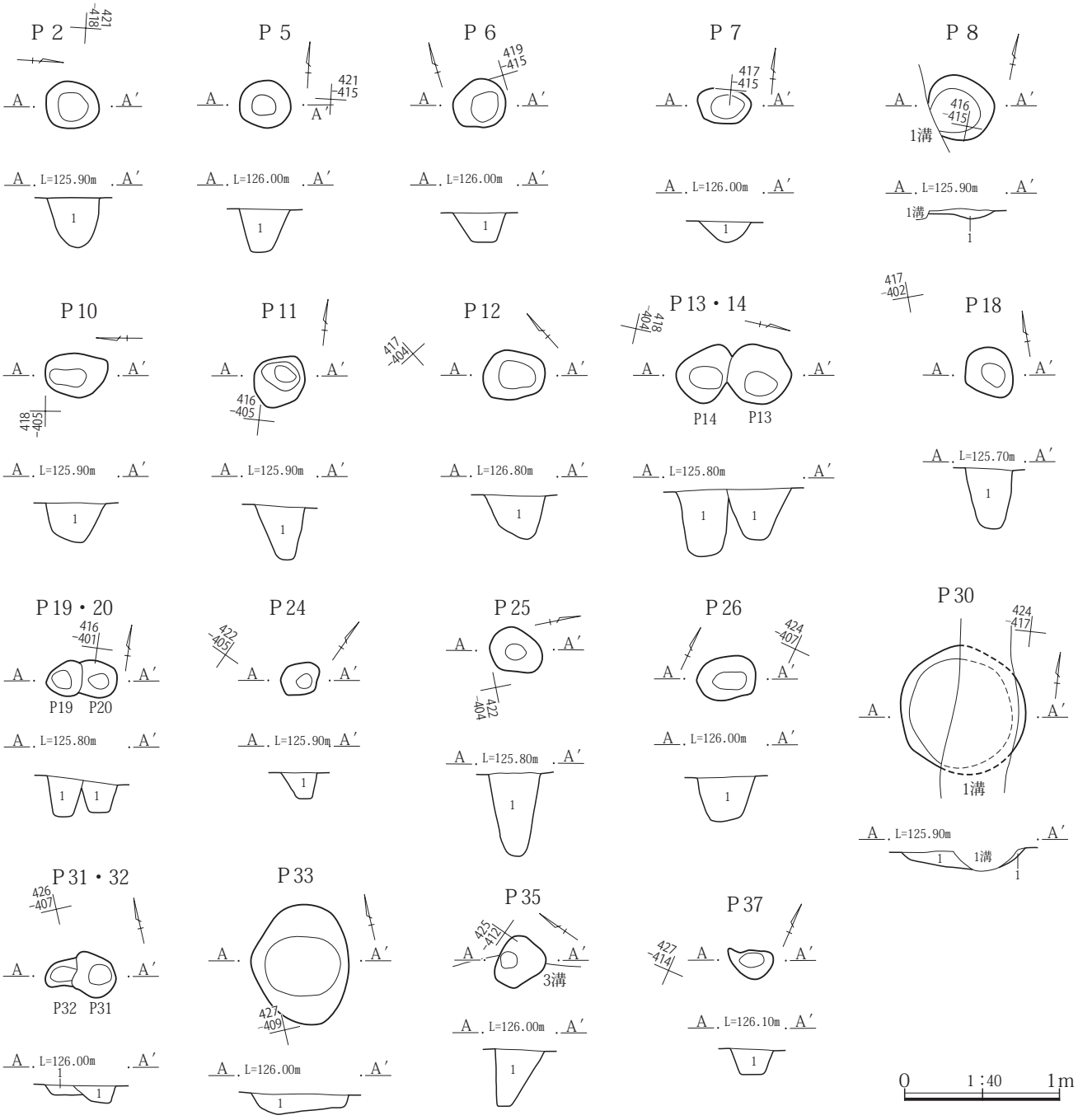
・同じ規模または同じ形状のピットが等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性があるものとして、

２・５・６・７、10・12、24・27・31号ピットがあげられる。その中でも、Ｐ２・５・６・７については、辺Ｐ２・５と辺Ｐ５・６・７が直行している。互いの間隔も２m程で一定しており、建物の一部であった可能性を示す。また、３・４号溝東に位置するＰ24・27・31は約２mの等間隔で柱穴列の可能性がある。

・上部が大きく削平を受けているが、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性があるものとして、２・37号ピットがあげられる。

遺物：認められない。

所見：埋没土に、洪水層の影響が推察される黄橙色砂粒を多く含むことから、近世以降に属すると考えられる。



２・５・６・７・10～14・18～20・24～26号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量、黄橙色砂塊少量含む。
８号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子少量含む。粘性あり。

30～32号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量、黄橙色砂粒少量含む。
33・35・37号ピット　A-A′
1　にぶい黄橙色土(10YR4/3)　白色粒子僅か、黄褐色砂・黄橙色砂粒少量含む。砂質土。

第43図　Ｂ４区１面　旧流路右岸のピット

旧流路左岸のピット群

位置：ピット群のほとんどは微高地の中央部分に集中するように確認された。土坑、溝等周囲の遺構と共に、屋敷を構築していたと推察されるが、具体的な形に復元することはできなかった。

重複：52号ピットが72号ピットに後出している。57号ピットが７号土坑に前出しており、47号ピットが７号土坑に後出している。41号ピットが６号土坑に前出している。58号ピットが50号ピット・８号土坑に後出している。56号ピットが９号土坑に前出している。70号ピットが18号土坑に後出している。55号ピットが１号竪穴状遺構に後出している。71号ピットが12号土坑に前出し、68号ピットが12号土坑に後出している。62号ピットが８号溝に後出している。

規模形状：多くが小型で楕円形を呈する。

埋没土：埋没土は一様ではないが、主に暗褐色土、黒褐色土である。稀に、褐色土、にぶい黄橙色土、黄橙色土で埋没している。全体的に埋没土は類似している。白色粒子、黄橙色砂粒を含むことが多く、溝、土坑等周囲の遺構の埋没土と矛盾しない。

その他：柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その原因を分類した結果を以下の通り解説する。

・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性が高いものとして、44・46・65・70号ピットがあげられる。

・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、59・63・66号ピットがあげられる。

・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、52･72、64号ピットがあげられる。

・柱穴の底に礫を伴っており柱穴の可能性があるものとして、51・53・58号ピットがあげられる。

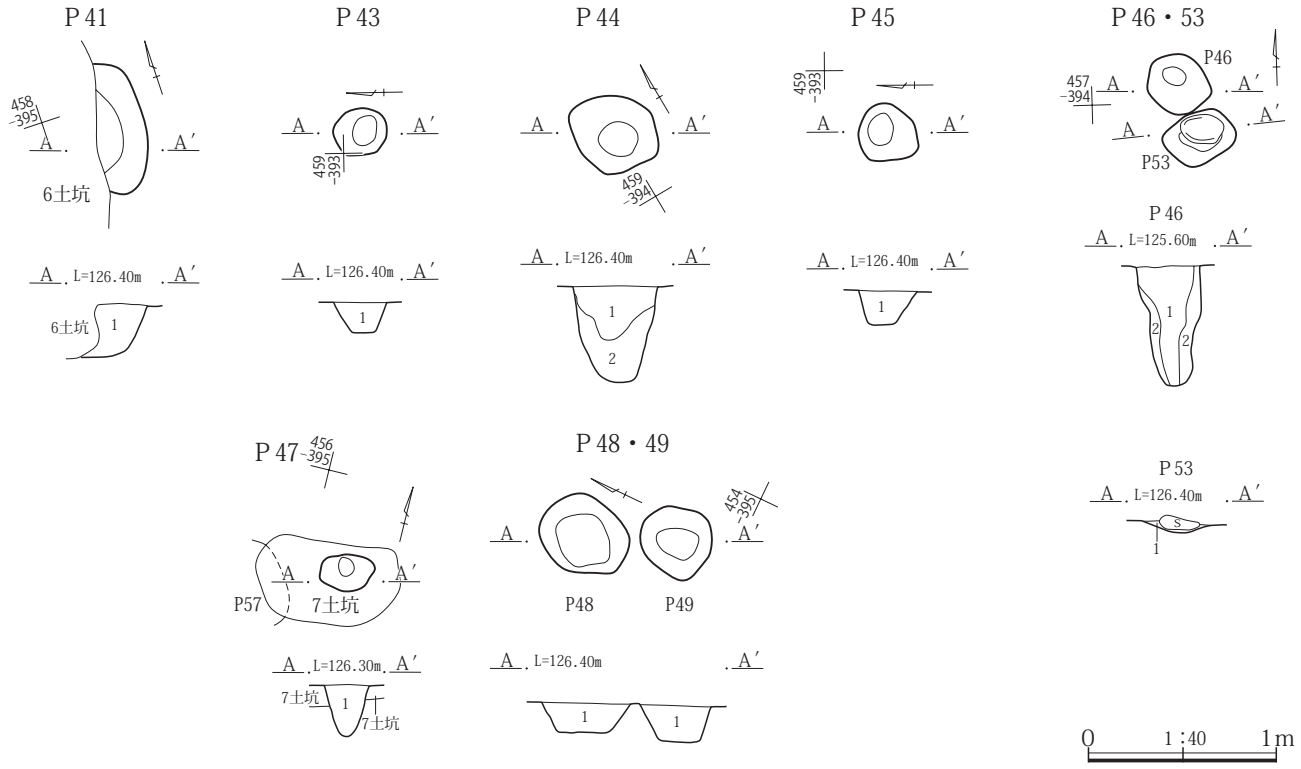
・同じ規模または同じ形状のピットが等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性があるものとして、43・45、46・70号ピットがあげられる。

・柱の元を固めた様相が伺え、柱穴であった可能性があるものとして、67号ピットがあげられる。

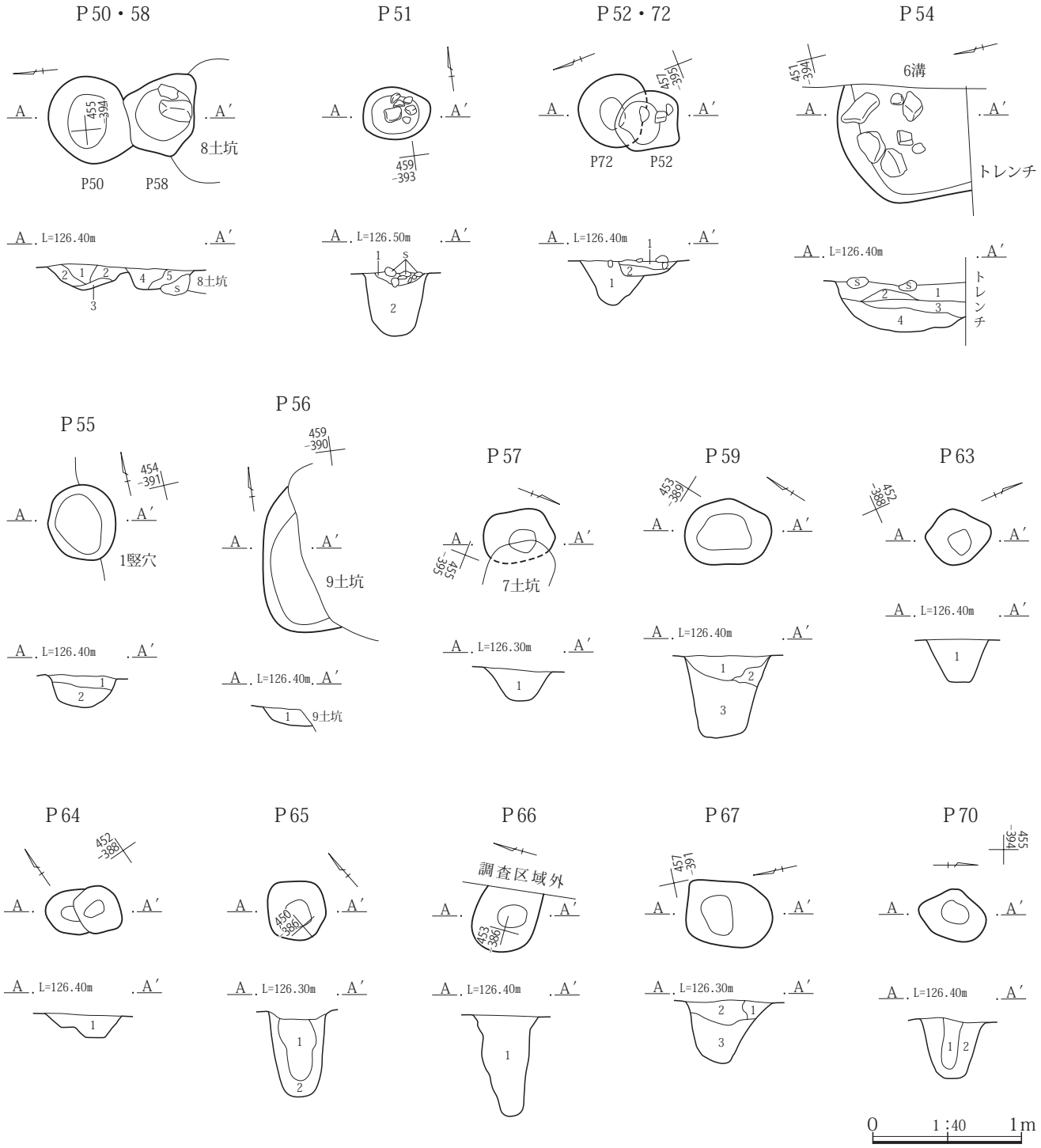
・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性があるものとして、47・67・57号ピットがあげられる。

遺物：非掲載遺物として、54号ピットから土器片が１点、57号ピットから土器片が１点出土した。

所見：埋没土に、洪水層の影響が推察される黄橙色砂粒を多く含むことから、近世以降に属すると考えられる。



第44図　Ｂ４区１面　旧流路左岸のピット（１）



第45図　Ｂ４区１面　旧流路左岸のピット（２）

45・48・49・53・57・63・64・66号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量、黄橙色砂塊少量含む。
41・43号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色砂粒僅かに含む。
44号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量、黄橙色砂塊少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　白色粒子・黄橙色粒子少量含む。
46号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量、黄橙色砂塊少量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量、黄橙色砂塊中量含む。
47号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色砂粒僅かに含む。柱穴か？

50・58号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色砂粒僅かに含む。(50号ピット)
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・黄橙色砂粒僅かに含む。(50号ピット)
3　にぶい黄橙色土(10YR4/3)　白色粒子僅か、黄褐色砂少量含む。(50号ピット)
4　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色砂僅かに含む。(58号ピット)
5　にぶい黄橙色土(10YR4/3)　白色粒子僅か、黄橙色砂粒少量含む。(58号ピット)
51・52号ピット　A-A′
1　褐色土(10YR4/6)　白色粒子・黄橙色砂粒僅かに含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。

54号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量、黄橙色砂塊少量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　白色粒子多量含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　白色粒子少量含む。均質。
4　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子・黄橙色砂塊少量含む。
55号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR2/3)　白色粒子少量、黄褐色砂粒僅かに含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子・黄褐色砂粒少量含む。
56号ピット　A-A′
1　黒褐色土(10YR3/2)　細礫・黄橙色砂粒少量含む。やや砂質。
59号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子多量、黄橙色砂少量含む。
2　黄橙色土(10YR7/8)　白色粒子少量、黄橙色砂多量含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅か、黄橙色砂少量含む。
65・70号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。柱穴。
2　黄褐色土(10YR5/6)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。
67号ピット　A-A′
1　黄褐色土(10YR7/8)　白色粒子少量、黄褐色砂多量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。
72号ピット　A-A′
1　黄褐色土(10YR5/6)　白色粒子・黄橙色砂粒少量含む。柱穴。

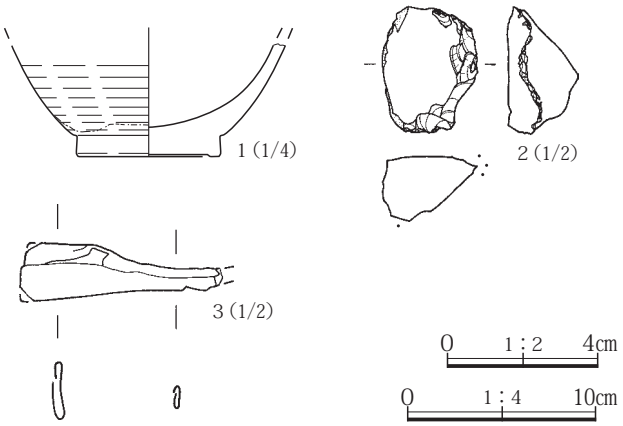
(５)遺構外出土遺物(第46図　PL.50)

Ｂ４区１面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、Ｂ４区Ａトレンチから出土した陶磁器１点(片口鉢(１))、銅製品１点(キセル(３))、Ｂ４区Ｂトレンチから石製品１点(火打石(２))を掲載した。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、土師器(杯類２片、甕類４片)、剥片石器１点(打製石斧)、石製品１点(砥石)が出土している。これらは、下層からの混入であると思われる。

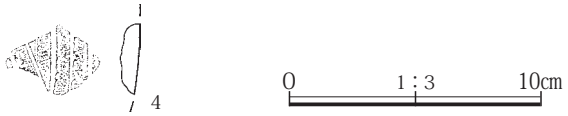
２　Ｂ５区、Ｃ１・４区の遺構と遺物(第46図、PL.50)

Ｃ１区から、弥生土器１点(甕(４))を掲載した。非掲載遺物として弥生土器(中期後半１片)が出土した。その他は、調査面は確認できたものの、遺構や遺物は認められなかった。

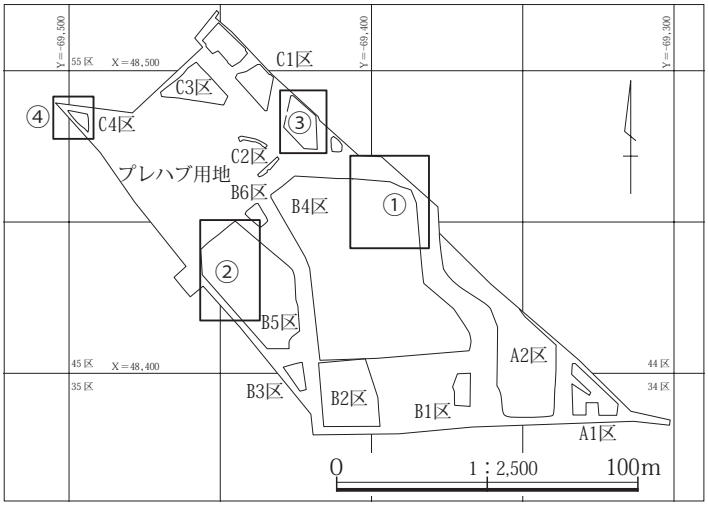
Ｂ４区出土遺物



Ｃ１区出土遺物



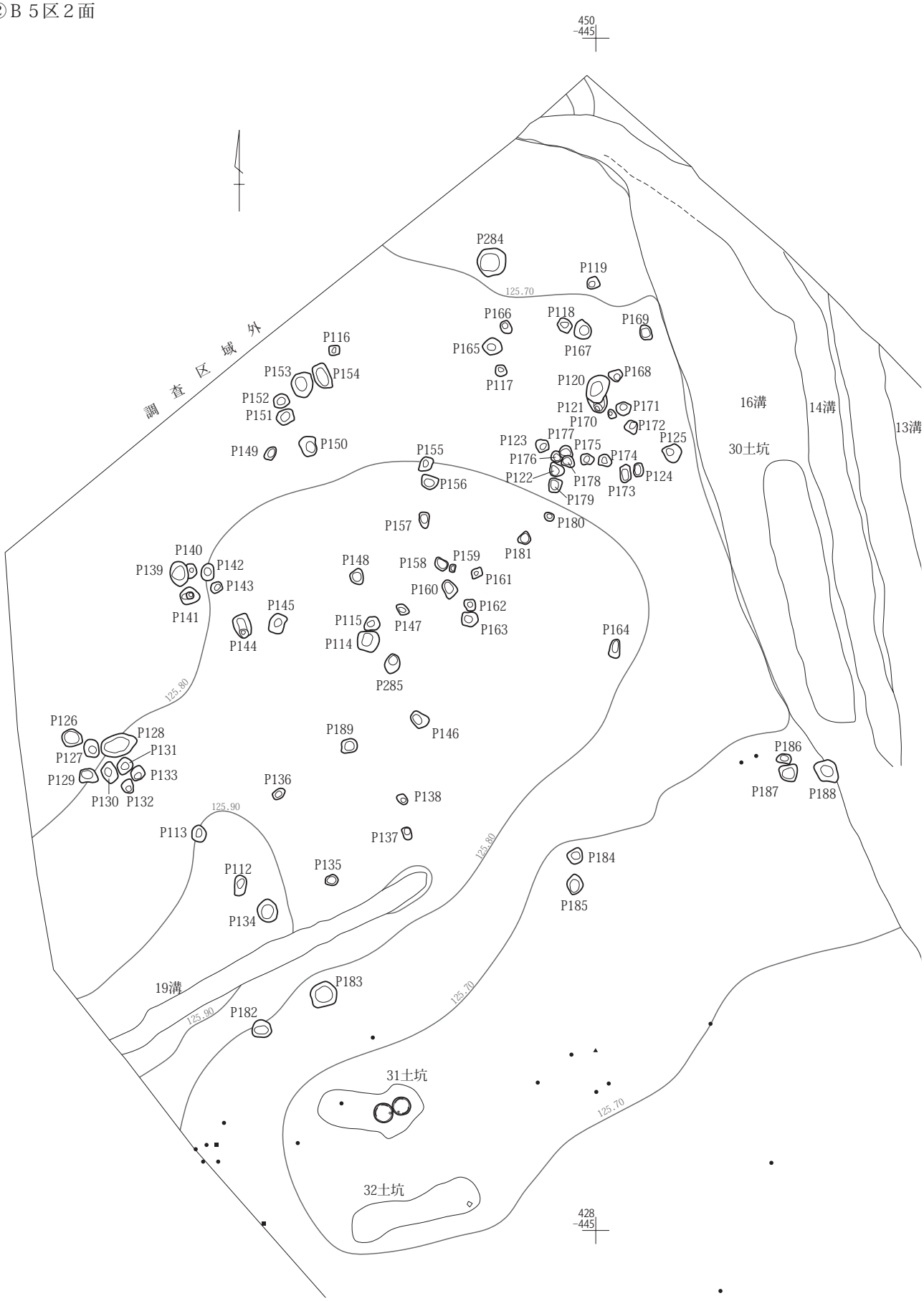
第46図　Ｂ４・Ｃ１区１面　遺構外出土遺物



①Ｂ４区２面

第47図　Ｂ４区２面　北東部全体図

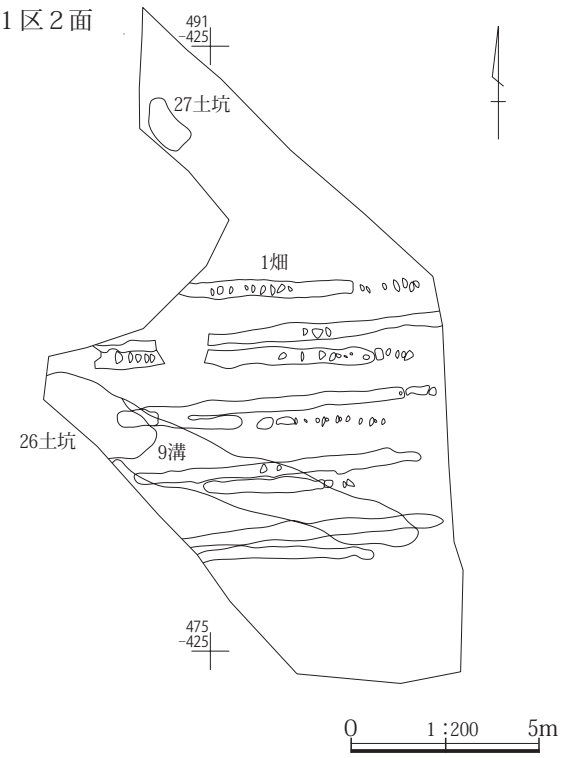
②Ｂ５区２面



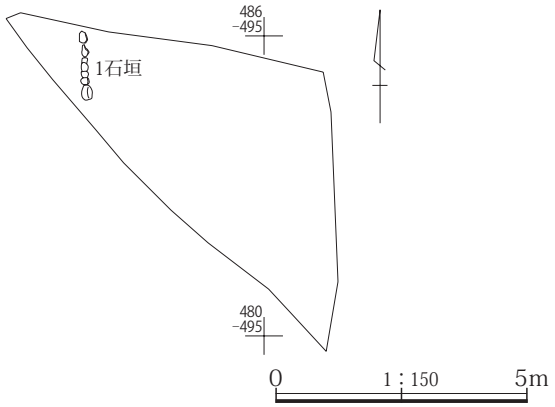
第48図　Ｂ５区２面　北西部全体図

0　1：100　5m

③Ｃ１区２面



③Ｃ４区２面



第49図　Ｃ１・４区２面　全体図

Ⅱ　中・近世〔第２面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層及び細粒軽石を含む暗褐色土の上、シルト質の黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、Ｂ・Ｃ区の２面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している、溝８条、畑１枚、井戸１基、土坑９基、ピット106基、石垣１基が検出された。遺構面の大半はシルト質の黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。遺構の検出状況から、微高地に建物が位置し周囲に堀が巡り、畑などの生産域が近くにある様相が想定できる。遺物は豊富ではなく一部下層からの流入もあるが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

１　Ｂ４・５区、Ｃ１・４区の遺構と遺物

（１）溝

本調査区の溝は、細ヶ沢川の旧流路の右岸と左岸に位置している。右岸の溝は、微高地に位置しており、屋敷に伴う溝であると思われる。溝付近には、ピットや土坑が確認されており、建物跡の様相を呈している。Ｂ５区の３・４号溝については、Ｂ４区の３・４号溝（１面）と繋がる可能性があるものの、同一施設としては不自然であることを指摘しておく。左岸の溝は、微高地にあり、畑の中に位置している。

埋没土にAs-Bを含むことが多く、Hr-FPを僅かに混入している。中・近世以降の溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

Ｂ５区３・４号溝（第50・51・53～55図　PL.18・50）

位置：409～438・-429～-437　Ｂ５区にある。　**規模**：長さ(28.8)ｍ×３号溝幅1.12～1.58m、４号溝幅3.25～4.65m　**残存深度**：３号溝0.4m、４号溝1.03m　**走行方位**：Ｎ－９°－W、Ｎ－65°－Ｅ　**遺物**：須恵器１点（椀(33)）、陶磁器・土器32点（京焼風碗１点（１）、陶胎染付碗１点（２）、染付碗１点（３）、碗１点（４）、呉器手碗１点（５）、尾呂碗２点（６・７）、折縁皿１点（８）、灯火皿１点（９）、皿３点（10・11・12）、菊皿１点（13）、染付皿１点（14）、京焼風皿１点（15）、盤類１点（16）、筒形香炉１点（17）、筒形香炉か鉢１点（18）、陶胎染付鉢１点（19）、鉢１点（20）、すり鉢３点（21・22・23）、鍋２点（24･25）、甕１点（26）、片口鉢１点（27）、焙烙４点（28・29・30・32）、内耳鍋１点（31））、石製品３点（砥石（35・36・37））、石造物１点（板碑片（39））、鉄製品１点（38）、縄文土器１点（深鉢（34））を図示した。なお、板碑片は、４号溝からの出土であった。非掲載遺物として、土師器（甕類６片、杯類16片）、須恵器（甕類１片、杯類３片）（４号溝）、石製品２点（砥石）、石造物２点（板碑片）が出土している。また、弥生土器（中期１片）が出土している。下層からの混入であると思われる。　**重複**：15号溝と重複しており、34号土坑に前出している。また、13・14・16号溝が、３・４号溝の北西角で３・４・15号溝に合流している。　**所見**：底部の溝３号溝は、黒褐色土で埋没している。砂層と粘土層の互層であり、鉄分が付着して

いる。４号溝部分の底部は、黒褐色土で埋没している。砂層と粘土層の互層で、礫を含んでいる。その後、明黄褐色土、黒褐色土、褐灰色土、にぶい黄橙色土、灰黄褐色土で埋没している。粘質土で、ロームブロックを含む。上部はHr-FPを含む。レンズ状に埋没しており、自然堆積であると思われる。南北に走行しており、北西隅でほぼ直角に東へ曲がり、調査区域外に続いている。溝の南北両端部の高低差を見ると、南が高く北が低い。東西両端部の高低差を見ると、西が高く東が低い。溝の断面形は基本的には、レンズ状で、底面は丸底である。幅は南部が広く北西の角がやや狭い。東に向けて再び広がる様相を呈する。残存深度は深く、明確な目的を持った施設であると考えられる。区画を呈している溝であると推測される。本溝は、土層や北西隅が直角に曲がる形状、及び溝の内側の微高地に土坑等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷堀の可能性がある。また、４号溝底部における３号溝の役割は、明瞭ではない。埋没土及び形状より、Ｂ４区１面の３・４号溝と繋がる可能性を示唆するが、南北方向の主軸方位が一致していないため、別施設を考えるほうが自然である。溝の形状・出土遺物及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

Ｃ１区９号溝(第52図　PL.18・50)

位置：477～482・-419～-429　Ｃ１区にある。　**規模**：長さ(10.64)ｍ×幅1.18～1.64ｍ　**残存深度**：0.35ｍ　**走行方位**：Ｎ―70°―Ｗ　**遺物**：鉄製品１点(１)を掲載した。**重複**：１号畑、26号土坑と重複している。土層から、９溝より26号土坑が古く、９溝より１号畑が新しいと考える。　**所見**：黄褐色土、明黄褐色土、暗褐色土で埋没していた。ロームブロック、Hr-FPを含む。形状はほぼ直線であり、東南東から西北西に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。溝の東西両端部の高低差を見ると、西が高く東が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅はほぼ一定であるが、南部ほど狭くなり消滅している。残存深度はやや浅い。同一面では、走行が、平行及び垂直の関係を呈する溝が確認できないため、区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等を明確にすることはできなかった。溝の形状及び埋没土等より、中･近世以降の溝であると推察される。

Ｂ５区13号溝(第50・51・55図　PL.19・51)

位置：436～445・-438～-441　Ｂ５区にある。　**規模**：長さ(8.25)ｍ×幅0.71～0.79ｍ　**残存深度**：0.29ｍ　**走行方位**：Ｎ―９°―Ｗ　**遺物**：須恵器１点(碗(40))を掲載した。**重複**：３・４・14・15・16号溝と合流している。　**所見**：主に褐色土及び暗褐色土で埋没していた。シルトブロック及びHr-FPを含む。ほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。14・16号溝と合流した後、３・４号溝の北西隅に流れ込んでいる。溝の南北両端部の高低差を見ると､北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅は、合流するまでほぼ一定である。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は３・４・14・15・16号溝と一致しており、３・４号溝の東方向の走行とは垂直に交わる。区画を呈している可能性がある。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

Ｂ５区14号溝(第50・51図　PL.19)

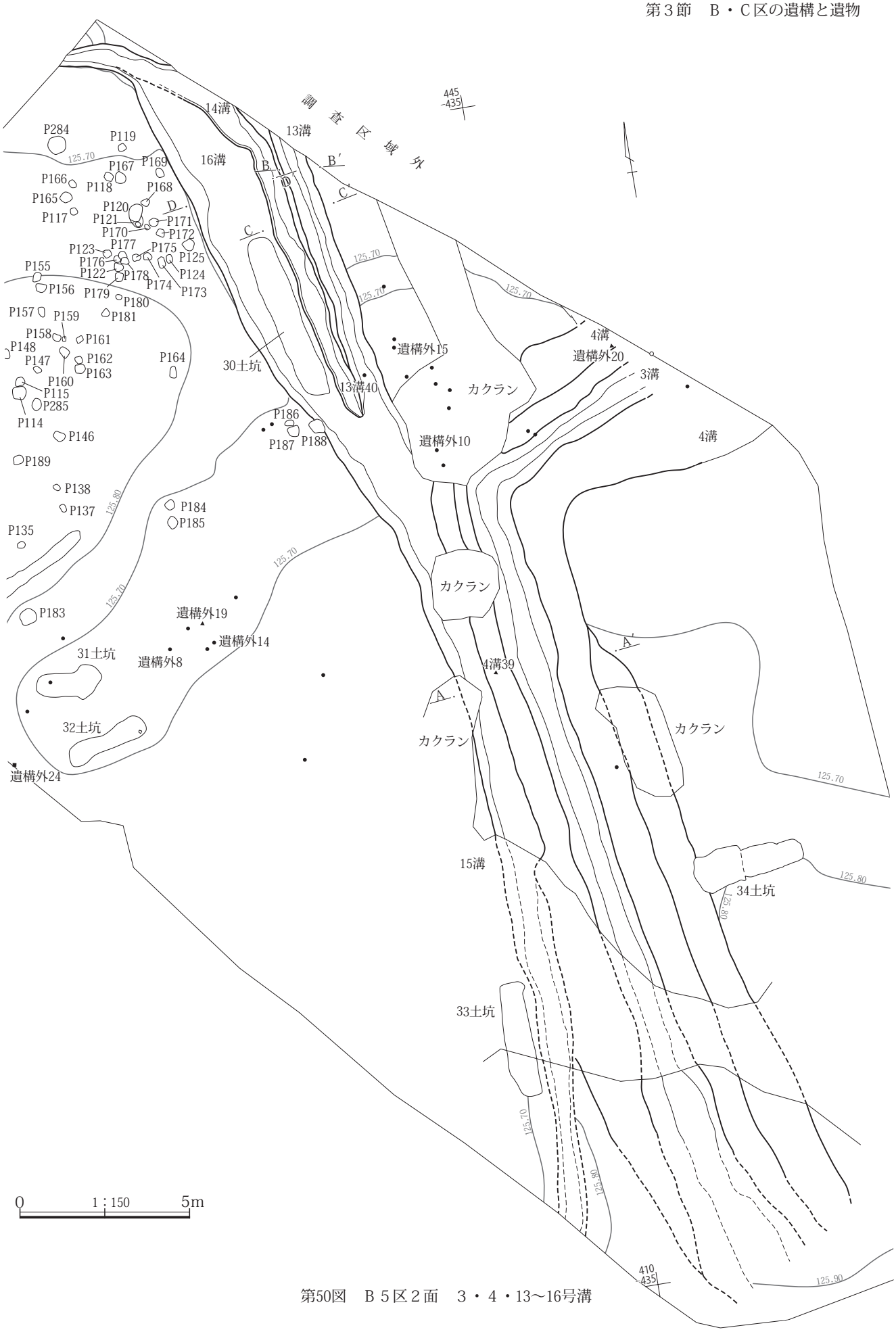
位置：437～448・-439～-447　Ｂ５区にある。**規模**：長さ(14.95)ｍ×幅0.48～0.78ｍ　**残存深度**：0.27ｍ　**走行方位**：Ｎ―11°―Ｗ(一部)　**遺物**：非掲載遺物として、土師器(杯類１片)が出土している。　**重複**：16号溝と重複しており、３・４・13・15号溝と合流している。土層より14号溝が16号溝より新しい。　**所見**：主に暗褐色土で埋没していた。シルトブロック及びHr-FPを含む。西から弧を描き、13号溝と並走しながら北北西方向から南南東方向に走行している。傾斜方向に平行に流れる。16号溝に沿うように後出しており、13号溝と合流した後、３・４号溝の北西隅に流れ込んでいる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は整っていない。幅は、弧を描く前は狭いが、13溝と並走と同時に一定を呈する。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は３・４・13・15・16号溝と一致しており、３・４号溝の東方向の走行とは垂直に交わる。区画を呈している可能性がある。この溝の機能等は、土層や西側の微高地に対して北東隅がほぼ直角に曲がる形状、及び微高地に土坑やピット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷堀を補完する可能性が指摘できる。また、16号溝に付属しているこ

とから、16号溝をより有効に機能させる役割を持っていたと推察される。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

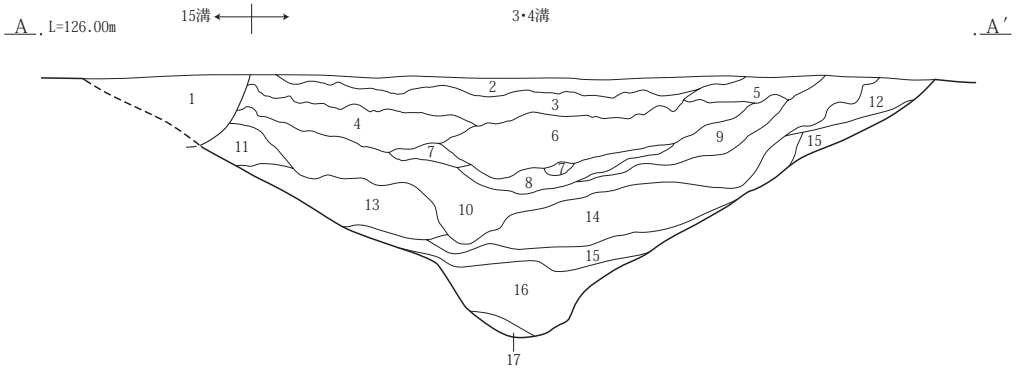
Ｂ５区15号溝(第50・51・55図　PL.18・19・51)
位置：436～439・-412～-434　Ｂ５区にある。　**規模**：長さ(21.90)ｍ×幅0.94～1.22ｍ　**残存深度**：0.37ｍ　**走行方位**：Ｎ―３°―Ｗ　**遺物**：陶磁器１点(皿(41))を図示した。　**重複**：３・４号溝と重複しており、13・14・16号溝と合流している。土層より15号溝が３・４号溝より新しい。　**所見**：主に褐灰色土で埋没していた。ほぼ直線であり南北に走行している。傾斜方向に平行に流れる。３・４号溝に沿うように後出しており、13・14・16号溝と３・４号溝の北西隅で合流している。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅は、狭いが一定である。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は３・４・13・14・16号溝と一致しており、３・４号溝の東方向の走行とは垂直に交わる。区画溝を呈している可能性がある。また、３・４号溝に付属していることから、３・４号溝をより有効にいかす役割を持っていたと推察される。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

Ｂ５区16号溝(第50・51図　PL.19)
位置：433～448・-438～-444　Ｂ５区にある。**規模**：長さ(14.95)ｍ×幅1.10～2.06ｍ　**残存深度**：0.32ｍ　**走行方位**：Ｎ―18°―Ｗ(一部)　**遺物**：認められない。
重複：14号溝と重複しており、３・４・13・15号溝と合流している。土層より14号溝が16号溝より新しい。30号土坑に前出している。　**所見**：主に灰褐色土で埋没していた。砂質層を呈している。西から14号溝とともに弧を描き、13号溝と並走しながら北北西方向から南南東方向に走行している。傾斜方向に平行に流れる。14号溝に沿うように前出しており、13号溝と合流した後、３・４号溝の北西隅に流れ込んでいる。溝の南北両端部の高低差を見ると､北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、レンズ状で、底面は平底である。幅は、弧を描く前は狭いが、中盤で広がり13・14溝と並走し合流地点では再び狭くなる。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は､３・４・13・14・15号溝と一致しており、３・４号溝の東方向の走行とは垂直に交わる。区画を呈している可能性がある。この溝の機能等は、土層や西側の微高地に対して北東隅がほぼ直角に曲がる形状、及び微高地に土坑やピット等屋敷の痕跡を思わせる周囲の状況等より、屋敷堀を補完する可能性が指摘できる。また、14号溝を伴っていることから、機能を強化していったと推察される。溝の形状及び埋没土等より、中・近世以降の溝であると推察される。

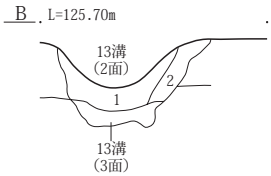
Ｂ５区19号溝(第52図　PL.19)
位置：432～435・-448～-454　Ｂ５区にある。　**規模**：長さ(6.55)ｍ×幅0.32～0.50ｍ　**残存深度**：0.28ｍ　**走行方位**：Ｎ―61°―Ｅ　**遺物**：認められない。　**重複**：認められない。　**所見**：埋没土は、暗褐色土であり、白色粒子、黄橙色砂粒を含む。ほぼ直線であり、西南西方向から東北東方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。西部は調査区域外にあり、東部は途中で消滅しており、その先は確認できない。溝の東西両端部の高低差を見ると､西が高く東が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平底である。幅は南部一定している。残存深度は西部が深く、東部にいくほど浅くなる。同一面上に、走行が一致する溝はない。屋敷跡と推定される遺構がある微高地に関連する14・16号溝に、ほぼ垂直に位置する。区画を呈している可能性がある。この溝の機能等は、屋敷内を仕切るものと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、中･近世以降の溝であると推察される。

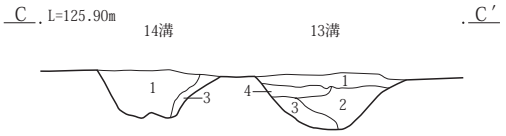


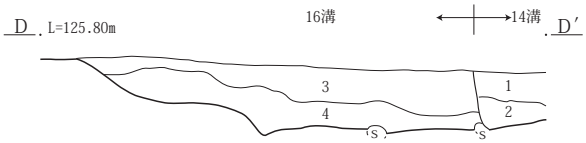
第50図　Ｂ５区２面　３・４・13～16号溝



３・４・15号溝　A-A′
1　褐灰色土(10YR5/1)
2　灰黄褐色土(10YR6/2)
3　灰黄褐色土(10YR6/2)　白色軽石含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色軽石含む。
5　灰黄褐色土(10YR5/2)
6　灰黄褐色土(10YR4/2)
7　にぶい黄橙色土(10YR7/3)　粘性土。
8　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性土。
9　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　粘性土。
10　黒褐～褐灰色土(10YR3/1～10YR4/1)
11　明黄褐色土(10YR6/8)
12　明黄褐色土(10YR7/6)
13　黒褐色土(10YR3/2)　粘質土。
14　明黄褐色土(10YR7/6)　鉄分凝集。
15　黒褐色土(10YR3/1)　粘質土。
16　黒色土(10YR2/1)　鉄分凝集。
17　黒色土(10YR2/1)　粘質土







13号溝　B-B′
1　暗褐色土(7.5YR4/3)　Hr-FP細粒少量、シルト含む。
2　暗赤褐色土(5YR3/2)　シルト含む。

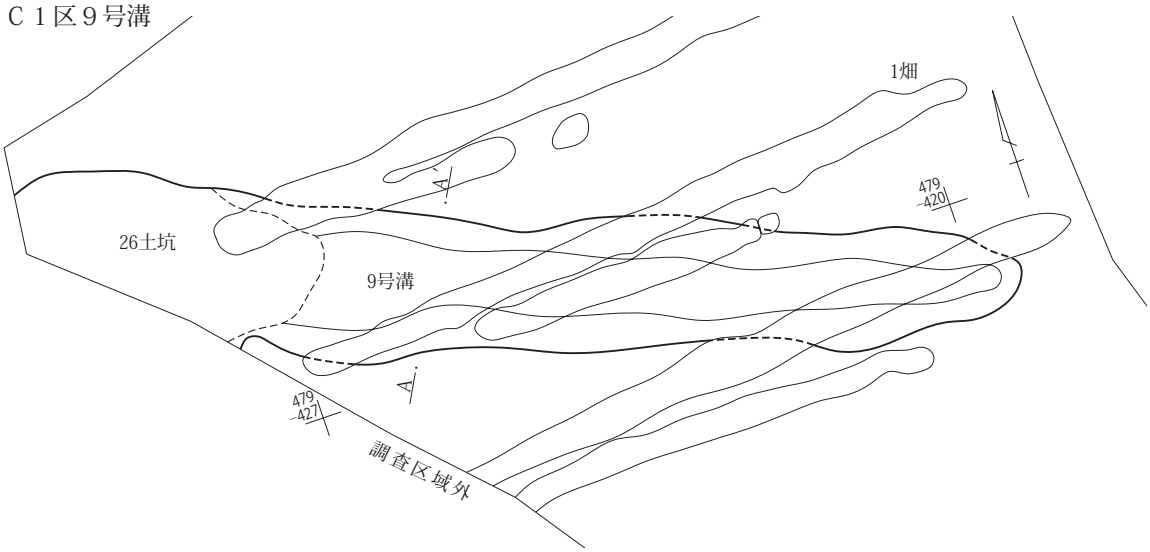
13・14号溝　C-C′
1　暗褐色土(7.5YR3/3)　径２～３㎜のHr-FP粒を少量含む。
2　褐色土(7.5YR4/3)　径２～３㎜のHr-FP粒を少量含む。シルト含む。
3　暗褐色土(5YR3/2)　シルト含む。
4　灰褐色土(5YR4/2)　シルトブロック含む。

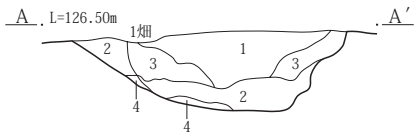
14・16号溝　D-D′
1　黄褐色土(10YR5/6)　砂主体。Hr-FP粒多量含む。
2　明褐色土(10YR3/4)　砂多量、Hr-FP粒僅か含む。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　砂質土。
4　黄褐色土(7.5YR5/6)　黄褐色砂ブロック少量含む。

0　1:40　1m

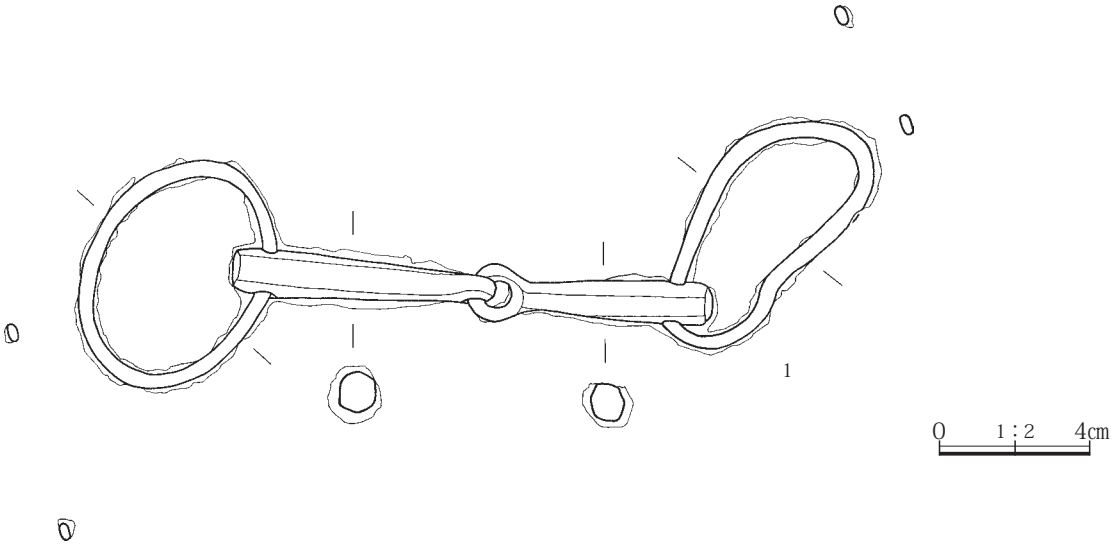
第51図　Ｂ５区２面　３・４・13～16号溝断面

Ｃ１区９号溝

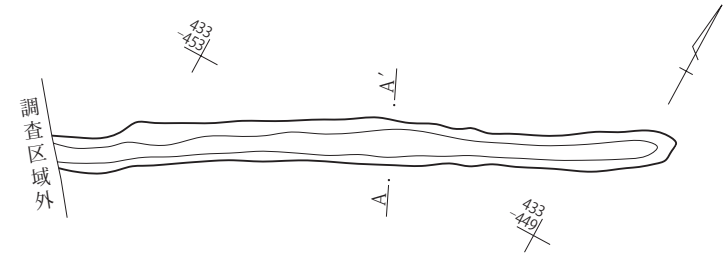


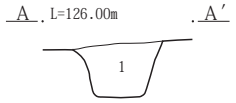


９号溝　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子多量、黄橙色砂粒少量、Hr-FP細粒僅か、褐色土塊少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　黄橙色土、Hr-FP粒少量含む。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　黄橙色砂粒多量、Hr-FP細粒僅か含む。
4　黄褐色土(10YR5/6)　黄橙色砂、黄橙色土少量含む。



Ｂ５区19号溝



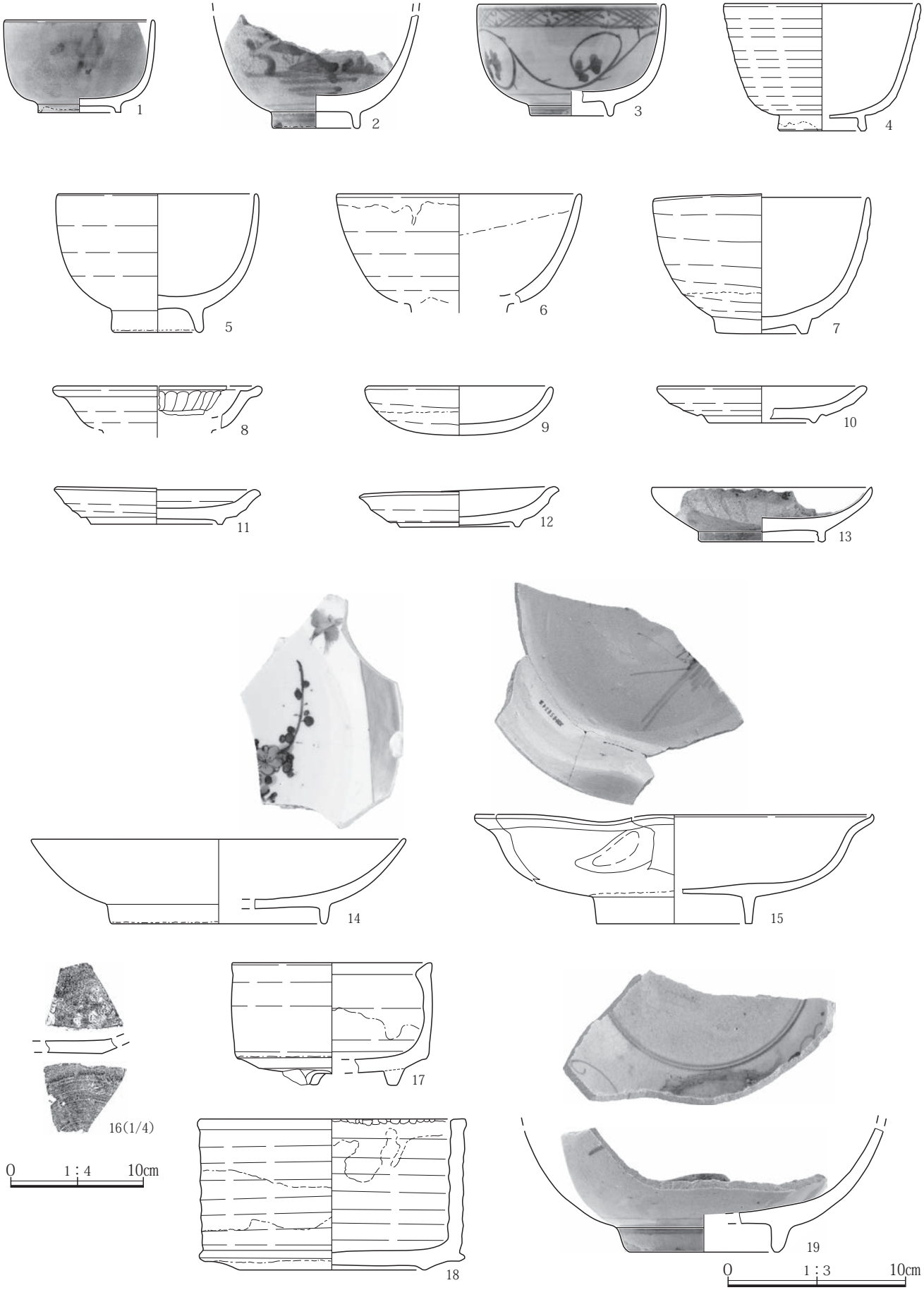


19号溝　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅か、黄橙色砂粒少量含む。

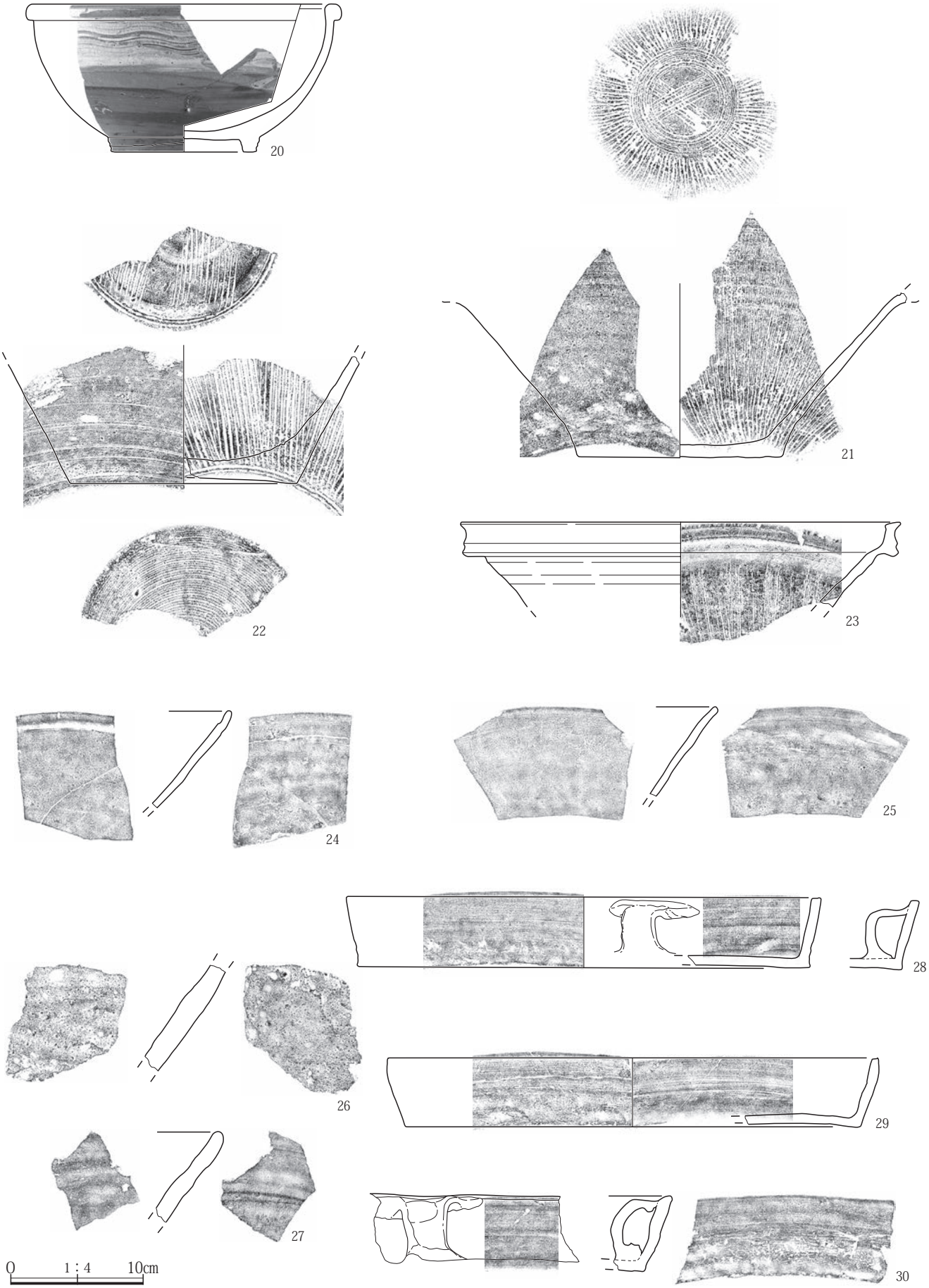
0　1:40　1m

0　1:80　2m

第52図　Ｃ１区２面　９号溝と出土遺物、Ｂ５区２面　19号溝



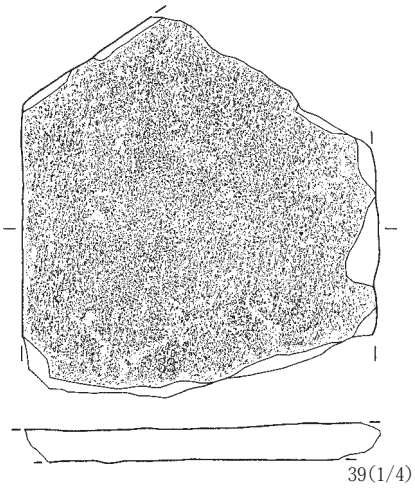
第53図　Ｂ５区２面　３・４号溝出土遺物（１）



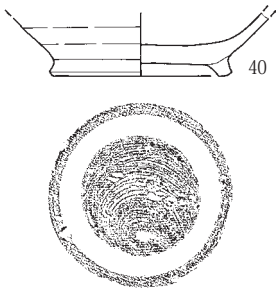
第54図　Ｂ５区２面　３・４号溝出土遺物（２）

３・４号溝出土遺物

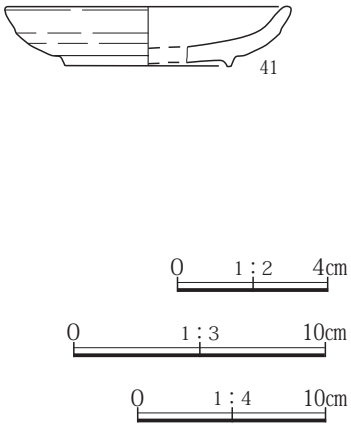
４号溝出土遺物



13号溝出土遺物



15号溝出土遺物



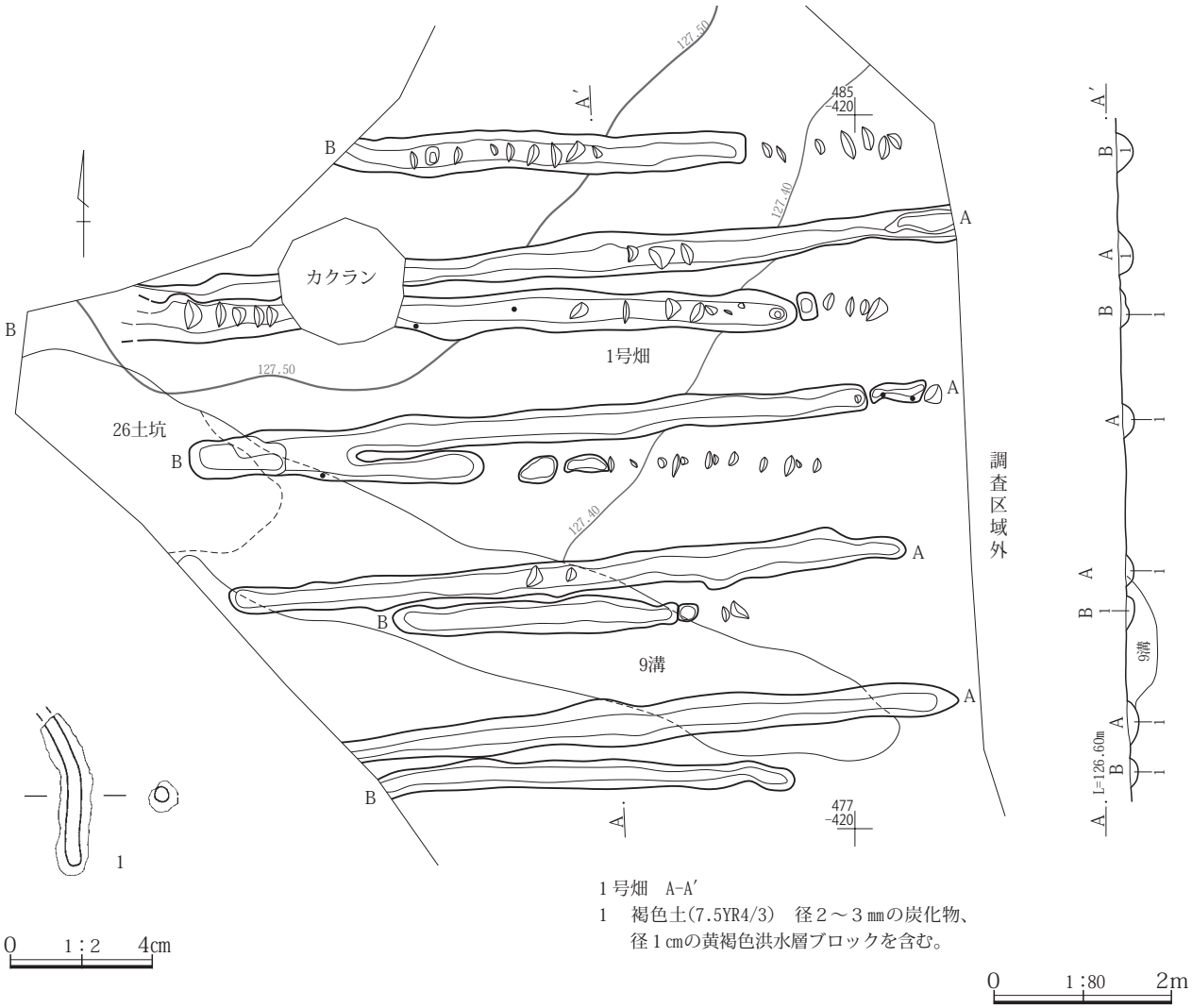
第55図　Ｂ５区２面　３・４号溝（３）、13・15号溝出土遺物

（２）畑

本調査区北、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地に位置している。周囲には溝や土坑が確認されている。サク間幅などから、２枚の畑が僅かな時間差で重なり合っていると推察される。互いのサク間幅は、ほぼ等しい。同一種類の作物の畑と推察される。検出範囲が狭いため、区画に関しては明瞭でない。また、近接する溝や土坑との関連は明瞭でない。

１号畑（第56図　PL.20・51）

位置：477～485・-418～-428　Ｃ１区にある。　**サク数**：耕作痕Ａ４条　耕作痕Ｂ５条　**規模**：耕作痕Ａ：(7.56～9.12)m×(5.72)m　耕作痕Ｂ：(3.96～8.44)m×(7.28)m　**残存深度**：耕作痕Ａ：0.09～0.16m　耕作痕Ｂ：0.08～0.09m　**サク間幅**：耕作痕Ａ：1.68～1.86m　耕作痕Ｂ：1.70～1.80m　**サク方位**：耕作痕Ａ：Ｎ―84°―Ｅ　耕作痕Ｂ：Ｎ―89°―Ｅ　**遺物**：鉄製品１点（１）を掲載した。　**重複遺構**：９号溝及び26号土坑に後出している。　**所見**：本畑は、耕作痕Ａと耕作痕Ｂの２面の耕作痕が重複する。埋没土は、褐色土である。炭化物と黄褐色土の洪水層ブロックを含む。削平が進んでおり出土範囲は狭い。重複している部分の耕作痕の切り合いから、耕作痕Ａが耕作痕Ｂより古いと思われるが、時期差はないと考える。サク方位は、ほぼ東西を示しており、微高地の傾斜方向に垂直に位置している。重複する２面の耕作痕はサク方位がややずれるものの、サク間幅は同じであり、同じ目的の畑であると思われる。９号溝及び26号土坑との関連は明瞭でない。畑の時期は、形状及び埋没土等から中・近世以降に位置付けられる。



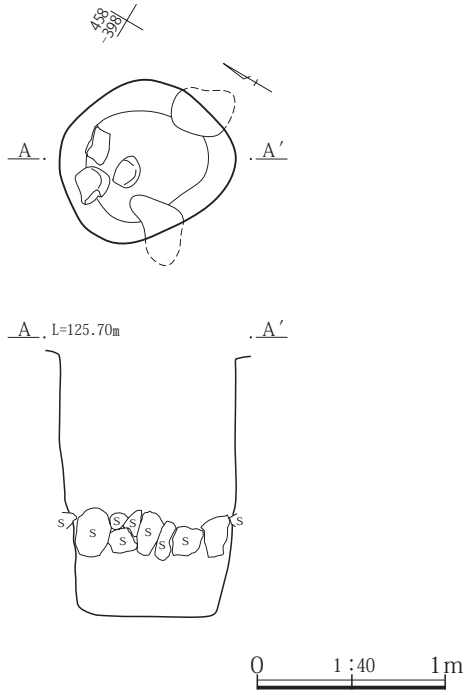
第56図　Ｃ１区２面　１号畑、出土遺物

（３）井戸

本調査区、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地の縁辺部に位置している。屋敷跡が想定されるピット群からみて、旧流路方向の限界にある。使用に際して合理的な位置にあると考える。

１号井戸（第57図　PL.21）

位置：457・-398　Ｂ４区にある。　**規模**：0.89m×0.79m　**残存深度**：1.40m　**遺物**：認められない。　**所見**：本井戸は、細ヶ沢川の旧流路による近世洪水層の下面まで掘削している。底面には湧水がみられた。近世洪水層砂層を含むシルト層によって埋没しており、埋没土中層には礫が多数入れられていた。遺構の確認は、上層の近世洪水砂層上面である。１面では、井戸の東側に土坑やピット群等、屋敷と推察される遺構が確認されており、南北方向に６・７号溝が掘削されている。１号井戸は、微高地の西部縁辺部に位置していたと推察される。井戸の途中に確認された配石は、湧水に関連する構築であると考えられ、以前から使用されていた可能性が想定できる。１号井戸の排水は、細ヶ沢の旧流路に関連していると推察される。よって、細ヶ沢の旧流路は近世洪水層の下面の時期までさかのぼると考えられる。



第57図　Ｂ４区２面　１号井戸

（４）土坑

Ｂ・Ｃ区の土坑（第58～60図　PL.22・23）

概要：Ｂ・Ｃ区２面では、９基の土坑を調査した。検出された位置は細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸に分けられる。細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地Ｂ５区には、屋敷に伴うと推察される溝の内外に観察できる。平面形は楕円形と隅丸長方形が多く、断面形は逆台形を呈している。隅丸長方形の土坑の方位は、互いに一致しているか直交している場合が多い。一方、細ヶ沢川の旧流路左岸の微高地Ｃ１区では、１号畑付近に確認できる。（詳細については第４表に記した。）

所見：Ｂ５区の土坑の埋没土は、暗褐色土であり、白色粒子、黄橙色砂粒、Hr-FPを僅かに含む。31・32号土坑は、旧流路右岸の屋敷跡と推定される区画にあり、遺物の様相から、関連施設が想定される。30・33・34号土坑は、屋敷跡と推定される区画の溝に重複または近接しており、溝に関わる施設の関連が想定される。Ｃ１区の土坑の埋没土は黒褐色土、暗褐色土、褐色土に洪水層のブロック砂が混入していることから、いずれも、周囲の遺構や、Ｂ４区の屋敷跡と推定される土坑やピットと時期差がないものであると思われる。26・27号土坑は、畑、溝と重複または近接しており、関連施設の可能性がある。

Ｃ１区26号土坑（第58図　PL.22）

位置：481・-428　Ｃ１区にある。

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：(3.28)×(1.37)m　**深度**：0.93m

主軸方位：N―52°―W

埋没土層：黒褐色土、明黄褐色土、暗褐色土、褐色土で埋没している。Hr-FP及び洪水層ブロックを含む。

重複：９号溝、１号畑に前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。ただし、９号溝の下に位置する規模の大きな土坑である。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構の関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｃ１区27号土坑(第59・60図　PL.22・51)
位置：488・-426　Ｃ１区にある。
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：1.44×0.71m　**深度**：0.17m
主軸方位：N―34°―W
埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含み、砂質である。
重複：なし
遺物：搬入系土器１点(二朱銀形土製品(１))、鉄製品３点(２・３・４)、銅製品１点(５)、古銭２点(６・７)を図示した。二朱銀形土製品はいわゆる銭形土製品である。群馬県内では、出土例の少ない貴重なものである。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｂ５区30号土坑(第59・60図　PL.23・52)
位置：440・-441　Ｂ５区にある。
形状：長楕円形である。断面形は半円形を呈する。底面は丸底である。
規模：5.00×0.87m　**深度**：0.49m
主軸方位：N―14°―W
埋没土層:暗褐色土で埋没している。Hr-FP､小礫を含む。砂質である。
重複：なし
遺物：須恵器１点(杯(８))、石製品１点(砥石(９))を掲載した。非掲載遺物として、土師器(杯類１片)が出土している。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｂ５区31号土坑(第59・60図　PL.23・52)
位置：430・-449　Ｂ５区にある。
形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：1.77×1.03m　**深度**：0.18m
主軸方位：N―79°―W
埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。
重複：なし
遺物：石製品２点(石臼10・11)を掲載した。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかったが、石臼が出土していることから、作業に関連する施設と思われる。時期は明らかにできなかったが、出土遺物、確認面、埋没土及び形状等から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。32号土坑等近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｂ５区32号土坑(第59図　PL.23)
位置：428・-448　Ｂ５区にある。
形状：長楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：2.43×0.47m　**深度**：0.27m
主軸方位：N―73°―E
埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。
重複：なし
遺物：認められなかった。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。31号土坑等近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｂ５区33号土坑(第59・60図　PL.23)
位置：417・-437　Ｂ５区にある。
形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。
規模：3.37×0.80m　**深度**：0.52m
主軸方位：N―２°―W
埋没土層：暗褐色土で埋没している。Hr-FP、小礫を含む。砂質である。
重複：なし
遺物：須恵器１点(椀(12))を掲載した。非掲載遺物として、土師器(甕類１片)が出土している。
所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明

らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中・近世以降の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｂ５区34a号土坑(第59図　PL.23)

位置：421・-431　Ｂ５区にある。

形状：隅丸長方形である。断面形、底面は不明である。

規模：1.48×1.10m　**深度**：不明

主軸方位：N―81°―E

埋没土層：不明である。

重複：34b・34c号土坑と重複している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、形状から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。重複する土坑は掘り直しのものと考えられる。近接する溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｂ５区34b号土坑(第59図　PL.23)

位置：421・-430　Ｂ５区にある。

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：〔2.47〕×1.10m　**深度**：0.32m

主軸方位：N―84°―E

埋没土層：暗褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

重複：34a号土坑と重複している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。重複する土坑は掘り直しのものと考えられる。近接する溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。

Ｂ５区34c号土坑(第59図　PL.23)

位置：421・-429　Ｂ５区にある。

形状：隅丸長方形である。断面形、底面は不明である。

規模：(0.63)×0.68m　**深度**：0.14m

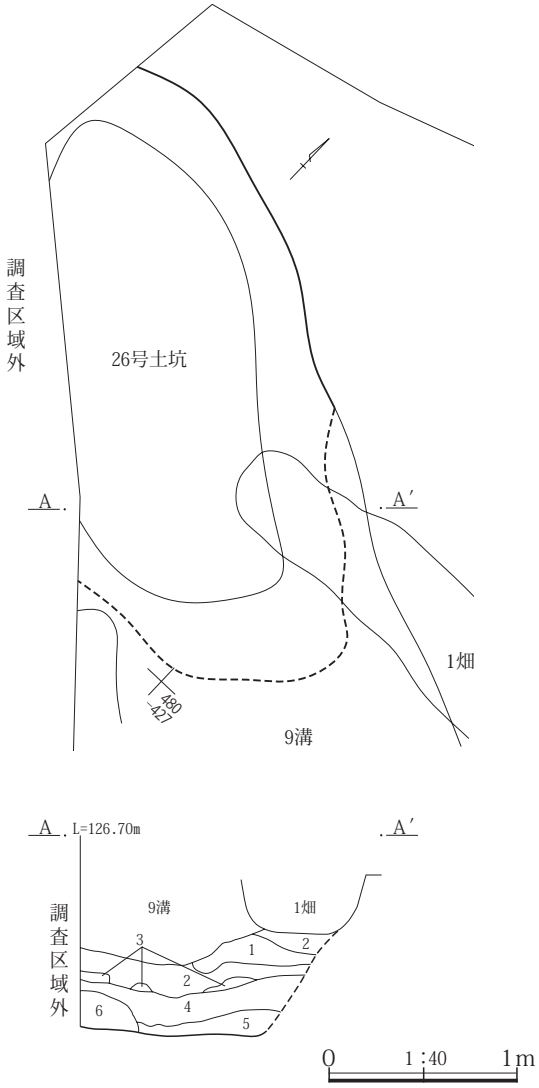
主軸方位：N―85°―E

埋没土層：不明である。

重複：34b号土坑と重複している。

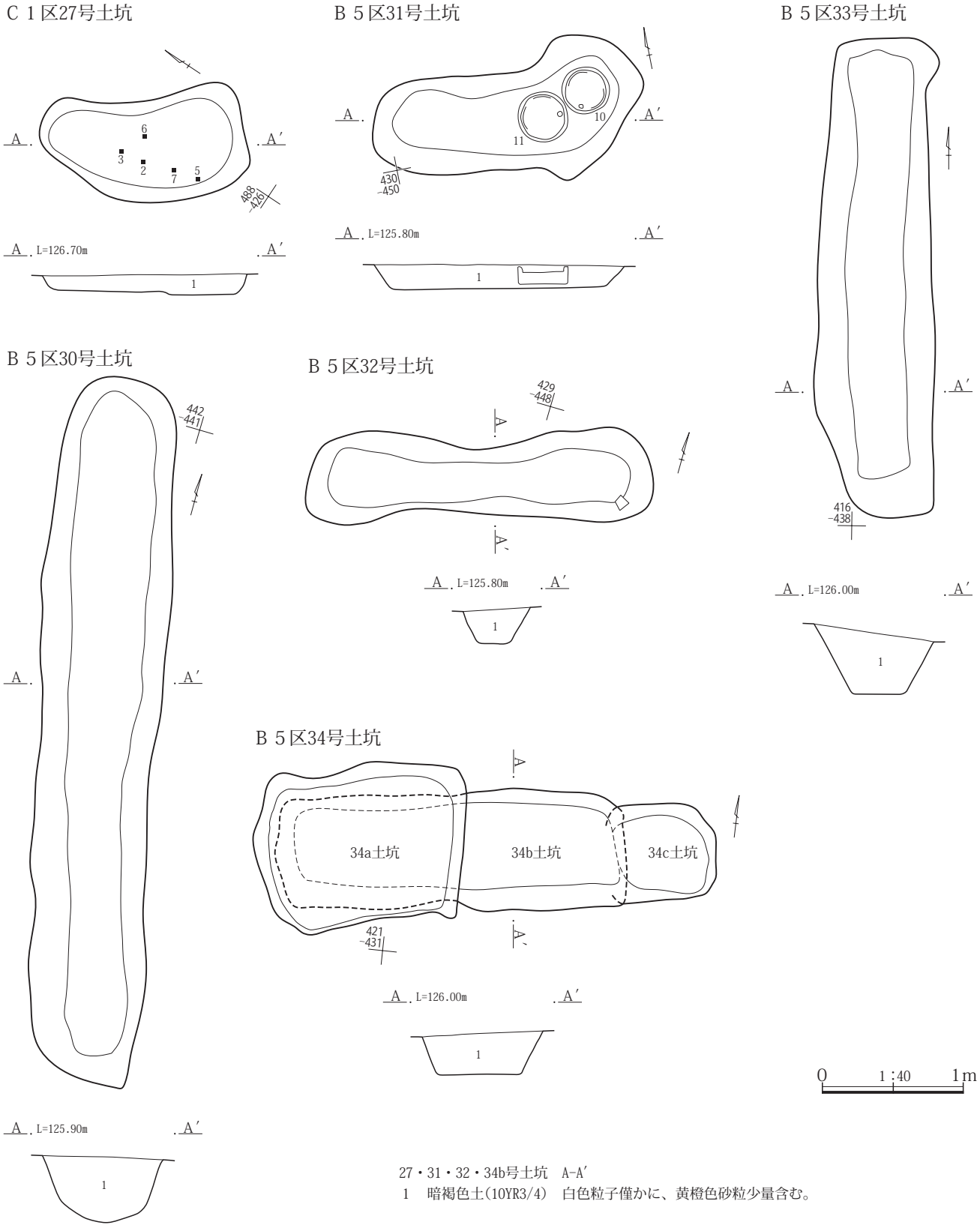
遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、形状から、おおむね近世以降の可能性を有すると思われる。重複する土坑は掘り直しのものと考えられる。近接する溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。



26号土坑　A-A′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂粒、Hr-FP含む。
2　明黄褐色土(7.5YR5/6)　洪水層ブロック砂混じり。
3　明黄褐色土(10.5YR6/6)　洪水層ブロック。
4　暗褐色土(10YR3/3)　洪水層ブロック砂混じり。Hr-FP含む。
5　褐色土(7.5YR4/3)　砂、洪水層ブロック含む。
6　褐色土(7.5YR4/6)　洪水層ブロック多い。若干砂混じる。

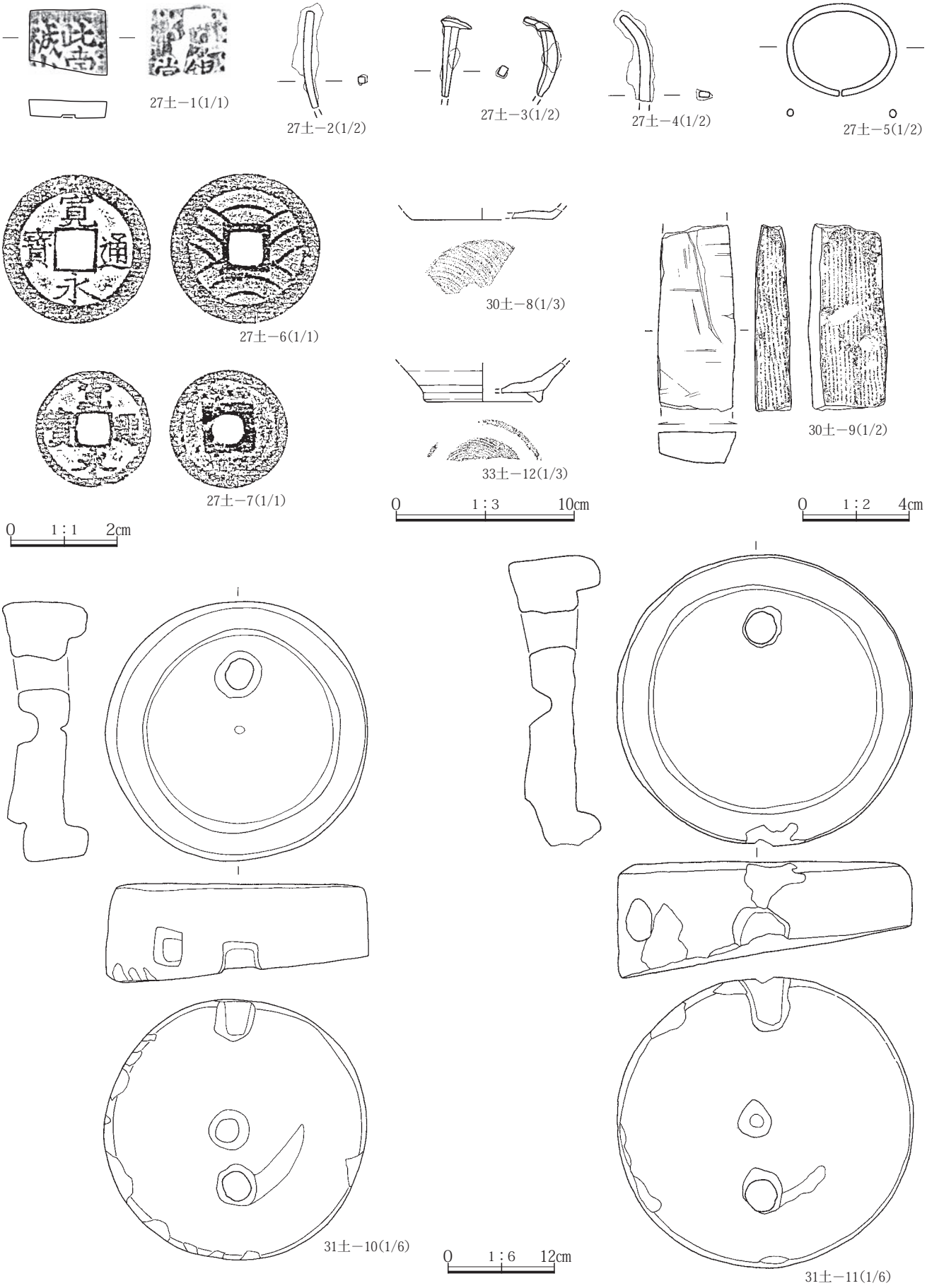
第58図　Ｃ１区２面　26号土坑



27・31・32・34b号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅かに、黄橙色砂粒少量含む。

30・33号土坑　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　Hr-FP粒少量、少量礫僅かに、黄橙色砂粒少量含む。

第59図　Ｃ１区２面　27号土坑、Ｂ５区２面　30～34号土坑



第60図　Ｂ５・Ｃ１区２面　土坑出土遺物

（５）ピット

Ｂ区のピット群（第47・48･61～63図　PL.24･25）

概要：Ｂ・Ｃ区の２面では、溝８条、畑１枚、井戸１基、土坑９基、ピット112基、石垣１基が検出された。114基のピットはＢ区から検出された。そのうち80基は、Ｂ５区で細ヶ沢川の旧流路の右岸の屋敷堀と推定される溝の内外にある。一方34基は、Ｂ４区で細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地の屋敷跡と推定される区画一帯にある。両調査区共に、ピット群の中には、建物の柱穴として可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。また、溝、土坑、石垣等周辺の遺構も微高地において屋敷を構成する要素である可能性が高いと思われる。旧流路右岸のピット群は、屋敷堀が推察される溝の内外に位置しているのに対して、旧流路左岸のピット群は、１面と同様に微高地に集中している。１面同様に旧流路の右岸と左岸で、屋敷の様相が異なっていると思われる。さらに、旧流路右岸の溝は、Ｂ４区１面の右岸の溝と関連する可能性があるものの別施設と考える。また、Ｂ５区における旧流路右岸の屋敷の構成はＢ４区まで広がる可能性が指摘できるのである。一方、旧流路左岸の屋敷跡と推定される遺構の近くでは井戸が確認されている。また、Ｃ１区の２面では、畑や石垣が検出されており、旧流路左岸の様相が推察される。ただし、屋敷の全体的な構成を具体的に指摘するだけの資料には欠けている。（詳細については第５表に記載した。）

Ｂ４区２面のピット群

位置：Ｂ４区においては、旧流路左岸の微高地に位置している。調査時には、１面のピットと重複しているものもあり、屋敷と推定される施設に関連があるものと推察できる。また、１面のピット群と同時期である可能性も否定できない。後世の洪水や耕作によって削平されているものの、人の活動が見て取れる。

重複：80号ピットが79号ピットに後出している。

規模形状：多くが小型で楕円形を呈する。これらのピット群は、建物の柱穴である可能性も否定できないが、建物の復元には至らなかった。

埋没土：Ｂ４区のピット群は、主に明黄褐色土で埋没しており、黄橙色砂が主体であり白色粒子を僅かに含む。砂質主体であり、洪水の影響を受けたと推察される。

その他：柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、87号ピットがあげられる。

・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性が高いものとして、103号ピットがあげられる。

・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、79・80、102・103号ピットがあげられる。

・同じ規模または同じ形状のピットが等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性があるものとして、77・78、99・100、98・101・103、81・84・85、97・87・94号ピットがあげられる。

・柱の元を固めた様相が伺え、柱穴であった可能性があるものとして、94号ピットがあげられる。

・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性があるものとして、77・78号ピットがあげられる。

遺物：95号ピットにおいて非掲載遺物として、土師器（甕類１片）が出土した。

所見：埋没土は砂質であり、洪水の影響を受けていると考えられる。中世から近世にかけて比定される。屋敷の施設に関連する可能性が高い。

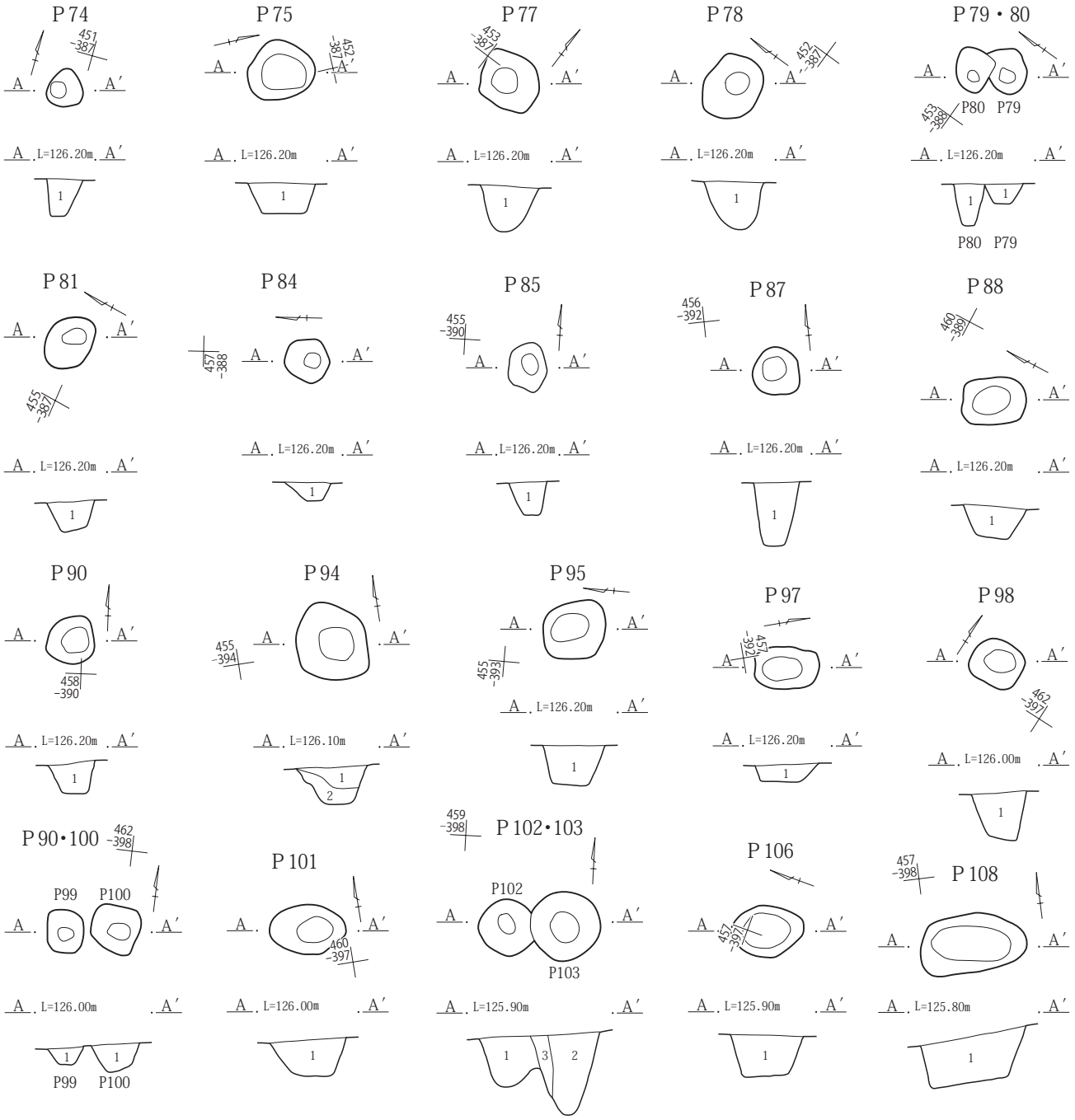
74・84・85・87・88・90・95・99・100号ピット　A-A′
1　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　黄橙色砂・褐色土少量含む。

75・77～81・97・98号ピット　A-A′
1　明黄褐色土（10YR7/6）　黄橙色砂主体。

94号ピット　A-A′
1　明黄褐色土（10YR7/6）　黄橙色砂主体。
2　暗褐色土（10YR3/4）　白色粒子僅か、黄橙色砂粒少量含む。

101・106・108号ピット　A-A′
1　黒褐色土（10YR2/2）　白色粒子多量、黄橙色砂塊少量含む。

102・103号ピット　A-A′
1　暗褐色土（10YR3/3）　黒褐色土粒少量、白色粒子僅か、黄橙色砂粒少量含む。（102号ピット）
2　暗褐色土（10YR3/3）　白色粒子・黄橙色砂粒僅かに含む。（103号ピット）
3　暗褐色土（10YR3/4）　白色粒子僅か、黄橙色砂粒少量含む。（103号ピット）



第61図　Ｂ４区２面　ピット

Ｂ５区２面のピット群

位置：Ｂ５区においては、旧流路右岸の微高地に、土坑と共に位置している。屋敷の施設に関連する可能性が高く、堀と推察される溝に囲まれている。後世の洪水や耕作によって削平されているものの、人の活動が見て取れる。

重複：120号ピットが121号ピットに、177号ピットが176号ピットに、178号ピットが、177号ピットに188号ピットが16号溝に後出している。

規模形状：多くが小型で楕円形を呈する。これらのピット群は、建物の柱穴である可能性も否定できないが、復元には至らなかった。

埋没土：主に暗褐色土が主体で埋没しており、黄橙色砂粒、白色粒子を含む。砂質主体であり、洪水の影響を受けたと推察される。

その他：柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、113・119・123・125・146・150・153・172号ピットがあげられる。

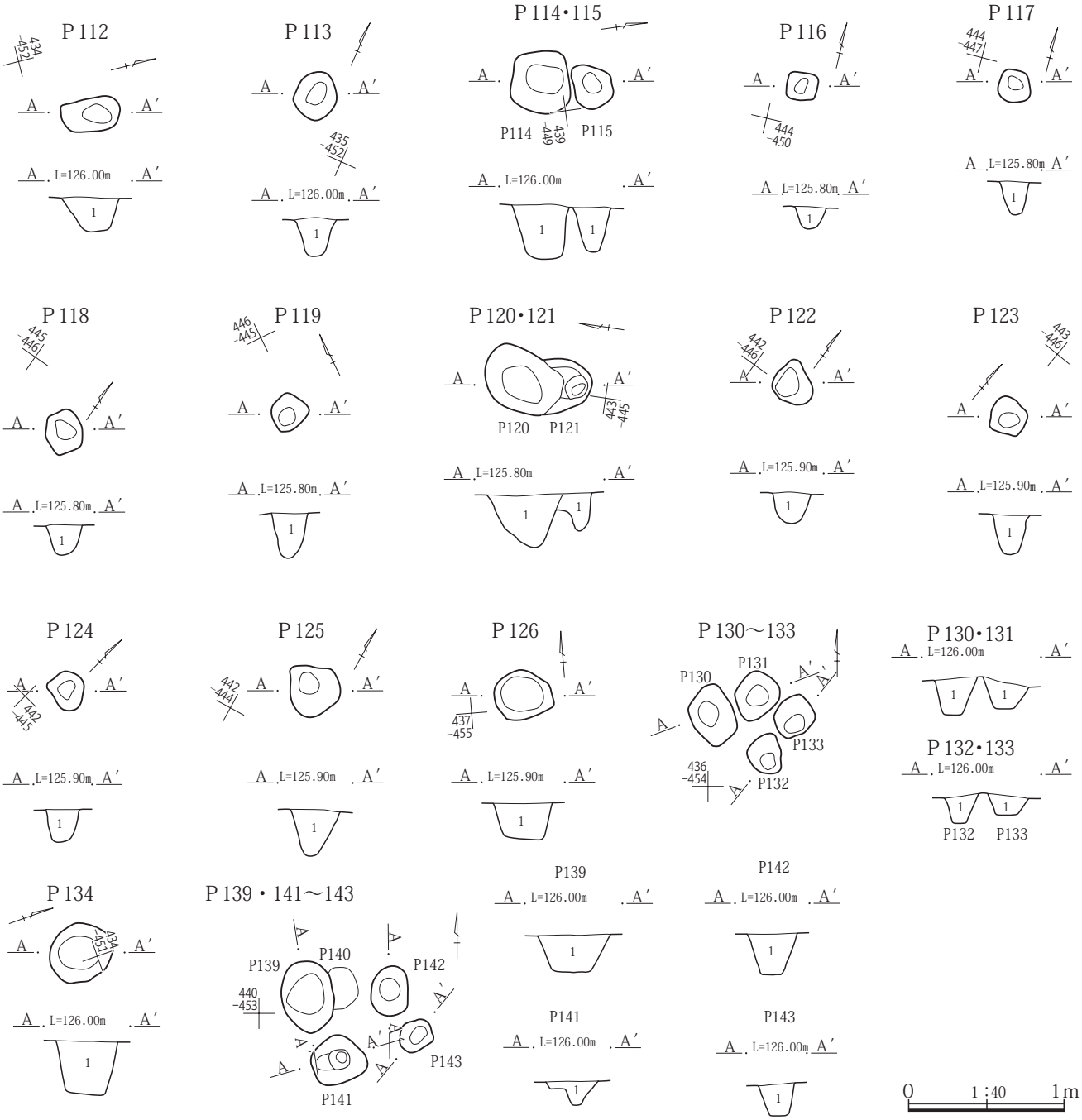
・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、120・121、141、144号ピットがあげられる。

・同じ規模または同じ形状のピットが平行または等間隔で並んでおり、住居に関連する造作の可能性があるもの として、114・115、122・168・166、130・131、132・133、151・152、155・156、158・159、162・163、171・172、173・174、184・185、186・187号ピットがあげられる。

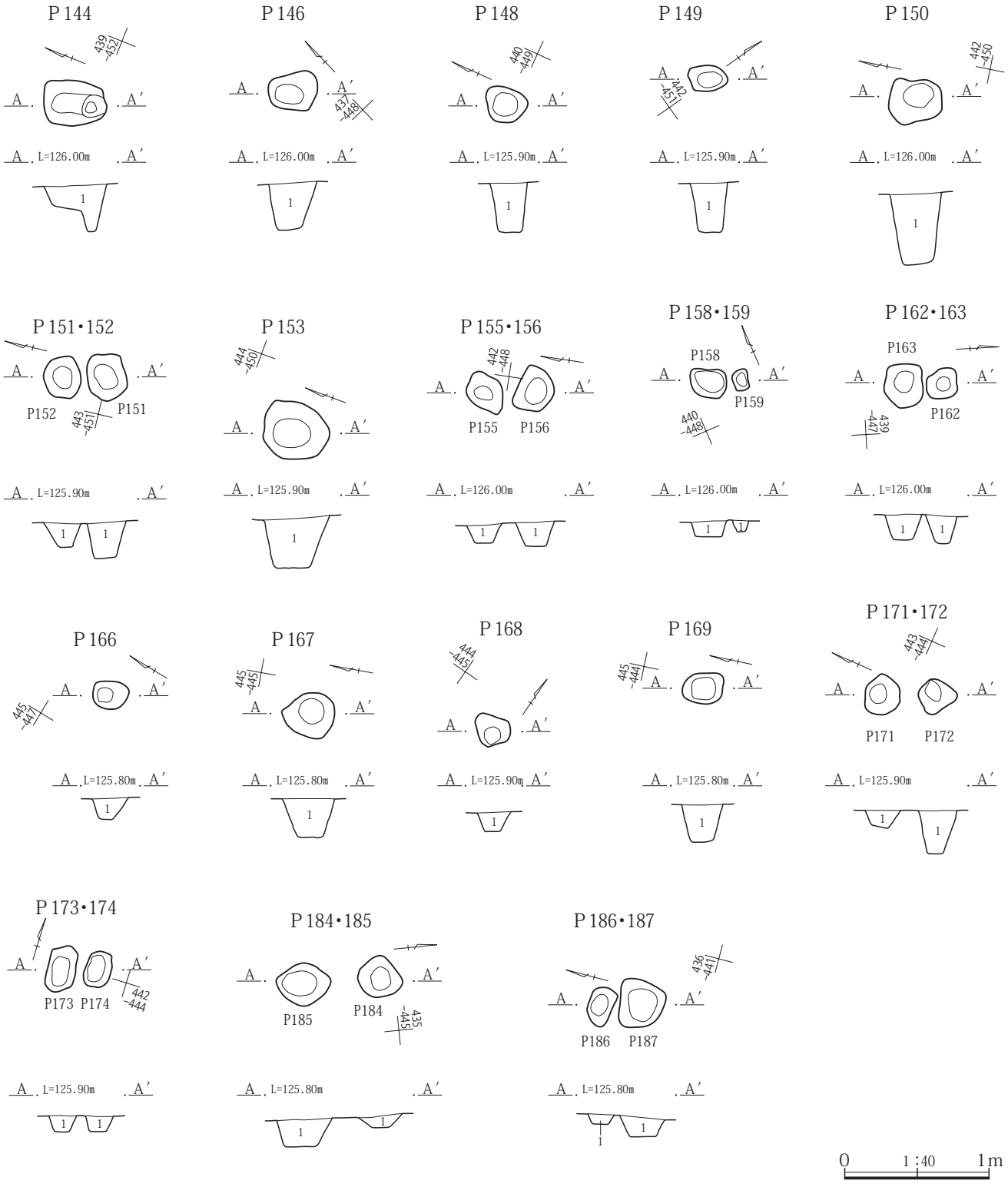
・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性があるものとして、112・116・117・118・122・124・143・148・151・167・169号 ピットがあげられる。

遺物：114号ピットから陶磁器１点(皿(１))を図示した。

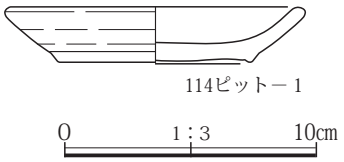
所見：埋没土は砂質であり、洪水の影響を受けていると考えられる。中世から近世にかけて比定される。屋敷と推定される施設に関連する可能性が高い。



第62図　Ｂ５区２面　ピット(１)



112～114・116・119・124・125・134・149・163・174号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)黄橙色砂粒僅かに含む。柱穴か？
115・117・118・121・122号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子僅かに、黄橙色砂粒少量含む。
120号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　暗褐色土と黄橙色砂の互層。
123・126・130～133・139・141～144・146・148・150・152
・153・155～159・162・166～169・171～173・184～187号ピット　A-A′
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅かに、黄橙色砂粒少量含む。



第63図　Ｂ５区２面　ピット（２）、出土遺物

（６）石垣

調査区西端ほぼ南北に走行する石垣が検出された。外側に向けて面をそろえて配置しているなど丁寧な所作がなされている。石組の裏込めについては明瞭でない。屋敷の区画の意味があったと考えられる。

１号石垣（第64図　PL.26）

位置：484～486・-498～-499

形状：壁状、１～２段

規模：(1.36)×0.21m　**高さ**：不明

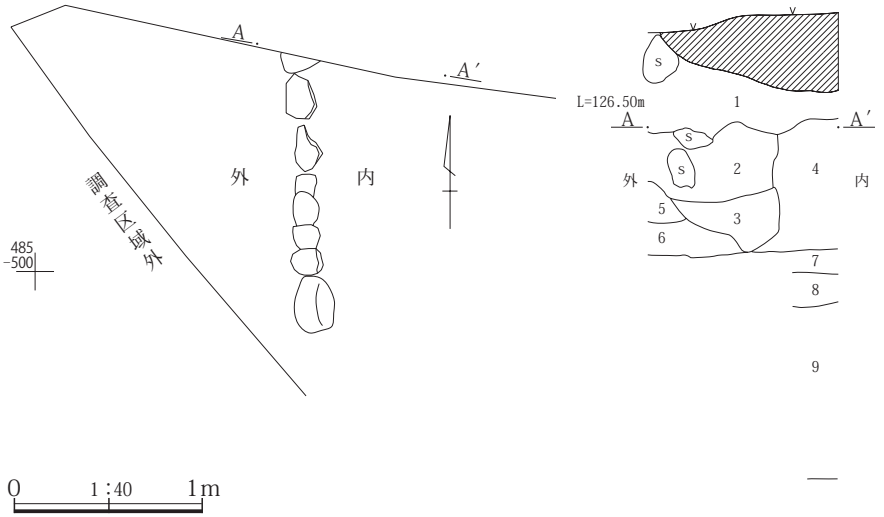
方位：N―３°―W

埋没土層：石垣造成以前は、暗褐色が堆積しており、やや粘質で白色粒子を含む。石垣造成時は、褐色土が堆積しており砂質である。その後、現地表面である褐色土及び鈍い黄橙色土で埋没している。

重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：石垣の造成意図は、屋敷を区画する境界であったと思われる。石垣の面整い方から、西が外側、東が内側であると推察される。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世から近世以降の可能性を有すると思われる。



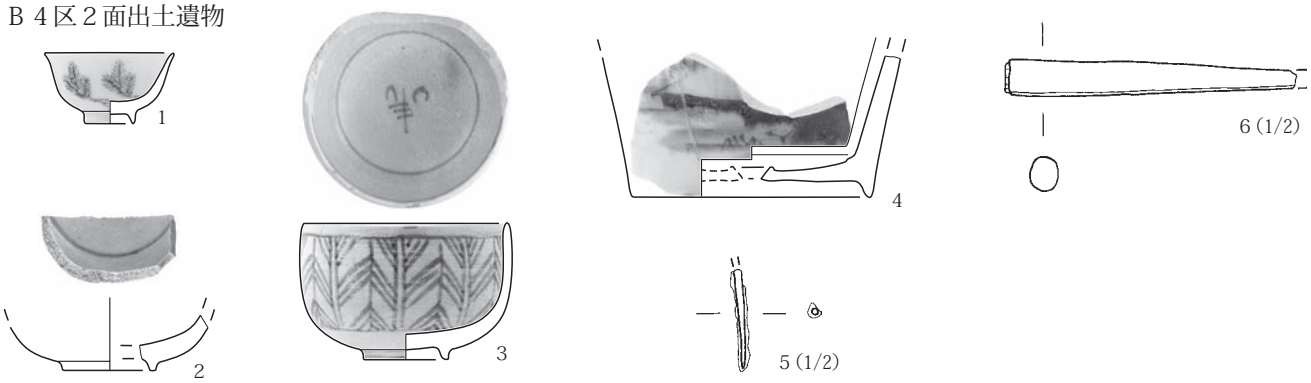
１号石垣　A-A′
1　褐色土(7.5YR4/3)　現地表面。砂利。
2　褐色土(7.5YR4/3)　砂少量含む。
3　褐色土(7.5YR4/4)　砂少量含む。
4　褐色土(7.5YR4/6)　５層をブロック状に少量含む。
5　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子少量含む。
6　暗褐色土(10YR3/3)　シルト質土。
7　暗褐色土(10YR3/3)　砂利と小石の混在。
8　暗褐色土(10YR3/4)　砂・砂利主体。川の堆積物。
9　灰黄褐色土６(10YR5/2)　砂主体。鉄分付着。川の堆積物

第64図　Ｃ４区２面　石垣

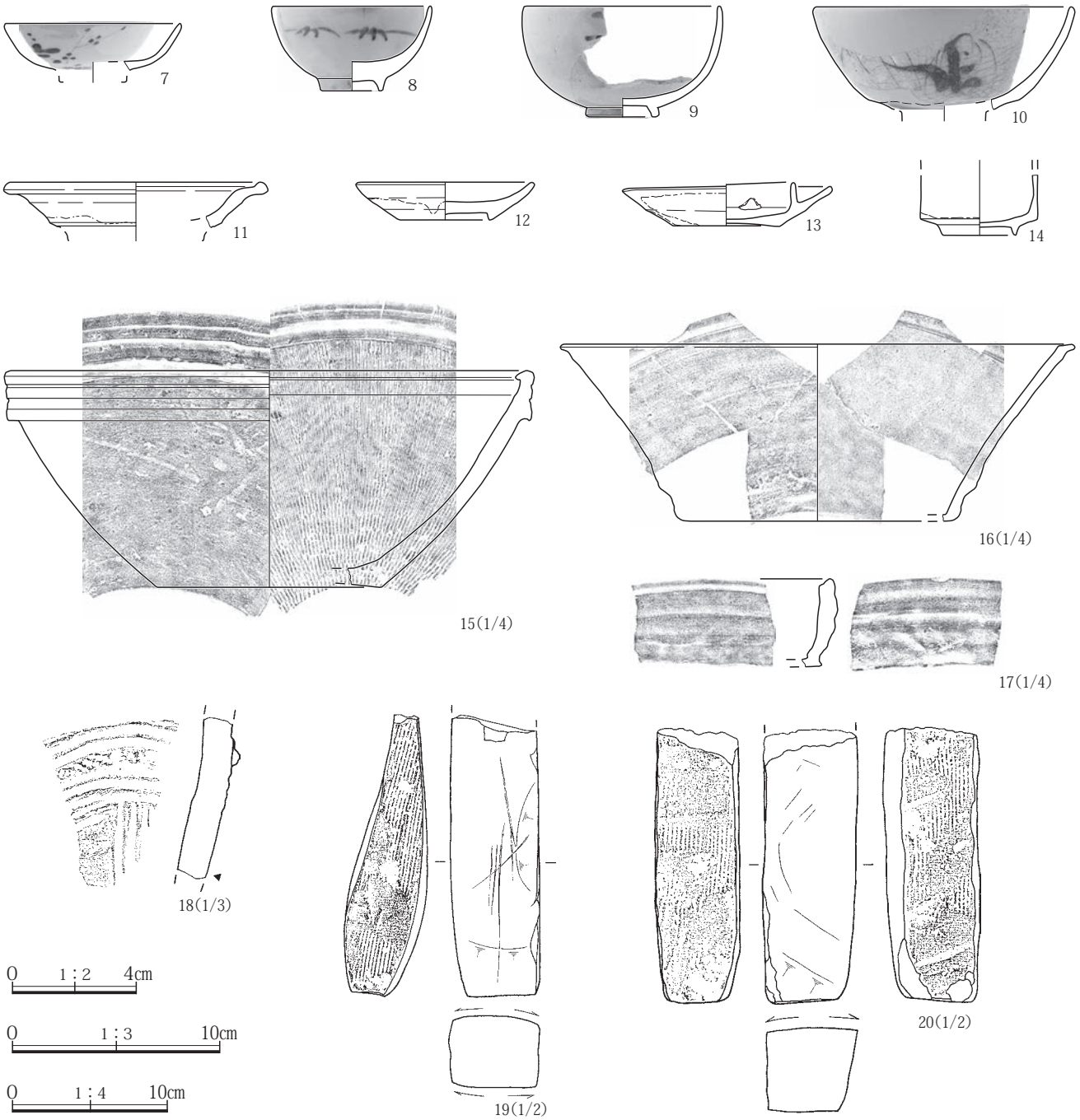
（７）遺構外出土遺物（第65・66図　PL.52）

Ｂ・Ｃ区２面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、Ｂ４区北東から、陶磁器４点（染付杯１点（１）、染付小丸碗２点（２・３）、染付植木鉢１点（４））、銅製品１点（６）、鉄製品１点（５）、Ｂ５区から陶磁器・土器11点（肥前磁器染付小碗１点（８）、鉄絵碗１点（９）、柳碗１点(10)、折縁皿１点(11)、灯火皿１点(12)、灯火受皿１点(13)、小香炉１点(14)、すり鉢１点(15)、鍋１点(16)、焙烙１点(17)、前橋藩窯磁器（染付小碗１点（７））、石製品３点（砥石２点(19・20)、碁石１点(21)）、銅製品１点（キセル(22)）、鉄製品１点(23)、古銭１点(24)、縄文土器１点（深鉢(18)）、Ｃ１区から土器１点（鉢(25)）、Ｃ４区から鉄製品１点(26)を掲載した。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、Ｂ４区北東から剥片石器１点（剥片）、土師器（杯類１片、甕類５片）、弥生土器（中期後半１片）が、Ｂ５区から、土師器（杯類７片、甕類４片）、須恵器（杯類４片、甕類２片）、石製品４点（砥石）、鉄製品１点、鉄滓１点、縄文土器（焼町土器１片）が、Ｃ１区から石製品１点（砥石）、鉄製品１点、木製品１点（櫛）が出土している。ただし、砥石、鉄製品は２面から３面にかけての出土である。

Ｂ４区２面出土遺物

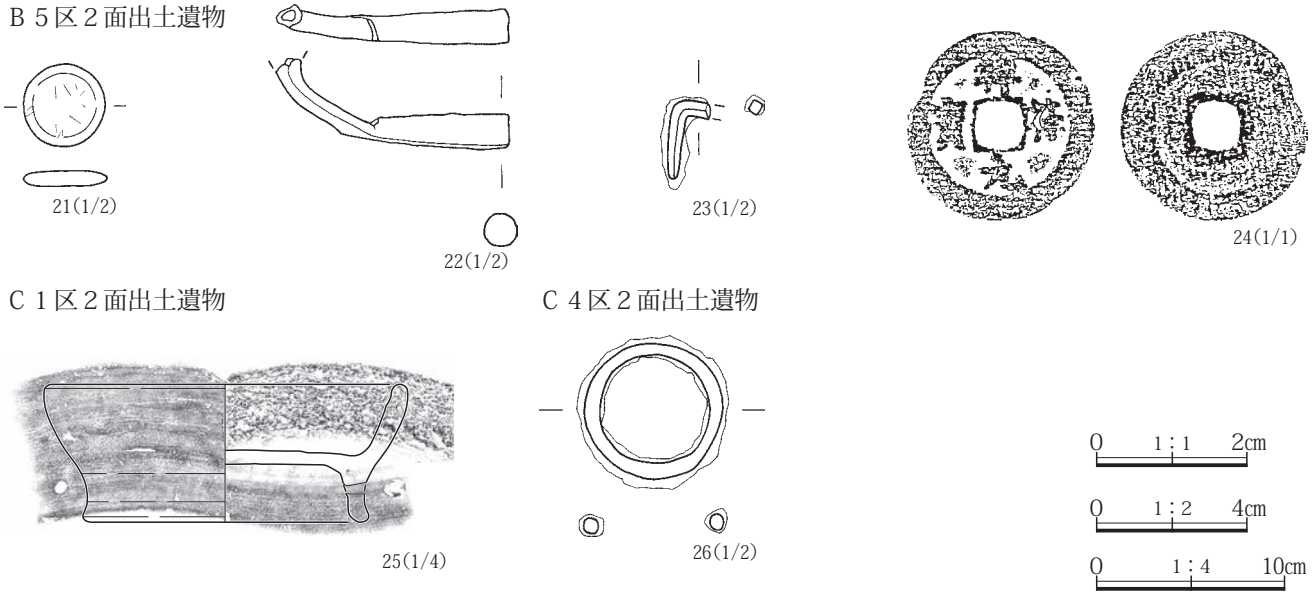


Ｂ５区２面出土遺物



第65図　Ｂ４・５区２面　遺構外出土遺物

Ｂ５区２面出土遺物

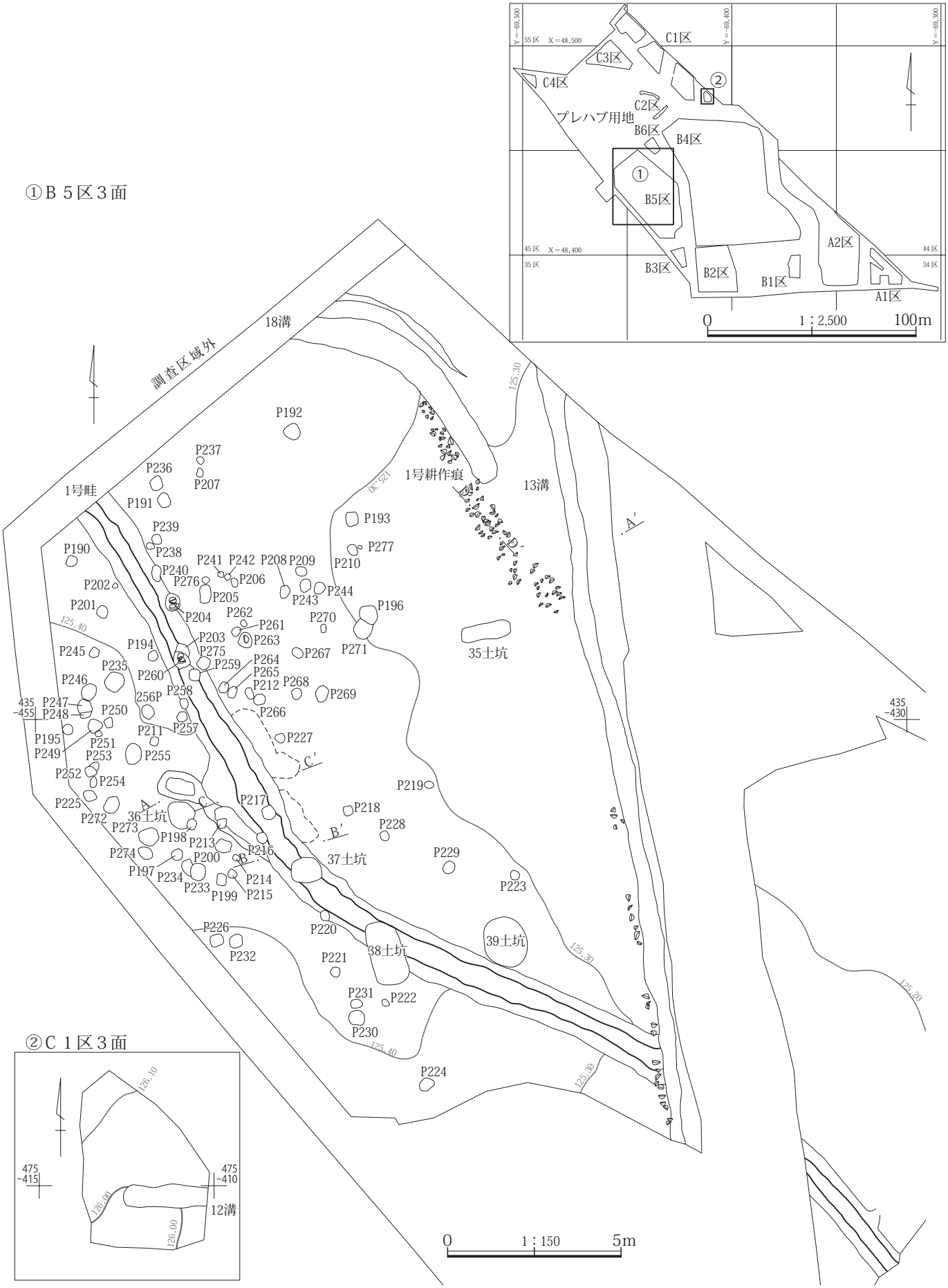


第66図　Ｂ５・Ｃ１・Ｃ４区２面　遺構外出土遺物

２　Ｃ２・３区の遺構と遺物

遺構や遺物は認められなかった。

①Ｂ５区３面



②Ｃ１区３面

第67図　Ｂ５・Ｃ１区３面　全体図

Ⅲ　古代〔第３面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層の上、細粒軽石を含む暗褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、Ｂ・Ｃ区の３面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している、溝３条、水田の畦１条、耕作痕１条、土坑５基、ピット88基が検出された。遺構面の大半は細粒軽石を含む暗褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響を受けていると考えられる。遺構の検出状況から、微高地に耕作の痕跡が残る生産の様相が想定できる。遺物は豊富ではないが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

１　Ｂ５区、Ｃ１区の遺構と遺物

（１）溝

本調査区の溝は、細ヶ沢川の旧流路の右岸と左岸に位置している。右岸の溝は、微高地に位置しており、屋敷が想定されるピット群や複数の土坑の旧流路側に位置している。これらの溝は傾斜方向に垂直に位置している。付近には、畦痕や耕作痕が散見される。左岸の溝は、微高地にあり、低地部へ向かって延びている。13･18号溝は埋没土に、Hr-FPを僅かに含む。古代から中世にかけての溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

Ｃ１区12号溝（第68図　PL.28）

位置：474・-410～-412　Ｃ１区にある。　**規模**：長さ(2.40)ｍ×幅0.54～0.68m　**残存深度**：0.18m　**走行方位**：Ｎ―88°―Ｅ　**遺物**：認められない。　**重複**：認められない。**所見**：埋没土は、にぶい黄褐色土である。浅黄橙色砂ブロックを含み砂質である。ほぼ直線であり、東西に走行している。傾斜方向に垂直に延びる。東部は調査区域外にあり、西部は途中で消滅しており、その先は確認できない。溝の東西両端部の高低差を見ると、東が高く西が低い。溝の断面形は基本的には半円形で、底面は丸底である。幅はおよそ一定である。残存深度は浅い。同一面では、走行の一致する溝はない。区画の一部を構成していた可能性は低いと推察される。この溝の機能等は、用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、中世以前の溝であると推察される。

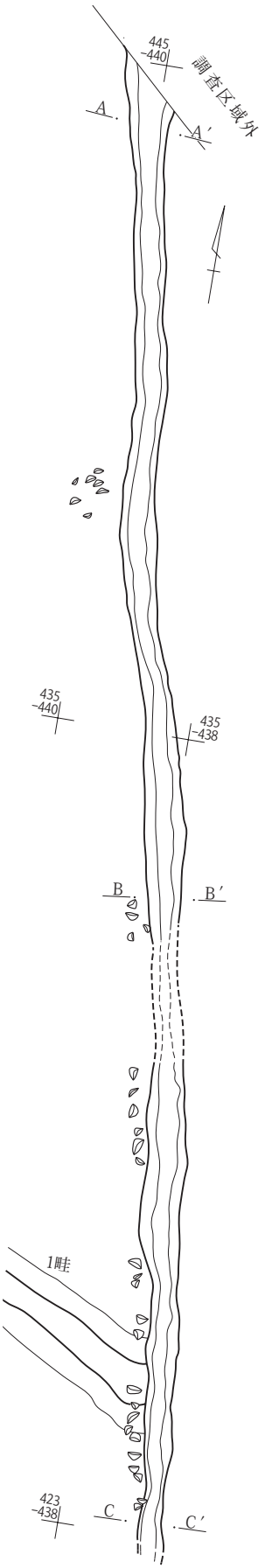
Ｂ５区13号溝（第68図　PL.28）

位置：422～445・-436～-440　Ｂ５区にある。　**規模**：長さ(22.24)ｍ×幅0.28～0.58m　**残存深度**：0.12～0.18m　**走行方位**：Ｎ―10°―Ｗ　**遺物**：認められない。　**重複**：１号畦と重複している。13号溝が１号畦を壊していることから、１号畦より新しいと考える。　**所見**：暗赤褐色土、暗褐色土で埋没している。Hr-FPを含みシルト質である。ほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行している。傾斜のほぼない平地を走行している。18号溝とは近接しているものの交わってはいない。また、18号溝から13号溝にかけてと13号溝の西側南半分に耕作痕が検出された。西側南半分のものは１号畦と関連があると推察される。18号溝の上面には14・16号溝（２面）があり、13号溝の北半分は上面からも溝が検出されていることから、長く使用された溝であることが推察される。１号畦との関連は明瞭でないものの、耕作痕に沿って微高地際に位置していることから、時期差が近い可能性は否定できない。溝の南北両端部の高低差はほぼない。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅はほぼ一定である。残存深度はやや浅い。南北方向に延びる溝は、３面においては13号溝だけであり、他に明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈していると思われる。溝の形状及び埋没土等より、古代以降の溝であると推察される。

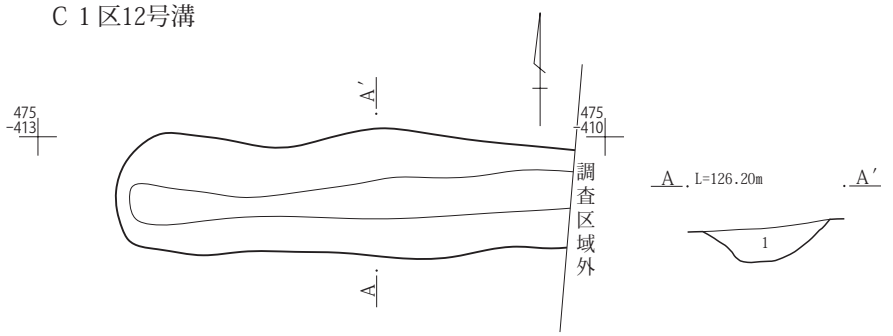
Ｂ５区18号溝（第68図　PL.28）

位置：441～446・-442～-448　Ｂ５区にある。　**規模**：長さ(7.48)ｍ×幅0.74～1.02m　**残存深度**：0.17m　**走行方位**：Ｎ―75°―Ｗ、Ｎ―30°―Ｗ　**遺物**：認められない。**重複**：なし　**所見**：にぶい橙色土で埋没していた。Hr-FP、小礫を含み、鉄分が付着して粘土質であった。弧を描きながら、北西方向から南東方向に走行しており、傾斜方向に延びる。上面には、14・16号溝があり、古くから使用されていたと推察される。溝の南東半分から13号溝にかけて耕作痕が検出された。耕作痕は、13号溝と１号畦の合流付近でも確認されされている。13号溝、１号畦との関連は明瞭でないが、耕作痕と関連する可能性があると考えられる。溝の北西、南東両端部の高低差を見ると、北西が高く南東が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面はやや中央が落ち込んでいる。幅

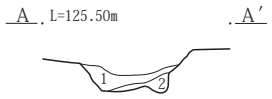
Ｂ５区13号溝



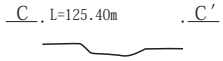
Ｃ１区12号溝

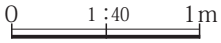


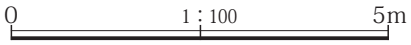
12号溝　A-A′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　浅黄橙色砂ブロック僅かに含む。
　　やや砂質。



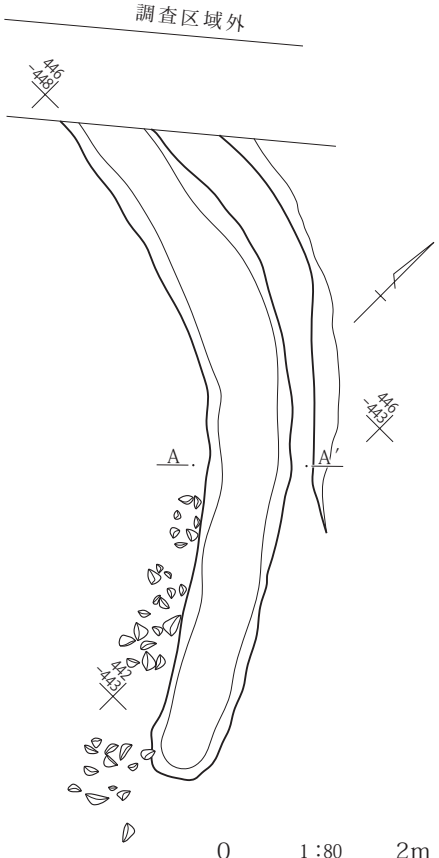
13号溝　A-A′
1　暗褐色土(7.5YR4/3)　Hr-FP細粒少量、
　　シルト含む。
2　暗赤褐色土(5YR3/2)　シルト含む。

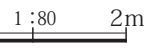




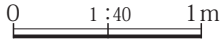


Ｂ５区18号溝





18号溝　A-A′
1　にぶい橙色土(7.5YR7/3)　Hr-FP粒少量、小礫
　　僅か含む。粘性強い。鉄分僅かに付着。



第68図　Ｃ１区３面　12号溝、Ｂ５区３面　13・18号溝

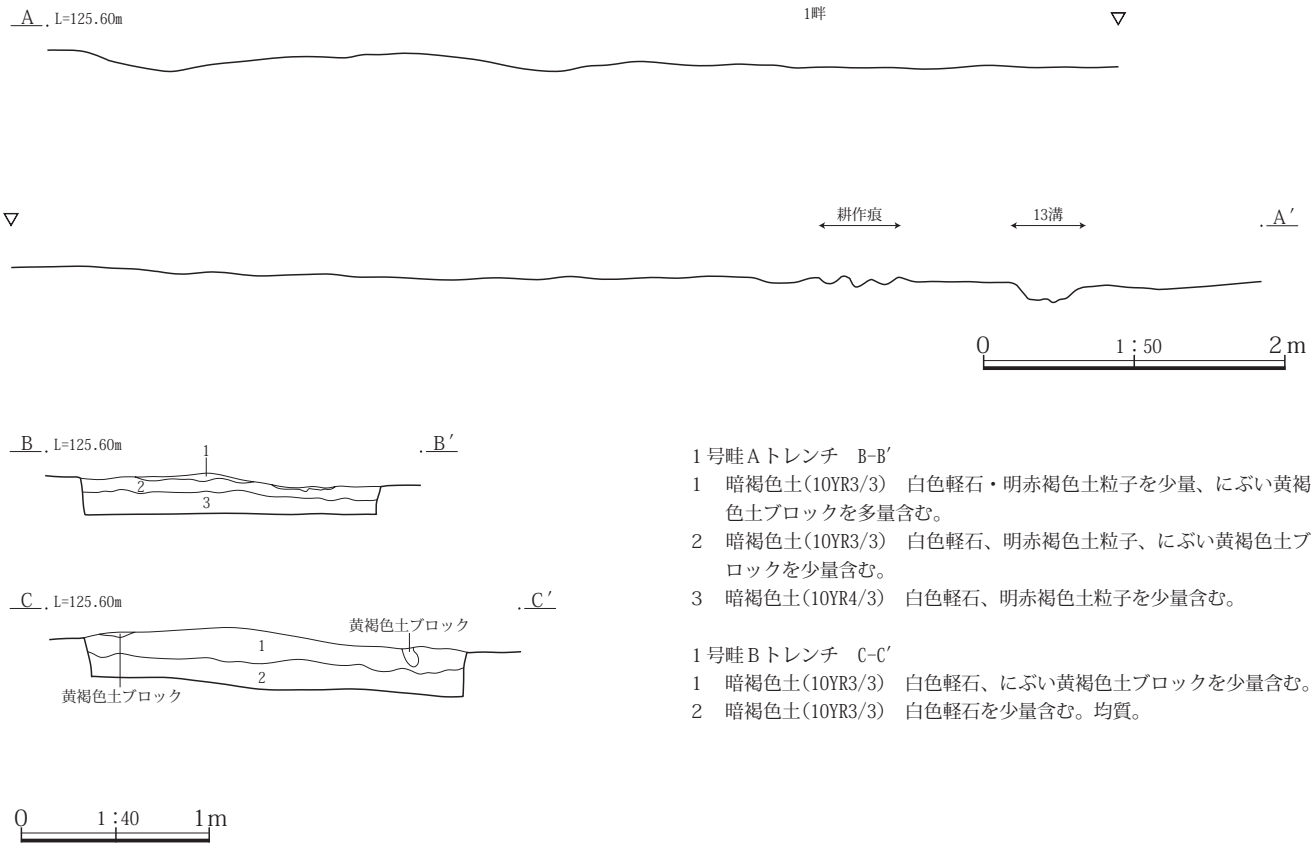
は南東ほど狭く、残存深度はやや浅い。本溝の走行は弧を描きながら13号溝の方向へ伸びている。この面では13号溝以外で明瞭な形で残存している溝はなく、形状から区画を呈しているものではないと考える。この溝の機能等は、13号溝へ向かって、用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、古代以降の溝であると推察される。

（２）畦

本調査区の畦痕は、細ヶ沢川の旧流路の右岸の微高地上に位置している。周囲には、屋敷の存在が想定されるピット群や複数の土坑が確認される。畦痕は、Ｓ字を呈しており、地形の緩やかな尾根部分に沿っている。検出範囲が微細なため、区画に関しては明瞭でない。また、近接するピット群、土坑、溝等の遺構と関連があるか明瞭でない。

Ｂ５区１号畦（第67・69図　PL.29）

位置：419～441・-430～-453　Ｂ５区にある。　**規模**：(32.80)ｍ×0.84～1.24ｍ　**残存高さ**：0.06～0.08ｍ　**走行方位**：Ｎ―29°―Ｗ、Ｎ―66°―Ｗ　**遺物**：認められない。　**重複遺構**：13号溝、37・38号土坑、１号耕作痕、203・204・213・216・217・220・240・259・260・275号ピットに前出している。　**所見**：暗褐色土で構築されている。白色粒子、明赤褐色土粒子、にぶい黄褐色土ブロックを含んでいる。畦を構築する際に、地山のロームブロックを混ぜて盛土をしたと考えられる。削平が進んでおり、出土範囲は限られる。中央やや北西よりに、幅広の部分が確認できる。幅広の部分を中心に土坑やピット群と重複しており、周囲に展開した痕跡が認められる。13・18号溝及び、１号耕作痕との関連は否定できないものの、明瞭でない。形状及び堆積土等から古代以降に位置付けられる。他の遺構との時期差は明瞭でない。



１号畦Ａトレンチ　B-B′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石・明赤褐色土粒子を少量、にぶい黄褐色土ブロックを多量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石、明赤褐色土粒子、にぶい黄褐色土ブロックを少量含む。
3　暗褐色土(10YR4/3)　白色軽石、明赤褐色土粒子を少量含む。

１号畦Ｂトレンチ　C-C′
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石、にぶい黄褐色土ブロックを少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　白色軽石を少量含む。均質。

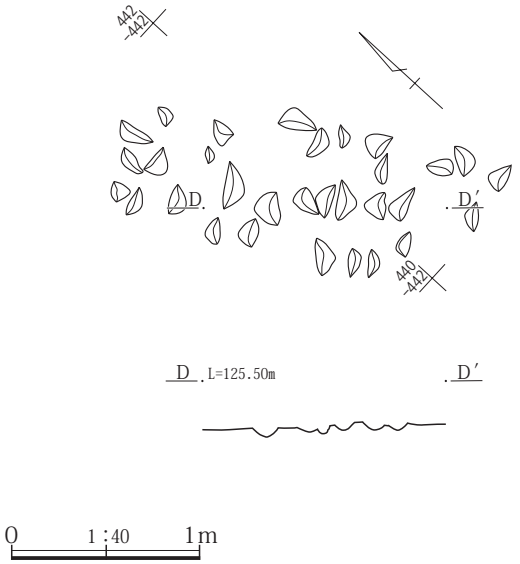
第69図　Ｂ５区３面　１号畦断面

（３）耕作痕

本調査区Ｂ５区３面の耕作痕は、18号溝の南部西岸から13号溝の西岸にかけて及び、13号溝の南半分西側に確認された。ピット群、土坑、畦痕等の遺構との関連は明瞭でない。

Ｂ５区１号耕作痕（第67・70図　PL.30・31）

位置：438～444・-439～-443　Ｂ５区にある。　**サク数**：不明　**規模**：7.20m×0.75～0.92m　**残存深度**：0.04～0.06m　**サク間幅**：不明　**サク方位**：N―31°―W　**遺物**：認められない。　**重複遺構**：18号溝に後出している。　**所見**：耕作痕の掘削方向は、18号溝から13号溝にかけて、ほぼ一定である。進行方向に向かって掘削胴部の刃を垂直に立てていると推察される。削平が進んでおり、出土範囲は狭い。18号溝西岸から13号溝西岸にかけて位置する。18号溝を13号溝に合流させるための掘削痕である可能性が否定できない。耕作痕は、13号溝南部の西岸にも確認できる。これらの耕作痕も溝の幅を広げるための掘削に関わるものであると推察できる。南部の耕作痕の刃先は、溝側を向いていたり、溝の進行方向を向いていたりして一定ではない。溝に関わる造作として、溝と同時期の古代以降に位置付けられる。他の遺構との時期差は不明である。



第70図　Ｂ５区３面　１号耕作痕

（４）土坑

Ｂ５区の土坑（第71・72図　PL.31）

概要：Ｂ５区３面では、５基の土坑を調査した。出土した位置は細ヶ沢川の旧流路の右岸の微高地である。細ヶ沢川の旧流路右岸には、屋敷跡と推察されるピット群が集中しており、土坑はそのピット群の南東に位置する。平面形は楕円形と隅丸長方形で、断面形は逆台形を呈している。隅丸長方形の土坑の方位は、互いに一致しているか直交している場合が多い。（詳細については第４表に記した。）　**所見**：埋没土は主ににぶい黄褐色土である。白色粒子、小礫、黄褐色砂を含むことから、溝と同様に、水流との関連が指摘できる。35・38号土坑は隅丸長方形であり、主軸が互いに直交している。溝等他遺構との関連は明瞭でない。36・37・39号土坑は楕円形であり、１号畦の周囲に位置している。形状から35・38号土坑と36・37・39号土坑に間には、若干の時期差を認められるものの、溝等他の遺構と時期が近い可能性が指摘できる。これらの土坑が、近接するピット群に関連する施設である可能性は否定できない。

35号土坑（第71図　PL.31）

位置：437・-442

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.42×0.45m　**深度**：0.23m

主軸方位：N―78°―E

埋没土層：明褐色土で埋没している。軟質土ロームブロック、黒褐色土を含む。

重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。近接する遺構との関連は明瞭ではない。

36号土坑(第71図　PL.31)

位置：432・-450

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：0.78×0.77m　**深度**：0.16m

主軸方位：N―０°

埋没土層：にぶい黄橙色土で埋没している。小礫、白色粒子を含む。砂質である。

重複：198号ピットに前出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット等、近接する遺構との関連は明瞭ではない。

37号土坑(第71図　PL.31)

位置：430・-447

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：0.87×0.73m　**深度**：0.13m

主軸方位：N―90°―E

埋没土層：にぶい黄橙色土で埋没している。小礫、白色粒子を含む。砂質である。

重複：１号畦に後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット、畦等、近接する遺構との関連は明瞭でない。

38号土坑(第72図　PL.31)

位置：428・-444

形状：隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.87×0.97m　**深度**：0.12m

主軸方位：N―15°―W

埋没土層：にぶい黄橙色土で埋没している。小礫、白色粒子を含む。砂質である。

重複：１号畦に後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット、畦等、近接する遺構との関連は明瞭でない。

39号土坑(第72図　PL.31)

位置：428・-441

形状：楕円形である。断面形はレンズ状を呈する。床面は丸底である。

規模：1.47×1.23m　**深度**：0.10m

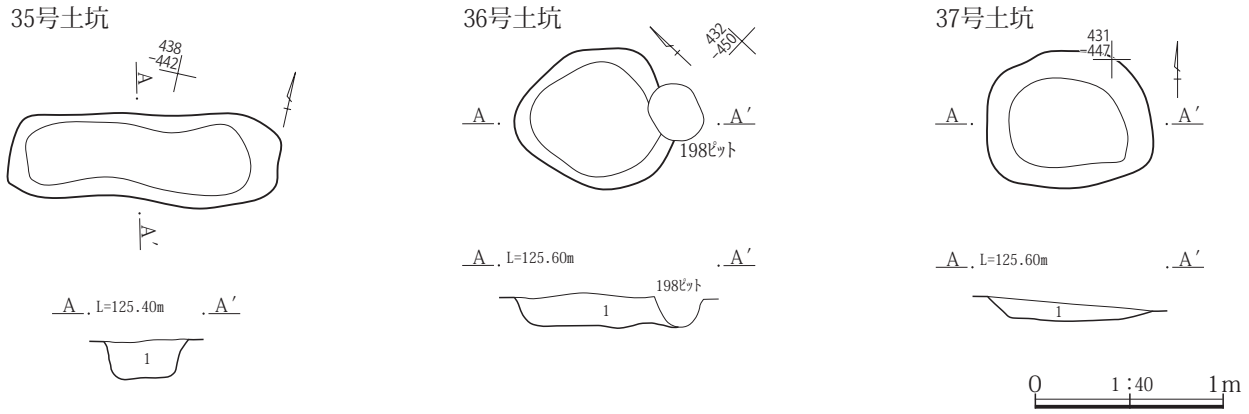
主軸方位：N―18°―W

埋没土層：にぶい黄褐色土で埋没している。白色粒子を含む。砂質である。

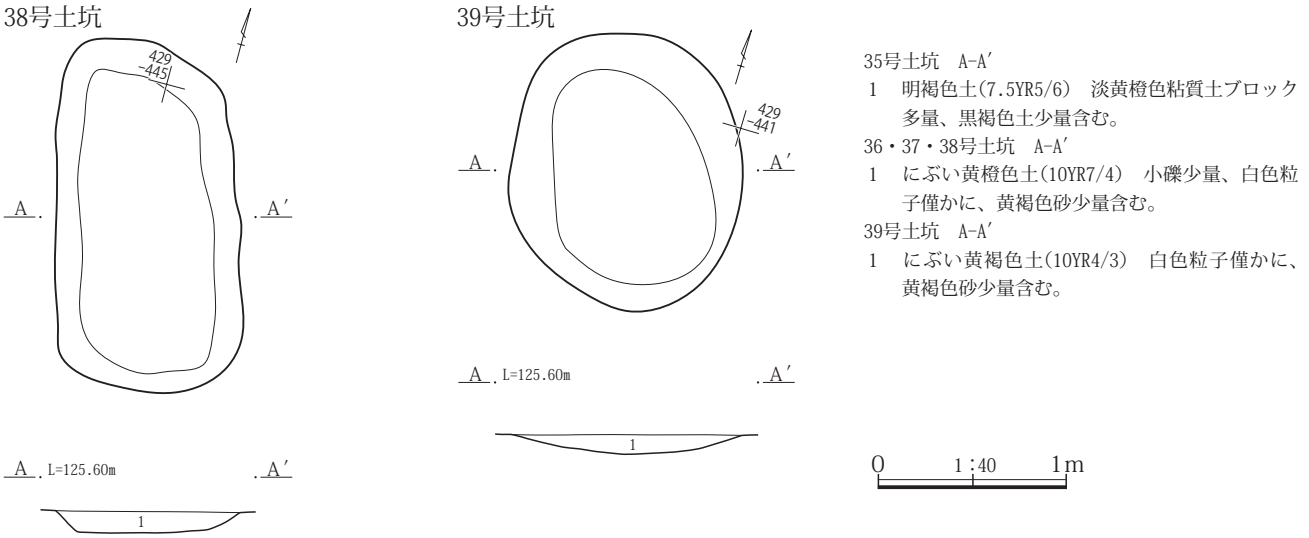
重複：なし

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の掘削意図は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね中世以前の可能性を有すると思われる。ピット、畦等、近接する遺構との関連は明瞭でない。



第71図　Ｂ５区３面　35～37号土坑



第72図　Ｂ５区３面　38・39号土坑

（５）ピット

Ｂ区のピット群（第73～76図　PL.32・33・52）

概要：Ｂ・Ｃ区３面では、溝３条、畦１条、耕作痕１条、土坑５基、ピット88基が検出された。88基のピットはＢ５区からの検出である。ピット群は、細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地にある。ピット群の中には、建物の柱穴として可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。Ｂ５区３面では、１号畦が北西から南東にやや曲線を描いて走行しており、調査区中央を南北に走行する13号溝と交差している。18号溝から13号溝にかけて耕作痕が検出されている。ピット群は、１号畦の両側に集中して検出されている。ピット群の周辺に土坑も確認されたが、関係は明瞭でない。ピット周辺に検出された溝、土坑、畦、耕作痕等は、微高地において屋敷を構成する要素である可能性が高いと思われる。旧流路右岸の２面のピット群は、屋敷堀が推察される溝の内外に位置していたのに対して、３面のピット群は、畦、土坑等周辺の遺構と一体となるように位置している。２面における旧流路右岸の屋敷の様相とは異なっていると思われる。（詳細については第５表に記載した。）**位置**：Ｂ５区３面においては、旧流路右岸の微高地に位置している。Ｂ５区においては、上面でも旧流路右岸の微高地に、土坑とピット群が検出されている。重複はなく高さも異なることから、時期差があるものと考える。また後世の洪水等によって削平されている。古くから人の活動の痕跡は見て取れる。

重複：196号ピットが271号ピットに、260号ピットが203号ピットに、247号ピットが248号ピットに、252号ピットが、253号ピットに、233号ピットが234号ピットに、198号ピットが36号土坑に、204・240・203・260・259・275・258・217・213・216・220号ピットが１号畦にそれぞれ後出している。

規模形状：多くが小型で楕円形を呈する。

埋没土：主に暗褐色土で埋没しており、黄橙色砂粒、白色粒子を含む。上面同様砂質であり、洪水等流水の影響を受けたと推察される。

その他：柱穴の可能性が高いという観点から特筆すべきピットについて図示し、その理由を分類した結果を以下の通り解説する。

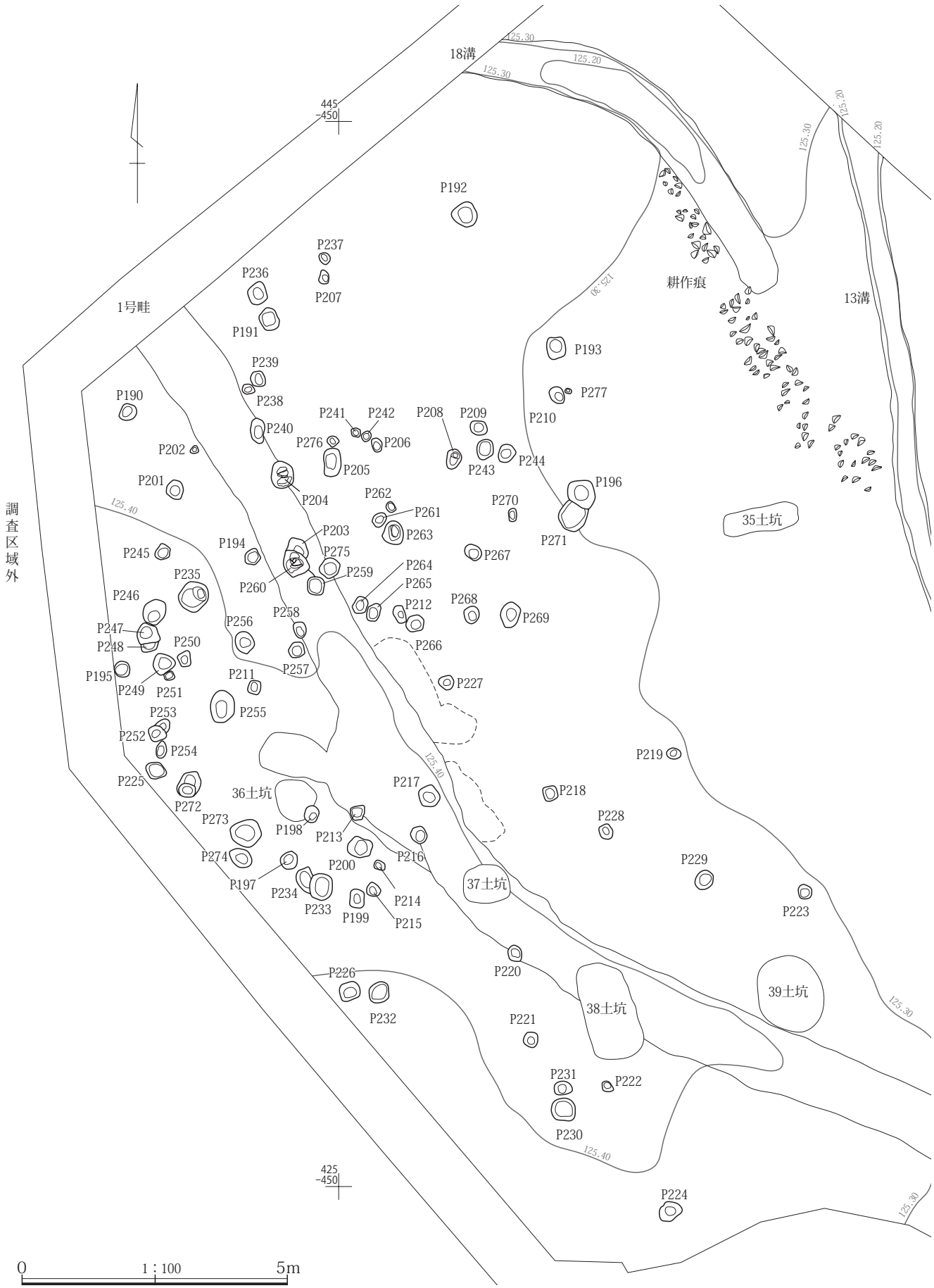
・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性が高いものとして、190・191・192・193・195・197・200・205・206・224号ピットがあげられる。

・形状が整っており深さもあることから、柱穴であった可能性が高いものとして、194・199・219・223・236号ピットがあげられる。

・柱穴を新規に掘り直した様相が伺え、柱穴だった可能性が高いものとして、208・203・260・271・196、233・234、235、272号ピットがあげられる。

・柱穴に礫を伴っており柱穴の可能性があるものとして、204・260・263号ピットがあげられる。

・同じ規模または同じ形状のピットが平行して並んでお



第73図　Ｂ５区３面　ピット群

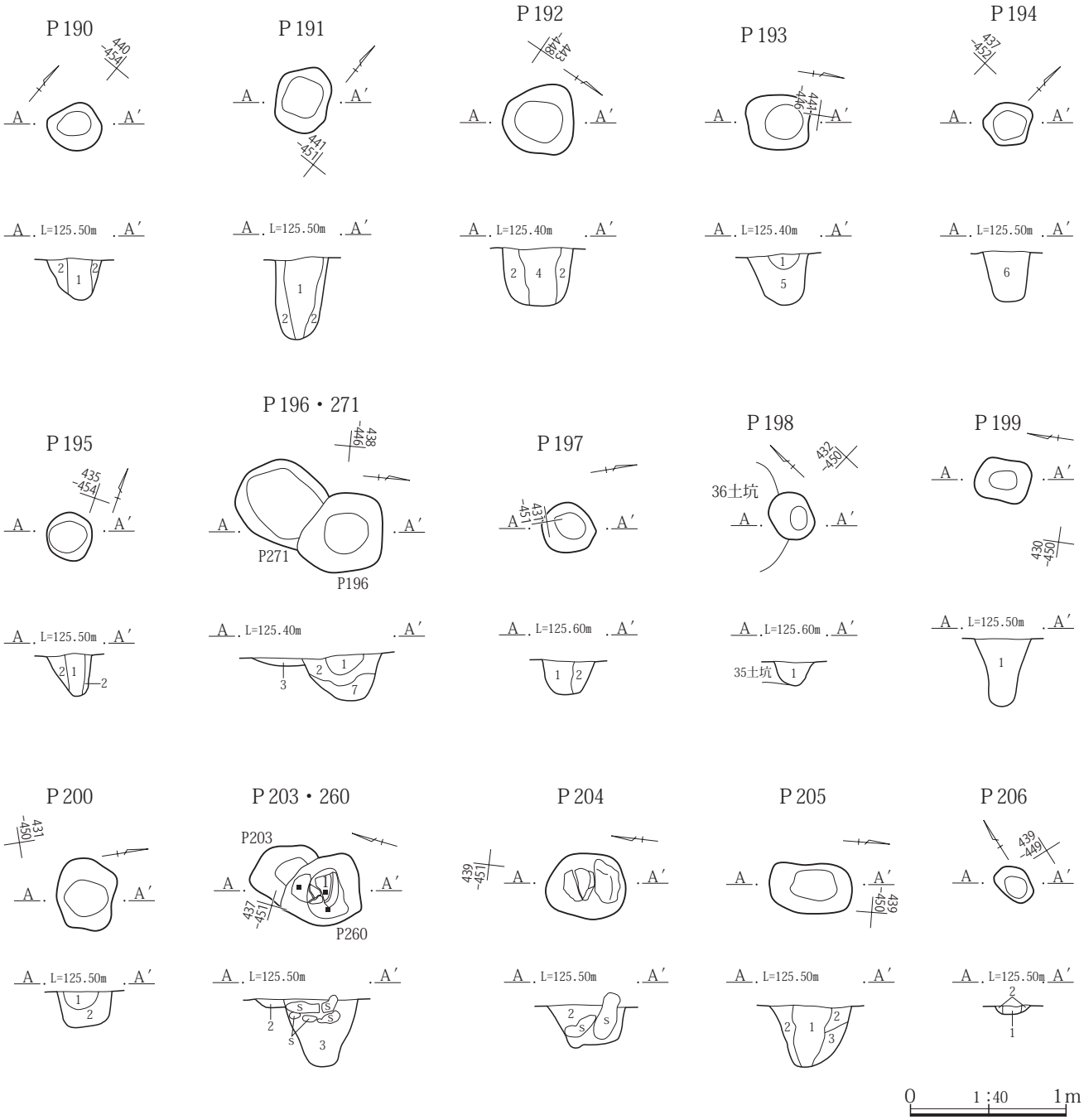
り、住居に関連する造作の可能性があるものとして、218・228、226・232、230・231、246・247、273・274号ピットがあげられる。

・柱の元を固めた様相が伺え、柱穴であった可能性があるものとして、196号ピットがあげられる。

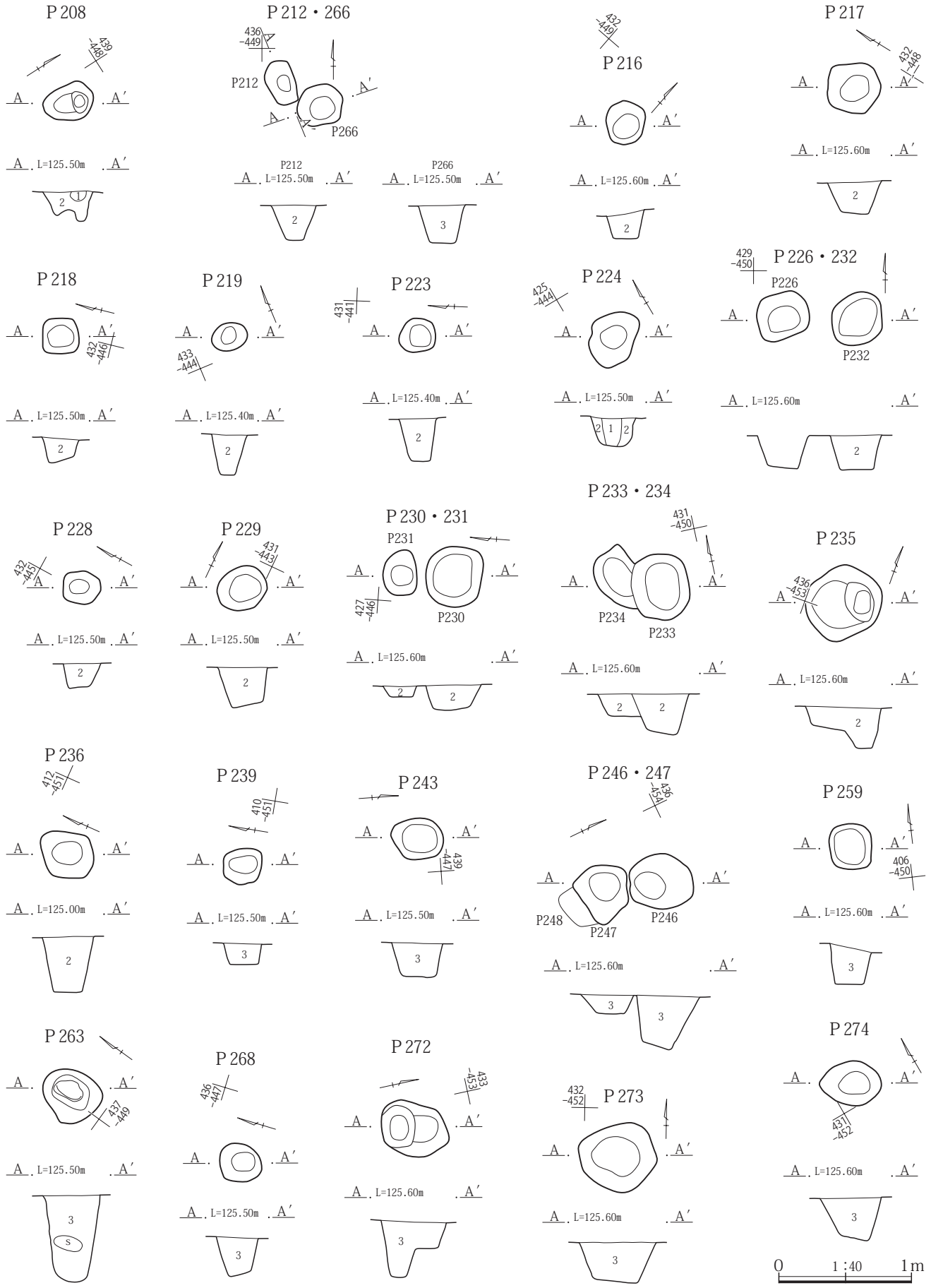
・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われ、柱穴の可能性があるものとして、194・198・243・266号ピットがあげられる。

遺物：260号ピットから石製品１点(石臼(上臼)(１))を掲載した。非掲載遺物として260号ピットから鉄滓３点、鉄製品１点、275号ピットから土器片１点が出土した。

所見：埋没土は砂質であり、洪水の影響を受けていると考えられる。古代以降に比定される。屋敷と推定される施設に関連する可能性が高い。

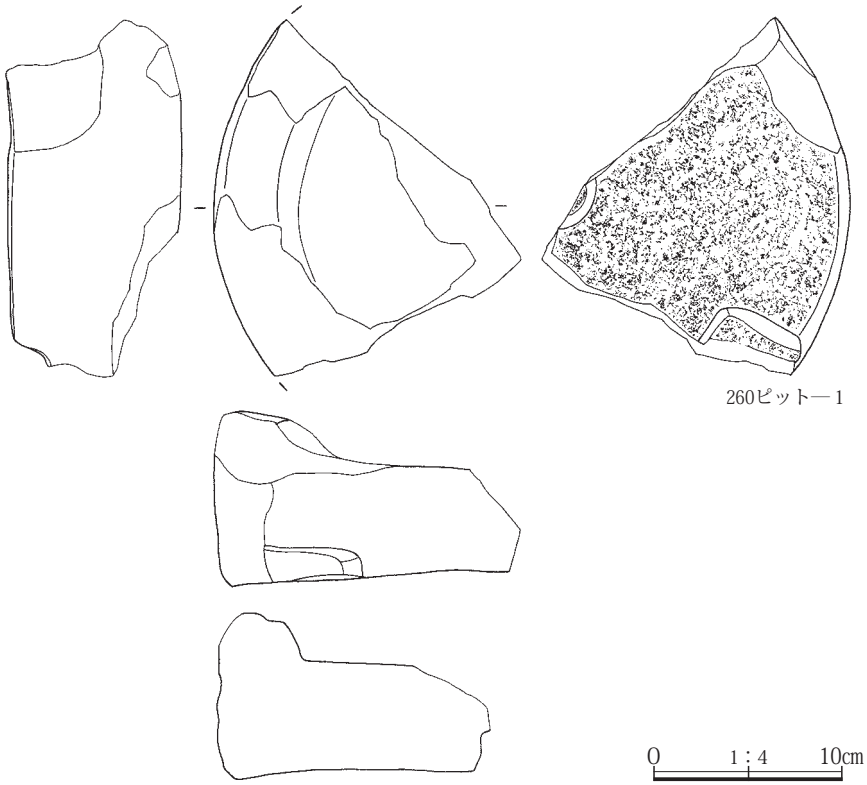


第74図　Ｂ５区３面　ピット(１)



第75図　Ｂ５区３面　ピット（２）

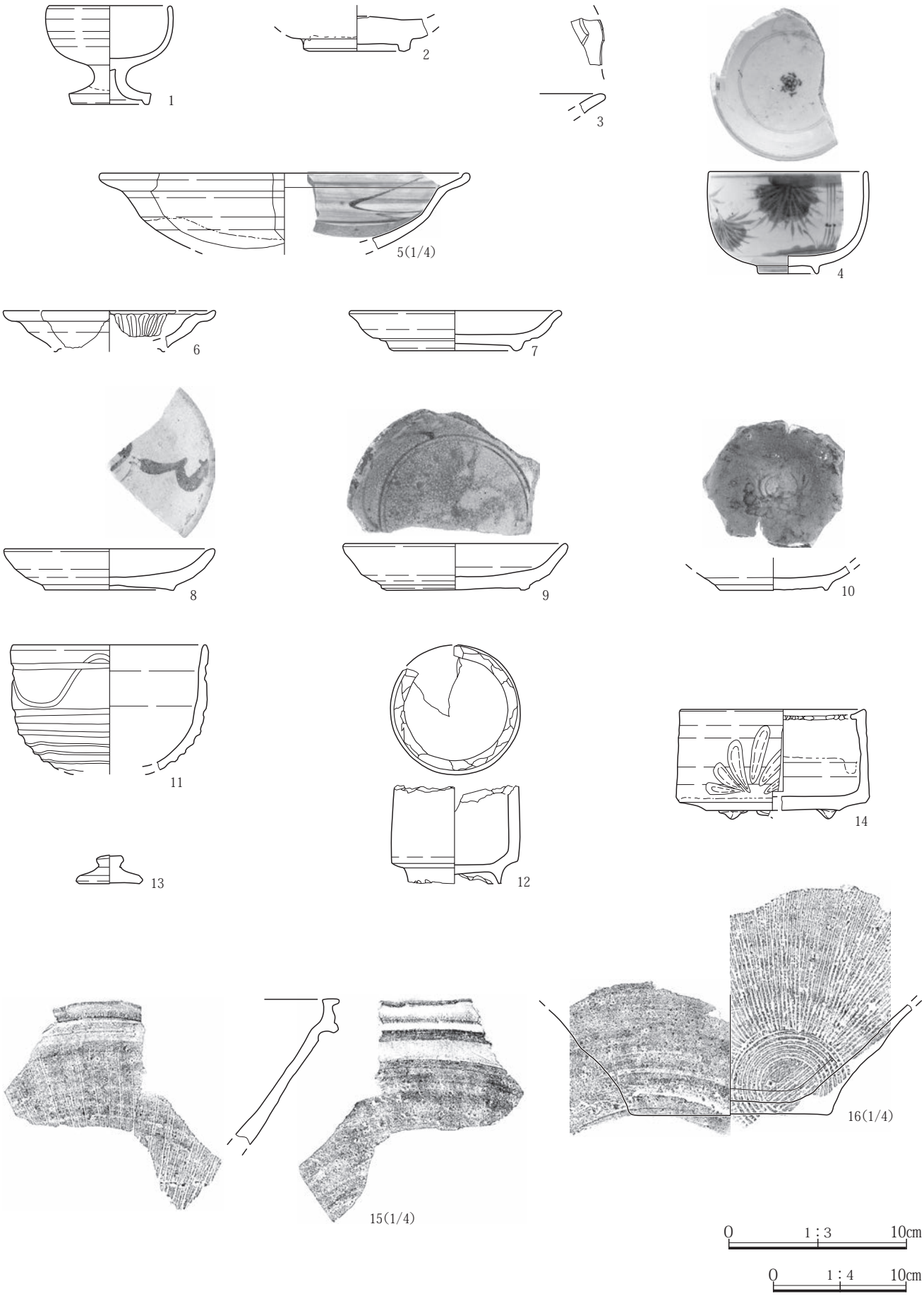
Ｂ５区３面ピット共通土層注記
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色砂粒僅かに含む。柱穴か？
2　暗褐色土(10YR3/4)　白色粒子僅かに、黄橙色砂粒少量含む。
3　にぶい黄橙色土(10YR4/3)　白色粒子僅かに、黄褐色砂少量含む。
4　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色砂粒、褐色土粒僅かに含む。柱穴か？
5　暗褐色土(10YR3/4)　黄橙色砂粒多量含む。
6　暗褐色土(10YR3/3)　白色粒子少量、黄橙色砂粒僅かに含む。柱穴か？
7　暗褐色土(10YR3/3)　黄橙色砂粒僅かに含む。



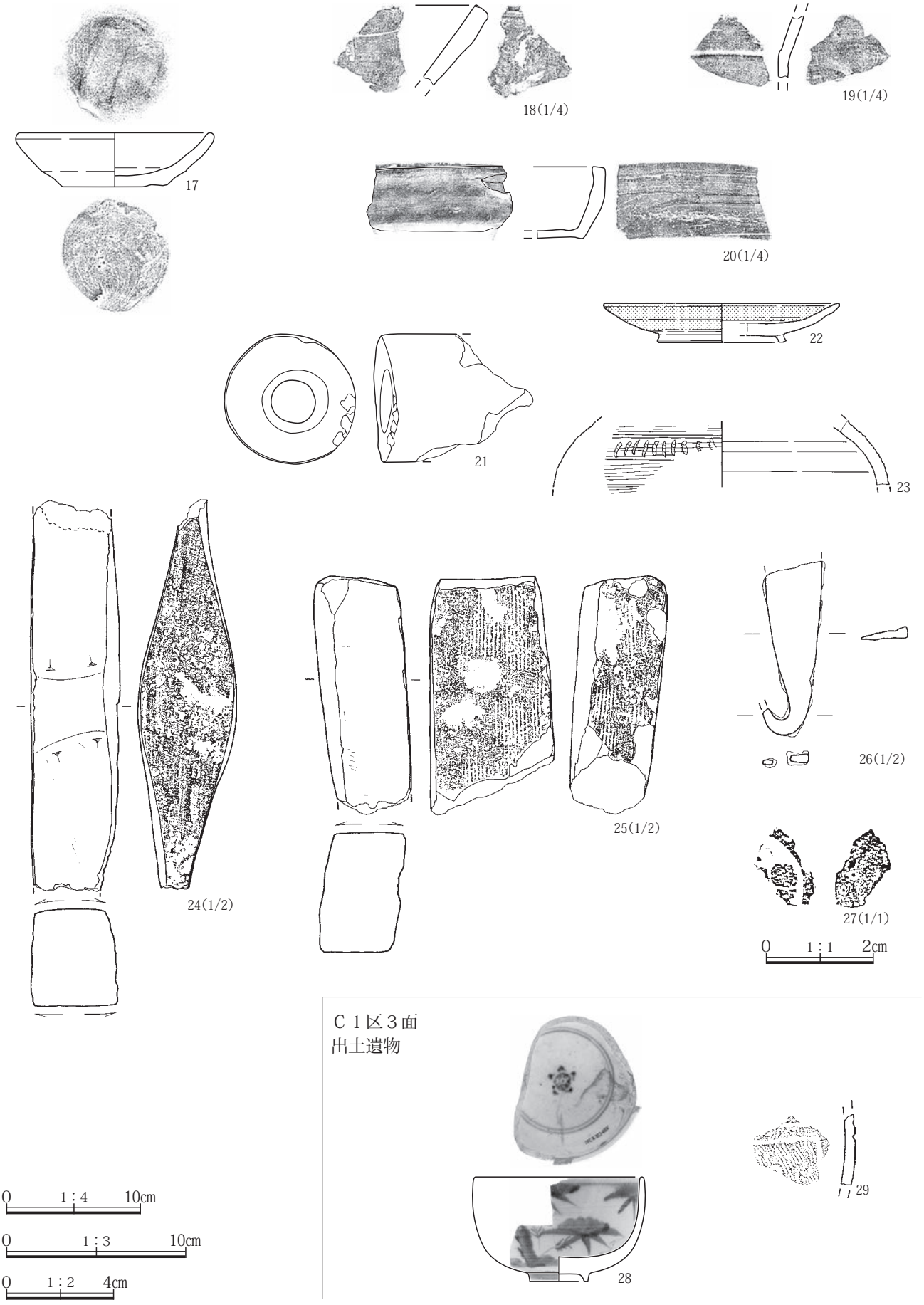
第76図　Ｂ５区３面　260号ピット出土遺物

（６）遺構外出土遺物（第77・78図　PL.52・53）

Ｂ・Ｃ区３面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、Ｂ５区から、須恵器１点（瓶(23)）、灰釉陶器１点（皿(22)）、陶磁器・土器21点（仏飯器１点（１）、碗１点（２）、稜花皿１点（３）、折縁皿１点（６）、碗か小鉢１点(11)、瀬戸・美濃陶器皿２点（７・10）、鉄絵皿２点（８・９）、灰吹き１点(12)、蓋１点(13)、すり鉢２点(15・16)、在地系土器皿１点(17)、片口鉢１点(18)、内耳鍋１点(19)、焙烙１点(20)、羽口１点(21)、染付小丸碗１点（４）、肥前陶器皿１点（５）、筒形香炉(14)、石製品３点（砥石２点(24・25)）、鉄製品１点(26)、古銭(27)、Ｃ１区から、陶磁器１点（染付小丸碗(28)）、弥生土器１点（甕(29)）を図示した。ただし、Ｂ６区の陶磁器については、２面から３面にかけての出土であった。本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、Ｂ４区から土師器（杯類12片、甕類７片）、須恵器（杯類５片、甕類３片）、Ｂ５区から剥片石器２点（打製石斧）、石製品２点（砥石）が出土している。また、Ｃ１区から弥生土器（中期後半１片）が出土している。下層からの混入であると思われる。



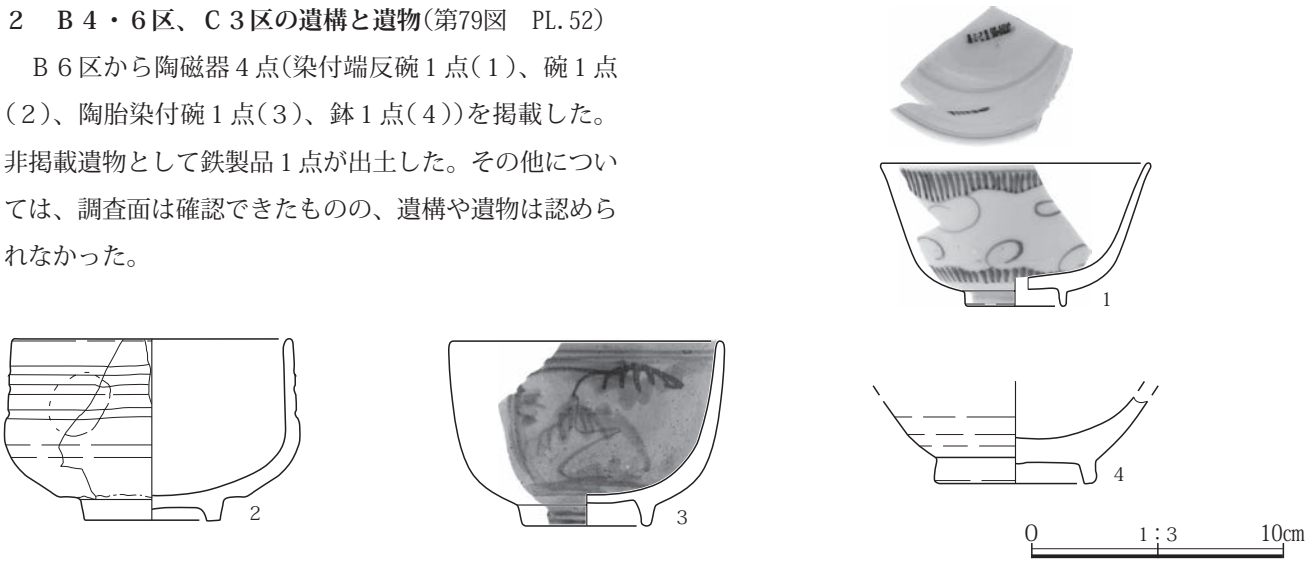
第77図　Ｂ５区３面　遺構外出土遺物



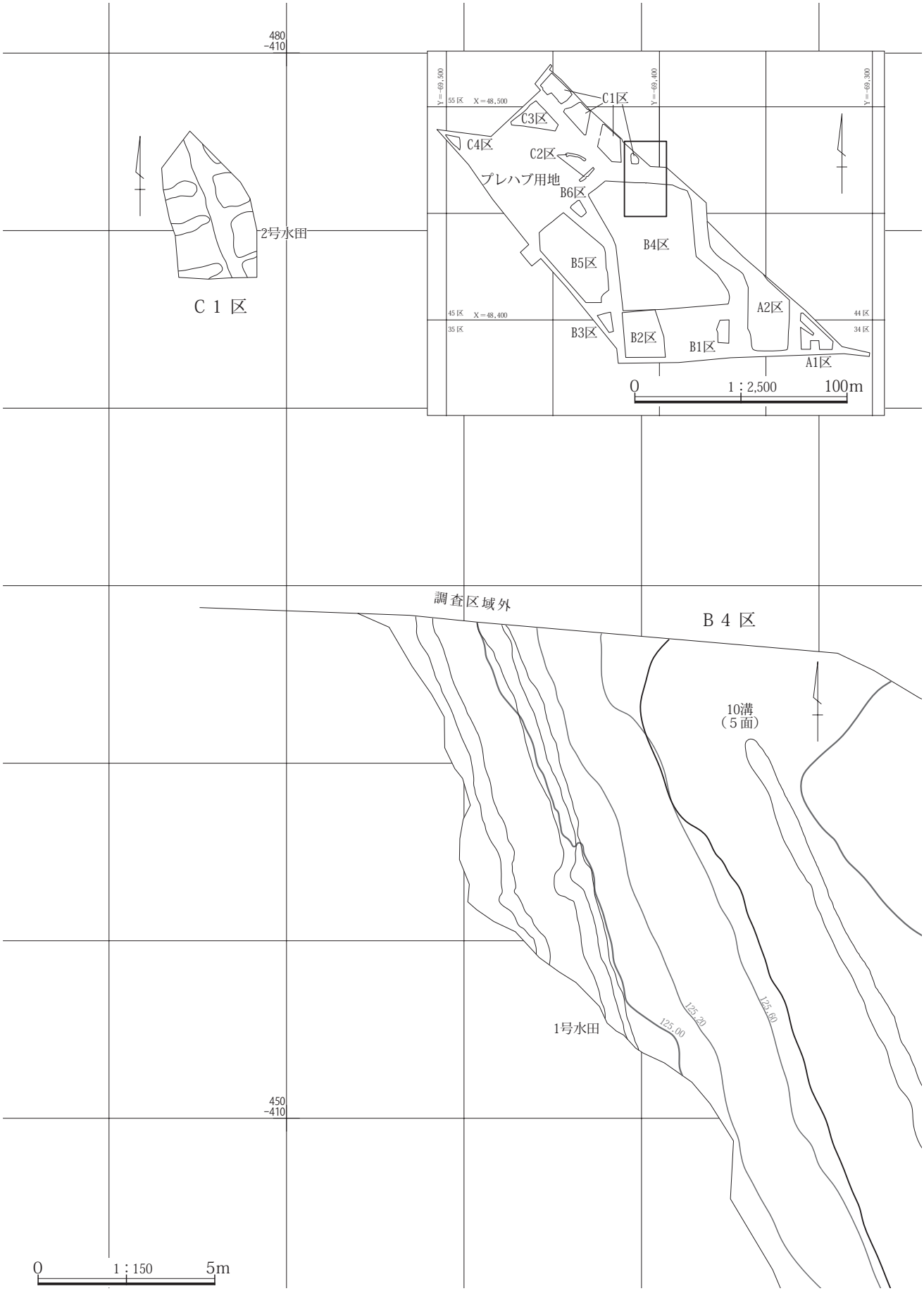
第78図　Ｂ５・Ｃ１区３面　遺構外出土遺物

２　Ｂ４・６区、Ｃ３区の遺構と遺物（第79図　PL.52）

Ｂ６区から陶磁器４点（染付端反碗１点（１）、碗１点（２）、陶胎染付碗１点（３）、鉢１点（４））を掲載した。非掲載遺物として鉄製品１点が出土した。その他については、調査面は確認できたものの、遺構や遺物は認められなかった。



第79図　Ｂ６区３面　遺構外出土遺物



第80図　Ｂ４・Ｃ１区４面　全体図

Ⅳ　古墳時代〔第４面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層の下面を確認面とした遺構であり、Ｂ・Ｃ区の４面として調査を行った。遺構は、細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地際に位置しており、水田２面が検出された。遺構面の大半は、５世紀洪水層で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響はないと考えられる。遺構の検出状況から、微高地に耕作の痕跡が残る生産の様相が想定できる。遺物は少ないが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

１　Ｂ４区、Ｃ１区の遺構と遺物

（１）水田

Ｂ４区４面の水田

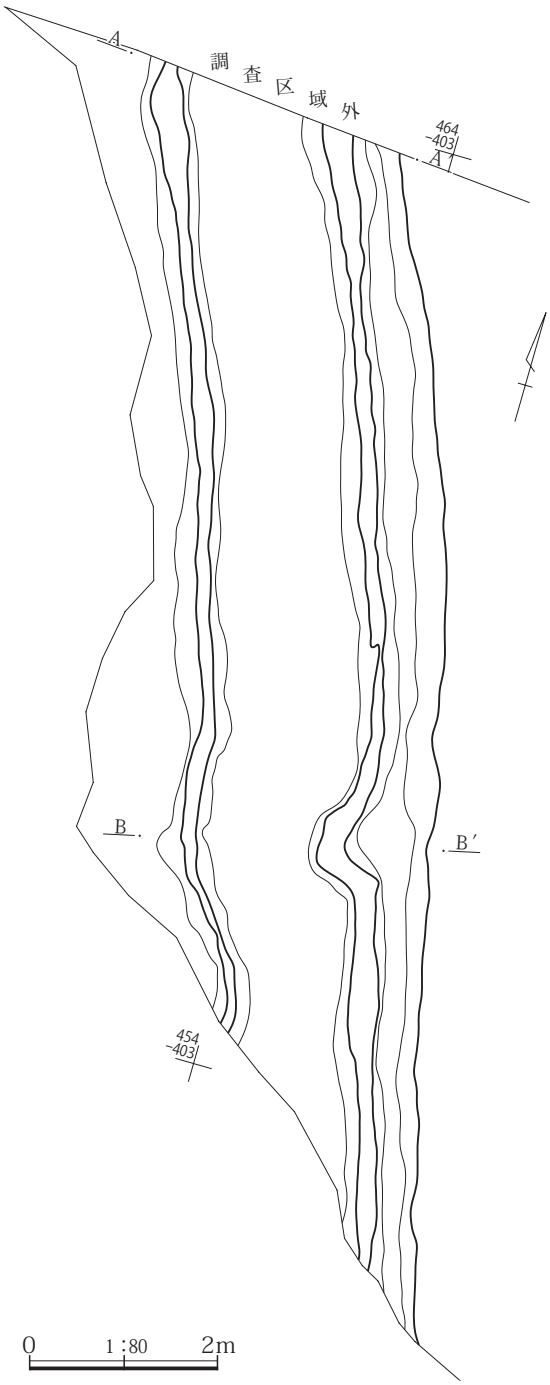
５面で検出が明らかになった10号溝を境に、本調査区低地部に位置する。水田は５世紀洪水層の下から検出されており、10号溝と時期差は少なく10号溝との関連が指摘される。本調査面においては、Ｃ１区においても５世紀洪水層の下から水田の畦が検出されている。本水田は、Ｃ１区の水田との関連をうかがわせる明瞭な資料は見つかっていない。古墳時代においては、本遺構周辺は水田を中心とした生産域であった可能性が指摘できる。ただし、検出範囲が微細なため、区画に関しては明瞭でない。

１号水田（第81・82図　PL.34）

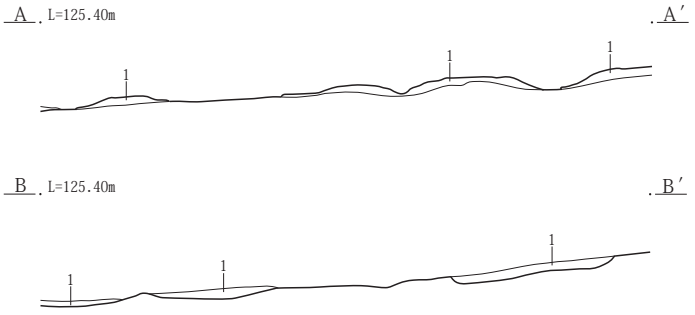
位置：451～464・-400～-406　**畦**：２条　**規模**：東畦（12.42）m×0.32～0.47m　西畦（10.38）m×0.28～0.54m　**残存高さ**：東畦0.05m　西畦0.04m　**畦間幅**：1.42～1.86m　**走行方位**：東畦Ｎ―17°―Ｗ　西畦Ｎ―19°―Ｗ

遺物：認められない。　**重複遺構**：なし

所見：５世紀洪水層の下から水田が検出された。水田面を直接覆っていたのは、浅黄橙色土の洪水砂で鉄分の付着が著しかった。畦の構築土は、堆積土を撹拌したと考えられる黄橙色土の粘質土である。検出範囲が少ないが、微高地から西にかけて緩やかに傾斜しているものと推定される。東に10号溝が畦に並行に走行しており微高地との境界になっている。畦周辺を境に西の低地部に水田が広がっていたと推察される。水口と判断できる畦の途切れは確認できなかった。したがって全体の給排水をとらえることはできなかった。地形の傾斜から考えると、水源は東にあり、小区画水田の縦方向の畦だけが検出されたと考える。10号溝との関連が想定される所以である。また、西畦の走行方位はＣ１区２号水田の南北に走行する畦に重なり、同じ低地に位置する水田である可能性が考えられる。水田耕作土は夾雑物の少ない黒褐色土の粘質土である。耕作土中からの遺物の出土は確認できなかったものの、水田の時期は、埋没土等の状況から、古墳時代と推察されるがそれ以上の比定は難しい。



第81図　Ｂ４区４面　１号水田



１号水田　A-A′
1　黄橙色粘土(10YR8/6)　洪水最下層。

１号水田　B-B′
1　浅黄橙色土(10YR8/3)　鉄分付着著しい。

0　1:40　1m

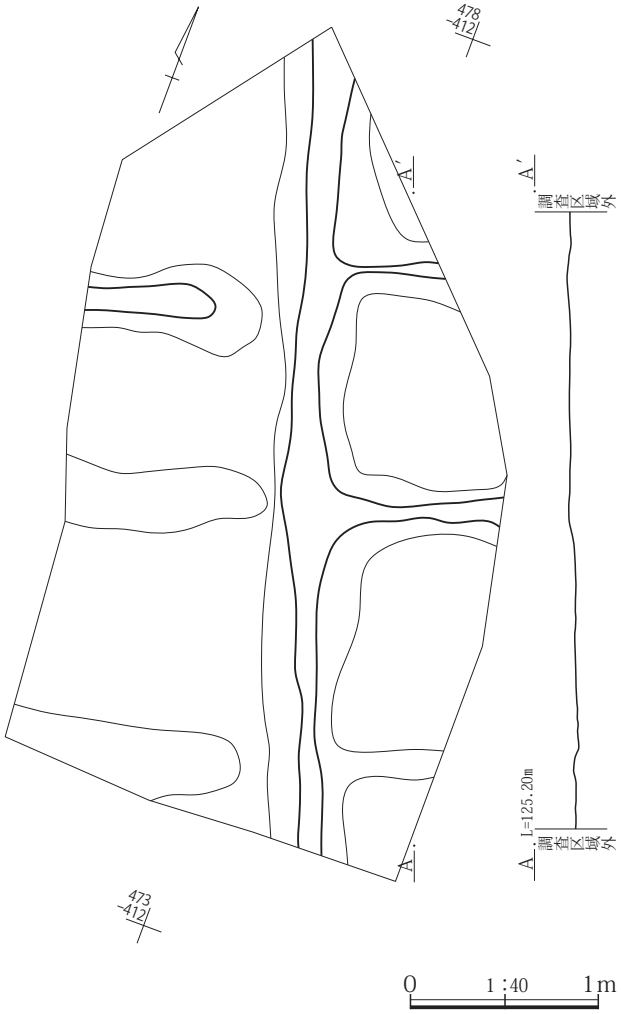
第82図　Ｂ４区４面　１号水田断面

Ｃ１区４面の水田

本調査区、細ヶ沢川の旧流路の左岸の微高地際に位置している。５世紀洪水層の下から検出された。本調査面においては、Ｂ４区の低地部においても５世紀洪水層の下から水田の畦が検出されている。本水田は、Ｂ４区の水田との関連性をうかがわせるものの、明瞭でない。古墳時代においては、水田を中心とした生産域であった可能性が指摘できる。ただし、検出範囲が微細なため、区画に関しては明瞭でない。

２号水田(第83図　PL.35)

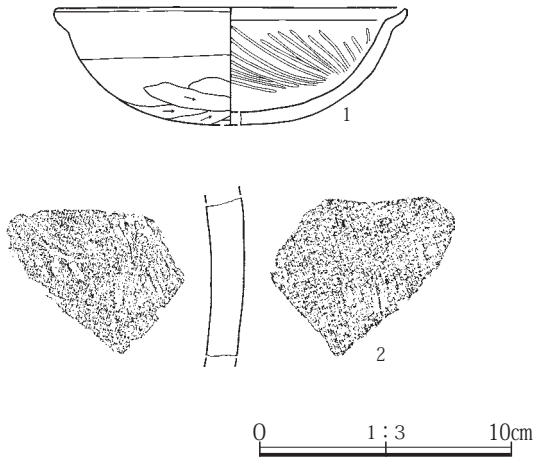
位置：473～477・-410～-413　**畦**：南北１条　東西３条　**規模**：南北畦(4.32)m×0.32～0.51m　東西畦(1.88～2.30)m×014～0.43m　**残存高さ**：南北畦不明　東西畦0.03m　**畦間幅**：1.08～1.46m　**走行方位**：南北畦N―18°―W　東西畦N―67°―E　**遺物**：認められない。**重複遺構**：なし　**所見**：５世紀洪水層の下から小区画の水田が検出された。水田面を直接覆っていたのは、浅黄橙土の洪水砂で鉄分の付着が著しかった。畦の構築土は、堆積土を撹拌したと考えられる黄橙色土の粘質土である。微高地から東にかけて緩やかに傾斜しているものと推定される。検出範囲が少ないため、周囲の状況は明瞭でないが、南北に走行する畦がＢ４区１号水田の西畦と走行方位が重なる点を踏まえると、１号水田の属する低地部と同じ範囲内にある可能性について指摘しておきたい。部分的であるが水口と判断できる畦の途切れは確認できた。水田中央南北に走行する畦の西側には、東西に走行する畦との間に隙間があり水口と考えられ、水を回遊させていた可能性がある。ただし、全体の給排水をとらえることはできなかった。地形の傾斜から考えると、水源は西にあったと考えられる。水田耕作土は夾雑物の少ない黒褐色土の粘質土である。耕作土中からの遺物の出土は確認できなかったものの、水田の時期は、形状及び状況から、古墳時代と推察されるが、それ以上の比定は難しい。



第83図　Ｃ１区４面　２号水田

（２）遺構外出土遺物（第84図　PL.52）

４面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、Ｂ区から、土師器１点（杯（１））を図示した。ただし、Ｂ４区からの出土であるか明瞭でない。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しないと考える。非掲載遺物として、Ｂ４区から土師器３片（甕類）が出土している。また、Ｂ５区から４面相当の確認面において土師器（杯類３片、甕類３片）、須恵器（杯類１片）、石製品３点（砥石）が出土している。



第84図　Ｂ区・Ｃ４区４面　遺構外出土遺物

２　Ｂ１・２区の遺構と遺物

洪水堆積土層に遺物包含層が確認できた。

３　Ｂ６区、Ｃ３・４区の遺構と遺物（第84図）

Ｃ４区から須恵器１点（甕（２））を図示した。その他については、調査面は確認できたものの、遺構や遺物は認められなかった。

第85図　Ｂ４区５面　全体図

Ｖ　古墳時代以前〔第５面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層下のAs-Cを含む黒褐色土を確認面とした遺構であり、Ｂ・Ｃ区の５面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路の左岸と右岸の微高地に位置している、溝３条が検出された。遺構の大半は５世紀洪水層下のAs-Cを含む黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響はないと考えられる。遺構の検出状況から、微高地における活動が想定できる。遺物は少ないが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

１　Ｂ４区の遺構と遺物

（１）溝

本調査区の溝は、傾斜方向に対して垂直に走行する。削平が進んでおり、全容が明瞭でない。微高地と低地の区画をなす流路であると考えられる。調査面はAs-C軽石層下面に相当しており、古墳時代以前の溝であると考えられるものの、時期を明確にするための資料は得られていない。

10号溝（第85・86図　PL.36）

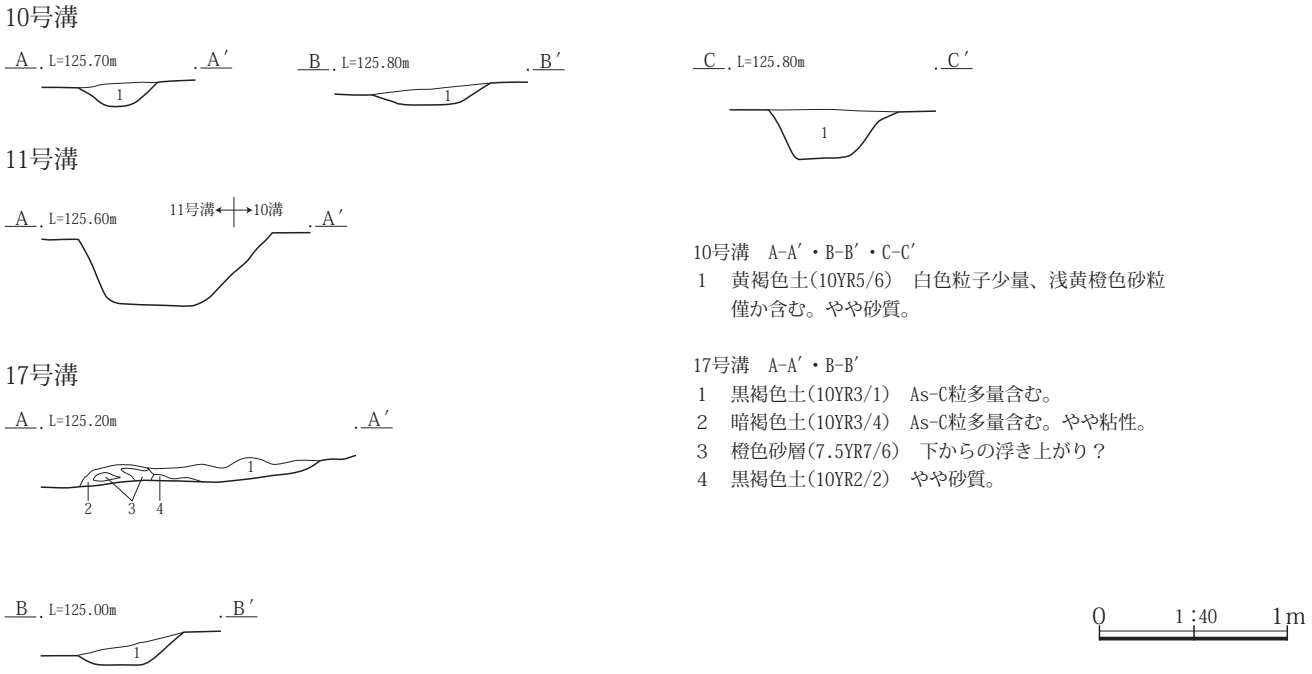
位置：437～460・-385～-396　**規模**：長さ(25.80)ｍ×幅0.38～0.96m　**残存深度**：0.08～0.26m　**走行方位**：N―34°―W　**遺物**：非掲載遺物として、土師器(甕類１片)が出土している。　**重複**：11号溝に前出している。10号溝掘削の後､11号溝を深く掘り直したと推察される。**所見**：黄褐色土で埋没していた。白色粒子、浅黄橙砂粒を含む砂質土である。溝の形状はほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に垂直に流れる。11号溝と合流直前に走行を東寄りに変える。溝の南北両端部の高低差を見ると、若干北が高く南が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅は中央部分が広く、北部と11号溝との重複部分は狭い。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は西にある17号溝と並行するが、本調査面では他に明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈している可能性がある。この溝は、東の微高地の縁辺部に位置しており、西側低地にある17号溝とは異なる機能を持つと考える。微高地における用排水路の一つと考えられる。４面の水田との関連が指摘される。古墳時代以前の溝であると推察されるが、正確な比定は難しい。

11号溝（第85・86図　PL.37）

位置：437・-385　**規模**：長さ(0.96)ｍ×幅0.78m　**残存深度**：0.34m　**走行方位**：N―64°―W　**遺物**：認められない。　**重複**：10号溝に後出している。10号溝掘削の後、11号溝を深く掘り直したと推察される。　**所見**：埋没土は不明である。検出範囲が極めて狭いため形状、走行、傾斜、高低差、幅等は把握できない。ただし、10号溝を引き継ぐように掘削されており、10号溝に準ずるものであると推察される。走行に関しては、10号溝が東よりに走行を変えた方位に合わせて掘削が始まっている。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。残存深度は10号溝より深い。本調査面では明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈している可能性がある。この溝の機能等は、明瞭ではない。古墳時代以前の溝であると推察されるが、正確な比定は難しい。

17号溝（第85・86図　PL.37）

位置：449～463・-397～-403　**規模**：長さ(14.88)ｍ×幅0.56～1.16m　**残存深度**：0.08～0.10m　**走行方位**：N―21°―W　**遺物**：認められない。　**重複**：認められない。　**所見**：As-C軽石を多く含む黒褐色土で埋没していた。１号水田（４面）との間には、As-C軽石を含む粘性のある黒褐色土の層がある。溝はほぼ直線であり、北北西方向から南南東方向に走行しており、傾斜方向に垂直に流れる。溝の南北両端部の高低差はない。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅は南下するほど狭くなる。残存深度はやや浅い。南北方向の走行は東にある10号溝と並行するが、本調査面では明瞭な形で残存している溝はなく、区画を呈している可能性がある。この溝は、微高地の縁辺部から見て西の低地に位置しており、微高地の縁辺部にある10号溝と異なる機能を持つと考える。微高地と低地の境における用排水路の一つと考えられる。土層から１号水田（４面）より古い。溝の形状及び埋没土等より、古墳時代以前の溝であると推察される。



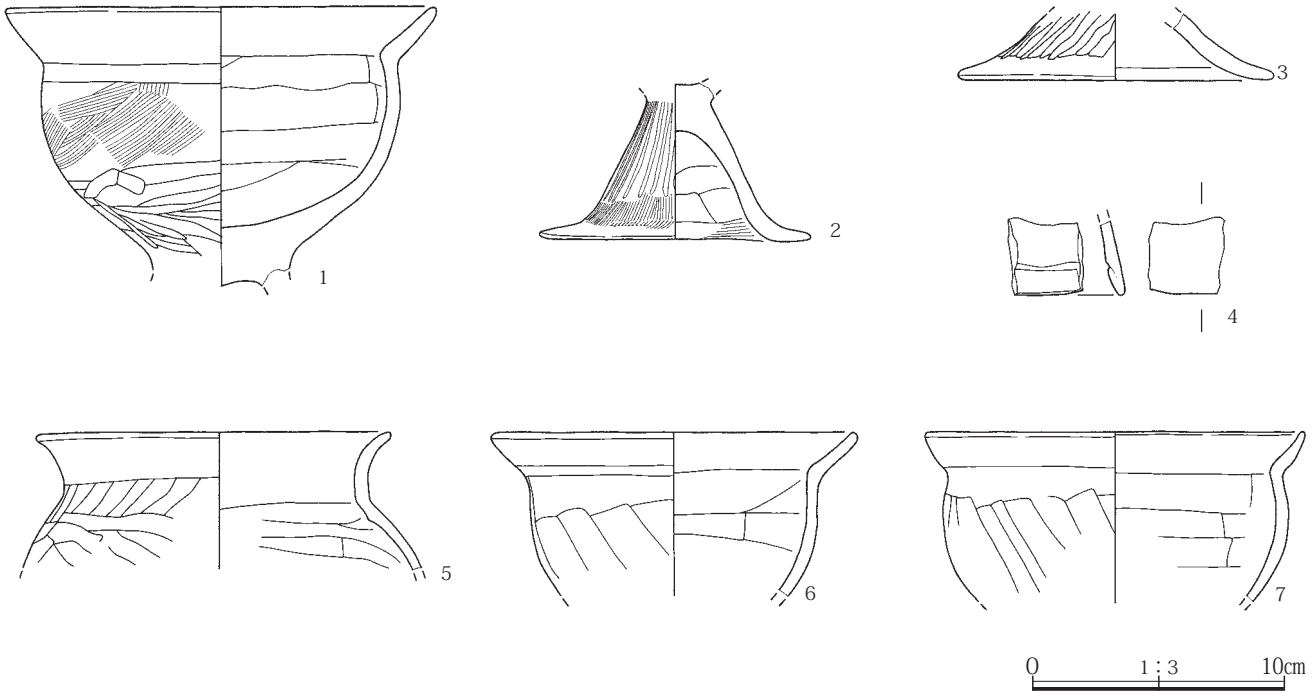
10号溝　A-A′・B-B′・C-C′
1　黄褐色土(10YR5/6)　白色粒子少量、浅黄橙色砂粒僅か含む。やや砂質。

17号溝　A-A′・B-B′
1　黒褐色土(10YR3/1)　As-C粒多量含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　As-C粒多量含む。やや粘性。
3　橙色砂層(7.5YR7/6)　下からの浮き上がり？
4　黒褐色土(10YR2/2)　やや砂質。

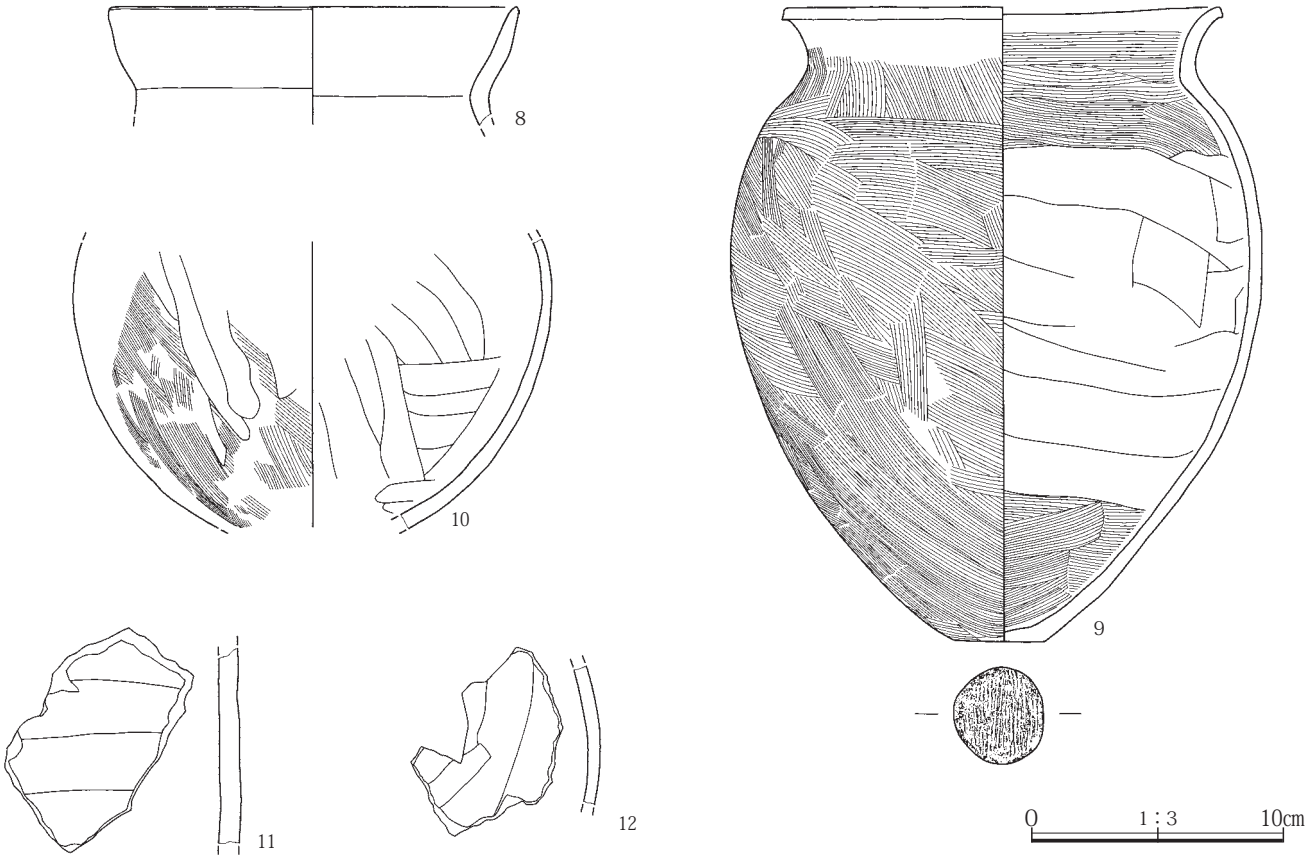
第86図　Ｂ４区５面　10・11・17号溝断面

(２)遺構外出土遺物(第87・88図　PL.53)

Ｂ４区５面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、土師器12点(甕５点(５・８・９・11・12)、高杯２点(２・３)、鉢２点(６・７)、壺１点(10)、台付甕１点(４)、台付鉢１点(１))を掲載した。出土遺物は、本調査面の時期におおむね矛盾しない。非掲載遺物として、Ｂ４区から土師器(杯類１片、甕類26片)、須恵器(杯類１片)、剥片石器１点(打製石斧)が出土している。



第87図　Ｂ４区５面　遺構外出土遺物(１)



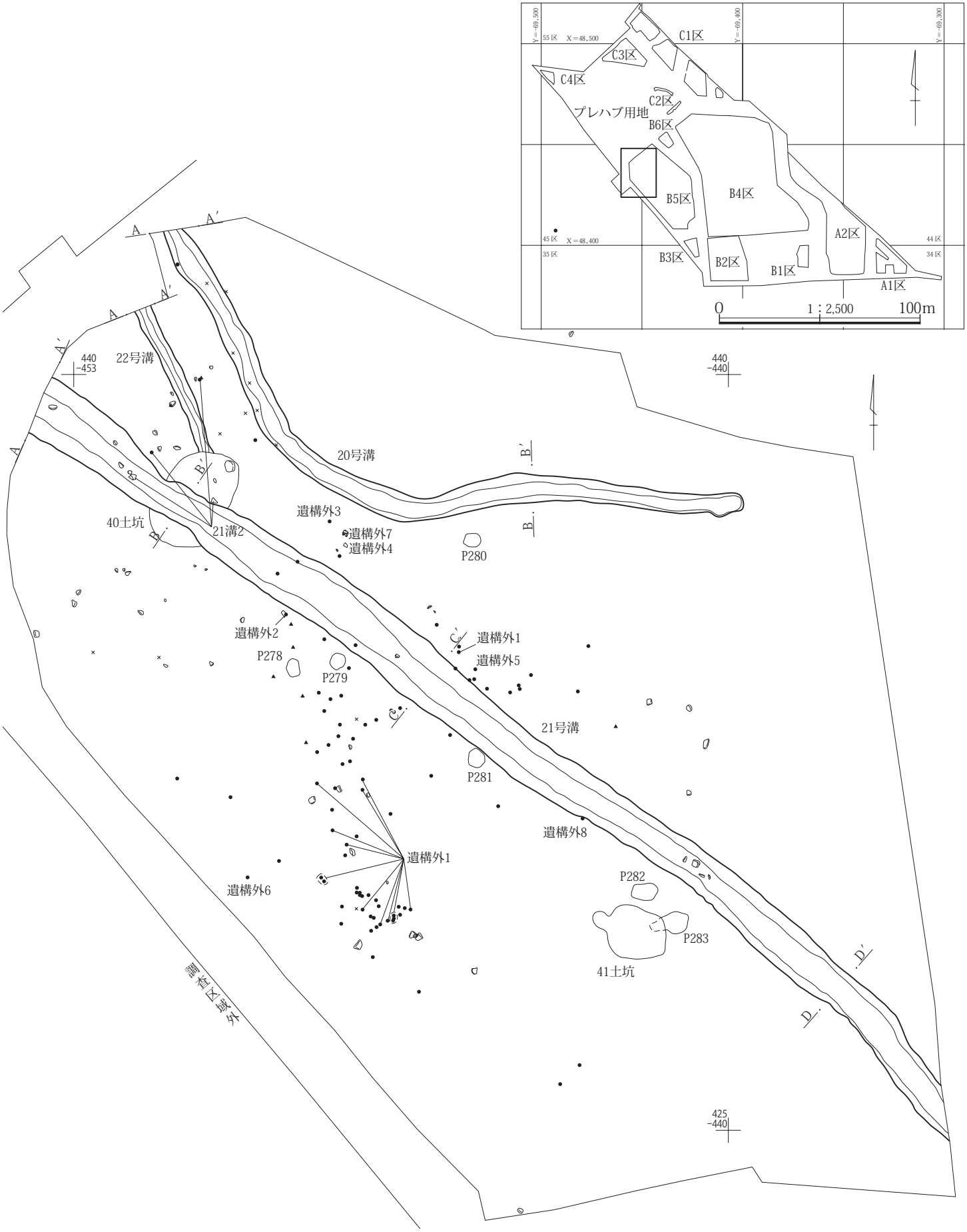
第88図　Ｂ４区５面　遺構外出土遺物（２）

２　Ｂ２・３区の遺構と遺物

As-C軽石層下面に遺物包含層が確認できた。非掲載遺物として土師器(甕類３片)、縄文土器１片が出土している。

３　Ｂ５区、Ｃ１区の遺構と遺物

Ｂ５区から土師器59片(甕類)、剥片石器１点(石斧)、剥片石器１点(石鏃)、Ｂ５区中央トレンチから土師器(杯類４片、甕類４片)が出土している。Ｃ１区から非掲載遺物として土師器１片(甕類)が出土している。



第89図　Ｂ５区６面　全体図

Ⅵ　古墳時代以前〔第６面〕

本項で報告するのは、５世紀洪水層下のAs-Cを含まない黒褐色土を確認面とした遺構である。遺物の中には弥生土器が出土しているものの、遺構に伴う遺物は少ない。土層により明らかにＢ４区５面より下層であるため、Ｂ・Ｃ区の６面として調査を行った。細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地上に位置している、溝３条、土坑２基、ピット６基が検出された。遺構面の大半は５世紀洪水層下のAs-Cを含まない黒褐色土で埋没しており、細ヶ沢川の旧流路の影響はないと考えられる。遺構の検出状況から、微高地における生活が想定できる。遺構の形状及び、弥生土器を含めて遺構に伴う遺物が少ないことから、調査面の時期の正確な比定は難しい。

１　Ｂ５区の遺構と遺物

（１）溝

本調査区の溝は、３条確認できた。調査区西部の微高地にある。全体の傾向として、調査区低地部に向けて流れ込んでいると考えられる。削平が進んでおり、いずれも全容が明瞭でない。その中でも21号溝のように、調査区を横断する溝も確認されている。埋没土の上にAs-C軽石を含む黒褐色土が堆積しており古墳時代以前の溝であると考えられるが、各々の溝の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

20号溝（第89・90図　PL.40・41・54）

位置：437～442・-439～-451　**規模**：長さ（14.35）m×幅0.40～0.58m　**残存深度**：0.06～0.14m　**走行方位**：N―28°―W、N―89°―E　**遺物**：弥生土器１点（甕（１））を掲載した。非掲載遺物として、弥生土器（中期９片）が出土している。　**重複**：なし　**所見**：底面は黄橙色砂で埋没しており、流水の痕跡が見て取れる。その後、にぶい橙色土で埋まっている。南東に走行した後向きを変えて、東へ走行している。地表の傾斜方向に平行に走行している。その先は、調査区域外になっており確認できない。溝の高低差を見ると、東部が高く北西部が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、底面は平坦である。幅はほぼ一定である。東部がやや狭い。残存深度はやや浅い。北西方向の走行は22号溝と並行する。途中22号溝と少し並行して、東に行くほど離れていく。本溝が区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等は、微高地からの水を北西部の低地部に逃がす、用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土等より、古墳時代以前の溝であると推察される。

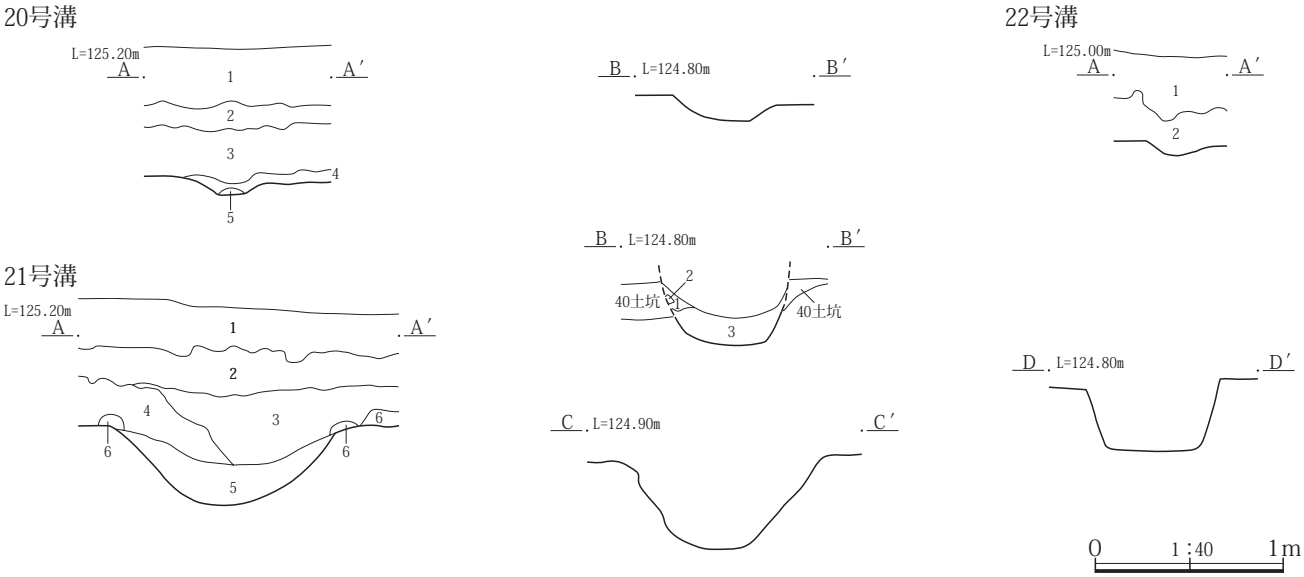
21号溝（第89・90図　PL.40～42・54）

位置：424～439・-435～-453　**規模**：長さ（23.12）m×幅0.72～1.18m　**残存深度**：0.36～0.48m　**走行方位**：N―52°―W　**遺物**：土師器１点（甕（２））　**重複**：40号土坑に後出している。　**所見**：にぶい橙色土で埋没している。溝の両脇に浅黄橙色砂など砂質の堆積もみられ、流水の痕跡が見られる。ほぼ直線であり、南東方向から北西方向に走行しており、地表の傾斜方向に平行に流れる。その先は調査区域外のため明瞭でない。溝の端部の高低差を見ると、南東部が高く北西部が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で、途中ですり鉢状に変化する箇所がある。底面は逆台形の部分は平坦で、すり鉢状の部分は丸底である。幅は南東部が狭く、北西部への流れに従って広くなる。残存深度は南東部が深く、北西部に流れるにしたがって浅くなる傾向にある。近接する20・22号溝との走行は基本的には一致していない。この面では他に、明瞭な形で残存している溝は少なく、区画を呈しているか明瞭でない。この溝の機能等は、微高地より北西部の低地に水を逃がす用排水路の一つと考えられる。溝の形状及び埋没土の上層にAs-C粒子を多量に含むことから、古墳時代以前の溝であると推察される。

22号溝（第89・90図　PL.40～42）

位置：438～441・-450～-451　**規模**：長さ（3.12）m×幅0.23～0.32m　**残存深度**：0.05～0.8m　**走行方位**：N―24°―W　**遺物**：認められない。　**重複**：40号土坑に後出している。　**所見**：黄橙粒砂を多量に含む浅黄橙土で埋没していた。流水の痕跡が見て取れる。ほぼ直線であり、南南東方向から北北西方向に走行しており、傾斜方向に平行に流れる。北西部が調査区域外のためその先は明瞭でない。溝の両端部の高低差を見ると、北西が高く南東部が低い。20・22号溝と逆である。溝の断面形は基本的には、すり鉢状で、底面は丸底である。幅は北西部ほど広く、南東部はやや狭い。残存深度はやや浅い。

走行は、20号溝の北西部と一致する。区画を呈しているか明瞭でない。本溝の機能等は、用排水路の一つと考えられるが、20・21号溝とは役割が異なると思われる。40号土坑との関連が推察される。溝の形状及び埋没土等より、古墳時代以前の溝であると推察される。

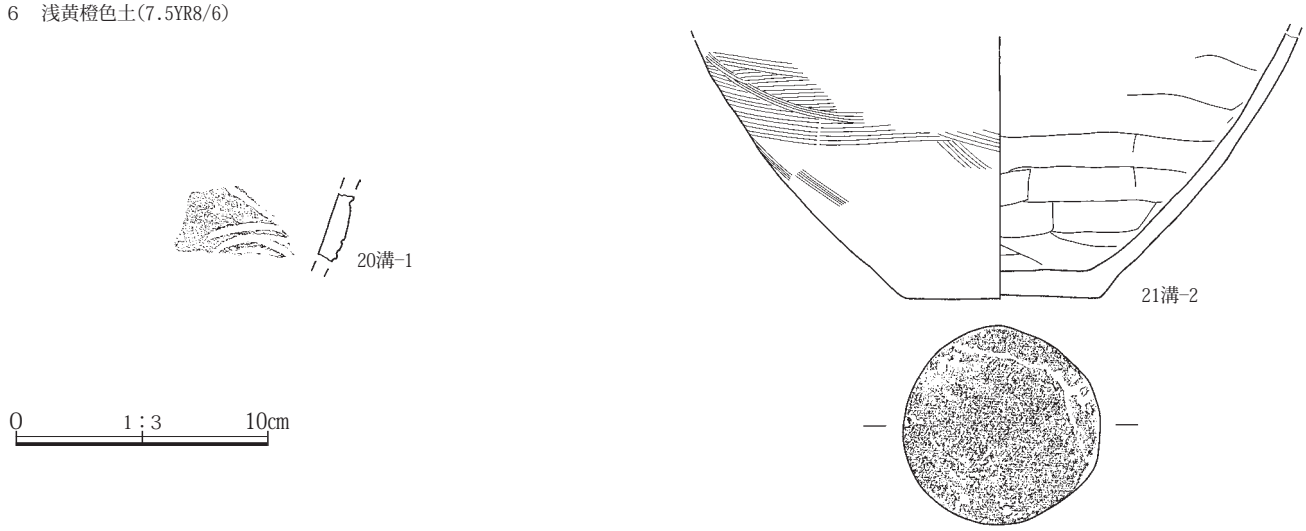


20号溝　A-A′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C粒多量含む。(特に下半部)やや粘性。
2　黒褐色土(7.5YR2/2)　白色粒子僅か含む。僅かに砂質。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　浅黄橙色砂ブロック・カーボン粒僅か含む。やや砂質。
4　にぶい橙色土(7.5YR6/3)　浅黄橙色砂ブロック少量含む。
5　浅黄橙色砂(7.5YR8/8)　黄橙色砂粒多量含む。砂質。水の流れた痕跡か。

21号溝　A-A′
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　As-C粒多量含む。(特に下半部)やや粘性。
2　黒褐色土(7.5YR2/2)　白色粒子僅か含む。僅かに砂質。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　浅黄橙色砂ブロック・カーボン粒僅か含む。やや砂質。
4　褐色土(7.5YR4/3)　黄橙色砂粒少量含む。
5　にぶい橙色土(7.5YR6/3)　浅黄橙色砂ブロック多量含む。
6　浅黄橙色土(7.5YR8/6)

21号溝　B-B′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　浅黄橙色ブロック僅か含む。やや砂質。
2　浅黄橙色土(7.5YR8/6)　ブロック状。
3　にぶい橙色土(7.5YR6/4)　黄橙色砂粒・カーボン粒僅か含む。

22号溝　A-A′
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　浅黄橙色砂ブロック・カーボン粒僅か含む。やや砂質。
2　浅黄橙色土(7.5YR8/8)　黄橙色砂粒多量含む。砂質。水の流れた痕跡か。



第90図　Ｂ５区６面　20～22号溝断面、20・21号溝出土遺物

（２）土坑

Ｂ５区の土坑（第91図　PL.42・43）

本調査区の土坑は、２基確認できた。調査区西部の微高地にある。周囲に散見できるピットとの関連は明瞭でない。削平が進んでおり、全容が明瞭でない。埋没土にAs-C軽石を含んでいない。古墳時代以前の土坑であると考えられるが、各々の土坑と他の遺構の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。（詳細については第４表に記した。）

所見：埋没土は主に褐色土である。浅黄橙色砂粒、カーボン細粒を含む砂質土である。溝との関連が指摘できる。形状は基本的には楕円形であり、主軸方位は一定でない。40号土坑は楕円形であり、21号溝に前出している。22号溝が重複している。41号土坑は、不整形であるが、基本的には楕円形がもとになっていると推察される。21号溝周辺に位置しており、関連が推察される。40・41号土坑は、若干の時期差を認めるものの、溝等他の遺構と同時期である可能性が指摘できる。

40号土坑（第91図　PL.42）

位置：437・-450

形状：楕円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：2.11×1.32m　**深度**：0.27m

主軸方位：N―38°―E

埋没土層：褐色土で埋没しており、黄橙色土が浸食している。カーボン細粒を含み、砂質である。

重複：21号溝に前出しており、22号溝に後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね古墳時代以前の可能性を有すると思われる。近接する溝やピットとの関連が明瞭ではないが、用途の違う20・22号溝を連結させる役割の可能性が指摘できる。

41号土坑（第91図　PL.43）

位置：428・-441

形状：不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。

規模：1.53×1.04m　**深度**：0.25m

主軸方位：N―71°―W

埋没土層：褐色土で埋没している。にぶい褐色土が入り込んでいる。砂質である。

重複：283号ピットに後出している。

遺物：認められなかった。

所見：本土坑の使用目的は確認できなかった。時期は明らかにできなかったが、確認面、埋没土及び形状から、おおむね古墳時代以前の可能性を有すると思われる。近接するピットや溝との関連が想定されるが、明瞭ではない。

（３）ピット

Ｂ５区のピット（第91図　PL.43）

概要：Ｂ５区６面では、溝３条、土坑２基、ピット６基が検出された。ピットは、細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地にある。20・21号溝の片側に沿うように位置している。本調査面のピットは、建物の柱穴及び柵の柱穴としての可能性を検討したが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物を復元するための資料が見つからなかった。ピットの使用目的は明瞭でない。なお、ピットから遺物の出土は見られなかったが、埋没土、形状、及び重複関係等から、溝、土坑等周囲の遺構と時期差の少ないものであると思われる。また、本調査区では、上面において古代から中世にかけて溝及び建物跡と推察されるピット群が検出されている。この微高地においては、その後も人々の営みが引き続き繰り広げられていた痕跡がうかがえる。（詳細については第５表に記載した。）

位置：ピットのほとんどは、21号溝に沿って検出されている。溝にかかわる施設の可能性については明瞭でない。

重複：283号ピットが41号土坑に前出している。

規模形状：多くが小型で楕円形を呈する。これらのピットは、建物の柱穴である可能性は少なく、復元には至らなかった。

埋没土：主に極暗褐色土と黄橙色土、灰褐色土に分かれる。白色粒子、カーボン細粒を含むことは共通している。全体的に砂質である。

その他：本調査面で出土したピットについて図示し、その特性を以下の通り解説する。

・柱痕が推測される形状で、柱穴であった可能性があるものとして、281・282号ピットがあげられる。

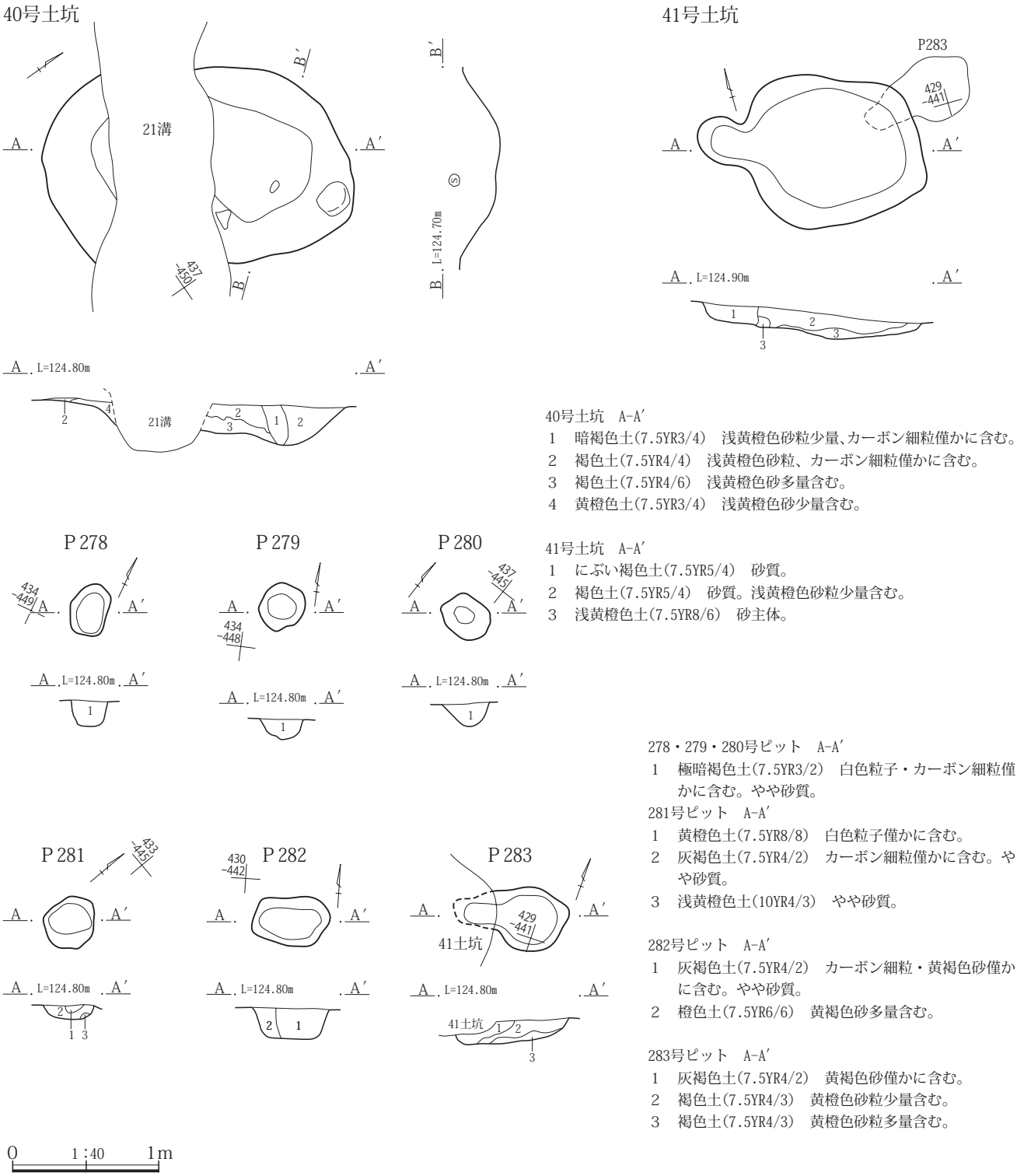
・新規に掘り直した様相が伺るものとして、283号ピットがあげられる。

・同じ規模または同じ形状のピットが平行して並んいるものとして、278・279号ピットがあげられる。

・上部が削平を受けており、底部が形良く残存していると思われるものとして、278・279・280・281・282号ピットがあげられる。

遺物：認められない。

所見：埋没土、形状、及び周囲の遺構等から古墳時代以前の可能性を有すると思われる。



40号土坑　A-A′
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　浅黄橙色砂粒少量、カーボン細粒僅かに含む。
2　褐色土(7.5YR4/4)　浅黄橙色砂粒、カーボン細粒僅かに含む。
3　褐色土(7.5YR4/6)　浅黄橙色砂多量含む。
4　黄橙色土(7.5YR3/4)　浅黄橙色砂少量含む。

41号土坑　A-A′
1　にぶい褐色土(7.5YR5/4)　砂質。
2　褐色土(7.5YR5/4)　砂質。浅黄橙色砂粒少量含む。
3　浅黄橙色土(7.5YR8/6)　砂主体。

278・279・280号ピット　A-A′
1　極暗褐色土(7.5YR3/2)　白色粒子・カーボン細粒僅かに含む。やや砂質。

281号ピット　A-A′
1　黄橙色土(7.5YR8/8)　白色粒子僅かに含む。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　カーボン細粒僅かに含む。やや砂質。
3　浅黄橙色土(10YR4/3)　やや砂質。

282号ピット　A-A′
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　カーボン細粒・黄褐色砂僅かに含む。やや砂質。
2　橙色土(7.5YR6/6)　黄褐色砂多量含む。

283号ピット　A-A′
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　黄褐色砂僅かに含む。
2　褐色土(7.5YR4/3)　黄橙色砂粒少量含む。
3　褐色土(7.5YR4/3)　黄橙色砂粒多量含む。

第91図　Ｂ５区６面　40・41号土坑、278～283号ピット

（４）遺構外出土遺物（第92図　PL.54）

Ｂ５区６面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、Ｂ５区から、土師器１点（甕（９））、弥生土器７点（甕５点（１・２・５・６・７）、筒形土器２点（３・４）、縄文土器１点（深鉢（８））、剥片石器２点（石鏃（10・11））を掲載した。非掲載遺物として、剥片石器２点（石鏃）が出土している。また、弥生土器（中期12片）、縄文土器（堀之内１式１片）が出土している。下層からの混入であると思われる。

２　**Ｃ１区の遺構と遺物**（第92図　PL.54）

Ｃ１区から弥生土器１点（甕（12））を掲載した。

第92図　Ｂ５・Ｃ１区６面　遺構外出土遺物

第４章　総括

第１節　調査の成果

本報告書で報告する川端山下遺跡で調査した遺構は以下の通りである。Ａ区で調査した遺構は、近世(江戸時代)の溝１条、中世(室町時代)の竪穴状遺構１基、溝２条、地下式土坑２基、土坑２基、古代(平安時代)の竪穴住居１軒、溝１条である。Ｂ・Ｃ区で調査した遺構は、近世の竪穴状遺構１基、溝８条、土坑26基、ピット78基、中・近世の溝８条、畑１条、井戸１基、土坑９基、ピット112基、石垣１基、古代の溝３条、畦１条、耕作痕１条、土坑５基、ピット88基、古墳時代の水田２面、古墳時代以前の溝６条、土坑２基、ピット６基である。

川端山下遺跡は、前橋市の北西部、前橋市川端町に所在しており、赤城山南西麓の広瀬川低地帯に位置している。これまでの上武道路の建設事業に伴う周辺の調査では、古墳時代の溝、水田、畑、平安時代の住居、溝、製鉄炉、鍛冶痕、畑、土坑、中・近世の竪穴状遺構、掘立柱建物、溝、柵列、道、水田、耕作痕、近世復旧痕、水田などが確認されている。

今回の川端山下遺跡の調査により、周辺遺跡との遺構検出状況に大きな相違はなかった。本遺跡周辺においては、古墳時代から水田耕作が行われ、平安時代にかけて集落が継続的に形成されてきた地域であることが明らかになった。

川端山下遺跡の出土遺物は少なかったものの、縄文・弥生時代から近世まで時期や種類は多種多様であった。報告書に掲載した遺物は、縄文土器３点、弥生土器11点、縄文時代から中・近世の石器及び石製品など73点、土師器・須恵器など33点、中世から近現代の陶磁器類181点、金属類など48点である。

遺構に伴う遺物ではないが、縄文・弥生時代の土器、土師器・須恵器、石器及び石製品、陶磁器類、金属類など幅広い時期の遺物が表土や埋没土などから出土した。これらについては遺構外出土遺物として掲載した。詳細は遺物観察表(133～145頁)を参照されたい。

今回の調査により、調査面が確認され遺物包含層が想定された調査区、及び調査面が確認されたものの遺構や遺物が認められなかった調査区があった。ただし、Ａ１区のように人の足跡が検出されている調査区もあり、生活の痕跡がうかがえる。調査区の詳細な区分及び調査区ごとの遺構・遺物の確認状況についは第１章第４節２項を参照されたい。

以上のような調査成果の中から本章では、遺構において、Ｂ４区からＢ５区にかけて細ヶ沢川の旧流路右岸の微高地上で検出された中・近世の屋敷跡について、遺物では、前橋藩窯によって焼成された陶磁器、及び南鐐二朱銀を模した銭形土製品について考察する。

第２節　旧流路右岸に位置する中・近世の屋敷跡

１　はじめに

川端山下遺跡は、調査区の中央に細ヶ沢川の旧流路が存在しており、その影響を受けている。また、本遺跡は、カスリン台風による洪水の影響を受けた土地に位置しており、調査区全体がカスリン台風による洪水層で覆われている。洪水層下の堆積状況は調査区内の場所によるが、旧表土、耕作土で埋没している。本遺跡１・２面の調査面における細ヶ沢川の旧流路の両岸の状況を細かく見ると、旧流路左岸にあるＡ１・２区、Ｂ４区北東部、Ｃ１区の標高がやや高いのに対して、旧流路右岸にあるＢ４区南西部、Ｂ５区の標高がやや低い傾向が観察される。本節で検討するのは、旧流路右岸に位置するＢ４区南西部からＢ５区にかけて検出された中・近世における溝及び溝に囲まれた区画についてである。本報告書においては、Ｂ４区南西部検出の遺構は１面で扱い、Ｂ５区検出の遺構は２面で扱っている。ただし、第３章１節の調査の概要でも先述したとおり、本遺跡においては、発掘段階では面調査が行われており、本稿の掲載については発掘時の面調査を基準としている。遺構によっては、面が重複して検出されているものがあり、その旨は本文において指摘してきたとおりである。ここでは、Ｂ４区南西部とＢ５区にかけて検出された溝及び溝に囲

まれた区画についての関連を検討するものである。

２　屋敷堀と推定される溝について

屋敷堀と推定される溝については、２つに分けて検討する。３・４号溝に関するものと、13・14・15・16号溝に関するものである。３・４号溝は、Ｂ４区南西からＢ５区の東にかけて位置している。13・14・15・16号溝は、Ｂ５区の中央から西にかけて位置している。特に、３・４号溝に関しては、コ字状を呈しており、敷地を囲う堀の可能性を示唆している。これらの溝が中・近世における屋敷堀である可能性について検討するものである。

（１）Ｂ４区からＢ５区にかけての３・４号溝

Ｂ４区南西部とＢ５区における３・４号溝の位置を示したものが第93図である。これによると、Ｂ４区南西部の３・４号溝の北とＢ５区東の３・４号溝が北西隅で曲がり東進する箇所とがつながる可能性があることが分かる。４号溝の底部に３号溝が掘削されているところまで一致している。また、Ｂ４区南西部の３・４号溝は、南東隅でＢ５区方向へ曲がっており、Ｂ５区の３・４溝の南端につながる可能性を示す。つまり、Ｂ４区南西部の３・４号溝とＢ５区東の３・４号溝に囲まれることにより、一つの区画が生じている可能性があると判断できるのである。ただし、Ｂ４区南西部の３・４号溝の南北辺とＢ５区東の３・４号溝の南北辺は主軸方位が平行ではなく、時期差があり別施設の可能性が強いと判断することもできる。規模、埋没土等詳細に関しては本文を参照されたい。特にＢ５区東の３・４号溝は、幅が広く深さも十分であり、屋敷堀の可能性を指摘できる。

（２）Ｂ５区の13・14・15・16号溝

第93図によると、Ｂ５区の中央から西にかけて13・14・15・16号溝が、これらの溝の西の区画を形成していると判断できる。特に14･16号溝は、Ｂ５区北で西へ曲って区画を囲う様相を呈している。また、13号溝に関しては、３面においても検出されており、下面の時代から使用されてきたものである。14号溝は、16号溝と一体となり、途中から13号溝と並走する。15号溝は、３・４号溝の西を並走し３・４号溝の北西隅で合流する。16号溝は、14号溝と一体となり、13号溝と合流したのち、３・４号溝の北西隅で３・４号溝及び15号溝と合流する。ただし、13・14・15・16号溝は、屋敷堀としては幅が狭く深さも十分でない。規模、埋没土等詳細に関しては本文を参照されたい。しかし、これらの溝の西には、溝によって区画された土地が確認される。そこから検出されたピット群や土坑等が屋敷の存在を想定させる。

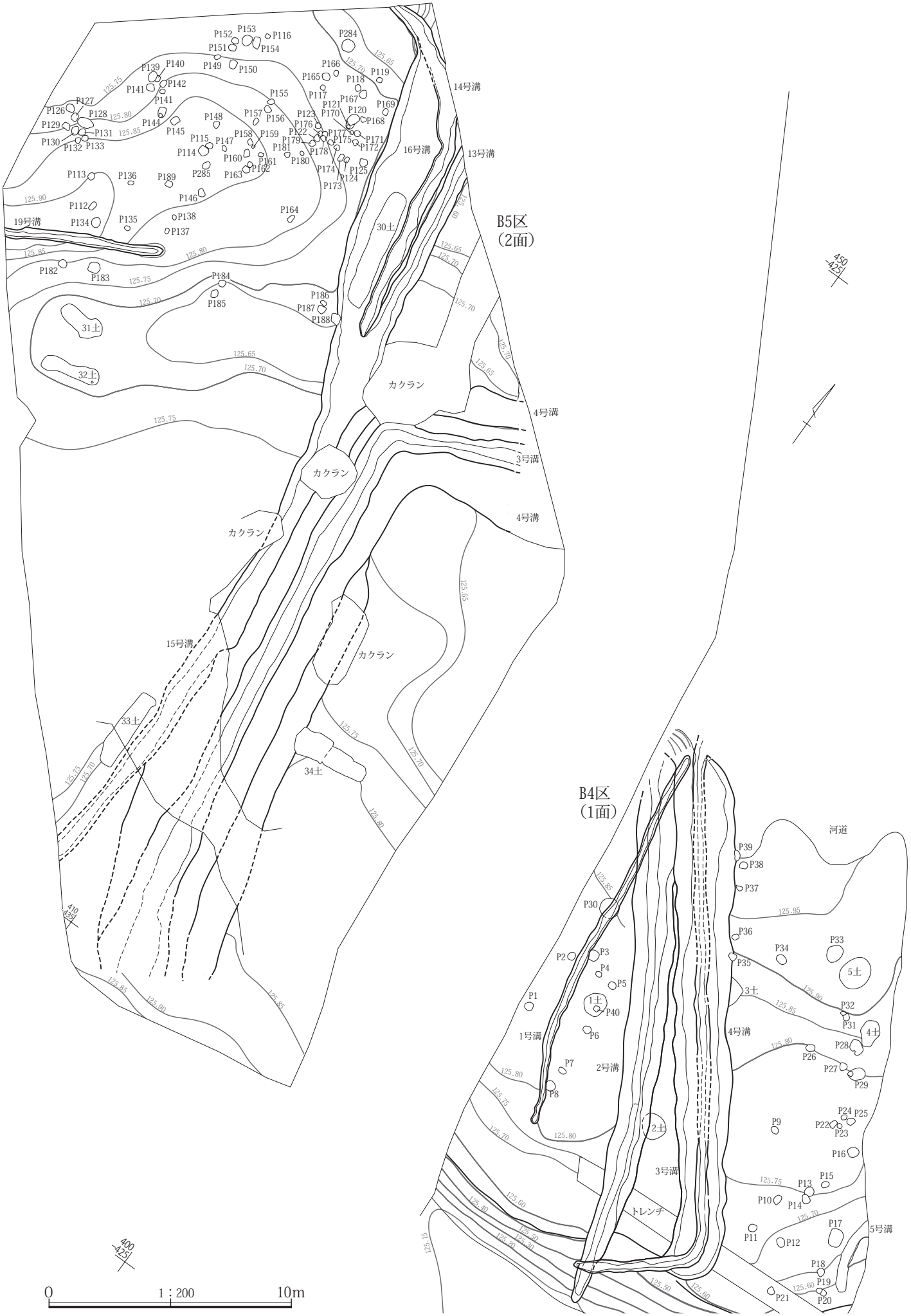
３　屋敷跡と推定される遺構について

屋敷跡と推定される遺構についても、２つに分けて検討する。３・４号溝によって区画されたものと、13・14・15・16号溝によって区画されたものである。３・４号溝によって区画されたものは、Ｂ４区南西からＢ５区の東にかけて位置している。13・14・15・16号溝によって区画されたものは、Ｂ５区の中央から西にかけて位置している。特に、３・４号溝よって区画された土地は、不整形を呈しており、屋敷の敷地としては不自然である。ここでは、中・近世における屋敷の存在について検討するものである。

（１）３・４号溝内の屋敷跡と推定される遺構

Ｂ４区の３・４号溝とＢ５区の３・４号溝に囲まれた区画は、北辺より南片が長い台形を呈していると推察される。規模は、北辺15m、南辺22m、東辺21m、西辺21.5m以上と推定される。面積は、400㎡程と推察され、屋敷を構えるのには不自然な形状を呈している。ここでは、Ｂ４区南西部の３・４号溝とＢ５区東の３・４号溝には、時期差があり、別施設と考えるのが妥当であろう。ただし、特にＢ５区東の３・４号溝は溝の内側の土地は整地されており、敷地が南東方向へ広がる可能性が指摘できる。Ｂ４区南西部の３・４号溝はＢ５区東の３・４号溝が廃絶されたのち、旧流路の変遷に伴って掘削されたものであろう。

建物跡についての資料は乏しい。Ｂ５区の西辺際に34号土坑が、Ｂ４区南西部には、１・２号土坑、１・２・３・４・５・６・７・８・40号ピット、及び３・４号溝の東際に３号土坑、35・36・37・38・39号ピットが検出された。特に、Ｐ２・５・６・７については、辺Ｐ２・５と辺Ｐ５・６・７が直行しており、建物の一部の可能性を示唆している。さらに、互いの距離も２m程の等間隔で一定している。また、３・４号溝東に位置するＰ



第93図　Ｂ４・５区の溝全体図

24・27・31は約２ｍの等間隔で柱穴列の可能性があり、溝の区画内の屋敷と推察される遺構との関連が考えられる。特に、Ｐ５・６・７の柱穴列の走行方位とＢ５東の３・４号溝南北辺の走行方位がほぼ合っており、これらのピット群は、Ｂ４区南東部の３・４号溝に伴う施設より、Ｂ５区東の３・４号に伴う施設の可能性のほうが高いと考えられる。しかしながら、建物や柱穴列を明確に形成するためには資料に不足していると言わざるをえない。ただし、ピット群の頁でも先述したが、柱穴と推察されるピットも複数あり、屋敷の一部を構成する資料として否定できないものである。

（２）13・14・15・16号溝内の屋敷跡と推察される遺構

13・14・15・16号溝の西には、これらの溝によって区画された土地が確認できる。区画の範囲は、調査区域外に続くため、南北、東西ともに不明である。区画の南北は、土地の有効利用の範囲は明瞭でないが、区画北東隅から南限の33号土坑まで約30ｍを測る。また、ピット群のまとまりから考えると、調査区の北から32号土坑まで約20ｍを測る。区画の東西は、14号溝から調査範囲内までで約14ｍを測る。調査区内の区画の面積は、検出範囲だけでおよそ300㎡以上と考えられ、屋敷を構えるのには十分な広さがある。また、19号溝によって、本区画が南北に分けられており、屋敷に関連する仕切りの可能性がある。この区画で確認された遺構は、土坑４基、ピット78基を数える。これら溝の西に位置するピット群や土坑は、建物は検出できなかったものの、ピット群の頁でも報告したように、柱穴と推察されるピットも複数あり、屋敷の一部を構成する資料として否定できないものである。

４　旧流路左岸に位置する中・近世の屋敷跡と推察される遺構について

ここでは比較の意味で、Ｂ４区１面における旧流路左岸に位置する中・近世の屋敷跡と推察される遺構にふれておきたい。

第３章第33図によると、Ｂ４区北東部にも、土坑、ピット、溝等が複数検出されており、屋敷跡が想定できる。この屋敷跡は旧流路左岸に位置している。対岸にある旧流路右岸の屋敷跡と異なるのは、周囲に堀と想定される溝がないことである。遺構の要素は、竪穴状遺構１基、土坑21基、ピット32基、溝３条である。特に、１号竪穴状遺構、６・８・14・22号土坑、６・７号溝は主軸方位や走行方位が合っていることが観察される。ピット群の頁でも先述したが、柱穴と推察されるピットも複数ある。資料不足で具体的な建物は検出できなかったものの、屋敷の一部を構成する資料として否定できないものである。また、旧流路右岸に位置する３・４号溝に関連する屋敷跡、13・14・15・16号溝に関連する屋敷跡との関連性については、具体的な資料は見つかっていない。屋敷堀と推察される溝の有無が異なることと、土層より旧流路右岸の屋敷跡と推察される遺構より旧流路左岸の屋敷跡と推察される遺構のほうが新しく若干の時期差があること以外は明瞭でない。ただし、旧流路を挟んで屋敷が存在していた可能性を指摘する。

５　まとめ

本遺跡における旧流路両岸の建物跡に関して検討することに関して、本遺跡周辺における歴史的な環境を振り返る必要があるだろう。

関東地方が戦国時代に入るころ、本遺跡周辺にもこの時期の城館が存在している。『富士見村誌』続編によると、陣場（前橋市0596遺跡）は、文明９（1477）年に太田道灌が長尾景春と対陣した際の陣跡としている。また、本遺跡周辺には、関根の寄居（前橋市0010遺跡）、横室寄居（前橋市0741遺跡）・青柳寄居（前橋市0943遺跡）などの寄居が分布している。寄居は、当時の統御組織に関連する呼称であり、長尾氏や桐生氏関係に限定して用いられていた。ただし、本遺跡周辺のものは長尾氏に関係するものである。その他、本遺跡周辺には八幡山の砦（前橋市0036遺跡）・田島城（前橋市0755遺跡）・森山城（引田城）（前橋市0756遺跡）・九十九山の砦（前橋市0765遺跡）・金山城（前橋市0766遺跡）などの城館が存在している。

本遺跡周辺には、上記のとおり城、館、砦などの他に地域的な傾向として長尾氏や桐生氏に関連する寄居が分布しており、その一部とが本遺跡の屋敷跡に関連する可能性があると考えられる。しかし、区画の西側が調査区域外であることや各調査区の間が現道や水路のため未調査であること、区画内の土坑、ピット群等の遺構の残存

状態が良好でないことなどから、全容を把握することは困難である。

第３節　前橋藩窯によって焼成された陶磁器

本遺跡において、Ａ２区１面１号溝及びＢ５区２面遺構外から、前橋藩窯で焼成された陶磁器が出土した。前橋藩窯製品は、前橋藩城内の高浜焼窯及び現在の前橋市富士見町の皆沢焼窯で焼かれていたとされている。本遺跡は、群馬県庁の北約５㎞、前橋市富士見町皆沢の南西６㎞に位置している。双方の窯場の間の地域に位置していると考えてよい。そもそも前橋藩直営の窯で焼成された陶磁器は、２つの窯場のどちらで焼かれたのか判断するのは難しい。まして本遺跡の陶磁器は、それらの窯場の間の地域のほぼ中間点で見つかっており、どちらの窯で焼かれて、どのような経路を辿って流通してきたものなのか、その判断は困難である。

ところで、前橋藩窯で陶磁器が焼成されることに至った経緯は何であったのだろうか。それには、当時の前橋藩の財政状況についてその背景を考慮する必要がある。

文政６(1823)年の藩財政収支表によると、文政期の領内農村の荒地役介地、不斗出(風斗出)等その疲弊が顕在化し、藩は文政２(1819)年勧農付属を任命して興農政策に積極的に取り組み始めた。家中に対する擬作も強化され、年貢収支に依存する藩財政の危機が高まった時期に重なる。

当時の前橋藩では、この藩財政を打開するために殖産興業策が講じられたのである。従来の産業開発では藩の収入を増やすことには至らず、検討の結果、逼迫する藩財政を打開するため各種の殖産興業を行い、その一つとして陶磁器の焼物業が選ばれたのである。幸いなことに、前橋領内には赤城山に良質の陶土と、燃料の薪材が豊富にあり、原材料にはことかかなかったようである。

前橋藩直営当時の藩窯には皆沢焼窯と高浜焼窯があり、２か所において生産をはじめた。皆沢焼窯は赤城山中腹の皆沢村にあった。現在の前橋市富士見町皆沢の山林にその一部が残っており、今では「皆沢焼窯跡」として前橋市の史跡に指定されている。高浜焼窯は、前橋城内の一郭である高浜曲輪、現在の群馬県庁北側にあったとされている。

藩営はそう長い期間ではなかったようで民間に貸与した文政５年までの足かけ８年の操業期間になる。前橋藩窯は前橋藩直営の藩窯として始まったものの、８年という短い操業期間で民営に移管されたのち天保末期まで陶磁器を焼いていたと考えられている。土は利根の白土とよばれた利根郡利根村根利にある山の土を採掘して運んだとされている。高浜曲輪の原料も根利山のものであったとされる。焼いた品目については日用雑器類が主であった。職人の中には美濃土岐郡一ノ倉村の者がおり、瀬戸の本場の者であったことを物語っている。

本遺跡から出土した前橋藩窯で焼かれた陶磁器の具体的な出土場所と器種は以下の通りである。

Ａ２区１面、近世に比定される１号溝からは前橋藩窯製品のすり鉢１点、土瓶３点が、Ｂ５区２面、中・近世に比定される面の遺構外からは前橋藩窯製品の染付小碗１点が出土した。詳細は第３章第２節１項・第３節２項、写真図版PL.48・52、及び口絵を参照されたい。本遺跡から出土した前橋藩窯製品は、江戸時代に存在した前橋藩直営の陶磁器窯に由来して焼かれたものの一部であると考えられる。

この窯場は関東地方では数少ない磁器を焼いた窯としても重要である。前橋領内には赤城山に良質の陶土があるとのことであったが、「焼物土」は根利山と赤城山から採っていた。前橋藩窯製品の種類は主に日常什器で、磁器と陶器を同じ窯で生産していた。皆沢焼窯からは、磁器では湯飲み、飯茶碗、椀、皿、小鉢、徳利などが、陶器では皿、こね鉢、徳利、土瓶、鍋、行平、灯火具、すり鉢、水瓶などの日用品が見つかっている。

前橋藩窯である皆沢焼窯及び高浜焼窯で焼成された陶磁器には、焼成時の状況から特徴が表れている。前橋藩窯製品の陶器の多くには短時間で鉄釉が融けた際に生じる「あだびかり」という独特の強い光沢が認められる。本遺跡で出土した前橋藩窯製品と推察される陶磁器は、磁器では染付小碗、陶器ではすり鉢や土瓶であった。すり鉢や土瓶の表面には、「あだびかり」と思われる光沢が認められており、前橋藩窯製品の特徴に一致するものである。

前橋藩窯製品が、本遺跡から出土した意味はどこにあるのだろうか。主に、本遺跡が２つの窯場の間の地域に

位置していたこと、前橋藩窯製品が日用雑器類であり日常的に流通していたことが考えられるだろう。本遺跡から出土した陶磁器は、当時、日用雑器類として前橋藩領内を流通していたものの一部であることが推察されている。さらに、前橋藩窯製品は前橋城の曲輪内や前橋藩領以外の地域でも見つかっており、それらの出土状況についても確認する必要があるだろう。

これまでに前橋藩窯製品においては、以下の遺跡からの出土が報告されている。

後田遺跡Ⅱ（みなかみ町）では、磁器色絵染付碗１点、磁器染付碗１点、磁器染付広東型碗２点が、表採や埋没土から出土している。五目牛南組遺跡（伊勢崎市）では、磁器広東型碗１点が、３号屋敷跡の遺構外から出土している。前橋藩が拠点とする前橋城の遺跡に関して、前橋城跡（前橋市）では、染付広東碗、染付端反碗、小杯等の磁器製品、行平鍋、片口鉢、灯火受皿等、棚板、匣鉢、支柱等の窯道具、合わせて59点が、３号遺物集中や３号溝等から出土している。さらに、前橋北曲輪遺跡（前橋市）では、窯部材２点、棚板１点等の窯道具が、１・２号溝から出土している。前橋城外曲輪内では、前橋藩窯製品の陶磁器のみならず、窯道具が見つかっている。

これらの遺跡における前橋藩窯製品の出土状況から、前橋藩領内にとどまらず、北は沼田藩領内から南及び東は伊勢崎藩領内・岩鼻代官所の天領までと、比較的広い範囲で前橋藩窯製品が流通していたことがうかがえる。それに加え、本遺跡からの前橋藩窯製品の出土は、遺跡が双方の窯の中間点に位置していたという観点から、前橋藩窯製品の流通範囲について貴重な事例となる。

本遺跡においては江戸時代に前橋藩窯で焼かれた陶磁器が発見されたものの、皆沢焼窯で焼かれたものなのか、高浜焼窯で焼かれたものなのか明確にする資料は見つからなかった。ただし、今回前橋藩窯で焼成された陶磁器が、赤城山中腹に位置する皆沢焼窯と前橋城内の一郭にある高浜焼窯の間の地域から出土したということは、材料となる陶土と燃料の薪材の近くにある窯場と殖産興業を采配する中心地となった前橋藩城内の窯場の間で出土したという観点からも興味深い。

川端山下遺跡において前橋藩窯で焼かれた陶磁器が発見されたことにより、当時の幕藩体制における地方都市の殖産興業の状況、それに関わった職人たち、当時の人々の生活の様相などの解明につながる資料が提供できたと考える。今後、さらなる調査例の増加に期待したい。

第４節　南鐐二朱銀を模した銭形土製品

Ｃ１区27土坑から南鐐二朱銀を模した銭形土製品が出土した。（口絵写真４、PL.51参照、第３章第３節２項）

南鐐二朱銀を模した銭形土製品は、当事業団が調査した遺跡では、これまでに２点出土しており、出土例は極めて少ない。具体的には成塚石橋遺跡と高林三入遺跡（いずれも太田市所在）において１点ずつ出土しており、本遺跡からの出土が３例目である。成塚石橋遺跡では９号土坑から１点（第94図左上）が、高林三入遺跡では15号溝から１点（第94図右上）が出土している。いずれも南鐐二朱銀を模した銭形土製品である。

南鐐二朱銀は、明和９（1772）年江戸幕府によって発行された。「南鐐」は良質の銀（上銀）を示す美称である。南鐐二朱銀は、表面に「以南鐐八片 換小判一両」の文字が、裏面の上部に分銅の図案と下部に「銀座 常是」の文字が極印されている。南鐐二朱銀は、古南鐐の明和南鐐二朱銀と形態が小型である新南鐐の文政南鐐二朱銀がある。明和南鐐二朱銀の鋳造期間は、前期が明和９（1772）年から天明８（1788）年、後期が寛政12（1800）年から文政６（1823）年である。ただし、実際には前期・後期の区別なく使用されていたようである。文政南鐐二朱銀の鋳造期間は、文政７（1824）年から文政12（1829）年である。明和南鐐二朱銀と文政南鐐二朱銀は、品格・形式・極印など同じである。ただし、文政南鐐二朱銀の目方は２匁に減ぜられ、形態はやや小型である。先に出土した２つの銭形土製品は、形態の大きさから文政南鐐二朱銀を模したものであると考えられている。

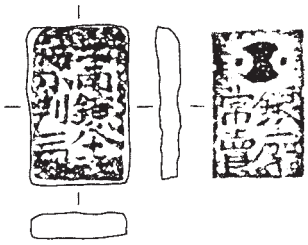
本遺跡で出土した銭型土製品（第94図左下）は形態がやや小型であり、先に出土した２例と同様に文政南鐐二朱銀を模したものであると考えられる。上部片が残存しており、表面には「此南～、城小～」の文字が、裏面には図案の一部及び「銀～、常～」の文字が読み取れる。図案の器表は一部剥離している。また、「此」や「城」など、本来の南鐐二朱銀に極印されている文字と部分的に異なった文字が使用されているところがある。文字の形は３例と

もに似ているところがあるものの、細部を比較すると極印は同じものではないと思われる。

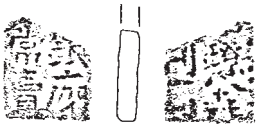
南鐐二朱銀を模した銭形土製品は、北は福島県から、東京都、群馬県、静岡県、長野県、岐阜県、石川県、南は福岡県まで、広範囲で出土が報告されている。銭形土製品は、製品自体や習俗に地域差がないため、広域を対象に製造販売していた業者の存在が推定されるところである。ただし、生産と流通に関しての検討は慎重を要するものであり今後の課題でもある。

南鐐二朱銀を模した銭形土製品は、城郭、城館跡、陣屋跡、館跡、屋敷跡、城下町、墓、集落などと出土場所が多様であること、本来の南鐐二朱銀に極印された文字の一部が、銭形土製品の鋳造過程で変化していくことなど不明な点が多く、調査例の増加が待たれている。

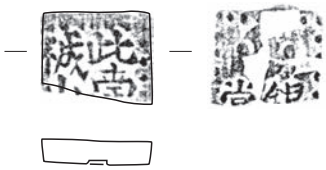
参考文献
北橘村誌編纂委員会1975『北橘村誌』
勢多郡誌編纂委員会1958『勢多郡誌』
群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編３
富士見村誌編纂委員会1954『富士見村誌』
富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編
前橋市史編さん委員会1973『前橋市史　第２巻』
前橋市史編さん委員会1975『前橋市史　第３巻』
群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編４
前橋市教育委員会2011『前橋城(三の丸門東地点)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『後田遺跡Ⅱ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『五目牛南組遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996『成塚石橋遺跡Ⅲ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『前橋城北曲輪遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『高林三入遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『前橋城三の丸遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『前橋城跡』
兵庫埋蔵銭調査会 1997『近世の出土銭Ⅰ』－論考篇－
兵庫埋蔵銭調査会 1998『近世の出土銭Ⅱ』－分類図版篇
三上隆三 1996『江戸の貨幣物語』
出土銭貨研究会 2001『出土銭貨』第16号
大西雅広 2013「誰のお金？江戸時代の銭形土製品」-歴史を掘る-『群馬風土記』VOL.112 群馬出版センター
上毛新聞社2016「"幻"の「皆沢焼」を求めて」『上州風』32号



南鐐二朱銀形土製品
（成塚石橋遺跡　９号土坑）



南鐐二朱銀形土製品
（高林三入遺跡　15号溝）



南鐐二朱銀形土製品
（川端山下遺跡　27号土坑）

0　1：1　2cm

第94図　南鐐二朱銀を模した銭形土製品の群馬県内出土例

第４表　土坑計測表

番号	区	面	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	備考(重複)
1	Ａ２	2	X=403　Y=-350	隅丸長方形	Ｎ－６°－W	1.67×0.96×0.46		１竪穴
2	Ａ２	2	X=403　Y=-356	隅丸長方形	Ｎ－78°－Ｅ	(2.12×1.35×0.43		４溝
1	Ｂ４	1	X=419　Y=-417	楕円形	Ｎ－34°－Ｅ	0.95×0.91×0.13		Ｐ40
2	Ｂ４	1	X=417　Y=-410	楕円形	Ｎ－49°－W	1.08×〔0.94〕×0.37	陶磁器、土師器片	２溝
3	Ｂ４	1	X=423　Y=-411	不明	不明	(1.23)×(0.91)×0.35		４溝
4	Ｂ４	1	X=425　Y=-405	不整形	Ｎ－24°－W	1.08×0.81×0.20		
5	Ｂ４	1	X=427　Y=-407	楕円形	Ｎ－10°－Ｅ	1.38×1.15×0.25		
6	Ｂ４	1	X=457　Y=-395	長楕円形	Ｎ－14°－Ｅ	1.99×0.57×0.30		Ｐ41
7	Ｂ４	1	X=455　Y=-394	楕円形	Ｎ－82°－Ｅ	0.77×0.43×0.14		Ｐ47
8	Ｂ４	1	X=454　Y=-394	楕円形	Ｎ－77°－W	0.84×(0.50)×0.16		Ｐ58
9	Ｂ４	1	X=458　Y=-389	楕円形	Ｎ－43°－W	1.56×1.28×0.32		Ｐ56
10	Ｂ４	1	X=453　Y=-392	楕円形	Ｎ－70°－W	〔0.73〕×0.66×0.21	土師器片	６溝、19土
11	Ｂ４	1	X=452　Y=-392	楕円形	Ｎ－71°－W	1.53×1.36×0.33	陶磁器、鉄製品、礫石器	19・25土
12	Ｂ４	1	X=455　Y=-388	不明	Ｎ－65°－W	(1.50)×0.86×0.25		1竪穴、13土、Ｐ68・71
13	Ｂ４	1	X=454　Y=-388	楕円形	Ｎ－55°－W	0.60×〔0.40〕×0.28		12土
14	Ｂ４	1	X=456　Y=-390	隅丸長方形	Ｎ－10°－Ｅ	2.11×0.84×0.74		1竪穴
15	Ｂ４	1	X=450　Y=-393	楕円形	Ｎ－75°－Ｅ	1.22×〔1.10〕×0.19		16・20土
16	Ｂ４	1	X=450　Y=-392	楕円形	Ｎ－56°－Ｅ	1.37×(0.88)×0.15	陶磁器	15土
17	Ｂ４	1	X=460　Y=-389	不整形	不明	(0.99)×1.38×0.22		
18	Ｂ４	1	X=454　Y=-393	不明	Ｎ－12°－Ｅ	3.03×(0.51)×0.19		６溝、P70
19	Ｂ４	1	X=453　Y=-392	不明	不明	-×-×0.24		６溝、10・11土
20	Ｂ４	1	X=452　Y=-393	隅丸長方形	Ｎ－13°－W	2.05×0.14×0.14	陶磁器	６溝、15土
21	Ｂ４	1	X=449　Y=-387	不明	Ｎ－11°－Ｅ	1.19×(0.42)×0.29		22土
22	Ｂ４	1	X=449　Y=-387	隅丸長方形	Ｎ－９°－Ｅ	(3.08)×0.70×0.48	土師器片	21土
23	Ｂ４	1	X=447　Y=-386	楕円形	Ｎ－９°－Ｅ	1.53×0.81×0.08		
24	Ｂ４	1	X=449　Y=-385	不整形	Ｎ－７°－Ｅ	1.76×(0.85)×0.29		
25	Ｂ４	1	X=451　Y=-392	不整形	Ｎ－０°	(0.76)×0.78×0.14		11土
26	Ｃ１	2	X=481　Y=-428	楕円形	Ｎ－52°－W	(3.28)×(1.37)×0.93		９溝、1畑
27	Ｃ１	2	X=488　Y=-426	楕円形	Ｎ－34°－W	1.44×0.71×0.17	土製品、鉄製品、銅製品	
28	Ｂ４	1	X=451　Y=-389	楕円形	Ｎ－49°－W	0.77×0.48×0.22		７溝
29								※１号井戸に変更
30	Ｂ５	2	X=440　Y=-441	長楕円形	Ｎ－14°－W	5.00×0.87×0.49	須恵器、石製品、土師器片	
31	Ｂ５	2	X=430　Y=-449	楕円形	Ｎ－79°－W	1.77×1.03×0.18	石製品	
32	Ｂ５	2	X=428　Y=-448	長楕円形	Ｎ－73°－Ｅ	2.43×0.47×0.27		
33	Ｂ５	2	X=417　Y=-437	隅丸長方形	Ｎ－２°－W	3.37×0.80×0.52	須恵器、土師器片	
34a	Ｂ５	2	X=421　Y=-431	隅丸長方形	Ｎ－81°－Ｅ	1.48×1.10×-		
34b	Ｂ５	2	X=421　Y=-430	隅丸長方形	Ｎ－84°－Ｅ	〔2.47〕×1.10×0.32		
34c	Ｂ５	2	X=421　Y=-429	隅丸長方形	Ｎ－85°－Ｅ	(0.63)×0.68×0.14		
35	Ｂ５	3	X=437　Y=-442	隅丸長方形	Ｎ－78°－Ｅ	1.42×0.45×0.23		
36	Ｂ５	3	X=432　Y=-450	楕円形	Ｎ－０°	0.78×0.77×0.16		P198
37	Ｂ５	3	X=430　Y=-447	楕円形	Ｎ－90°－Ｅ	0.87×0.73×0.13		1畦
38	Ｂ５	3	X=428　Y=-444	隅丸長方形	Ｎ－15°－W	1.87×0.97×0.12		1畦
aze	Ｂ５	3	X=428　Y=-441	楕円形	Ｎ－18°－W	1.47×1.23×0.10		
40	Ｂ５	6	X=437　Y=-450	楕円形	Ｎ－38°－Ｅ	2.11×1.32×0.27		21・22溝
41	Ｂ５	6	X=428　Y=-441	不整形	Ｎ－71°－W	1.53×1.04×0.25		P283

第５表　ピット計測表

番号	区	面	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(m)	備考(重複)
1	Ｂ４	1	418・-417	楕円形	0.36×0.35×0.18	
2	Ｂ４	1	420・-417	楕円形	0.34×0.31×0.33	
3	Ｂ４	1	421・-416	楕円形	(0.42)×0.43×0.03	１溝
4	Ｂ４	1	420・-416	楕円形	0.28×0.23×0.09	
5	Ｂ４	1	420・-415	楕円形	0.33×0.31×0.29	
6	Ｂ４	1	418・-415	楕円形	0.34×0.32×0.19	
7	Ｂ４	1	416・-415	楕円形	0.34×0.22×0.14	
8	Ｂ４	1	416・-415	楕円形	0.42×0.41×0.07	１溝
9	Ｂ４	1	420・-406	楕円形	0.35×0.27×0.17	
10	Ｂ４	1	417・-404	楕円形	0.38×0.28×0.26	
11	Ｂ４	1	416・-404	楕円形	0.37×0.32×0.36	
12	Ｂ４	1	416・-403	楕円形	0.40×0.31×0.28	
13	Ｂ４	1	418・-403	楕円形	(0.36)×0.37×0.34	P14
14	Ｂ４	1	418・-403	楕円形	0.39×0.31×0.45	P13
15	Ｂ４	1	419・-403	楕円形	0.34×0.24×0.05	
16	Ｂ４	1	421・-403	楕円形	0.45×0.41×0.23	
17	Ｂ４	1	417・-401	楕円形	0.75×0.56×0.06	
18	Ｂ４	1	416・-401	楕円形	0.36×0.30×0.39	
19	Ｂ４	1	415・-401	楕円形	0.24×0.22×0.27	P20
20	Ｂ４	1	415・-400	楕円形	(0.22)×0.23×0.21	P19
21	Ｂ４	1	414・-402	楕円形	0.30×0.28×0.08	
22	Ｂ４	1	421・-404	楕円形	0.34×0.22×0.16	
23	Ｂ４	1	421・-404	楕円形	0.22×0.20×0.07	
24	Ｂ４	1	422・-404	楕円形	0.23×0.20×0.17	
25	Ｂ４	1	422・-404	楕円形	0.34×0.28×0.54	
26	Ｂ４	1	423・-407	楕円形	0.38×0.27×0.30	
27	Ｂ４	1	423・-405	楕円形	0.33×0.31×0.09	
28	Ｂ４	1	424・-405	不整形	0.65×0.49×0.20	
29	Ｂ４	1	423・-405	楕円形	0.69×0.48×0.13	
30	Ｂ４	1	423・-417	円形	0.82×0.80×0.09	１溝
31	Ｂ４	1	425・-406	楕円形	0.26×0.26×0.12	P32
32	Ｂ４	1	425・-407	楕円形	(0.20)×0.17×0.08	P31
33	Ｂ４	1	427・-408	楕円形	0.76×0.59×0.23	
34	Ｂ４	1	425・-410	楕円形	0.45×0.34×0.17	
35	Ｂ４	1	424・-412	楕円形	0.33×0.26×0.37	４溝
36	Ｂ４	1	425・-412	楕円形	0.29×0.23×0.13	
37	Ｂ４	1	427・-413	楕円形	0.28×0.18×0.17	
38	Ｂ４	1	428・-413	楕円形	0.34×0.28×0.16	
39	Ｂ４	1	428・-414	楕円形	0.43×0.22×0.18	４溝
40	Ｂ４	1	419・-415	楕円形	0.23×0.23×0.09	１土
41	Ｂ４	1	457・-394	不明	0.67×(0.27)×0.28	６土
42	Ｂ４	1	461・-392	楕円形	0.47×0.34×0.15	
43	Ｂ４	1	458・-392	楕円形	0.28×0.25×0.11	
44	Ｂ４	1	459・-393	楕円形	0.51×0.42×0.52	
45	Ｂ４	1	458・-393	楕円形	0.33×0.31×0.22	
46	Ｂ４	1	457・-393	楕円形	0.34×0.29×0.59	
47	Ｂ４	1	455・-394	楕円形	0.29×0.20×0.27	７土
48	Ｂ４	1	454・-395	楕円形	0.48×0.40×0.17	
49	Ｂ４	1	454・-395	楕円形	0.39×0.37×0.20	
50	Ｂ４	1	454・-393	楕円形	(0.55)×0.57×0.23	P58
51	Ｂ４	1	459・-393	楕円形	0.44×0.35×0.40	
52	Ｂ４	1	457・-394	楕円形	0.42×0.38×0.13	P72
53	Ｂ４	1	456・-393	楕円形	0.35×0.27×0.07	
54	Ｂ４	1	450・-394	不明	(0.86)×(0.68)×0.33	６溝
55	Ｂ４	1	453・-391	楕円形	0.51×0.46×0.20	１竪穴
56	Ｂ４	1	458・-390	不明	-×(0.28)×0.10	９土
57	Ｂ４	1	455・-395	楕円形	0.48×0.35×0.23	７土
58	Ｂ４	1	454・-393	楕円形	0.58×0.48×0.20	P50
59	Ｂ４	1	452・-389	楕円形	0.57×0.44×0.55	
60	Ｂ４	1	454・-394	楕円形	0.35×0.31×0.09	
61	Ｂ４	1	455・-387	楕円形	0.54×0.39×0.09	
62	Ｂ４	1	452・-388	隅丸長方形	0.64×0.43×0.20	８溝
63	Ｂ４	1	452・-387	楕円形	0.41×0.37×0.30	
64	Ｂ４	1	451・-388	楕円形	0.51×0.30×0.15	
65	Ｂ４	1	450・-387	楕円形	0.40×0.38×0.60	
66	Ｂ４	1	452・-385	楕円形	(0.44)×0.42×0.68	
67	Ｂ４	1	456・-391	楕円形	0.58×0.43×0.46	
68	Ｂ４	1	455・-388	楕円形	0.86×0.75×0.27	12土
69	Ｂ４	1	451・-387	楕円形	0.51×0.29×0.08	
70	Ｂ４	1	454・-393	楕円形	0.45×0.34×0.41	18土
71	Ｂ４	1	455・-388	楕円形	0.42×0.28×0.14	12土
72	Ｂ４	1	457・-394	楕円形	0.49×0.46×0.30	P52
73	Ｂ４	2	449・-386	楕円形	0.30×0.25×0.18	
74	Ｂ４	2	450・-387	楕円形	0.25×0.23×0.24	
75	Ｂ４	2	451・-387	楕円形	0.44×0.39×0.20	
76	Ｂ４	2	453・-386	楕円形	0.32×0.25×0.20	
77	Ｂ４	2	452・-386	楕円形	0.39×0.35×0.30	
78	Ｂ４	2	452・-387	楕円形	0.42×0.35×0.32	
79	Ｂ４	2	452・-387	楕円形	0.30×(0.22)×0.13	P80
80	Ｂ４	2	453・-387	楕円形	0.27×0.23×0.27	P79
81	Ｂ４	2	455・-386	楕円形	0.37×0.28×0.18	
82	Ｂ４	2	454・-388	楕円形	0.36×0.30×0.22	
83	Ｂ４	2	454・-388	楕円形	0.27×0.21×0.18	
84	Ｂ４	2	456・-388	楕円形	0.28×0.27×0.14	
85	Ｂ４	2	454・-389	楕円形	0.32×0.25×0.27	
86	欠番					
87	Ｂ４	2	455・-391	楕円形	0.31×0.31×0.45	
88	Ｂ４	2	459・-389	楕円形	0.41×0.31×0.23	
89	欠番	2				
90	Ｂ４	2	458・-393	楕円形	0.32×0.30×0.21	
91	Ｂ４	2	457・-394	楕円形	0.36×0.21×0.14	
92	欠番	2				
93	Ｂ４	2	457・-392	楕円形	0.36×0.25×0.15	
94	Ｂ４	2	455・-393	楕円形	0.49×0.45×0.28	
95	Ｂ４	2	454・-392	楕円形	0.41×0.37×0.27	土師器片
96	欠番	2				
97	Ｂ４	2	457・-391	楕円形	0.41×0.27×0.12	
98	Ｂ４	2	462・-397	楕円形	0.33×0.29×0.34	
99	Ｂ４	2	461・-398	楕円形	0.27×0.23×0.12	
100	Ｂ４	2	461・-398	楕円形	0.31×0.30×0.19	
101	Ｂ４	2	460・-397	楕円形	0.50×0.32×0.24	
102	Ｂ４	2	458・-397	楕円形	0.36×0.28×0.34	
103	Ｂ４	2	458・-397	楕円形	0.44×0.38×0.53	
104	Ｂ４	2	455・-395	楕円形	0.27×0.22×0.16	
105	Ｂ４	2	450・-392	楕円形	0.27×0.25×0.25	16土
106	Ｂ４	2	456・-396	楕円形	0.47×0.34×0.28	
107	欠番	2				
108	Ｂ４	2	456・-397	楕円形	0.68×0.38×0.28	
109	Ｂ４	2	460・-396	楕円形	0.37×0.28×0.06	
110	Ｂ４	2	459・-396	楕円形	0.21×0.21×0.13	
111	Ｂ４	2	460・-398	楕円形	0.37×0.21×0.27	
112	Ｂ５	2	434・-451	楕円形	0.38×0.21×0.23	
113	Ｂ５	2	435・-452	楕円形	0.32×0.27×0.34	
114	Ｂ５	2	438・-449	楕円形	0.41×0.37×0.36	陶磁器
115	Ｂ５	2	439・-449	楕円形	0.31×0.27×0.28	
116	Ｂ５	2	444・-449	隅丸方形	0.20×0.18×0.15	
117	Ｂ５	2	443・-446	楕円形	0.21×0.21×0.22	
118	Ｂ５	2	444・-445	楕円形	0.26×0.24×0.18	
119	Ｂ５	2	445・-445	楕円形	0.25×0.21×0.31	
120	Ｂ５	2	443・-444	楕円形	0.52×0.38×0.38	P121
121	Ｂ５	2	443・-444	楕円形	(0.18)×0.35×0.27	P120
122	Ｂ５	2	442・-445	楕円形	0.28×0.26×0.21	
123	Ｂ５	2	442・-445	楕円形	0.23×0.23×0.26	
124	Ｂ５	2	442・-444	楕円形	0.26×0.27×0.24	
125	Ｂ５	2	442・-443	楕円形	0.34×0.33×0.32	
126	Ｂ５	2	437・-454	楕円形	0.39×0.33×0.27	
127	Ｂ５	2	436・-454	楕円形	0.32×0.27×0.23	
128	Ｂ５	2	436・-453	楕円形	0.69×0.40×0.18	
129	Ｂ５	2	436・-454	楕円形	0.36×0.29×0.16	
130	Ｂ５	2	436・-453	楕円形	0.34×0.27×0.24	
131	Ｂ５	2	436・-453	楕円形	0.29×0.26×0.20	
132	Ｂ５	2	436・-453	楕円形	0.25×0.21×0.19	
133	Ｂ５	2	436・-453	楕円形	0.27×0.24×0.14	
134	Ｂ５	2	433・-451	楕円形	0.43×0.36×0.33	
135	Ｂ５	2	434・-449	楕円形	0.25×0.19×0.05	
136	Ｂ５	2	436・-450	楕円形	0.25×0.17×0.17	

番号	区	面	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(m)	備考(重複)
137	B 5	2	435・-448	楕円形	0.24×0.16×0.12	
138	B 5	2	435・-448	楕円形	0.21×0.16×0.09	
139	B 5	2	440・-452	楕円形	0.46×0.34×0.24	P140
140	B 5	2	440・-452	楕円形	(0.16)×0.27×0.23	P139
141	B 5	2	439・-452	楕円形	0.34×0.29×0.17	
142	B 5	2	440・-452	楕円形	0.32×0.24×0.28	
143	B 5	2	439・-451	楕円形	0.23×0.20×0.21	
144	B 5	2	439・-451	隅丸長方形	0.44×0.31×0.34	
145	B 5	2	439・-450	隅丸長方形	0.37×0.28×0.23	
146	B 5	2	437・-448	楕円形	0.33×0.26×0.33	
147	B 5	2	439・-448	楕円形	0.22×0.17×0.24	
148	B 5	2	440・-449	楕円形	0.30×0.24×0.26	
149	B 5	2	442・-450	楕円形	0.27×0.18×0.35	
150	B 5	2	442・-450	楕円形	0.38×0.28×0.50	
151	B 5	2	442・-450	楕円形	0.33×0.27×0.27	
152	B 5	2	443・-450	楕円形	0.30×0.26×0.17	
153	B 5	2	443・-450	楕円形	0.45×0.39×0.36	
154	B 5	2	443・-450	楕円形	0.46×0.30×0.20	
155	B 5	2	442・-448	楕円形	0.26×0.22×0.14	
156	B 5	2	441・-448	楕円形	0.30×0.25×0.17	
157	B 5	2	441・-448	楕円形	0.30×0.18×0.11	
158	B 5	2	440・-447	楕円形	0.25×0.20×0.12	
159	B 5	2	440・-447	隅丸長方形	0.15×0.11×0.08	
160	B 5	2	439・-447	楕円形	0.31×0.24×0.20	
161	B 5	2	440・-447	隅丸長方形	0.20×0.16×0.13	
162	B 5	2	439・-447	楕円形	0.21×0.20×0.20	
163	B 5	2	439・-447	楕円形	0.31×0.26×0.17	
164	B 5	2	438・-444	楕円形	0.35×0.19×0.14	
165	B 5	2	444・-446	楕円形	0.37×0.32×0.21	
166	B 5	2	444・-446	楕円形	0.25×0.19×0.15	
167	B 5	2	444・-445	楕円形	0.35×0.33×0.28	
168	B 5	2	443・-444	楕円形	0.27×0.22×0.16	
169	B 5	2	444・-444	楕円形	0.28×0.22×0.27	
170	B 5	2	443・-444	楕円形	0.17×0.14×0.06	
171	B 5	2	443・-444	楕円形	0.28×0.24×0.12	
172	B 5	2	442・-444	楕円形	0.27×0.25×0.34	
173	B 5	2	441・-444	楕円形	0.32×0.20×0.11	
174	B 5	2	442・-444	楕円形	0.25×0.19×0.11	
175	B 5	2	442・-445	楕円形	0.25×0.20×0.18	
176	B 5	2	442・-445	楕円形	0.21×(0.15)×0.07	P177・178
177	B 5	2	442・-445	楕円形	(0.19)×0.23×0.09	P176・178
178	B 5	2	442・-445	楕円形	0.25×0.19×0.09	P176・177
179	B 5	2	441・-445	楕円形	0.26×0.23×0.09	
180	B 5	2	441・-445	楕円形	0.19×0.15×0.21	
181	B 5	2	440・-446	楕円形	0.24×0.24×0.09	
182	B 5	2	431・-451	楕円形	0.37×0.32×0.22	
183	B 5	2	432・-450	楕円形	0.49×0.43×0.17	
184	B 5	2	434・-445	楕円形	0.31×0.30×0.10	
185	B 5	2	434・-445	楕円形	0.38×0.30×0.21	
186	B 5	2	436・-441	楕円形	0.27×0.16×0.07	
187	B 5	2	436・-441	楕円形	0.32×0.30×0.14	
188	B 5	2	436・-440	楕円形	0.51×0.41×0.09	16溝
189	B 5	2	436・-449	楕円形	0.30×0.25×0.04	
190	B 5	3	409・-453	楕円形	0.35×0.31×0.26	
191	B 5	3	411・-451	楕円形	0.43×0.35×0.53	
192	B 5	3	443・-447	楕円形	0.45×0.42×0.38	
193	B 5	3	440・-445	楕円形	0.39×0.35×0.31	
194	B 5	3	406・-451	楕円形	0.30×0.28×0.32	
195	B 5	3	434・-454	楕円形	0.31×0.29×0.26	
196	B 5	3	437・-445	楕円形	0.53×0.50×0.32	P271
197	B 5	3	431・-450	楕円形	0.35×0.33×0.23	
198	B 5	3	431・-450	楕円形	0.32×0.26×0.17	36土
199	B 5	3	430・-449	楕円形	0.35×0.26×0.45	
200	B 5	3	431・-449	楕円形	0.43×0.36×0.25	
201	B 5	3	408・-453	楕円形	0.38×0.33×0.14	
202	B 5	3	408・-452	楕円形	0.16×0.14×0.13	
203	B 5	3	406・-450	楕円形	(0.25)×0.41×0.13	P260
204	B 5	3	408・-451	楕円形	0.52×0.42×0.28	
205	B 5	3	408・-450	楕円形	0.53×0.33×0.41	

番号	区	面	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(m)	備考(重複)
206	B 5	3	438・-449	楕円形	0.27×0.20×0.07	
207	B 5	3	412・-450	楕円形	0.25×0.18×0.09	
208	B 5	3	438・-447	楕円形	0.39×0.26×0.23	
209	B 5	3	439・-447	楕円形	0.35×0.28×0.12	
210	B 5	3	439・-445	楕円形	0.34×0.26×0.21	
211	B 5	3	434・-451	隅丸方形	0.26×0.24×0.09	
212	B 5	3	435・-448	楕円形	0.34×0.21×0.27	
213	B 5	3	432・-449	隅丸方形	0.26×0.26×0.10	
214	B 5	3	431・-449	楕円形	0.22×0.16×0.10	
215	B 5	3	430・-449	楕円形	0.27×0.27×0.15	
216	B 5	3	431・-448	楕円形	0.33×0.28×0.22	
217	B 5	3	432・-448	楕円形	0.40×0.38×0.27	
218	B 5	3	432・-446	隅丸方形	0.27×0.27×0.20	
219	B 5	3	433・-443	楕円形	0.27×0.21×0.31	
220	B 5	3	429・-446	楕円形	0.31×0.26×0.11	
221	B 5	3	427・-446	楕円形	0.28×0.27×0.12	
222	B 5	3	426・-445	楕円形	0.21×0.18×0.04	
223	B 5	3	430・-441	楕円形	0.27×0.25×0.33	
224	B 5	3	424・-443	楕円形	0.44×0.32×0.32	
225	B 5	3	432・-453	楕円形	0.41×0.33×0.12	
226	B 5	3	428・-449	楕円形	0.40×0.33×0.25	
227	B 5	3	434・-447	楕円形	0.28×0.27×0.18	
228	B 5	3	431・-444	楕円形	0.28×0.25×0.20	
229	B 5	3	430・-443	楕円形	0.38×0.33×0.31	
230	B 5	3	426・-445	楕円形	0.46×0.42×0.20	
231	B 5	3	426・-445	楕円形	0.34×0.26×0.08	
232	B 5	3	428・-449	楕円形	0.43×0.40×0.28	
233	B 5	3	430・-450	楕円形	0.49×0.44×0.31	P234
234	B 5	3	430・-450	楕円形	(0.34)×0.32×0.17	P233
235	B 5	3	436・-452	楕円形	0.57×0.50×0.31	
236	B 5	3	411・-451	楕円形	0.38×0.35×0.42	
237	B 5	3	412・-450	楕円形	0.23×0.19×0.12	
238	B 5	3	409・-451	楕円形	0.24×0.19×0.08	
239	B 5	3	410・-451	楕円形	0.29×0.27×0.17	
240	B 5	3	409・-451	楕円形	0.48×0.26×0.09	
241	B 5	3	439・-449	楕円形	0.20×0.18×0.09	
242	B 5	3	439・-449	楕円形	0.20×0.17×0.24	
243	B 5	3	438・-447	楕円形	0.40×0.31×0.26	
244	B 5	3	438・-446	楕円形	0.36×0.29×0.27	
245	B 5	3	406・-453	楕円形	0.30×0.27×0.10	
246	B 5	3	435・-453	楕円形	0.47×0.42×0.41	
247	B 5	3	435・-453	楕円形	0.39×0.39×0.18	P248
248	B 5	3	435・-453	楕円形	(0.16)×-×0.11	P247
249	B 5	3	434・-453	楕円形	0.42×0.40×0.15	
250	B 5	3	434・-452	楕円形	0.27×0.22×0.28	
251	B 5	3	434・-453	楕円形	0.18×0.16×0.07	
252	B 5	3	433・-453	楕円形	0.36×0.31×0.11	P253
253	B 5	3	433・-453	楕円形	0.19×0.26×0.07	P252
254	B 5	3	433・-453	楕円形	0.33×0.20×0.08	
255	B 5	3	434・-452	楕円形	0.60×0.45×0.24	
256	B 5	3	435・-451	楕円形	0.43×0.35×0.18	
257	B 5	3	435・-450	楕円形	0.30×0.29×0.15	
258	B 5	3	435・-450	楕円形	0.30×0.23×0.13	
259	B 5	3	406・-450	楕円形	0.34×0.31×0.31	
260	B 5	3	406・-450	楕円形	0.51×0.44×0.45	石製品
261	B 5	3	437・-449	楕円形	0.29×0.24×0.12	
262	B 5	3	437・-449	楕円形	0.20×0.16×0.14	
263	B 5	3	437・-448	楕円形	0.46×0.41×0.61	
264	B 5	3	435・-449	楕円形	0.34×0.26×0.09	
265	B 5	3	435・-449	楕円形	0.34×0.25×0.13	
266	B 5	3	435・-448	楕円形	0.36×0.31×0.29	
267	B 5	3	436・-447	楕円形	0.34×0.27×0.17	
268	B 5	3	435・-447	楕円形	0.33×0.28×0.30	
269	B 5	3	435・-446	楕円形	0.48×0.36×0.24	
270	B 5	3	437・-446	楕円形	0.25×0.15×0.19	
271	B 5	3	437・-445	楕円形	(0.51)×0.52×0.09	P196
272	B 5	3	432・-452	楕円形	0.53×0.39×0.43	
273	B 5	3	431・-451	楕円形	0.60×0.51×0.34	
274	B 5	3	431・-451	楕円形	0.47×0.33×0.33	

ピット計測表

番号	区	面	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ(m)	備考(重複)
275	B 5	3	406・-450	楕円形	0.41×0.37×0.21	
276	B 5	3	408・-450	楕円形	0.20×0.18×0.08	
277	B 5	3	439・-445	楕円形	0.13×0.10×0.11	
278	B 5	6	434・-448	楕円形	0.35×0.26×0.20	
279	B 5	6	434・-447	楕円形	0.32×0.29×0.14	
280	B 5	6	436・-445	楕円形	0.33×0.27×0.19	
281	B 5	6	432・-444	楕円形	0.35×0.34×0.10	
282	B 5	6	429・-441	楕円形	0.49×0.32×0.20	
283	B 5	6	429・-441	不整形	0.79×0.44×0.18	
284	B 5	2	445・-446	楕円形	0.53×0.52×0.15	
285	B 5	2	438・-448	楕円形	0.36×0.28×0.30	

遺物観察表

Ａ２区１面１号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.48	1	製作地不詳 陶器 ミニチュア (徳利)	― 完形	口 底	1.0 2.2	高 ―	5.5 ―	―/浅黄橙/―	横断面６角形。平坦面には放射状の文様を２段に配す。口縁部内面から体部外面下位緑釉。型作り。１面に直径1.5㎜の焼成後小円孔１カ所。	
第13図	2	肥前磁器 染付丸碗	― 口縁部1/4	口 底	(9.6) ―	高 ―	― ―	―/白/―	外面梅と竹文か。内面無文。	
第13図 PL.48	3	瀬戸・美濃 磁器 染付小丸碗	― 口縁部1/4、 底部1/2	口 底	(8.6) (3.0)	高 ―	5.1 ―	―/白/―	口縁部歪む。外面植物文。内面無文。	
第13図	4	肥前磁器 染付碗	― 体部一部、 底部3/4	口 底	― 3.4	高 ―	― ―	―/白/―	腰部染付。残存部体部外面無文。見込み２重圏線内に五弁花。	
第13図 PL.48	5	肥前磁器 染付小丸碗	― 口縁部1/4、 底部1/2底部完	口 底	(8.5) 2.9	高 ―	5.9 ―	―/白/―	外面植物文。口縁部内面四方襷文。見込み２重圏線内に五弁花。	
第13図	6	肥前磁器 青磁染付筒 形碗	― 体部一部、 底部完	口 底	― 3.6	高 ―	― ―	―/白/―	体部外面から高台内青磁釉。口縁部内面四方襷文。見込み２重圏線内にコンニャク判による五弁花。	
第13図 PL.48	7	肥前磁器 染付筒形碗	― 1/3	口 底	(8.0) (4.0)	高 ―	6.8 ―	―/白/―	外面矢羽根文下に鋸歯状文。口縁部内面四方襷文。見込み２重圏線。腰部外面無文。	
第14図	8	肥前磁器 染付碗	― 体部下位1/4、 底部完	口 底	― 3.5	高 ―	― ―	―/白/―	外面雪輪梅樹文か。内面無文。	
第14図 PL.48	9	肥前磁器 染付碗	― 1/3	口 底	(9.6) (3.8)	高 ―	5.2 ―	―/白/―	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。内面無文。	
第14図	10	肥前磁器 染付碗	― 口縁部一部、 底部完	口 底	(9.5) 4.0	高 ―	5.2 ―	―/灰白/―	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。内面無文。	
第14図 PL.48	11	肥前磁器 染付碗	― 口縁部1/4、 底部完	口 底	(9.8) 3.6	高 ―	5.3 ―	―/白/―	焼成不良で内面や外面の一部淡黄色味を帯びる。貫入入る。外面二重編目文、内面と高台内無文。	
第14図	12	瀬戸・美濃 磁器 染付広東碗	― 下半1/4	口 底	― (4.6)	高 ―	― ―	―/白/―	外面山水文。見込み１重圏線内に不明文様。	
第14図	13	京・信楽系 陶器 小杉碗	― 下半1/4	口 底	― (3.4)	高 ―	― ―	―/淡黄/―	高台脇水平に削る。体部外面下位鉄絵。内面から体部外面下端灰釉。	
第14図	14	京・信楽系 陶器 碗	― 口縁部1/4、 底部完	口 底	8.8 3.0	高 ―	5.1 ―	―/淡黄/―	口縁部外反。内面から高台脇透明釉。貫入入る。	
第14図	15	肥前陶器 京焼風碗	― 体部下位1/4、 底部1/2	口 底	― (5.5)	高 ―	― ―	―/黄灰/―	外面の山水文不明瞭。山水文は染付。内面から高台脇透明釉。細かい貫入入る。高台内中央に篆書体「雲」字押印銘。	
第14図 PL.48	16	肥前陶器 陶胎染付碗	― 1/4	口 底	(9.4) (4.0)	高 ―	7.0 ―	―/灰/―	口縁部外面２重圏線。体部外面山水文。内面無文。高台端部を除き透明釉。貫入入る。	
第14図 PL.48	17	肥前陶器 陶胎染付碗	― 1/3	口 底	(9.9) (4.6)	高 ―	6.3 ―	―/灰/―	口縁部外面簡略化した四方襷文。体部外面簡略化した山水文か。内面無文。高台端部を除き透明釉。貫入入る。腰部外面擦れにより素地露出。	
第14図 PL.48	18	肥前陶器 陶胎染付碗	― 1/3	口 底	(10.2) (4.8)	高 ―	7.5 ―	―/灰/―	口縁部外面２重圏線。体部外面簡略化した唐草文。内縁無文。高台端部を除き透明釉。貫入入る。	
第14図 PL.48	19	肥前陶器 刷毛目碗	― 口縁部1/4、 底部1/3	口 底	(12.2) (4.4)	高 ―	5.5 ―	―/にぶい黄橙/―	口縁部歪む。内外面白土刷毛塗り。高台端部を除き透明釉。貫入入る。	
第14図	20	瀬戸・美濃 陶器 腰錆碗	― 体部以下	口 底	― 5.0	高 ―	― ―	―/灰白/―	外面口縁部下４条の螺旋状凹線。内面灰釉。外面錆色の鉄釉。高台端部無釉。灰釉に貫入入る。	
第14図	21	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	― 口縁部～ 体部1/3	口 底	(10.8) ―	高 ―	― ―	―/浅黄/―	外面口縁部以下回転篦削り。内面から体部外面下位飴釉。口縁部に藁灰釉薄く掛かる。	
第14図	22	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗か	― 体部下位以下	口 底	― 4.3	高 ―	― ―	―/浅黄/―	高台径小さい。内面から体部外面下位付近飴釉。見込みに藁灰釉掛かる。	
第14図	23	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗か	― 体部下位1/2、 底部完	口 底	― 4.9	高 ―	― ―	―/黄灰/―	外面回転篦削り。内面から体部外面下位付近飴釉。露胎部鉄化粧。	
第14図	24	肥前磁器 染付鉢	― 体部下位以下 1/3	口 底	― (5.8)	高 ―	― ―	―/白/―	体部外面から高台外面にかけて植物文。残存部内面無文。貫入入る。	
第14図	25	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	― 1/4	口 底	(10.6) (5.0)	高 ―	2.4 ―	―/淡黄/―	口縁部外面以下回転篦削り。錆釉施釉後、体部外面下位以下の釉を拭う。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL.48	26	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	— 口縁部1/3、 底部1/2	口 底	(9.8) 4.0	高 —	2.2 —	—/灰白/—	口縁部外面以下回転篦削り。錆釉施釉後、体部外面中位以下の釉を拭う。底部外面周縁と見込みに輪状の重ね焼き痕。	
第14図 PL.48	27	志戸呂陶器 灯火皿	— 2/3	口 底	10.5 4.8	高 —	2.1 —	—/にぶい褐/—	口縁部外面以下回転篦削り。内面から口縁部外面錆釉。	
第14図 PL.48	28	京・信楽系 陶器 灯火皿	— 1/2	口 底	(10.3) 3.6	高 —	2.3 —	—/灰白/—	底部外面回転篦削り。内面から口縁端部灰釉。貫入入る。内面目痕２箇所残存。	
第14図	29	京・信楽系 陶器 灯火皿	— 1/4	口 底	(10.4) (4.0)	高 —	2.5 —	—/灰白/—	内面３本一単位の櫛目１箇所。口縁部外面以下回転篦削り。内面から口縁部外面透明釉。細かい貫入入る。内面目痕１箇所。	
第14図	30	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	— 1/3	口 底	(10.2) (4.6)	高 —	2.3 —	—/灰/—	桟に「U」字状の抉り。内面から体部外面下位錆釉。口縁部内面に黒色物付着。	
第14図	31	肥前磁器 白磁皿か	— 口縁部1/8、 底部1/3	口 底	(10.3) (3.9)	高 —	2.8 —	—/灰白/—	残存部無文。内面から高台脇透明釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。	
第14図	32	肥前陶器 青緑釉皿	— 口縁部欠	口 底	— 4.4	高 —	— —	—/灰オリーブ/—	高台脇以下回転篦削りで篦削り境で稜をなす。内面青緑釉、外面高台脇以下を除き透明釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。釉剥ぎ部と高台端部に目痕４箇所。	
第14図	33	肥前陶器 青緑釉皿	— 1/4	口 底	(13.0) —	高 —	— —	—/灰白/—	内面から口縁端部外面青緑釉、口縁端部外面以下透明釉。	
第14図 PL.48	34	肥前陶器 京焼風皿	— 体部下位以下 1/2	口 底	— (4.4)	高 —	— —	—/灰白/—	見込み山水文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入入る。	
第14図	35	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/4	口 底	(10.9) (6.0)	高 —	2.8 —	—/浅黄/—	体部から口縁部内湾。外面口縁部以下回転篦削り。内面から高台脇付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き痕。	
第14図	36	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/3	口 底	(12.7) (6.69)	高 —	2.4 —	—/灰白/—	口縁部外面の器厚を減じ、外面が外反するように見せる。口縁端部上面面取りに近い形状。外面口縁部下回転篦削り。内面から口縁部外面付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き痕。	
第14図 PL.48	37	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	— 1/3	口 底	(10.8) (6.4)	高 —	2.4 —	—/灰白/—	口縁部小さく外反。見込み鉄絵。内外面灰釉。貫入入る。高台内目痕１箇所。	
第15図	38	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/3	口 底	(13.8) (7.2)	高 —	3.2 —	—/淡黄/—	口縁端部小さく外反。外面口縁部下回転篦削り。内面から体部中位付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き痕。	
第15図	39	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/3、 底部2/3	口 底	(13.1) 6.6	高 —	3.1 —	—/浅黄/—	口縁部外面の器厚を減じて外反するように見せる。内面から体部外面下位付近灰釉。見込み目痕２箇所残存。	
第15図 PL.48	40	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/3欠	口 底	10.7 5.6	高 —	2.3 —	—/浅黄/—	器壁やや厚い。口縁部外面の器厚を減じて外反するように見せる。外面中位以下回転篦削り。内面から体部外面下位付近灰釉。見込み輪状の重ね焼き痕。	
第15図 PL.48	41	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/2	口 底	(12.8) 7.0	高 —	2.5 —	—/灰白/—	口縁部外面の器厚を減じて外反するように見せる。外面中位以下回転篦削り。高台薄い。内面から外面中位灰釉。	
第15図 PL.48	42	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/3、 底部1/2	口 底	(12.9) 7.4	高 —	3.0 —	—/灰白/—	底部器壁厚い。体部から口縁部直線的に立ち上がる。内面から体部外面下位付近灰釉。釉の殆どは白濁。見込み目痕２箇所残存。	
第15図 PL.48	43	瀬戸・美濃 陶器 輪禿皿	— 口縁部1/2、 底部完	口 底	12.5 7.2	高 —	2.8 —	—/灰白/—	口縁部小さく外反。内面から高台脇灰釉。見込み輪状の釉剥ぎ。	
第15図	44	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	— 底部完	口 底	— 7.6	高 —	— —	—/黄灰/—	体部内面菊花文。内面から体部外面下位灰釉。貫入入る。貼付高台。	
第15図 PL.48	45	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	— 完形	口 底	12.8 7.3	高 —	3.3 —	—/淡黄/—	内面は中心部まで花弁を入れるが外面は無文。内面から体部外面中位付近まで灰釉。内面銅緑釉流す。見込み目痕３箇所。	
第15図 PL.48	46	製作地不詳 陶器 ミニチュアか(徳利)	— 口縁部、 体部上位1/4欠	口 底	— 2.4	高 —	— —	—/橙/—	備前風徳利。３方を凹ませ、１箇所に人形？を貼付。	
第15図	47	瀬戸・美濃 陶器 小香炉	— 口縁部～体部 1/4	口 底	(5.0) —	高 —	— —	—/灰白/—	口縁端部内側に突き出る。口縁端部内面から体部外面灰釉。貫入入る。	
第15図	48	瀬戸・美濃 陶器 小香炉	— 体部下位以下 1/2	口 底	— 2.8	高 —	— —	—/灰白/—	体部外面灰釉。内面と高台脇以下無釉。	
第15図 PL.48	49	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	— 1/3	口 底	(8.4) (6.5)	高 —	4.3 —	—/灰白/—	外面轆轤目顕著。底部円錐状の脚貼付。脚１箇所残存。口縁部内面から体部外面灰釉。	
第15図	50	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	— 体部下位以下 1/3	口 底	— (8.3)	高 —	— —	—/浅黄/—	体部外面下端稜をなす。底部外面貼付脚２箇所残存。体部外面錆色の鉄釉。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15図 PL.48	51	瀬戸・美濃 陶器 不詳	— 1/3	口 底	(16.4) —	高 —	— —	—/淡黄/—	口縁部と体部外面下位に凹線。残存部内外面灰釉。部分的に銅緑釉垂らす。貫入入る。	
第15図 PL.48	52	前橋藩窯か 土瓶か	— 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい橙/—	胎土やや粗い。外面ピンホール状の凹部が残る鉄釉。釉に強い光沢。内面と体部下位無釉。	前橋藩窯製品か。
第15図 PL.48	53	前橋藩窯か 土瓶か	— 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい橙/—	胎土やや粗い。外面ピンホール状の凹部が残る鉄釉。釉に強い光沢。内面無釉。	前橋藩窯製品か。
第15図 PL.48	54	前橋藩窯か 土瓶か	— 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい橙/—	胎土やや粗い。外面ピンホール状の凹部が残る鉄釉。釉に強い光沢。内面と体部下位無釉。	前橋藩窯製品か。
第15図	55	古瀬戸陶器 平碗	— 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰白/—	外面轆轤目。内面から体部外面下位灰釉。	中世。
第15図 PL.48	56	瀬戸・美濃 陶器 瓶	— 口縁部1/2、 頸部完	口 底	10.6 —	高 —	— —	—/淡黄/—	頸部に耳貼付。内外面飴釉。	
第15図	57	瀬戸・美濃 陶器 不詳	— 口縁部1/8	口 底	(15.0) —	高 —	— —	—/灰白/—	口縁端部内湾。内外面錆色の鉄釉。	
第15図	58	瀬戸・美濃 陶器 不詳	— 体部下位～ 底部1/4	口 底	— (8.0)	高 —	— —	—/淡黄/—	体部外面下位柿釉。内面無釉。	
第15図 PL.48	59	瀬戸・美濃 陶器 耳壺	— 口縁部～ 体部下位1/3	口 底	(12.0) —	高 —	— —	—/浅黄/—	肩部の耳は２箇所か３箇所。肩部内面から体部外面下端鉄釉。	
第15図 PL.48	60	前橋藩窯陶器 すり鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/浅黄橙/—	口縁部縁帯をなし、口縁端部内面と口縁部下各１条の凹線。すり目は口縁部横撫後に施す。体部外面上位以下回転篦削り。	前橋藩窯製品。
第15図	61	丹波陶器か すり鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/褐灰/—	口縁部肥厚し、断面三角形を呈する。内面口縁部下段差。内外面薄い鉄泥。	
第16図	62	堺陶器 すり鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/橙/—	体部外面回転篦削り。口縁部内面の凸帯明瞭。無釉。	
第16図	63	丹波陶器か すり鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/黄灰/—	口縁部から内面鉄泥薄く掛ける。内面すり目の後口縁部回転横撫。	
第16図	64	瀬戸陶器 すり鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰白/—	口縁部外面に折り返し肥厚。内外面錆釉。	
第16図	65	常滑陶器 甕か	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰褐～橙/—	断面灰褐色から橙色、器表暗灰色。口縁部「N」字状。	中世。
第16図	66	常滑陶器 甕か	— 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰白/—	断面灰白色、内面器表にぶい黄橙色、外面自然釉掛かる。外面押印。	中世。
第16図	67	常滑陶器 甕か	— 肩部片	口 底	— —	高 —	— —	—/黄灰/—	断面から内面器表黄灰色、外面器表暗褐色。外面押印。	中世。
第16図	68	常滑陶器 甕か	— 肩部片	口 底	— —	高 —	— —	—/褐灰/—	断面灰色、内面器表褐灰色、外面器表灰白色。外面自然釉剥落。	中世。
第16図	69	常滑陶器 甕か	— 体部下位片	口 底	— —	高 —	— —	—/褐灰/—	断面中央褐灰色、器表付近橙色、外面器表にぶい赤褐色、内面器表灰黄褐色。	中世。
第16図 PL.48	70	在地系土器 皿	— 1/5	口 底	(4.8) (3.4)	高 —	0.8 —	—/橙/—	小型品で胎土精良。底部回転糸切無調整。	
第16図 PL.48	71	在地系土器 皿	— 1/4	口 底	(9.0) (6.0)	高 —	2.2 —	—/にぶい橙/—	体部内湾。底部回転糸切無調整。	
第16図	72	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰/—	器壁厚く口縁部短い。口縁端部内湾。還元炎焼成。	中世。
第16図	73	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰/—	器壁厚く口縁部短い。口縁端部内湾。還元炎焼成。	中世。
第16図	74	在地系土器 片口鉢か	— 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰/—	還元炎焼成。片口鉢か内耳鍋の体部片。	中世。
第16図	75	在地系土器 片口鉢	— 体部下位～ 底部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい黄橙/—	器表灰色。内面すり目。器表摩滅。	中世。
第16図	76	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰白/—	断面中央灰白色、器表付近にぶい黄橙色、器表黒色。器壁厚く口縁部短い。内耳は粘土紐を器壁に通して接合。	中世。
第16図	77	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰黄/—	器表摩滅。器壁薄く、口縁部長い。還元炎焼成。	中世。
第16図	78	在地系土器 鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい黄橙/—	断面にぶい黄橙色、器表黒色。口縁端部強い横撫。口縁端部小さく外反。端部内面明瞭な稜をなす。外面煤付着。	
第16図	79	在地系土器 鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/黒/—	断面中央黒色、器表付近から内面器表灰白色。口縁部外反し、内面は内湾状となる。外面煤付着。口縁部外面接合痕残る。	
第16図	80	在地系土器 鍋	— 体部下位～ 底部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい黄橙/—	断面中央黒色、断面から器表付近淡黄色、器表黒色。底部から体部外面煤付着。	
第17図 PL.48	81	在地系土器 鍋	— 口縁部～ 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/褐灰/—	断面褐灰色、器表黒色。外面煤付着。体部外面下位指押さえ状の凹凸多い。内面調整丁寧。口縁部屈曲して開く。屈曲部内面稜をなす。口縁部上面窪む。	
第17図	82	在地系土器 焙烙	— 口縁部～ 底部片	口 底	— —	高 —	— —	—/黒褐/—	断面中央黒色、器表付近にぶい黄橙色、器表黒褐色。口縁部内外面１条の凹線。口縁部内面から見込み周縁幅広の耳貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17図	83	在地系土器 焙烙	― 口縁部～底部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/黒・淡黄/―	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。器壁やや厚い。外面中位接合痕残る。外面下位の型痕撫で消す。	
第17図	84	在地系土器 焙烙	― 口縁部～底部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/褐灰/―	断面中央褐灰色、器表付近橙色、器表褐灰色。口縁部内面から見込み周縁幅広の耳貼付。	
第17図	85	在地系土器 焙烙	― 底部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/褐灰/―	断面中央褐灰色、器表付近橙色から淡黄色、内面器表灰白色、外面器表にぶい黄橙色。内面菊花状の押印文。	
第17図 PL.48	86	在地系土器 焙烙	― 2/3	口 底	36.3 34.0	高 ―	5.4 ―	―/黒/―	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色から灰白色。外面下位の型痕部凹凸あり。口縁部内面から見込み周縁の２箇所に幅広の耳貼付。	
第17図	87	在地系土器 焙烙	― 1/3	口 底	(35.4) (33.6)	高 ―	5.4 ―	―/黒/―	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から青灰色。口縁部外面接合痕残る。体部外面下位型痕撫で消す。口縁部内面から見込み周縁に幅広の耳貼付。耳貼付痕１箇所残存。	
第17図	88	在地系土器 鉢	― 1/6	口 底	(29.6) (25.5)	高 ―	9.7 ―	―/にぶい黄橙/―	外面器表摩滅。口縁部内面回転横撫。体部内面丁寧な調整。口縁部の器壁が厚い部分の断面中央のみ青灰色、他はにぶい黄橙色。	
第17図	89	須恵器 甕	― 胴部小片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第17図 PL.49	90	石製品 砥石	― 2/3	長 幅	(7.8) 2.2	厚 重	1.2 36.3	研沢石/―/―	正面に砥面が認められる。裏面と両側面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。上部及び下部欠損。	
第17図 PL.49	91	石製品 砥石	― 完形	長 幅	10.9 3.2	厚 重	2.4 101.3	研沢石/―/―	正面に砥面が認められ研ぎ減りにより山形を呈する。裏面と両側面には櫛歯タガネ痕が残る。	
第17図 PL.49	92	石製品 砥石	― 完形	長 幅	11.1 3.0	厚 重	2.8 160.7	研沢石/―/―	正面に砥面が認められる。裏面と両側面及び下部小口面には櫛歯タガネ痕が僅かに残る。	
第18図 PL.49	93	石製品 砥石	― 1/2	長 幅	(7.9) 2.5	厚 重	6.0 200.6	研沢石/―/―	正面に砥面が認められる。裏面と両側面及び上部小口面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。	
第18図 PL.49	94	石製品 砥石	― 完形	長 幅	13.7 2.9	厚 重	2.0 98.7	研沢石/―/―	正面に砥面が認められ研ぎ減りにより山形を呈する。	
第18図 PL.49	95	石製品 砥石	― 2/3	長 幅	(10.6) (3.2)	厚 重	3.6 139.2	研沢石/―/―	正面に砥面が認められ上方に向かい研ぎ減りする。裏面と両側面には櫛歯タガネ痕が残る。	
第18図 PL.49	96	石製品 砥石	― 4/5	長 幅	(6.8) 5.0	厚 重	(3.3) 67.5	ニッ岳軽石/―/―	多孔質な石質である。ほぼ全面がいくつかの滑らかな作出面で構成され、それぞれの面が砥面である可能性を想定した。	
第18図 PL.48	97	銅製品 キセル・雁首	― 一部欠損	長 幅	3.4 1.1	厚 重	0.9 3.91	―/―/―	火皿部分を欠くキセルの雁首。断面は変形のためかやや楕円形で表面も劣化し荒れている。端部に羅宇の木質が一部残存する。	
第18図 PL.48	98	銅製品 キセル・雁首	― ほぼ完形	長 幅	5.1 1.1	厚 重	2.0 7.81	―/―/―	火皿の一部を劣化破損するほぼ完形のキセルの雁首。吸い口側端部から7.5mm間に本体を一周する凹みが16本施されているとみられるが表面が劣化しているために不明瞭。羅宇の木質が一部残存する。	
第18図 PL.48	99	鉄製品 小刀	― 破片	長 幅	11.6 2.6	厚 重	1.7 39.58	―/―/―	刃側に明瞭な関を持つ小刀。茎の大部分と刃先部分を劣化破損する。表面は硬い錆に厚く覆われ本体脆弱なため木質等の痕跡は確認できない。	
第18図 PL.49	100	鉄製品 鍬	― 破片	長 幅	16.0 4.1	厚 重	1.8 123.80	―/―/―	踏鍬と見られる鉄製品破片で。破断面は破損後錆化している。木質等の痕跡は見られない。	
第18図 PL.48	101	鉄製品 火打ち金	― 一部欠損	縦 横	6.7 2.5	厚 重	1.3 17.91	―/―/―	ねじり形の火打ち金と見られるが、表面は硬い錆に覆われ本体は脆弱なため接合部分等の詳細な形状は不明。	

Ａ２区１面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19図	1	瀬戸・美濃 陶器 皿	― 1/4	口 底	(12.0) (6.2)	高 ―	2.4 ―	―/黄灰/―	体部から口縁部外反。内面から高台付近灰釉。	

Ａ２区２面２号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図 PL.49	1	在地系土器 か 灯火台	― 口縁部、脚部欠	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/暗灰/―	筒部外面縦位篦磨き。上段皿部内面に小孔１箇所。上段皿部内面の一部に油痕付着。胎土・焼成から中世と考えられる。	中世。
第24図	2	灰釉陶器 椀	― 体部下半小片	口 底	― ―	高 ―	― ―	微砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形。残存片では施釉範囲はみられない。	
第24図	3	灰釉陶器 椀	― 底部片	口 底	― 7.0	高 台	― 6.4	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第24図 PL.49	4	土師器 羽釜	― 口縁部～胴部上半片	口 底	23.6 ―	高 鍔	― 26.8	細砂粒/良好/灰褐	外面胴部に輪積痕が残る。鍔は貼付。口縁部から鍔下は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第24図	5	土師器 羽釜	― 底部～胴部下位片	口 底	― 13.0	高 ―	― ―	細砂粒/良好/灰黄褐	底部は砂底か。胴部はヘラ削り。内面は底部・胴部ともヘラナデ。	
第24図 PL.49	6	須恵器 甕	― 胴部小片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕が残る。内面は残存辺の上半に無文のアテ具痕が残るが、下半はナデ消されている。	
第24図 PL.49	7	鉄製品 不詳	― ほぼ完形	長 幅	17.0 2.1	厚 重	2.2 93.78	―/―/―	両端に向かい細くなる棒状の鉄製品。表面全体を土砂をまき込んだ錆が厚く多い。詳細な形状は不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図 PL.49	8	銅製品 銭貨	― 完形	縦 横	2.472 2.46	厚 重	0.15 3.01	―/―/―	咸平元寶。表側は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏側はやや平坦だが外縁・郭とも明瞭。	

A２区２面４号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図 PL.49	9	在地系土器 皿	― 口縁部1/2、底部3/4	口 底	(7.3) 5.4	高 ―	2.0 ―	―/黒/―	器表灰白色。体部丸みを帯びる。底部左回転糸切無調整。	

A２区２面１号地下式土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第28図 PL.49	1	石製品 石臼(上)	― 1/6	長 幅	(18.3) (9.0)	厚 重	(11.2) 1443.3	粗粒輝石安山岩/―/―	側面に挽き手孔の一部が残る。底面には挽目の痕跡が認められる。供給孔は上面から底面に向かい広くなっており、縦方向の棒状工具痕が認められる。	

A２区２面２号地下式土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第28図	2	製作地不詳 陶器か 皿か	― 底部1/4	口 底	― (8.0)	高 ―	― ―	―/にぶい赤褐/―	素地に細かい砂少量含む。内面から高台外面青磁釉のような釉を厚めに掛ける。焼成不良なのか釉は失透性。	
第28図	3	在地系土器 皿	― 1/2	口 底	(7.5) (5.3)	高 ―	2.0 ―	―/にぶい黄橙/―	口縁部内湾。口縁端部油煙付着。底部回転糸切無調整。	
第28図 PL.49	4	銅製品 吊り金具	― ほぼ完形	長 幅	3.1 1.3	厚 重	2.2 7.41	―/―/―	上部に長方形の窓状の穴を持つ銅製品。穴を巡るように長方形の金具が二段にはめ込まれている。下側に穴・リベット等の構造は見られない。	

A２区３面３号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第30図 PL.49	1	在地系土器 皿	― 1/2	口 底	(8.0) 6.4	高 ―	2.0 ―	―/黒/―	器表浅黄橙色。底部器表摩滅し、糸切痕不明。内面底部と体部境不明瞭。	
第30図	2	常滑陶器 甕か	― 体部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/褐灰/―	外面篦状工具による撫で。外面器表にぶい赤褐色、内面器表にぶい褐色。	中世。
第30図	3	土師器 甕	― 口縁部～胴部上位片	口 底	19.6 ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/灰褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第30図 PL.49	4	土師器 甕	― 底部～胴部下位片	口 底	― 7.0	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第30図 PL.49	5	須恵器 羽釜	― 口縁部～胴部上位片	口 底	23.8 ―	高 鍔	― 28.3	細砂粒/酸化焔/にぶい黄褐	ロクロ整形。鍔は貼付。胴部はヘラ削り。	
第30図 PL.49	6	銅製品 銭貨	― 一部欠損	縦 横	2.365 2.450	厚 重	0.124 1.97	―/―/―	劣化が著しく銭種不明。上部に３箇所の鋳欠け有り。表側の外縁は明瞭だが文字は輪郭のみで不明瞭。裏側はきわめて平坦。	

A２区３面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31図	1	土師器 高杯	― 杯身部下半片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/赤褐	杯身部底部には脚部への差し込み状の突起をもつ。外面はナデ、内面はヘラナデ。	
第31図 PL.49	2	鉄製品 銭貨	― ほぼ完形	長 幅	2.9 2.8	厚 重	1.8 11.67	―/―/―	鉄製の銭貨と見られるが、劣化し脆弱なため文字は判読できない。	
第31図 PL.49	3	銅製品 銭貨	― 一部欠損	縦 横	2.294 2.491	厚 重	0.192 2.31	―/―/―	元豊通寶。全体に劣化が著しく外輪の多くは破損する。彫は深く文字は明瞭だが一部は錆化変形する。裏側も外輪・郭とも明瞭。	

B４区１面１号竪穴状遺構出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34図 PL.50	1	石製品 砥石	― 4/5	長 幅	(9.7) 3.8	厚 重	2.1 86.2	研沢石/―/―	正面に砥面が認められ研ぎ減りにより山形を呈する。裏面と両側面には櫛歯タガネ痕が認められる。上部及び下部欠損。	
第34図 PL.50	2	銅製品 銭貨	― 破片	縦 横	― 2.339	厚 重	0.105 0.78	―/―/―	寛永通寶と見られるが破損により下半を欠く。表側は外輪・文字・郭とも彫深く明瞭、裏側は平坦だが外縁・郭とも明瞭。	

B４区１面２号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第37図 PL.50	1	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	― 口縁部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/灰白/―	外面鎬蓮弁文。口縁部緩く外反。内外面青磁釉。貫入入る。	中世。
第37図 PL.50	2	中国白磁 口禿皿	― 口縁部一部、底部1/4	口 底	(11.4) 6.0	高 ―	3.1 ―	―/灰白/―	体部外面下端回転篦削り。器表灰オリーブ色。内外面透明釉で口縁端部上面と端部内面の釉削り取る。底部外面の釉薄い。	中世。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第37図 PL.50	3	石製品 石鉢	— 1/3	長 幅	(14.6) (27.0)	厚 重	(13.9) 3797.9	二ッ岳石/—/—	平ノミ状の工具痕が内面に数多く認められ外面には僅かに残る。内面は細かな凹凸で構成され滑らかでない。底面は平坦で非常に滑らかである。	
第37図 PL.50	4	鉄製品 釘	— 破片	長 幅	6.3 2.0	厚 重	1.8 15.68	—/—/—	断面ほぼ正方形でなだらかに曲がり両端は劣化破損する。厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	

B４区１面４号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.50	5	石製品 砥石	— 2/3	長 幅	(10.4) (3.0)	厚 重	2.8 90.7	研沢石/—/—	正面と裏面に砥面が認められ正面は研ぎ減りにより山形を呈する。右側面には櫛歯タガネ痕が僅かに残る。下部欠損。	
第38図 PL.50	6	鉄製品 不詳	— 破片	長 幅	3.5 2.7	厚 重	1.7 23.03	—/—/—	鋳造鉄製品の破片、全体に錆化放射割れが見られる。	

B４区１面６号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図	7	肥前陶器 青緑釉皿	— 口縁部～ 体部1/4	口 底	(12.4) —	高 —	— —	—/灰黄/—	内面青緑色釉、口縁端部外面から体部外面下位透明釉。	
第38図	8	在地系土器 焙烙	— 口縁部～底部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい橙/—	酸化炎焼成で丸底。	
第38図 PL.50	9	銅製品 小柄	— 一部欠損	長 幅	10.1 1.4	厚 重	0.8 19.49	—/—/—	銅製の小柄で小刀部分は小口近くで欠損する。地板には線刻による文様が施されている。	
第38図 PL.50	10	鉄製品 鎌	— 破片	長 幅	8.9 2.8	厚 重	0.9 20.87	—/—/—	鎌の柄部分破片、刃は破損し破断面は錆化する。茎端部は？形に曲げ目釘穴を形成する。表面は硬く錆に覆われ柄の木質等は確認できない。	

B４区１面２号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.50	1	常滑陶器か 山茶碗	— 底部1/4	口 底	— (8.5)	高 —	— —	—/灰/—	高台に歪みがあり推定径は正確でない。貼付高台。見込み轆轤目なく平坦。高台端部は押されて砂や礫状の圧痕残る。	中世。

B４区１面11号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図	2	在地系土器 焙烙	— 口縁部～体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/褐灰/—	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。口縁部外反し水平に開く。内面耳貼付。	
第42図 PL.50	3	鉄製品 釘	— 一部欠損	長 幅	4.1 1.9	厚 重	0.9 4.16	—/—/—	断面ほぼ正方形でへの字形に曲がり先端は劣化破損する。厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	

B４区１面16号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.50	4	瀬戸・美濃 陶器 碗	— 体部下位以下	口 底	— 6.2	高 —	— —	—/灰白/—	大型品。体部外面回転篦削り。内面から体部外面下位灰釉。	

B４区１面20号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図	5	瀬戸陶器 すり鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/浅黄/—	口縁部外方に折り返す。内外面錆釉。口縁端部摩滅して平滑。	

B４区１面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.50	1	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	— 体部中位一部、 底部完	口 底	— 7.4	高 —	— —	—/灰/—	高台内の抉り浅い。内面から高台脇灰釉。見込み目痕３箇所。	
第46図 PL.50	2	石製品 火打石	— 完形	長 幅	3.3 2.5	厚 重	1.9 14.4	玉ずい/—/—	表面の右側縁につぶれが集中する。裏面の稜上にも部分的なつぶれが認められる。左側面には自然面が多く残り円礫を利用する。裏面には剥片段階の主要剥離面が大きく残り厚手の剥片を素材とする。	
第46図 PL.50	3	銅製品 キセル・ 吸い口	— 破片	長 幅	5.3 1.5	厚 重	0.4 4.08	—/—/—	キセルの吸い口部分で平たくつぶれ、一部は接合部が開き穴が開いている。表面は劣化のためメッキ・装飾等は確認できない。	

C１区１面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.50	4	弥生土器 甕	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	—/—/C	半截竹管または複数本単位の篦状具で平行沈線文を施す。内面被熱剥離。	弥生中期

C１区２面９号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図 PL.50	1	鉄製品 轡	― ほぼ完形	長 幅	21.3 7.4	厚 重	5.4 132.80	―/―/―	輪状の鏡板を持つ轡で、はみは二連でやや六角形に近い断面を持つ。はみ中央の連接部分は一部摩滅し細くなっている。	

B５区２面３・４号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図 PL.50	1	肥前陶器 京焼風碗	― 1/2	口 底	(8.3) 4.6	高 ―	5.2 ―	―/淡黄/―	焼成不良で素地の焼き締まり弱い。体部外面の文様不鮮明。内面から高台外面透明釉。細かい貫入入る。	
第53図 PL.50	2	肥前陶器 陶胎染付碗	― 口縁部欠	口 底	― 4.8	高 ―	― ―	―/灰白/―	外面東屋山水文か。高台端部を除き透明釉。釉は部分的に白濁。貫入入る。	
第53図 PL.50	3	肥前磁器 染付碗	― 1/2	口 底	10.4 (4.5)	高 ―	6.3 ―	―/灰白/―	口縁部外面四方襷文。体部外面唐草文。内面無文。	
第53図 PL.50	4	肥前陶器か 碗	― 口縁部1/6、底部1/3	口 底	(11.0) (4.8)	高 ―	7.2 ―	―/褐灰～にぶい黄褐/―	外面は轆轤目顕著。内面から高台外面、部分的に白濁する透明釉。高台内面下半内削ぎ。	
第53図 PL.50	5	肥前陶器 呉器手碗	― 口縁部1/4、底部完	口 底	(11.2) 4.8	高 ―	7.8 ―	―/淡黄/―	見込みの抉りは深い。高台端部を除き透明釉。貫入入る。	
第53図	6	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	― 口縁部1/3、体部1/2	口 底	(13.7) ―	高 ―	― ―	―/淡黄/―	口縁部平面形にやや歪みあり。内面から体部外面下位鉄釉に近い飴釉。口縁端部付近飴釉状に半透明で部分的に白濁部がある。	
第53図 PL.50	7	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	― 口縁部～体部1/2欠	口 底	12.0 5.2	高 ―	7.9 ―	―/灰白/―	器高高い。内面から体部外面下位飴釉で藁灰釉を掛ける。露胎部鉄化粧。	
第53図 PL.50	8	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	― 口縁部～体部1/8	口 底	(11.4) ―	高 ―	― ―	―/灰白/―	体部内面菊花状に削ぐ。口縁部外反し端部上方に小さく立ち上げる。内外面灰釉。	大窯期。
第53図 PL.50	9	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿か	― 1/2	口 底	(1.3) ―	高 ―	2.7 ―	―/淡黄/―	外面口縁部以下丁寧な回転篦削り。丸底。内面から口縁部外面飴釉。	
第53図	10	瀬戸・美濃 陶器 皿	― 1/4	口 底	(11.7) (6.0)	高 ―	2.0 ―	―/灰白/―	体部外面下半回転篦削り。内面から高台内周縁長石釉。	
第53図 PL.50	11	瀬戸・美濃 陶器 皿	― 口縁部1/3欠	口 底	11.5 7.4	高 ―	2.1 ―	―/灰白/―	器壁やや厚く口縁端部小さく外反。内面から高台内灰釉。見込みと高台内目痕３箇所。	
第53図 PL.50	12	瀬戸・美濃 陶器 皿	― 口縁部1/4欠	口 底	11.0 6.8	高 ―	1.8～2.3 ―	―/灰白/―	口縁端部小さく外反。内面外面施釉。焼成不良で釉白濁。	
第53図 PL.50	13	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	― 口縁部1/6、底部2/3	口 底	(12.5) 7.0	高 ―	3.1 ―	―/灰白/―	内面布痕残る。内面から体部外面中位付近灰釉。内面に銅緑釉線状に流す。口縁端部小剥離に油煙付着。	
第53図 PL.51	14	肥前磁器 染付皿	― 口縁部1/8、底部1/3	口 底	(21.2) (12.0)	高 ―	4.8 ―	―/白/―	内面梅に鶯文。外面唐草文。高台内１重圏線。	
第53図 PL.51	15	肥前陶器 京焼風皿	― 口縁部1/6、底部1/3	口 底	(22.5) (8.8)	高 ―	6.2 ―	―/灰白/―	高台高く丁寧な作り。口縁部下を外面から窪ませ形に変化をつける。見込み山水文か。内面から高台脇透明釉。貫入入る。高台内「示富次」字銘。	
第53図	16	古瀬戸陶器 盤類	― 底部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/青灰/―	内面灰釉刷毛塗り。底部外面回転篦削り。	中世。
第53図	17	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	― 1/4	口 底	(11.2) (8.2)	高 ―	7.0 ―	―/浅黄/―	残存部外面無文。口縁部内径しやや窄む。内面中位付近から体部外面下端飴釉。貼付の脚１箇所残存。口縁端部の小剥離は認められない。	
第53図 PL.51	18	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉か 鉢	― 口縁部1/2、底部完	口 底	(15.0) 10.5	高 ―	8.5 ―	―/灰白/―	底部回転篦削りで碁笥底状を呈す。口縁部内面から体部外面下端灰釉。体部中位２箇所に飴釉。口縁端部内面叩打によると推定される小剥離多い。	
第53図 PL.51	19	肥前陶器 陶胎染付鉢	― 体部一部、底部1/3	口 底	― (8.4)	高 ―	― ―	―/灰白/―	内外面染付。高台端部を除き透明釉。貫入入る。	
第54図 PL.51	20	肥前陶器 鉢	― 口縁部1/8、底部1/3	口 底	(22.6) (10.6)	高 ―	11.2 ―	―/赤褐/―	内面白土掛け。口縁部外面白土波状に塗る。内面から体部外面中位透明釉。口縁端部上面と体部外面中位の一部、高台外面下位から高台内無釉。体部外面中位から高台外面上半鉄泥。	
第54図 PL.51	21	丹波陶器 すり鉢	― 体部一部、底部完	口 底	― 15.0	高 ―	― ―	―/にぶい橙/―	体部外面下位指押さえ状の凹み多い。底部外面砂付着。体部外面鉄泥。外面鉄泥流れた跡残る。	
第54図 PL.51	22	瀬戸陶器 すり鉢	― 体部下位以下1/3	口 底	― (17.0)	高 ―	― ―	―/灰白/―	底部回転糸切り無調整。内面幅広のすり目。内外面錆釉。	
第54図	23	丹波陶器か すり鉢	― 口縁部1/4	口 底	(30.3) ―	高 ―	― ―	―/黄灰/―	口縁部外反して縁帯をなす。鉄泥薄く掛ける。内面細く浅いすり目。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第54図	24	在地系土器 鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/黒/—	断面中央黒色、器表付近浅黄橙色、内面器表灰白色、外面器表黒色。外面口縁部以下煤付着。口縁端部付近強い回転横撫。	
第54図	25	在地系土器 鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰白/—	口縁部外反し端部丸みを持つ。器表黒色。外面煤付着。	
第54図	26	常滑陶器 甕	— 体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/暗灰/—	器壁厚い。器表灰褐色。	中世。
第54図	27	在地系土器 片口鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい橙/—	器表暗灰色。内面から口縁部外面回転横撫。	中世。
第54図	28	在地系土器 焙烙	— 1/4	口 底	(35.4) (33.6)	高 —	5.3 —	—/黒/—	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。口縁部内面から見込み周縁に幅広の耳貼付。耳1箇所残存。	
第54図	29	在地系土器 焙烙	— 1/4	口 底	(36.8) (33.8)	高 —	5.2 —	—/黒・灰白/—	断面灰白色、器表黒色。外面下位の型痕撫での後一部篦削り。	
第54図	30	在地系土器 焙烙	— 口縁部～ 底部片	口 底	— —	高 —	5.8 —	—/黒～灰/—	断面中央黒色、器表付近から内面器表にぶい黄橙色、外面器表黒色。口縁端部上面内傾しやや窪む。	
第55図	31	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい黄橙/—	器壁やや厚い。口縁部やや短く内面に太い内耳貼付。外面器表黒色。	中世。
第55図 PL.51	32	在地系土器 焙烙	— 1/4	口 底	(36.0) (35.0)	高 —	5.3 —	—/黒/—	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色からにぶい橙色。口縁部内面から見込み周縁に幅広の耳貼付。耳は1箇所残存。外面下位の型痕撫で消す。	
第55図	33	須恵器 椀	— 底部～ 体部下位片	口 底	— 6.0	高 台	— 5.8	細砂粒/酸化焔/明褐	ロクロ整形。高台は貼付。	
第55図 PL.51	34	縄文土器 深鉢	— 口縁片	口 底	— —	高 —	— —	—/—/E	波状口縁。口縁部に箆状具の爪形文や角押文を施す。内面横位磨き。	五領ヶ台式
第55図 PL.51	35	石製品 砥石	— 完形	長 幅	14.0 2.7	厚 重	3.4 149.0	研沢石/—/—	正面に砥面が認められ上方に向かい研ぎ減りする。裏面と両側面及び下部小口面には櫛歯タガネ痕が認められる。	
第55図 PL.51	36	石製品 砥石	— ほぼ完形	長 幅	(10.8) 3.2	厚 重	2.5 78.7	研沢石/—/—	正面に砥面が認められ研ぎ減りにより山形を呈する。右側面は砥面とは判断できないが、僅かに細かい線条痕が認められ部分的に砥面として利用された可能性がある。	
第55図 PL.51	37	石製品 砥石	— 完形	長 幅	12.0 4.7	厚 重	3.0 179.9	研沢石/—/—	正面と右側面に砥面が認められる。正面は上方に向かい著しく研ぎ減りする。正面と裏面及び左側面の下方には、工具による削り出し痕と想定される作業単位の集積が明瞭に残る。裏面ではこの工具痕の上に横方向の短い線条痕が認められる。	
第55図 PL.51	38	鉄製品 不詳	— 一部欠損	長 幅	6.2 1.7	厚 重	1.6 22.4	—/—/—	断面台形の各棒状の鉄製品で両端とる丸みを持った形状で錆に覆われ破損後の錆化したと考えられる。	

B５区２面４号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第55図 PL.51	39	石造物 板碑片	— 不明	長 幅	(20.2) (18.6)	厚 重	2.0 1319.5	緑色片岩/—/—	碑面は平坦で滑らかであり工具痕は認められない。裏面にも工具痕は認められない。	

B５区２面13号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第55図 PL.51	40	須恵器 椀	— 底部～体部下位	口 底	— 6.8	高 台	— 7.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

B５区２面15号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第55図	41	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 1/3	口 底	(11.0) (6.6)	高 —	2.4 —	—/灰白/—	体部丸みを持ち、口縁部小さく外反。内面から高台内周縁灰釉。高台端部無釉。	

C１区２面１号畑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第56図 PL.51	1	鉄製品 不詳	— 破片	長 幅	4.5 1.4	厚 重	1.1 6.24	—/—/—	断面ほぼ円形の棒状の鉄製品で浅くくの字に曲がる。一端はやや丸みを持つ角形で他の端部は劣化破損する。	

C１区２面27号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.51	1	搬入系土器 か 二朱銀形土 製品	— 1/2	長 幅	(1.3) 1.5	厚 —	0.3 —	—/にぶい橙/—	南鐐二朱銀形の上部片。表面に「此南・・」、「城小・・」の文字。裏面に「銀・」、「常・」の文字が見える。裏面の器表一部剥離。	
第60図 PL.51	2	鉄製品 釘	— 一部欠損	長 幅	3.9 1.2	厚 重	0.8 3.33	—/—/—	断面正方形の角釘破片。頭は角形で先端側は劣化破損する。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.51	3	鉄製品 釘	― 一部欠損	長 幅	3.0 1.1	厚 重	1.4 1.78	―/―/―	断面正方形の角釘破片。頭は薄く広げ折り曲げる角形で先端側は劣化破損する。木質等の痕跡は確認できない。	
第60図 PL.51	4	鉄製品 釘	― 一部欠損	長 幅	3.5 1.5	厚 重	0.9 4.02	―/―/―	断面長方形でしの字に曲がる角釘。頭は角形で先端側は劣化破損する。	
第60図 PL.51	5	銅製品 不詳	― ほぼ完形	長 幅	4.1 3.5	厚 重	0.3 4.67	―/―/―	断面円形の輪状銅製品。一部開口するが劣化破損によるもので本来は閉じた輪状の製品と考えられる。	
第60図 PL.51	6	銅製品 銭貨	― 完形	縦 横	2.823 2.816	厚 重	0.131 4.31	―/―/―	寛永通寶(裏波)。表側は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏側も外縁・波・郭とも彫深く明瞭。	
第60図 PL.51	7	銅製品 銭貨	― ほぼ完形	縦 横	2.216 2.220	厚 重	0.137 2.95	―/―/―	寛永通寶。表側は外縁・文字・郭とも明瞭だが表面はすり減ったように文字がつぶれる。裏側は彫は浅いが外縁・郭とも明瞭。寛と寶との間の外縁側面は潰れたように変形する。	

B５区２面30号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図	8	須恵器 杯	― 底部片	口 底	― 8.0	高 ―	― ―	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第60図 PL.52	9	石製品 砥石	― 1/2	長 幅	(7.0) 3.0	厚 重	1.4 40.6	研沢石/―/―	正面に砥面が認められ断面Ｖ字状の線条痕がある。裏面と両側面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。上部及び下部欠損。	

B５区２面31号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.52	10	石製品 石臼(上)	― 完形	径 幅	29.5 ―	高 重	11.1 10900.0	粗粒輝石安山岩/―/―	底面は摩滅し片減りする。側面に矩形の挽き手孔が2ヶ所に認められる。底面が摩滅したことで挽き手孔まで摩滅が及び、別の挽き手孔を設置したと考えられる。	
第60図 PL.52	11	石製品 石臼(上)	― 完形	径 幅	33.0 ―	高 重	13.0 11950.0	粗粒輝石安山岩/―/―	底面は摩滅し片減りする。側面に挽き手孔が2ヶ所に認められる。底面が摩滅したことで挽き手孔まで摩滅が及び、別の挽き手孔を設置したと考えられる。底面の中央には軸受孔が認められる。	

B５区２面33号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図	12	須恵器 椀	― 底部～ 体部下位片	口 底	― 6.5	高 台	― 6.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

B５区２面114号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図	1	瀬戸・美濃 陶器 皿	― 口縁部1/4、 底部2/3	口 底	(11.5) 7.6	高 ―	2.2 ―	―/灰白/―	器壁やや厚く、体部から口縁部直線的に開く。内面から高台内周縁灰釉。内面円錐ピン痕２箇所残存。貫入入る。	

B４区２面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65図 PL.52	1	製作地不詳 磁器 染付杯	― 完形	口 底	5.1 1.8	高 ―	2.8 ―	―/白/―	ゴムによる染付。三つの若松文を不均等に配置。	近現代。
第65図 PL.52	2	瀬戸・美濃 陶器 染付小丸碗	― 体部下位以下 1/4	口 底	― (3.6)	高 ―	― ―	―/灰黄/―	体部外面染付。見込み周縁１重圏線。	
第65図 PL.52	3	肥前磁器 染付小丸碗	― 口縁部1/3欠	口 底	8.2 3.2	高 ―	5.4 ―	―/灰白/―	外面矢羽根文。口縁部内面２重圏線。見込み１重圏線内に不明銘。焼成不良で透明釉やや白濁。	
第65図 PL.52	4	肥前磁器 染付植木鉢	― 体部下位以下 1/3	口 底	― (9.4)	高 ―	― ―	―/白/―	体部外面染付。外面は高台端部を除き透明釉。内面無釉。底部中央に焼成前の円孔。焼き継ぎ。	
第65図 PL.52	5	鉄製品 不詳	― 破片	長 幅	2.3 0.5	厚 重	0.4 0.46	―/―/―	断面円形の鉄製品で一端は細くなり尖る、他の端部は劣化破損する。	
第65図 PL.52	6	銅製品 キセル・ 吸い口	― ほぼ完形	長 幅	7.7 0.8	厚 重	0.9 6.70	―/―/―	キセルの吸い口部分で吸い口側端部はやや破損する。断面はほぼ円形だが表面全体に変形と見られる凹凸が見られる。	

B５区２面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65図 PL.52	7	前橋藩窯磁器か 染付小碗	― 口縁部～ 体部1/3	口 底	(8.4) ―	高 ―	― ―	―/灰白/―	外面植物文。口縁部内面釉溜まる。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65図 PL.52	8	肥前磁器 染付小碗	— 口縁部1/3、 底部完	口 底	(7.5) 2.8	高 —	4.1 —	—/灰白/—	口縁部外面に二つの笹文。高台端部を除き透明釉。	
第65図 PL.52	9	京・信楽系 陶器 鉄絵碗	— 口縁部1/4、 底部完	口 底	(9.3) 3.2	高 —	5.4 —	—/灰白/—	半球状の碗で口縁部外面に鉄絵。内面から高台脇透明釉。貫入入る。	
第65図 PL.52	10	瀬戸・美濃 陶器 柳碗	— 口縁部1/3、 体部1/2	口 底	(12.2) —	高 —	— —	—/灰/—	口縁部から体部外面の１箇所の鉄絵具による簡略化した柳文。内面から高台脇灰釉。貫入入る。	
第65図 PL.52	11	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	— 口縁部～ 体部1/8	口 底	(12.0) —	高 —	— —	—/灰白/—	口縁部外反し、端部は上方に小さく折り曲げる。内面から体部外面下端灰釉。	大窯期。
第65図 PL.52	12	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	— 1/2	口 底	(8.4) (4.3)	高 —	1.8 —	—/淡黄/—	底部碁笥底状。内面から口縁部外面飴釉。	
第65図 PL.52	13	志戸呂陶器 灯火受皿	— 口縁部1/2、 底部2/3	口 底	10.0 5.1	高 —	1.8～ 2.1 —	—/にぶい赤褐/—	桟部にアーチ状抉り２箇所。内面から口縁部外面鉄泥。底部回転糸切り後、外面下半以下回転篦削り。	
第65図 PL.52	14	瀬戸・美濃 陶器 小香炉か	— 体部下位以下	口 底	— 3.5	高 —	— —	—/灰白/—	体部外面灰釉。高台脇湾曲。	
第65図 PL.52	15	堺陶器 すり鉢	— 1/4	口 底	(35.0) (14.4)	高 —	13.9 —	—/橙/—	無釉。体部外面篦削り。内面すり目の後口縁部回転横撫。	
第65図 PL.52	16	在地系土器 鍋	— 口縁部1/8、 底部1/5	口 底	(32.6) (21.0)	高 —	11.4 —	—/灰白/—	断面灰白色、器表黒色。外面煤付着。口縁部上面やや窪む。体部外面下端以下型痕。	
第65図	17	在地系土器 焙烙	— 口縁部～底部片	口 底	— —	高 —	5.7 —	—/黄灰/—	断面灰白色、器表黒褐色。口縁部内傾し、上面窪む。外面下半から底部外面型痕。	
第65図 PL.52	18	縄文土器 深鉢	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	—/—/D	曲隆線文に沿って半截竹管の半肉彫的平行沈線文を重層的に施す。内面やや粗い撫で状の横位磨き。	焼町式
第65図 PL.52	19	石製品 砥石	— 4/5	長 幅	(9.0) 3.0	厚 重	2.6 89.1	研沢石/—/—	正面と裏面に砥面が認められ上方に向かい研ぎ減りする。両側面と下部小口面には櫛歯タガネ痕が認められる。上部欠損。	
第65図 PL.52	20	石製品 砥石	— 2/3	長 幅	(8.8) 3.1	厚 重	2.8 128.3	研沢石/—/—	正面に砥面が認められる。裏面と両側面及び下部小口面には櫛歯タガネ痕が認められる。上部欠損。	
第66図 PL.52	21	石製品 碁石	— 完形	長 幅	2.2 2.2	厚 重	0.4 3.3	珪質頁岩/—/—	全体的に非常に滑らかであり薄形である。	
第66図 PL.52	22	銅製品 キセル・ 雁首	— 破片	長 幅	6.2 0.9	厚 重	2.4 5.07	—/—/—	火皿部分を欠くキセルの雁首。全体に劣化が著しく、中央部で劣化破損により変形する。	
第66図 PL.52	23	鉄製品 釘	— 破片	長 幅	2.5 1.3	厚 重	0.7 2.48	—/—/—	断面ほぼ正方形の角釘。くの字形に曲がり頭部分は劣化破損する。	
第66図 PL.52	24	銅製品 銭貨	— 一部欠損	縦 横	2.554 2.515	厚 重	0.111 2.47	—/—/—	祥符元寶。表側は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏側は平坦だが外縁・郭とも明瞭。	

Ｃ１区２面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第66図 PL.52	25	在地系土器 鉢	— 口縁部1/4、 底部完	口 底	(18.4) 14.4	高 —	7.3 —	—/黒/—	断面中央黒色、記票付近灰白色、器表黒色。内面器表剥離。高台２ヶ所に小円穴。	

Ｃ４区２面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第66図 PL.52	26	鉄製品 不詳	— 完形	長 幅	4.0 4.0	厚 重	0.8 10.11	—/—/—	断面円形の輪状の鉄製品。全体に錆覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	

Ｂ５区３面260号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第76図 PL.52	1	石製品 石臼(上)	— 1/6	径 幅	(32.0) —	高 重	9.2 2147.0	粗粒輝石安山岩/ —/—	底面は摩滅し片減りする。側面に断面矩形の挽き手孔の痕跡が２ヶ所に認められる。底面が摩滅したことで挽き手孔まで摩滅が及び、別の挽き手孔を設置したと考えられる。	

Ｂ５区３面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第77図 PL.53	1	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器	— 口縁部1/2	口 底	6.8 4.2	高 —	5.6 —	—/灰白/—	内面から脚柱部灰釉。貫入入る。	
第77図 PL.53	2	龍泉窯系青 磁 碗	— 底部1/2	口 底	— 5.4	高 —	— —	—/灰白/—	底部器壁厚い。内面から高台外面付近青磁釉。貫入入る。内面目痕２カ所。	中世。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第77図	3	龍泉窯系青磁 稜花皿	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰/—	口縁部内面施文。青磁釉。貫入入る。	中世。
第77図 PL.53	4	肥前磁器 染付小丸碗	— 口縁部1/4、 底部完	口 底	(8.7) 3.2	高 —	5.8 —	—/白/—	外面竹文。口縁部内面四方襷文。見込み２重圏線内に五弁花。	
第77図 PL.53	5	肥前陶器 皿	— 口縁部～ 体部1/8	口 底	(27.5) —	高 —	— —	—/にぶい赤褐/—	内面白土刷毛塗り後鉄泥による施文。内面から体部外面透明釉。	
第77図 PL.53	6	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	— 1/8	口 底	(12.0) —	高 —	— —	—/灰白/—	体部内面鑿状工具による菊花状の削ぎ。内外面灰釉。	大窯期。
第77図	7	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 口縁部1/6、 底部1/3	口 底	(11.8) (7.0)	高 —	2.3 —	—/灰白/—	口縁部小さく外反。内面から高台内周縁長石釉。貫入入る。高台内円錐ピン痕残る。	
第77図 PL.53	8	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	— 1/4	口 底	(11.7) (7.2)	高 —	2.3 —	—/灰白/—	体部から口縁部内湾。内面鉄絵。内面から高台外面薄く施釉。	
第77図 PL.53	9	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	— 口縁部1/4、 底部1/2	口 底	(12.4) 7.8	高 —	2.6 —	—/灰白/—	口縁部外反。体部外面下位、回転篦削り。内面鉄絵。高台端部を除き薄い灰釉。	
第77図 PL.53	10	瀬戸・美濃 陶器 皿	— 底部完	口 底	— 6.0	高 —	— —	—/白/—	大窯。見込み印花文。高台端部を除き灰釉。貫入入る。高台内輪状の窯道具痕。	大窯。
第77図 PL.53	11	瀬戸・美濃 陶器 碗か小鉢	— 口縁部～ 体部1/4	口 底	(10.8) —	高 —	— —	—/灰/—	口縁部外面に波状の凹線を描いた後に横線を廻らす。内外面鉄泥。部分的に灰釉をかけたためか、白濁部分が認められる。	
第77図 PL.53	12	瀬戸・美濃 陶器か 灰吹きか	— 1/6欠	口 底	7.0 5.2	高 —	5.5 —	—/灰白/—	口縁部人為的な打ち欠きで欠損。高台端部も細かい打ち欠きがある。見込み布圧痕。高台端部を除き灰釉。	
第77図 PL.53	13	瀬戸・美濃 陶器 蓋	— 完形	口 摘	3.4 1.9	高 —	1.6 —	—/浅黄/—	極一部に灰釉がかかるが、無釉製品。天井部から口縁部外面の1/4ほどは焼成前に篦で削られている。	
第77図 PL.53	14	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	— 1/2	口 底	(10.3) (7.4)	高 —	6.2 —	—/淡黄/—	体部外面の１カ所に鑿状工具による松か半菊文。口縁部内面から体部外面黄釉。口縁端部内面叩打による小欠けあり。	
第77図	15	丹波陶器か すり鉢	— 口縁部～体部片	口 底	— —	高 —	— —	—/にぶい赤褐・褐灰/—	外面轆轤目。口縁部は片口部残存。胎土に礫含む。すり目は細い。	
第77図 PL.53	16	丹波陶器か すり鉢	— 体部以下1/2	口 底	— 15.0	高 —	— —	—/灰白/—	胎土に小礫含む。体部外面轆轤目。内面下部使用により器表摩滅。底部外面砂付着。	
第78図 PL.53	17	在地系土器 皿	— 完形	口 底	10.6 5.8	高 —	3.0 —	—/浅黄橙/—	底部右回転糸切無調整。見込み指撫で。体部外面下位轆轤目明瞭。	中世。
第78図	18	在地系土器 片口鉢	— 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰/—	還元炎焼成。内面丁寧な調整。口縁端部内面小さく欠損。	中世。
第78図	19	在地系土器 内耳鍋	— 口縁部下位片	口 底	— —	高 —	— —	—/灰褐/—	口縁部下位内面明瞭な段差。	中世。
第78図	20	在地系土器 焙烙	— 口縁部～底部片	口 底	— —	高 —	5.2 —	—/褐灰・灰白/—	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。体部外面下半型痕を篦削り。口縁部内面耳貼付。	
第78図 PL.53	21	在地系土器 羽口	— 基部	外径 内径	7.1 2.5	長 —	— —	—/黒褐/—	断面黒褐色、器表付近にぶい橙色、器表黒色。基部片で装着時に端部内面を擦って調整する。	
第78図 PL.53	22	灰釉陶器 皿	— 1/4	口 底	12.8 7.0	高 台	2.1 6.8	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	
第78図 PL.53	23	須恵器 瓶	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	細砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形。胴部はカキ目後２条の凹線によって区画され、その内を刺突文が巡る。	
第78図 PL.53	24	石製品 砥石	— ほぼ完形	長 幅	(14.4) 3.3	厚 重	3.7 226.2	研沢石/—/—	正面と裏面に砥面が認められともに研ぎ減りにより山形を呈する。両側面には櫛歯タガネ痕が僅かに残る。	
第78図 PL.53	25	石製品 砥石	— 1/2	長 幅	(8.8) 3.3	厚 重	4.6 200.1	研沢石/—/—	正面に砥面が認められる。裏面と両側面及び上部小口面には櫛歯タガネ痕が認められる。下部欠損。	
第78図 PL.53	26	鉄製品 鎌	— —	長 幅	6.5 2.4	厚 重	0.6 17.11	—/—/—	鉄製鎌の柄部分破片。茎の先端を細くして折り曲げ、目釘で固定する構造。刃側は破損後錆化する。	
第78図 PL.53	27	銅製品 銭貨	— 破片	縦 横	— —	厚 重	0.127 0.43	—/—/—	銅銭の1/5ほどの破片で文字の一部が残るが判読不明。	

Ｃ１区３面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第78図 PL.52	28	肥前磁器 染付小丸碗	— 口縁部1/5、 底部完	口 底	(9.2) 3.2	高 —	5.9 —	—/白/—	外面雪持ち笹。口縁部内面不明文様。見込み２重圏線内に五弁花。	
第78図 PL.52	29	弥生土器 甕	— 胴部片	口 底	— —	高 —	— —	—/—/B	方形状の沈線入組文内にLR縄文を充填施文。内面縦位篦磨き。	弥生中期

B６区３面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第79図	1	瀬戸・美濃 磁器 染付端反碗	― 1/4	口 底	(10.6) (3.8)	高 ―	5.7 ―	―/白/―	口縁部と腰部外面縦線。外面中位唐草状文。口縁部と見込み周縁２重圏線。	
第79図	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	― 口縁部～体部一部、底部1/2	口 底	(11.1) 5.4	高 ―	7.2 ―	―/灰白/―	口縁部外面３状の凹線。凹線部分を外面から押して窪ませる。残存部が少なく窪みの数は不明。内面から高台脇貫入の入る灰釉。	
第79図 PL.52	3	肥前陶器 陶胎染付碗	― 口縁部1/3、底部1/2	口 底	(10.6) (5.0)	高 ―	7.3 ―	―/灰/―	外面植物文。釉は貫入入る。	
第79図	4	瀬戸・美濃 陶器 鉢	― 体部下位以下完	口 底	― 6.2	高 ―	― ―	―/灰白/―	内面錆色の鉄釉。残存部外面無釉。体部外面回転篦削り。	

B４区４面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第84図 PL.52	1	土師器 杯	― 1/3	口 底	13.8 ―	高 ―	4.6 ―	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ、下半から底部はヘラ削り。内面は体部に斜放射状ヘラ磨き。	

C４区４面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第84図	2	須恵器 甕	― 胴部小片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面はヘラナデか、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

B４区５面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.53	1	土師器 台付鉢	― 鉢身部1/3	口 底	16.8 ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部は貼付。口縁部から頸部は横ナデ、体部は上半がハケ目(１cmあたり７本)、下半はヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
第87図 PL.53	2	土師器 高杯	― 脚部	口 底	― ―	高 脚	― 10.5	細砂粒/良好/明黄褐	脚部は杯身部底部中央まで一体で成型、これに杯身部を接合。脚部はヘラ磨き、裾部との意向部にハケ目(１cmあたり７本)が残る、裾部は横ナデ。内面は脚部がヘラナデ、裾部はハケ目後横ナデ。	
第87図	3	土師器 高杯	― 脚部片	口 底	― ―	高 脚	― 12.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐	脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面は脚部がヘラナデ、裾部は横ナデ。	
第87図	4	土師器 台付甕	― 脚部小片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁端部は折り返し、整形は器面摩滅のため不鮮明。	
第87図 PL.53	5	土師器 甕	― 口縁部～胴部上位片	口 底	13.9 ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、頸部から胴部あhヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第87図 PL.53	6	土師器 鉢	― 口縁部片1/4	口 底	14.2 ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、頸部はナデ、体部はヘラナデ。	
第87図 PL.53	7	土師器 鉢	― 口縁部片	口 底	15.0 ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、頸部はナデ、体部はヘラナデ。	
第88図	8	土師器 甕	― 口縁部～頸部片	口 底	16.0 ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、内面は胴部がヘラナデ。	
第88図 PL.53	9	土師器 甕	― 胴部一部欠損	口 底	17.0 3.5	高 胴	25.0 20.9	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、頸部から胴部と底部はハケ目(１cmあたり７本)。内面は口唇部が横ナデ、口縁部から頸部と底部から胴部下位にハケ目が残る、胴部はヘラナデ。	北陸系「千種」甕
第88図	10	土師器 壺	― 胴部片	口 底	― ―	高 胴	― 18.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はハケ目(１cmあたり８～９本)後、一部にナデ。内面胴部はヘラナデ。	
第88図	11	土師器 甕	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面はハケ目、内面はヘラナデ。	
第88図	12	土師器 甕	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面はハケ目、内面はヘラナデ。	

B５区６面20号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.54	1	弥生土器 甕	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/―/A	細密なRL縄文を散漫に横位施文し、単沈線の曲線文を施す。外面やや被熱風化、内面撫で状の横位篦磨き。	弥生中期

B５区６面21号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.54	2	土師器 甕	― 底部～胴部下位1/2片	口 底	― 7.8	高 ―	― ―	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐	底部はヘラ削り、器面摩滅のため単位不鮮明、胴部は中位にハケ目(１cmあたり６本)が残るが大部分は器面磨滅のため整形不明。内面は底部から胴部がヘラナデ。	

B５区６面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図 PL.54	1	弥生土器 甕	― 口縁～胴部中位 1/2	口 底	25.0 ―	高 ―	― ―	―/―/A	カナムグラの疑似縄文を横位・多段に施文。外面煤状炭化物付着、内面横位箆磨き。	弥生中期
第92図 PL.54	2	弥生土器 甕	― 底部完存	口 底	― 7.5	高 ―	― ―	―/―/A	外底面に木葉痕。外面縦位箆磨き、内面横位箆磨き・煤状炭化物付着。	弥生中期
第92図 PL.54	3	弥生土器 筒形土器	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/―/B	方形状の沈線入組文内や胴部下位にやや細密なLR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化、一部に煤状炭化物付着。	弥生中期
第92図 PL.54	4	弥生土器 筒形土器	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/―/B	方形状の沈線入組文内にやや細密なＬＲ縄文を充填施文。外面煤状炭化物付着、内面縦位箆磨き・やや被熱風化。	弥生中期
第92図 PL.54	5	弥生土器 甕	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/―/A	単沈線の横線文を施し、やや細密なＲＬ縄文を充填施文。内面横位箆磨き。	弥生中期
第92図 PL.54	6	弥生土器 甕	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/―/C	縦位単沈線文の空隙部に刺突文を充填施文。外面燻べ焼き状に炭素吸着、内面横位箆磨き。	弥生中期
第92図 PL.54	7	弥生土器 甕	― 胴部下位～底部 完存	口 底	― 6.4	高 ―	― ―	―/―/D	細密なLR縄文を横位・多段に施文。外面縦位箆磨き。内面縦・斜位箆磨き、一部に煤状炭化物付着。	弥生中期
第92図 PL.54	8	縄文土器 深鉢	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/―/D	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化。	中期後半
第92図	9	土師器 甕	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	細砂粒/良好/明赤褐	外面はハケ目後ナデ、内面はヘラナデ。	
第92図 PL.54	10	剥片石器 石鏃	― 1/3	長 幅	(10.9) 12.4	厚 重	2.4 337.2	砂岩/―/―	裏面に自然面を大きく残し大形円礫を利用する。表面には主要剥離面が認められ大形剥片を素材とする。表裏面の先端部を中心に摩滅が認められ使用痕の可能性が高い。その摩滅より新しい刃部方向からの剥離痕が認められ刃部の再加工が想定される。	
第92図 PL.54	11	剥片石器 石鏃	― 完形	長 幅	14.9 8.8	厚 重	2.7 348.0	砂岩/―/―	表裏面の先端付近に摩滅が認められ使用痕の可能性がある。両側辺の中央から上方にかけてつぶれが認められ着柄痕の可能性がある。	

C１区６面遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図 PL.54	12	弥生土器 甕	― 胴部片	口 底	― ―	高 ―	― ―	―/―/D	櫛歯状具の条痕文を縦位に施文。内面横位箆撫で後、やや粗い横位箆磨き。	弥生中期

縄文・弥生土器の胎土分類

分類	特徴
A	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や輝石粗・細砂と少量の珪質乳白色岩片粗・細砂及び赤色岩片礫を含むやや緻密な胎土。
B	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片や石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
C	少量の珪質乳白色・灰白色岩片や輝石の細砂を含む緻密な胎土。
D	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や中量の輝石粗・細砂と少量の珪質乳白色岩片及び石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。
E	多量の長石・石英や少量の角閃石・黒色岩片・雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。

※各分類は肉眼観察による相対的なものである。

写 真 図 版

1．Ａ２区全景(南東から)

2．Ｂ４区２面全景(南から)

1．Ｂ４区１面調査風景（南東から）

2．Ｂ５区２面全景（南から）

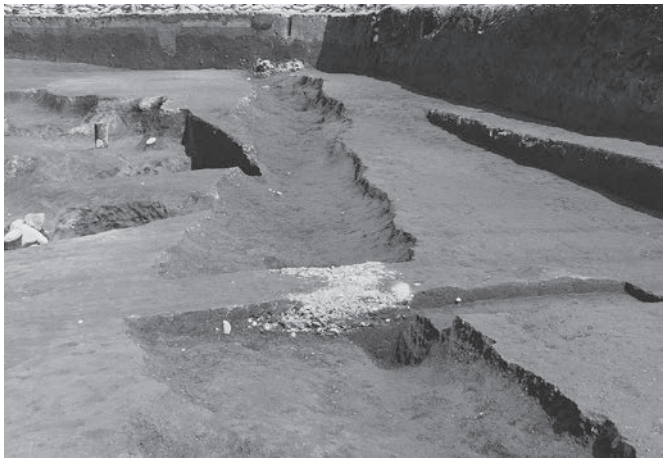
1．Ｂ５区３面全景(南東から)

2．Ｂ５区６面全景(北西から)

1．Ｂ・Ｃ区調査区全景（北から）

2．Ｃ１区２面調査風景（南から）

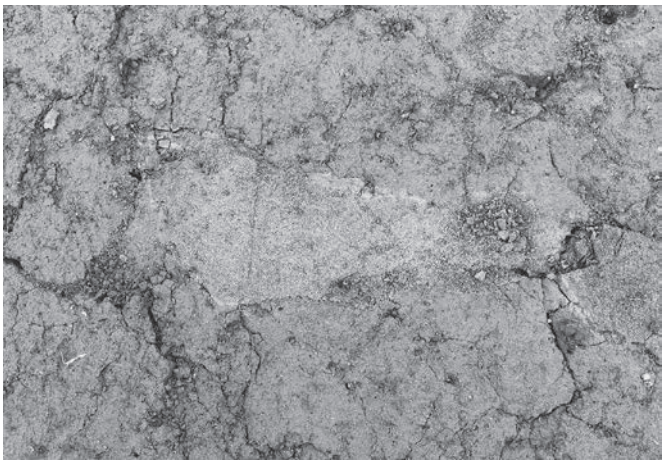
1．Ａ２区１面１号溝全景（南から）



2．Ａ２区１面１号溝土層断面（南から）

3．Ａ１区調査区全景（北から）

4．Ａ１区調査区確認面（北から）



5．Ａ１区調査区確認面（北から）

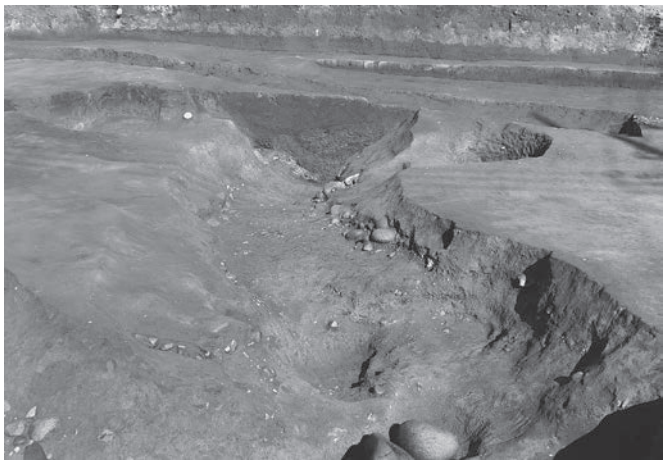
1．Ａ２区２面２号溝全景(西から)

2．Ａ２区２面２号溝全景(東から)

3．Ａ２区２面２号溝遺物出土状態(東から)

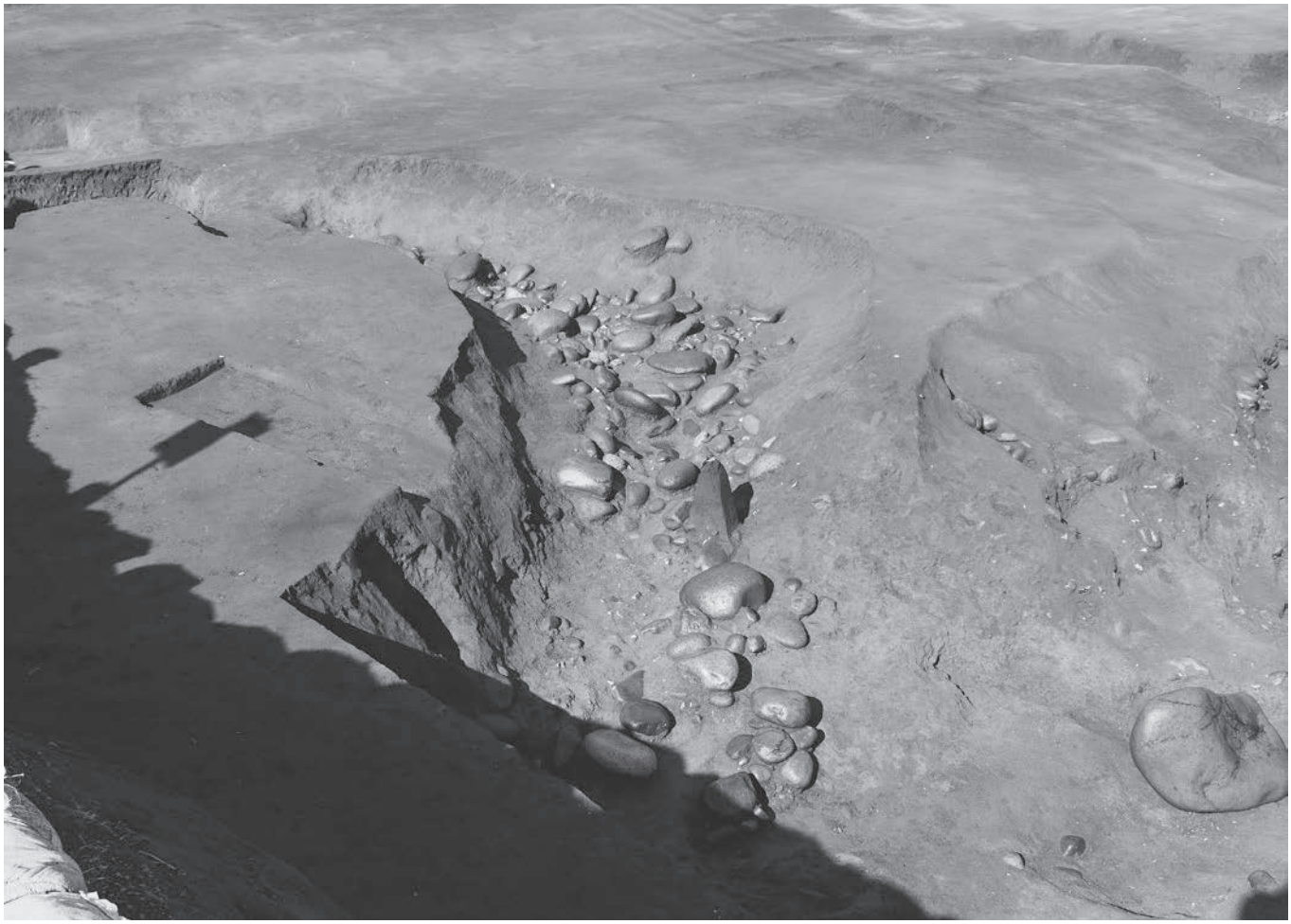
4．Ａ２区２面２号溝土層断面東(西から)

5．Ａ２区２面２号溝遺物出土状態(西から)



1．Ａ２区２面２号溝全景(南東から)

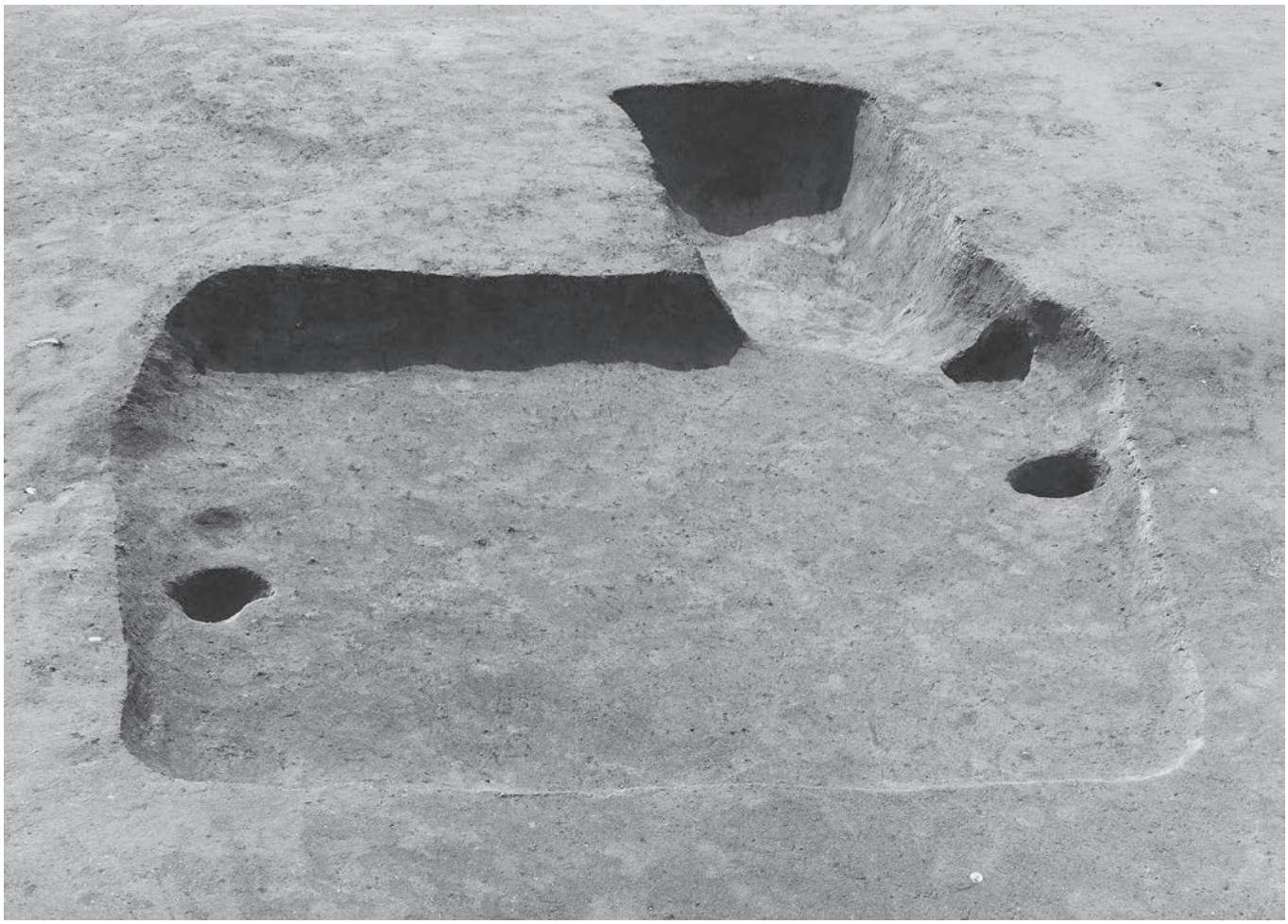
2．Ａ２区２面２号溝調査風景(西から)



3．Ａ２区２面４号溝全景(南西から)

4．Ａ２区２面４号溝全景(北から)

5．Ａ２区２面２・４号溝全景(南から)



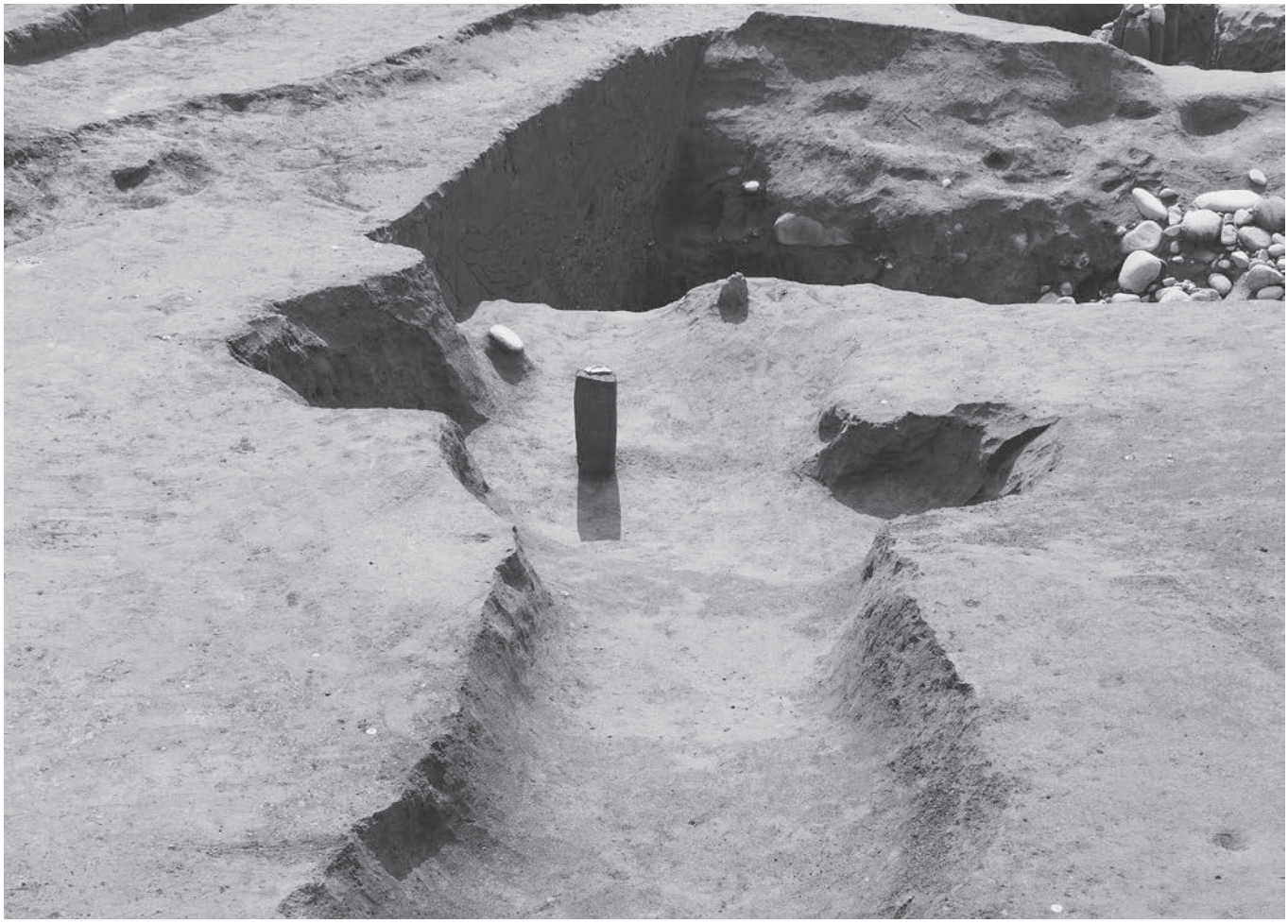
1．Ａ２区２面１号堅穴状遺構、１号土坑全景(北から)

2．Ａ２区２面２号土坑全景(西から)

4．Ａ２区２面２号地下式土坑全景(南から)

3．Ａ２区２面１号地下式土坑全景(南から)

1．Ａ２区３面１号住居全景(南西から)



2．Ａ２区３面３号溝全景(北から)

1．Ｂ４区１面旧流路左岸全景（南から）

2．Ｂ４区１面調査区北東部全景（南から）

3．Ｂ４区１面調査区北東部全景（西から）

4．Ｂ４区１面６号溝全景（南から）

5．Ｂ４区１面１号堅穴状遺構土層断面（南から）

1．Ｂ４区１面旧流路右岸全景（南から）

2．Ｂ４区１面１号溝全景（北から）

4．Ｂ４区１面１～４号溝全景（北から）

3．Ｂ４区１面１号溝全景（南から）

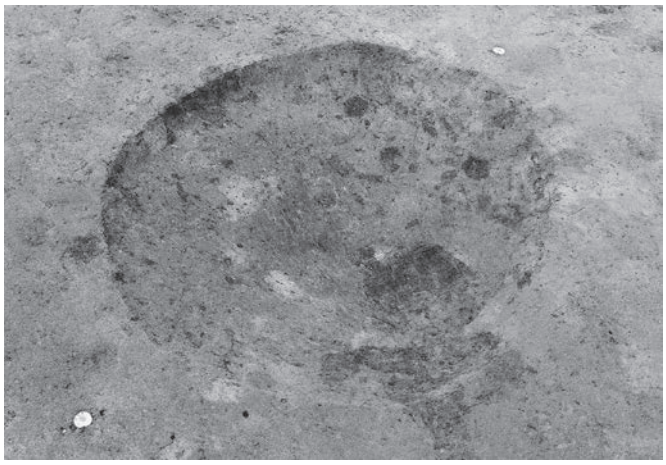
1．Ｂ４区１面１～４号溝全景(南から)

2．Ｂ４区１面２号溝、２号土坑土層断面(南から)

3．Ｂ４区１面３・４号溝土層断面(南から)

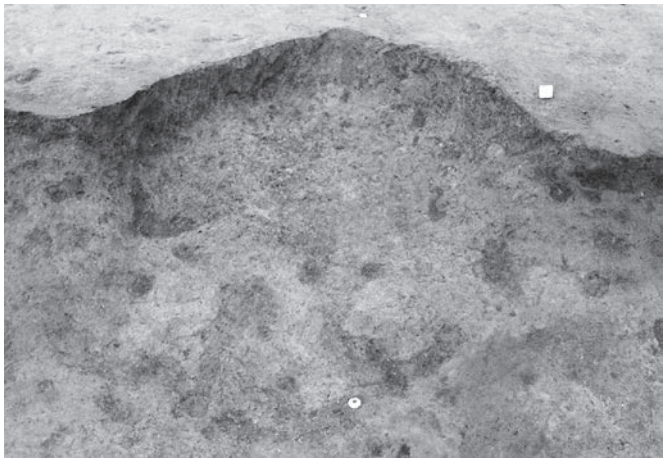
4．Ｂ４区１面４号溝土層断面(東から)

5．Ｂ４区１面５号溝土層断面(南から)



1．Ｂ４区１面１号土坑全景(南から)

2．Ｂ４区１面２号土坑全景(西から)



3．Ｂ４区１面３号土坑全景(西から)

4．Ｂ４区１面４号土坑全景(東から)

5．Ｂ４区１面５号土坑全景(南西から)

6．Ｂ４区１面６号土坑全景(西から)

7．Ｂ４区１面７号土坑全景(南から)

8．Ｂ４区１面８号土坑全景(西から)

1．Ｂ４区１面９号土坑土層断面(南から)

2．Ｂ４区１面10号土坑全景(南から)

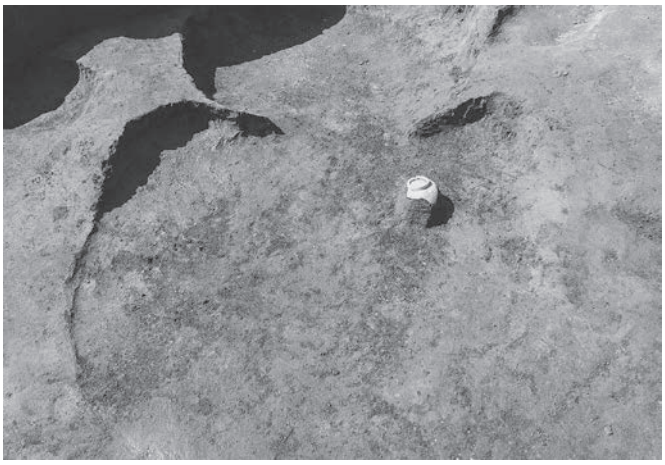
3．Ｂ４区１面11号土坑全景(南から)

4．Ｂ４区１面12号土坑土層断面(東から)

5．Ｂ４区１面13号土坑土層断面(東から)

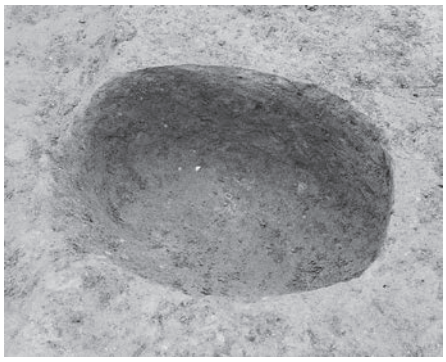
6．Ｂ４区１面14号土坑全景(東から)

7．Ｂ４区１面15号土坑全景(南東から)

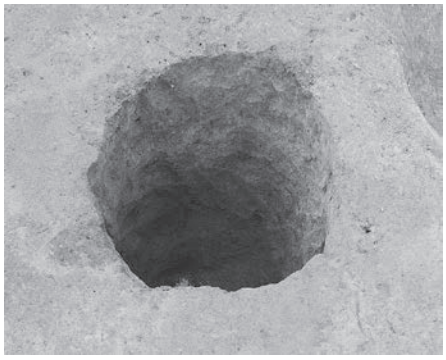


8．Ｂ４区１面16号土坑全景(南東から)

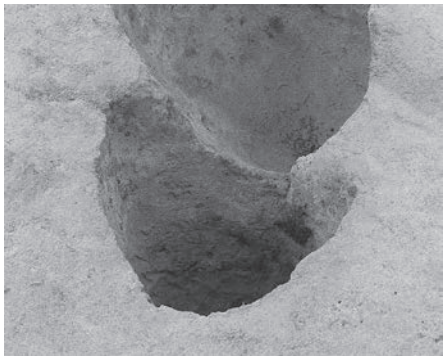
1．Ｂ４区１面16号土坑遺物出土状態(南東から)



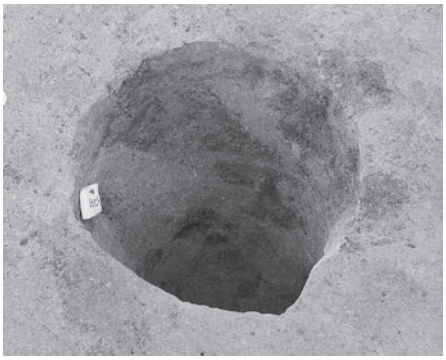
2．Ｂ４区１面28号土坑全景(南から)



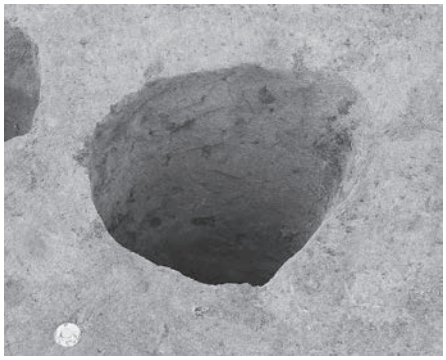
3．Ｂ４区１面２号ピット全景(南から)



4．Ｂ４区１面14号ピット全景(南から)



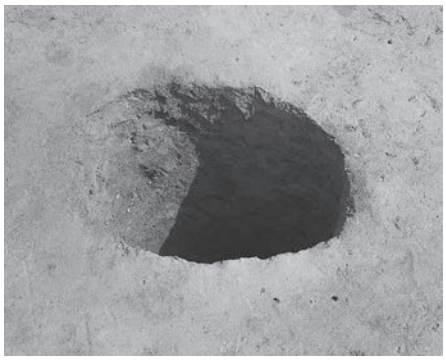
5．Ｂ４区１面18号ピット全景(南から)



6．Ｂ４区１面25号ピット全景(南から)

7．Ｂ４区１面30号ピット全景(東から)

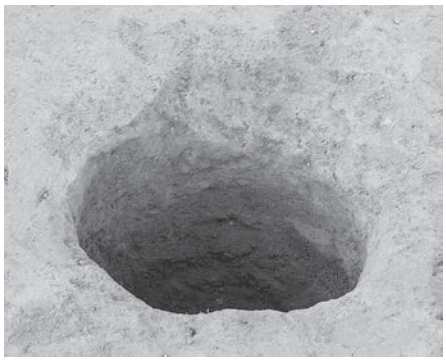
8．Ｂ４区１面33号ピット全景(南から)



9．Ｂ４区１面44号ピット全景(南から)

10．Ｂ４区１面46号ピット全景(南から)

11．Ｂ４区１面50号ピット全景(南から)

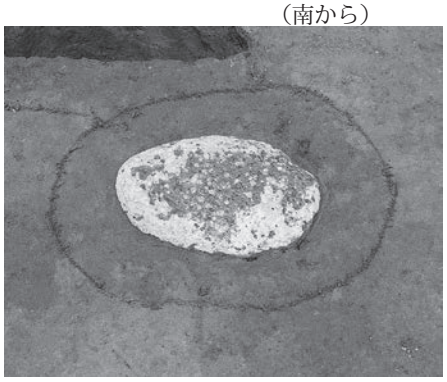


12．Ｂ４区１面51号ピット全景(南から)

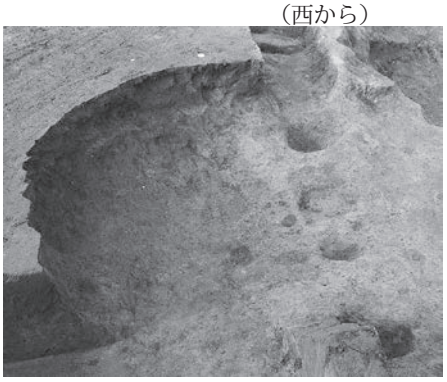
1．Ｂ４区１面51号ピット土層断面（南から）

2．Ｂ４区１面52号ピット土層断面（西から）

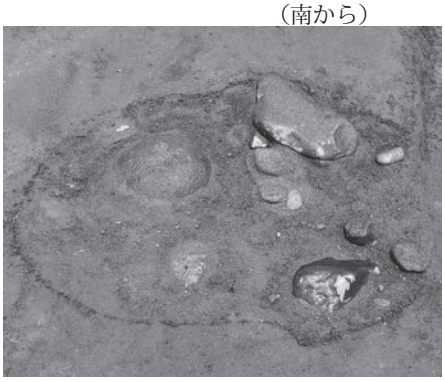
3．Ｂ４区１面53号ピット土層断面（南から）



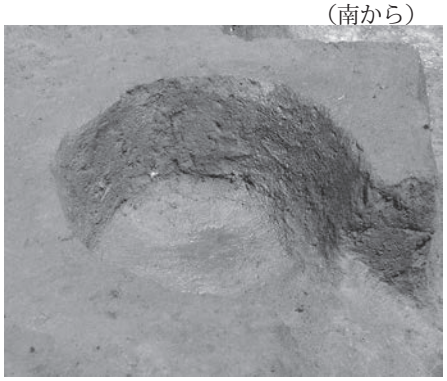
4．Ｂ４区１面53号ピット礎石検出状況（南から）



5．Ｂ４区１面54号ピット全景（南から）

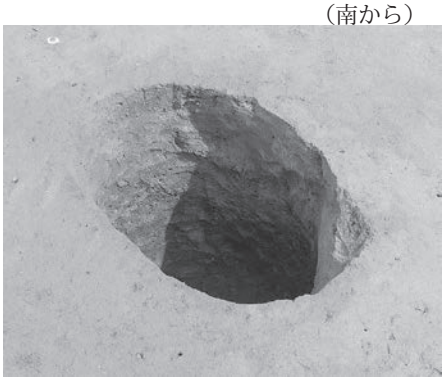


6．Ｂ４区１面54号ピット礎石検出状況（南から）

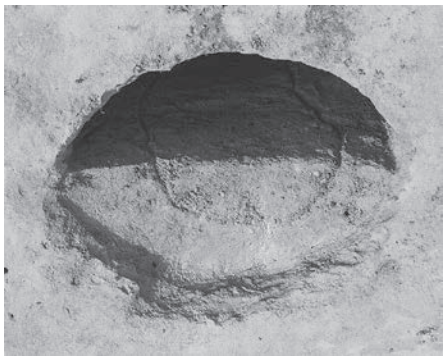


7．Ｂ４区１面55号ピット全景（南から）

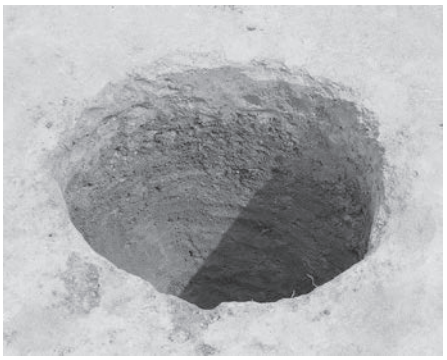
8．Ｂ４区１面58号ピット全景（西から）



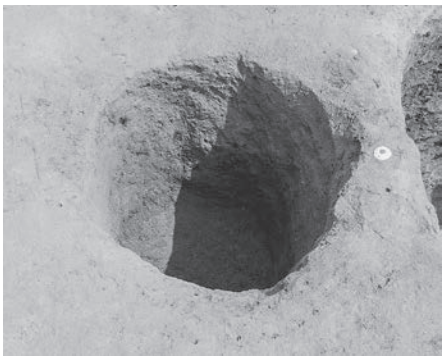
9．Ｂ４区１面59号ピット全景（南から）



10．Ｂ４区１面65号ピット土層断面（南西から）



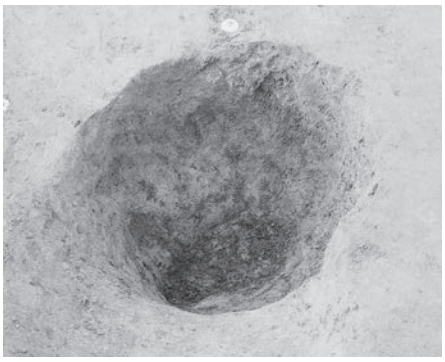
11．Ｂ４区１面65号ピット全景（南西から）



12．Ｂ４区１面67号ピット全景（南から）

13．Ｂ４区１面70号ピット全景（東から）

14．Ｂ４区１面70号ピット土層断面（東から）

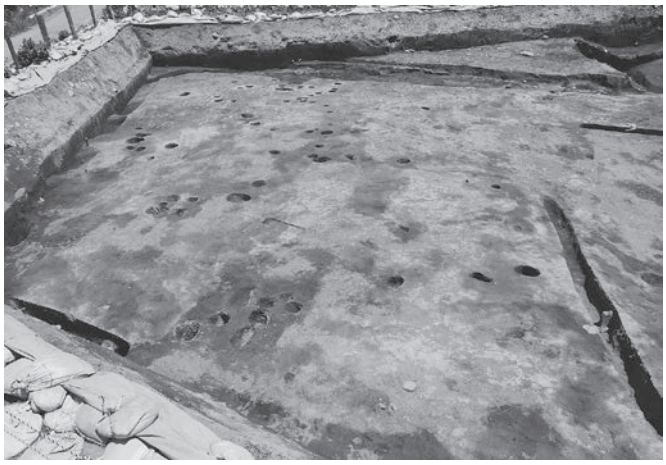


15．Ｂ４区１面72号ピット全景（南から）

1．Ｂ５区２面全景(西から)

2．Ｂ５区２面溝(北西から)

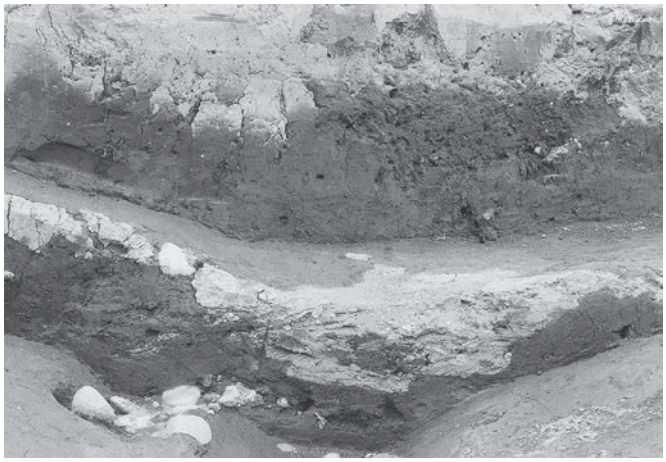
3．Ｂ５区２面溝とピット群(北から)



4．Ｂ５区２面ピット群(西から)

5．Ｂ５区２面ピット群(北から)

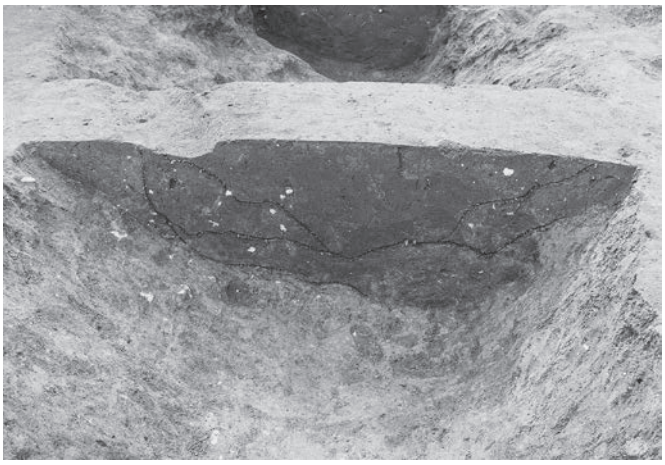
1．Ｂ５区２面３・４号溝全景(西から)



2．Ｂ５区２面３・４号溝土層断面(西から)

3．Ｂ５区２面３・４・15号溝土層断面(南から)

4．Ｃ１区２面９号溝全景(北から)



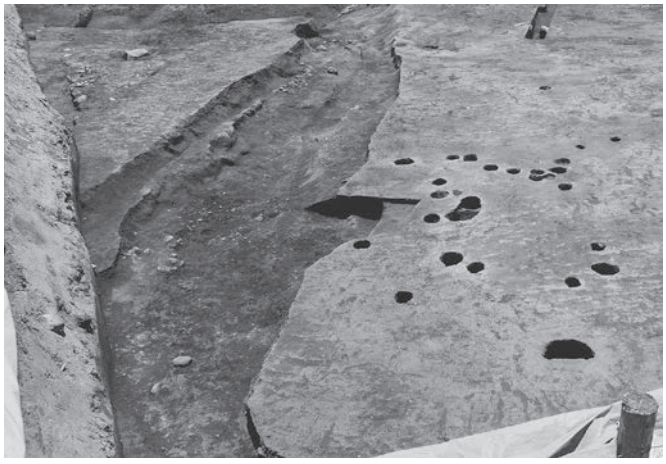
5．Ｃ１区２面９号溝土層断面(南東から)

1．Ｂ５区２面13号溝全景(南から)

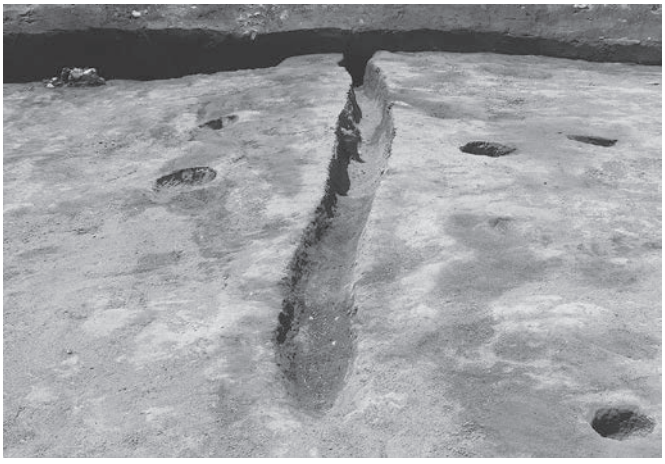
2．Ｂ５区２面13号溝土層断面(北から)

3．Ｂ５区２面14号溝土層断面(北から)

4．Ｂ５区２面15号溝、33号土坑土層断面(北から)

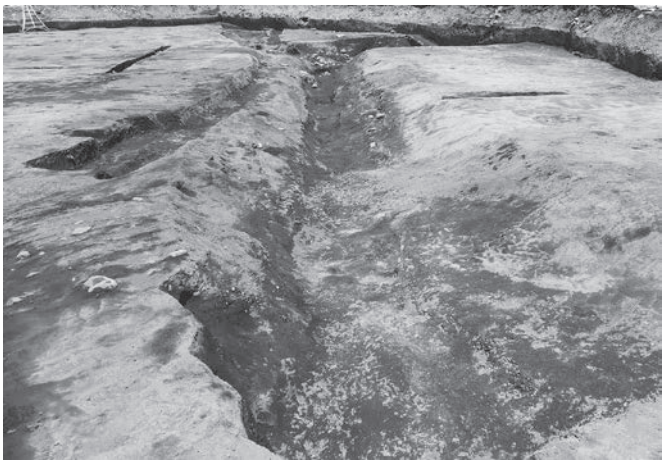


5．Ｂ５区２面16号溝全景(北から)



6．Ｂ５区２面19号溝全景(東から)

7．Ｂ５区２面19号溝全景(北西から)



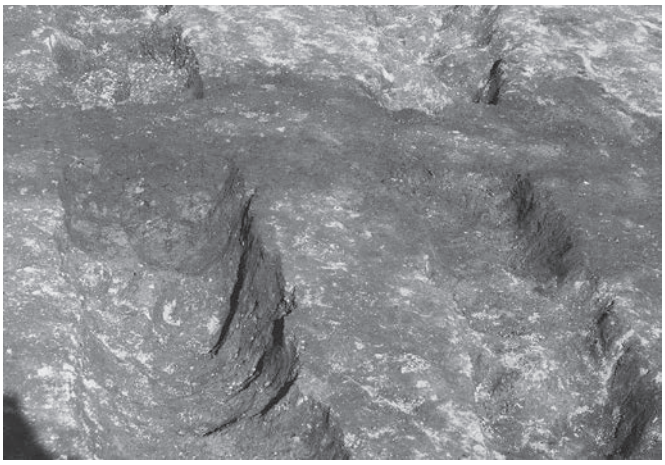
8．Ｂ５区２面３・４・15号溝全景(南から)

1．Ｃ１区２面１号畑全景(西から)

2．Ｃ１区２面１号畑全景(北から)

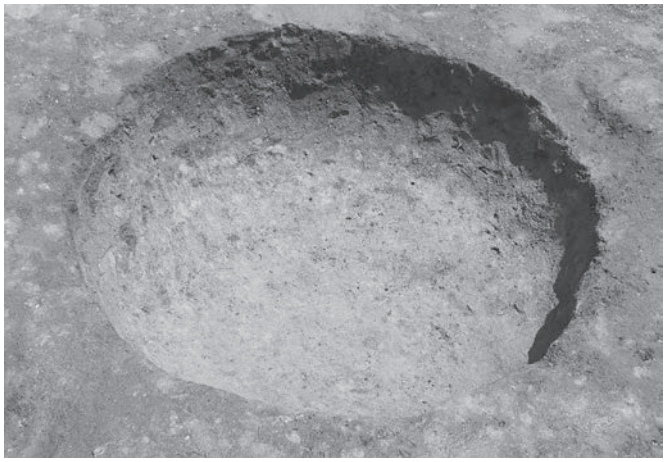
3．Ｃ１区２面１号畑全景(南から)

4．Ｃ１区２面１号畑土層断面(西から)



5．Ｃ１区２面１号畑土層断面(西から)

1．Ｂ４区２面１号井戸全景(南から)

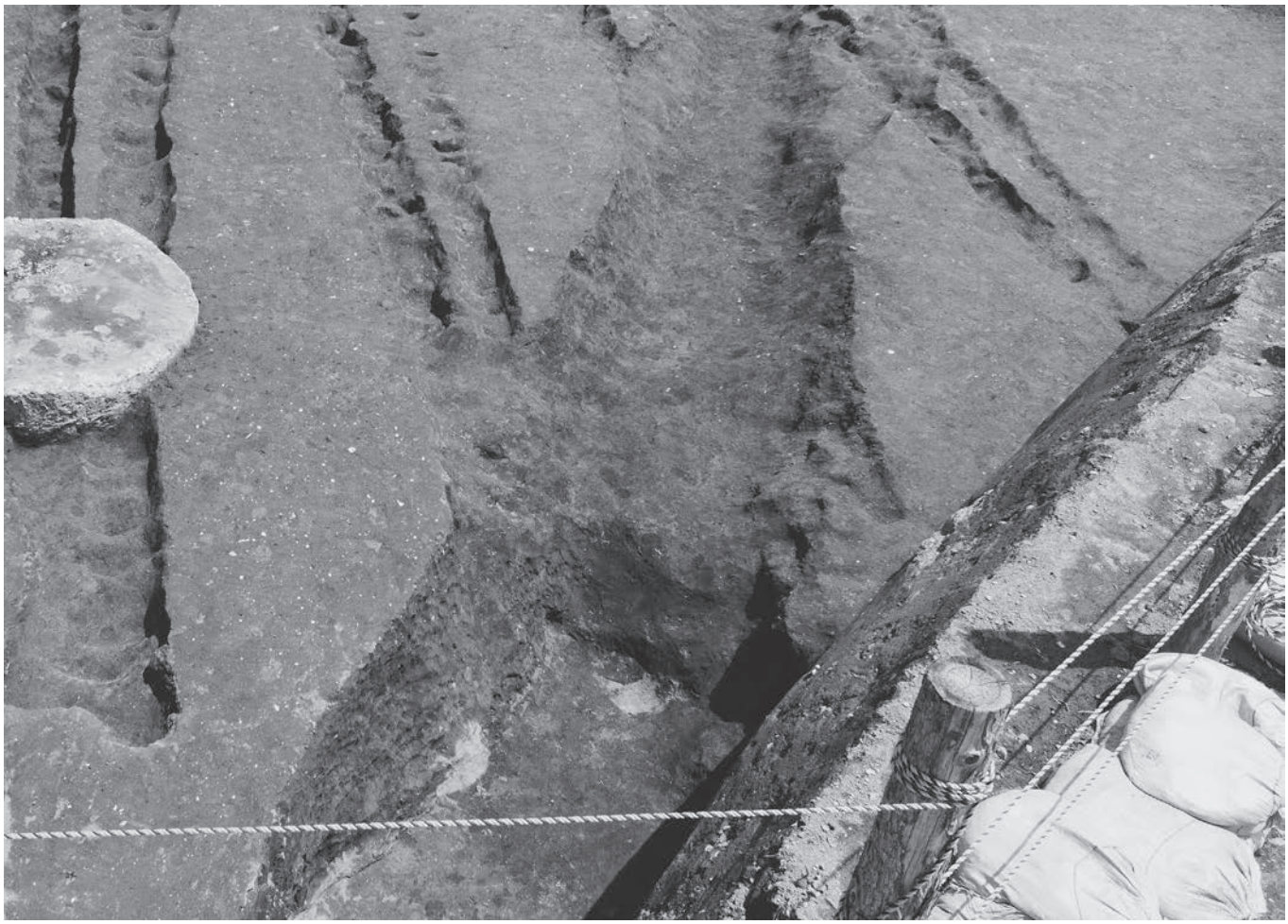


2．Ｂ４区２面１号井戸上部全景(西から)

3．Ｂ４区２面１号井戸上部土層断面(西から)

4．Ｂ４区南部旧流路(西から)

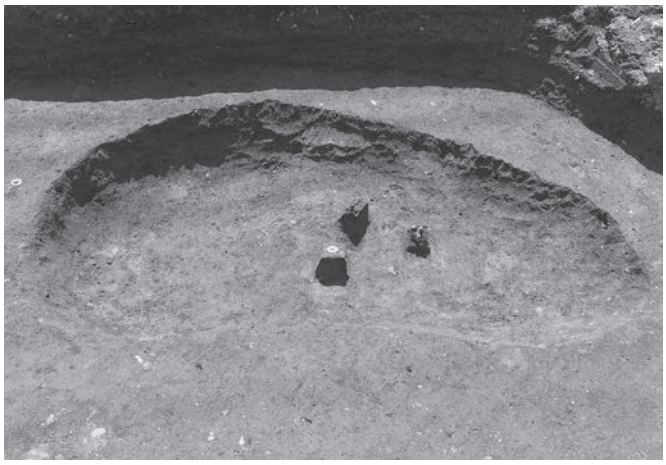
5．Ｂ４区南部旧流路(東から)



1．Ｃ１区２面26号土坑全景（北から）

2．Ｃ１区２面26号土坑全景（北から）

3．Ｃ１区２面27号土坑遺物出土状態（西から）



4．Ｃ１区２面27号土坑遺物出土状態（東から）

5．Ｃ１区２面27号土坑遺物出土状態（東から）

1．Ｂ５区２面30号土坑全景（北から）

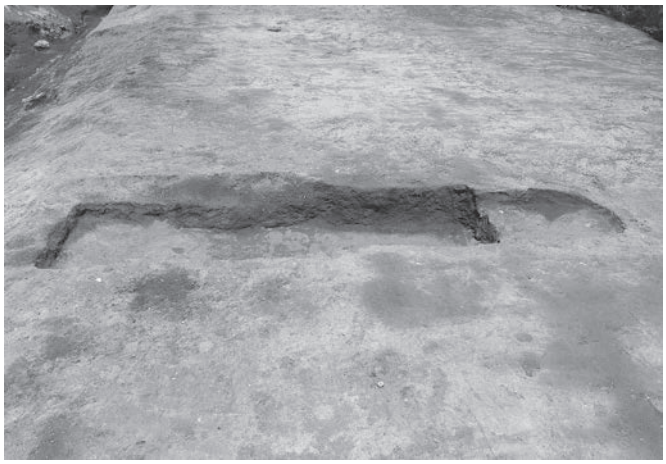
2．Ｂ５区２面31号土坑全景（北から）

3．Ｂ５区２面31号土坑遺物出土状態（南から）

4．Ｂ５区２面31号土坑遺物出土状態（東から）

5．Ｂ５区２面32号土坑全景（北から）

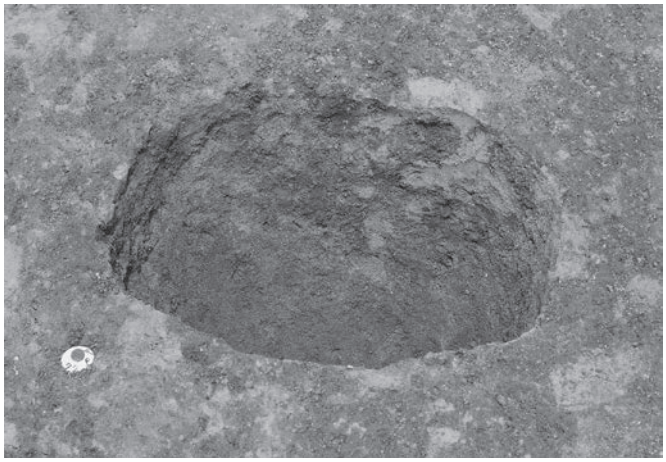
6．Ｂ５区２面31・32号土坑全景（北西から）



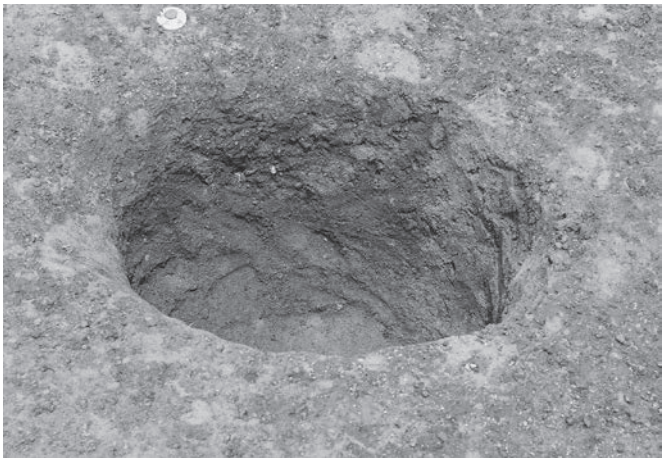
7．Ｂ５区２面34ａ・ｂ・ｃ号土坑全景（南から）

8．Ｂ５区２面34ａ・ｂ・ｃ号土坑全景（西から）

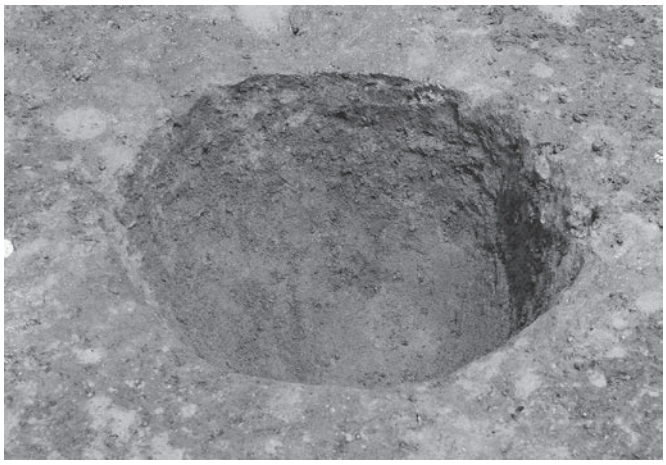
1．Ｂ４区２面旧流路左岸全景(南から)



2．Ｂ４区２面77号ピット全景(南西から)

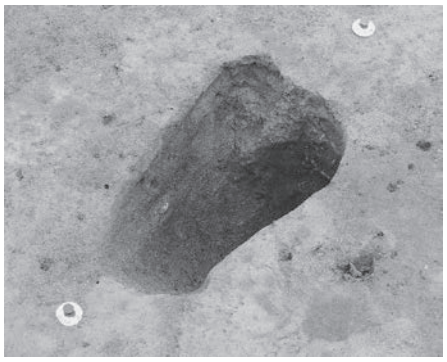


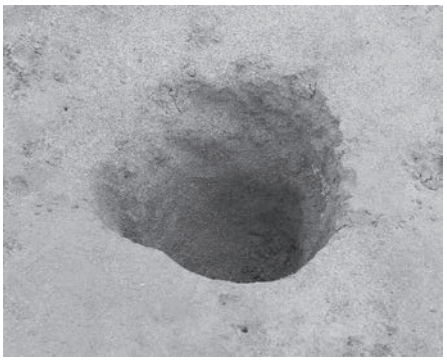
3．Ｂ４区２面78号ピット全景(南から)

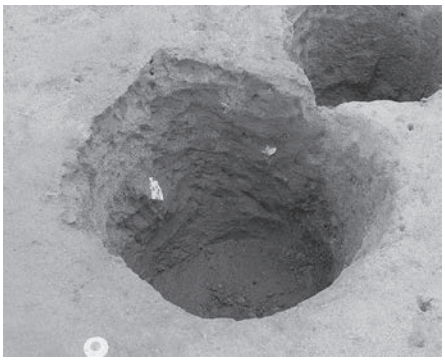


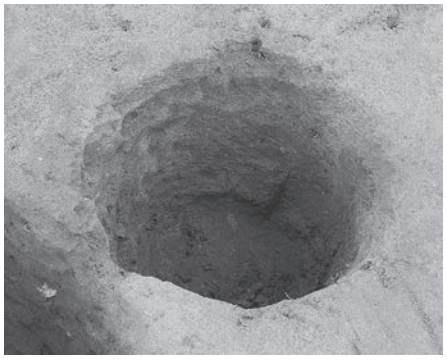
4．Ｂ４区２面94号ピット全景(南から)

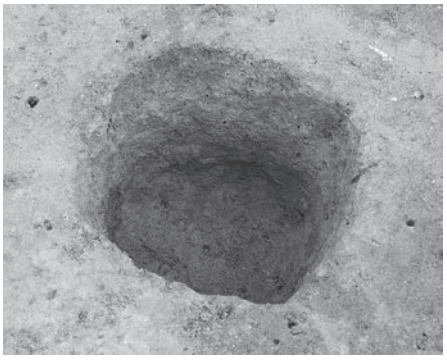
5．Ｂ４区２面102・103号ピット全景(南から)

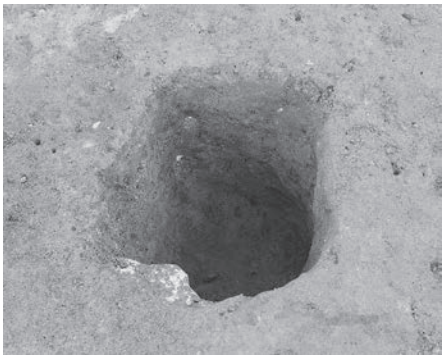

1．Ｂ５区２面112号ピット全景(南から)

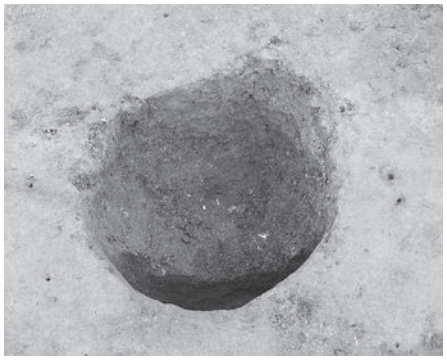

2．Ｂ５区２面113号ピット全景(南から)

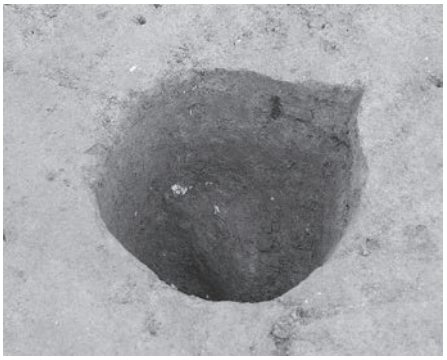

3．Ｂ５区２面114号ピット全景(南から)


4．Ｂ５区２面115号ピット全景(南から)

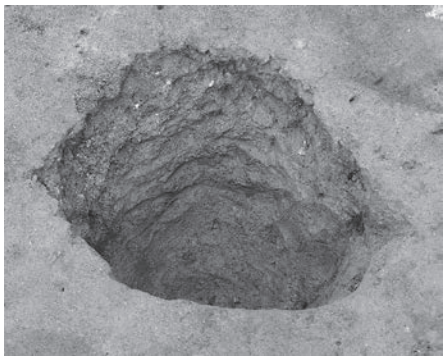

5．Ｂ５区２面116号ピット全景(南から)


6．Ｂ５区２面117号ピット全景(南から)

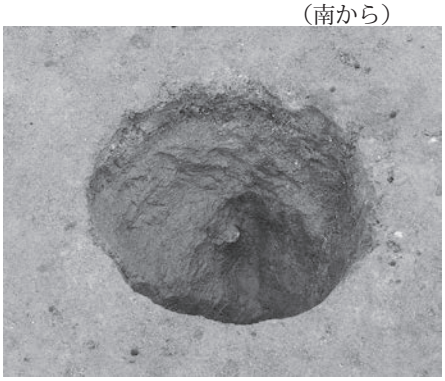

7．Ｂ５区２面118号ピット全景(南から)

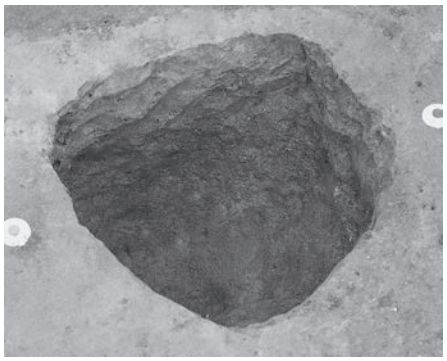

8．Ｂ５区２面119号ピット全景(南から)

9．Ｂ５区２面120・121号ピット全景
(南から)


10．Ｂ５区２面122号ピット全景(南から)

11．Ｂ５区２面123号ピット全景(南から)


12．Ｂ５区２面124号ピット全景(南から)


13．Ｂ５区２面125号ピット全景(南から)

14．Ｂ５区２面ピット群全景(南から)

15．Ｂ５区２面調査区全景(南から)

1．Ｃ４区２面１号石垣全景(東から)

2．Ｃ４区２面１号石垣断面(南東から)

3．Ｃ４区２面１号石垣上部(南から)

4．Ｃ４区北壁土層断面(南から)

5．Ｃ４区２面調査風景(南東から)

1．Ｂ５区３面調査区全景(南から)

2．Ｂ５区３面全景(北から)

3．Ｂ５区３面全景(南から)

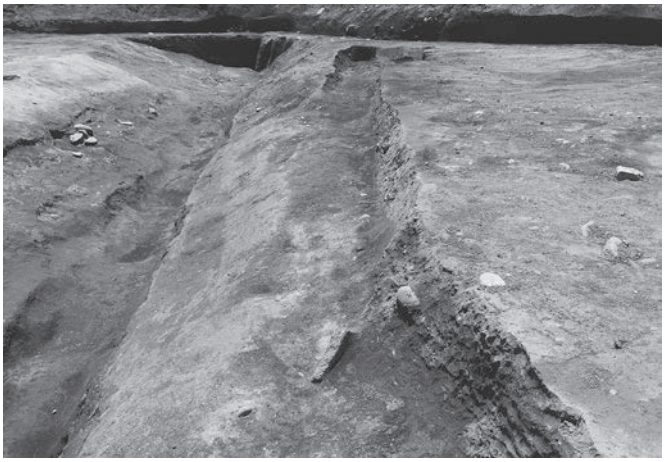
4．Ｂ５区３面調査区北西ピット群(南西から)

5．Ｂ５区３面調査区北西ピット群(西から)

１．Ｃ１区３面12号溝全景(南から)

２．Ｃ１区３面12号溝全景(西から)

３．Ｂ５区３面13号溝全景(南西から)



４．Ｂ５区３面13号溝全景(北東から)

５．Ｂ５区３面13号溝土層断面(南から)

６．Ｂ５区３面18号溝全景(東から)

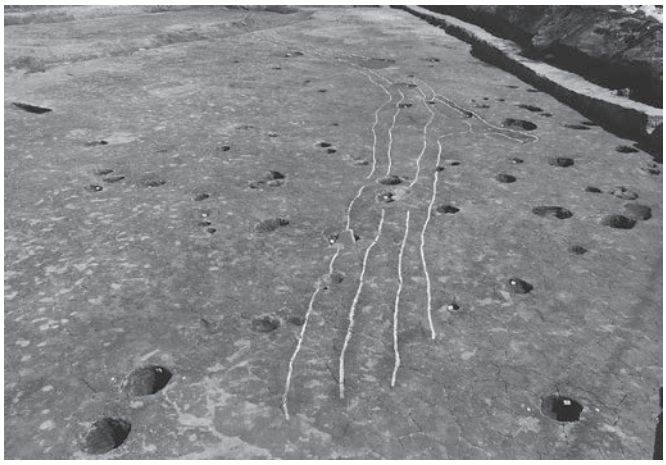
７．Ｂ５区３面18号溝全景(北東から)

８．Ｂ５区３面18号溝土層断面(南から)

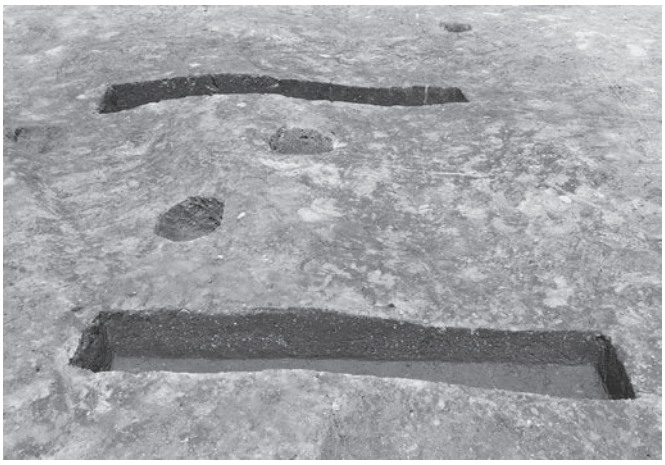
1．Ｂ５区３面１号畦全景(南東から)

2．Ｂ５区３面１号畦全景(北から)

3．Ｂ５区３面１号畦全景(南東から)



4．Ｂ５区３面１号畦全景(北から)



5．Ｂ５区３面１号畦土層断面(南から)

１．Ｂ５区３面耕作痕全景(北東から)

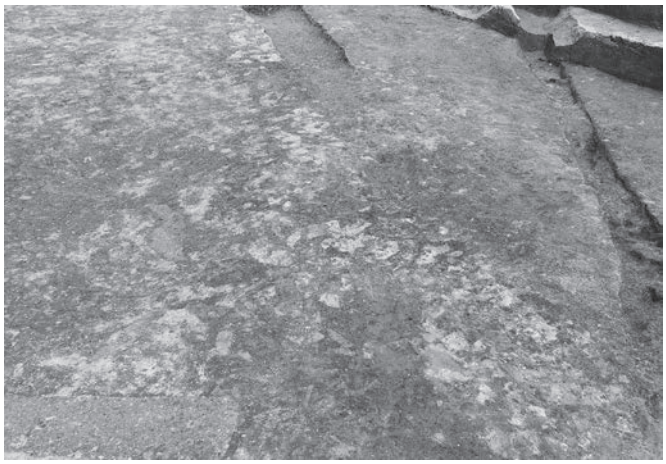
２．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(東から)

３．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(南から)

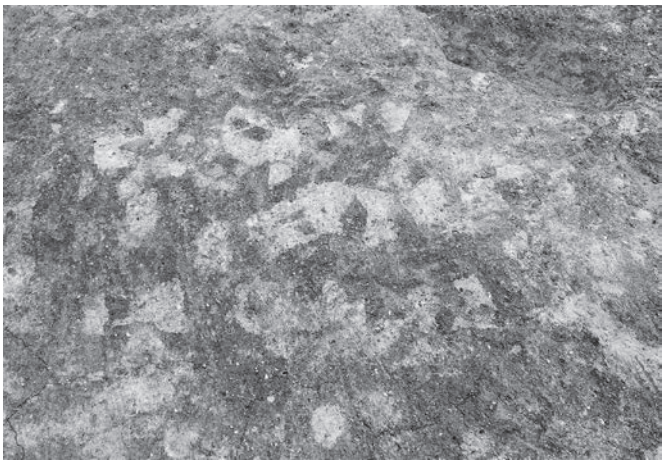
４．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(南から)

５．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(西から)

６．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(南から)

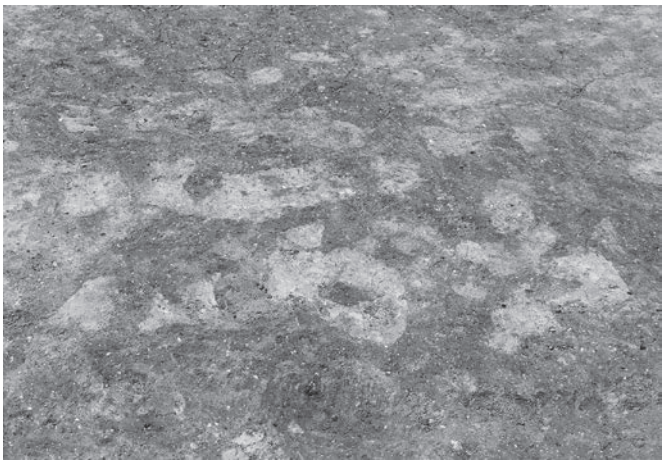


７．Ｂ５区４面耕作痕検出状況(南から)

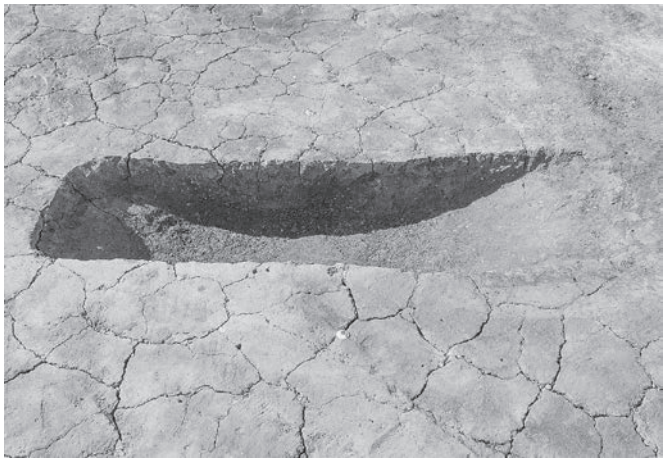


８．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(西から)

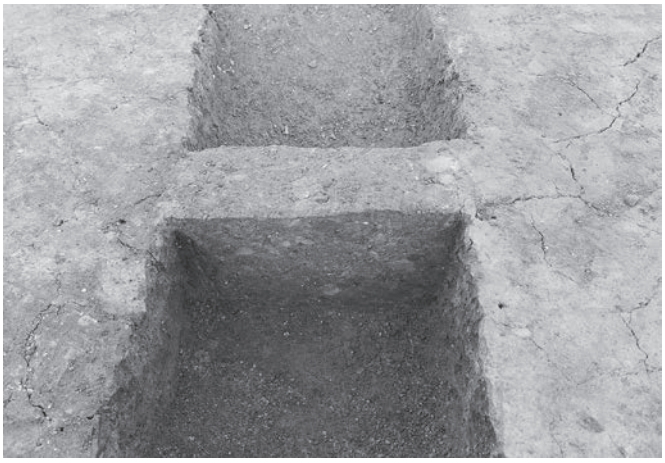
1．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(西から)



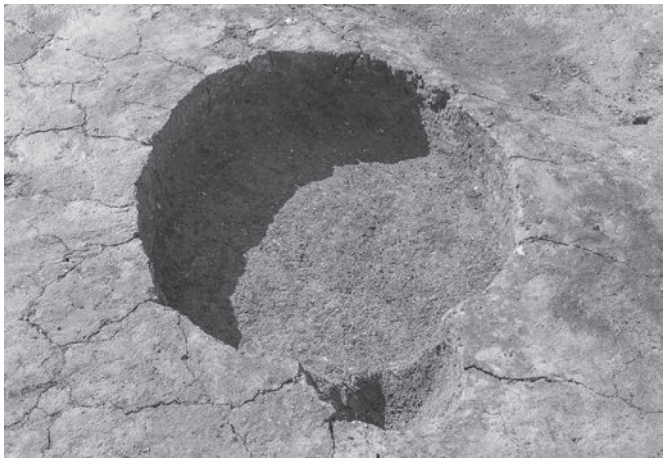
2．Ｂ５区３面耕作痕検出状況(東から)



3．Ｂ５区３面35号土坑全景(南から)

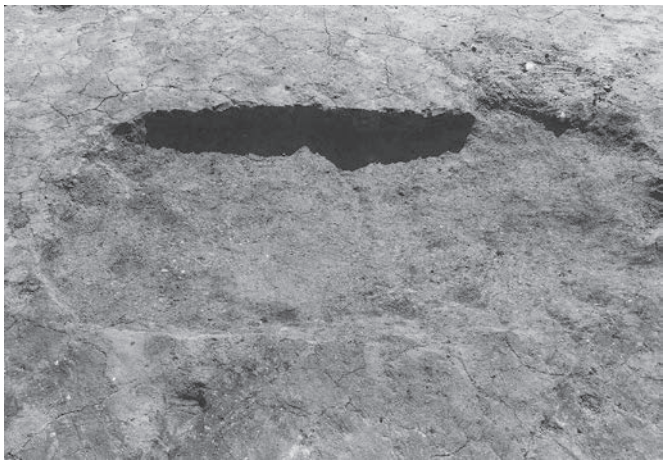


4．Ｂ５区３面35号土坑土層断面(西から)



5．Ｂ５区３面36号土坑全景(南から)

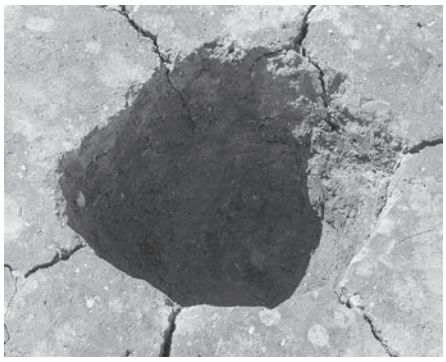
6．Ｂ５区３面37号土坑全景(南から)



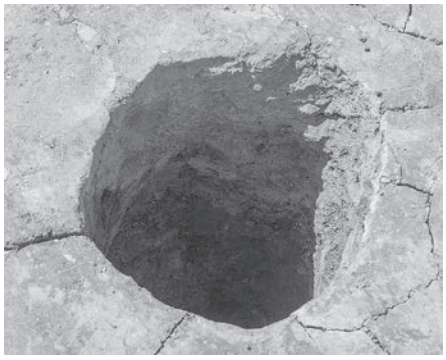
7．Ｂ５区３面38号土坑全景(東から)

8．Ｂ５区３面39号土坑全景(南から)

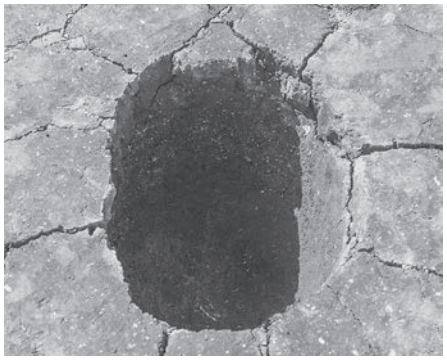
1．Ｂ５区３面ピット群(南から)



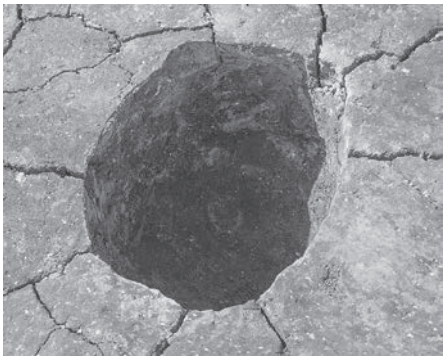
2．Ｂ５区３面190号ピット全景(南から)



3．Ｂ５区３面191号ピット全景(南から)



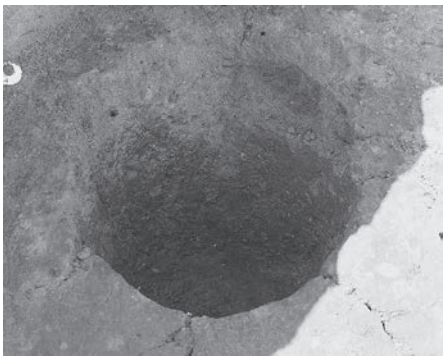
4．Ｂ５区３面192号ピット全景(南から)



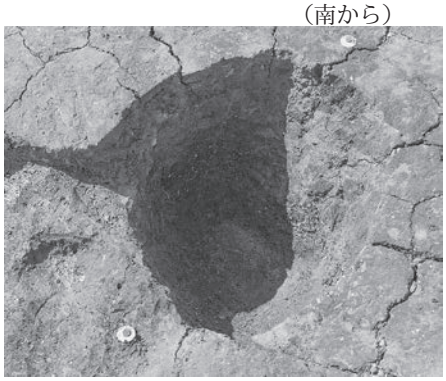
5．Ｂ５区３面193号ピット全景(南から)

6．Ｂ５区３面194号ピット土層断面
(南から)

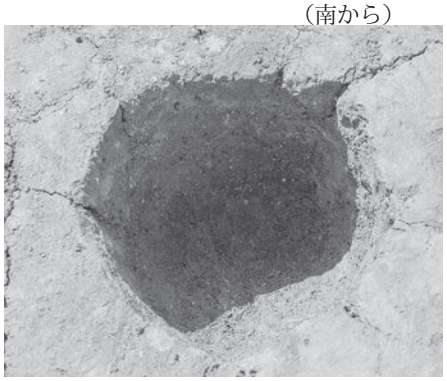
7．Ｂ５区３面195号ピット土層断面
(南から)



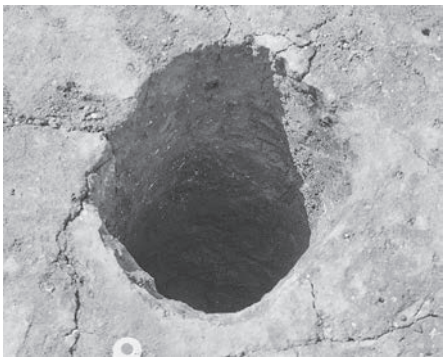
8．Ｂ５区３面195号ピット全景(南から)



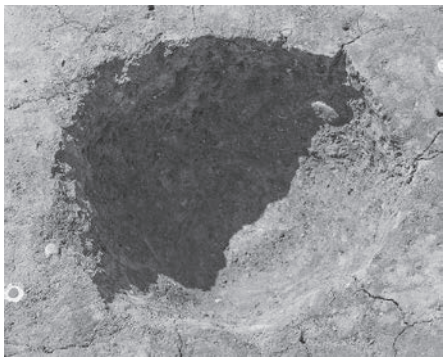
9．Ｂ５区３面196号ピット全景(南から)



10．Ｂ５区３面197号ピット全景(南から)



11．Ｂ５区３面199号ピット全景(南から)

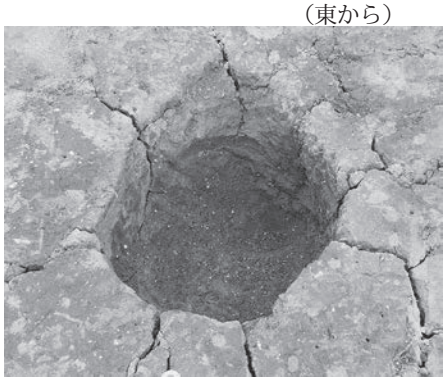


12．Ｂ５区３面200号ピット全景(南から)

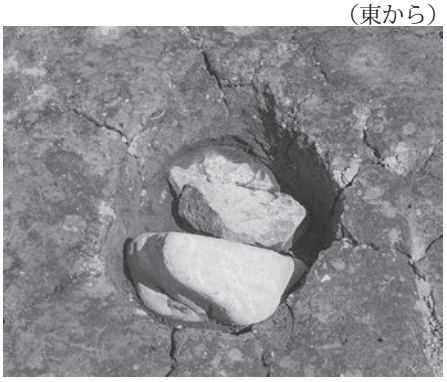
1．Ｂ５区３面203・260号ピット全景（東から）

2．Ｂ５区３面260号ピット礎石出土状態（東から）

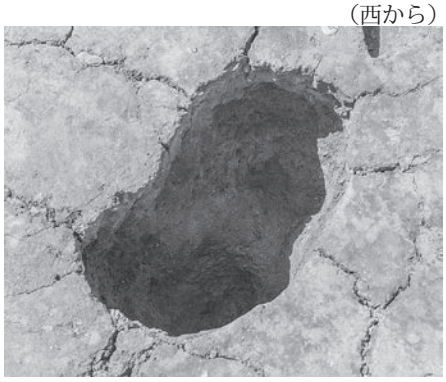
3．Ｂ５区３面260号ピット礎石出土状態（西から）



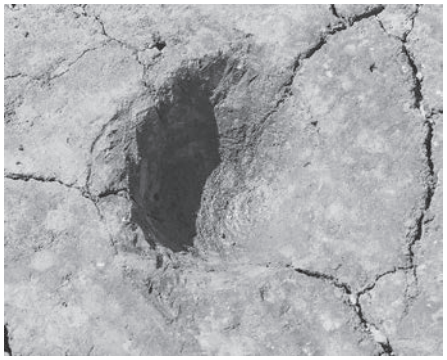
4．Ｂ５区３面204号ピット全景（南から）



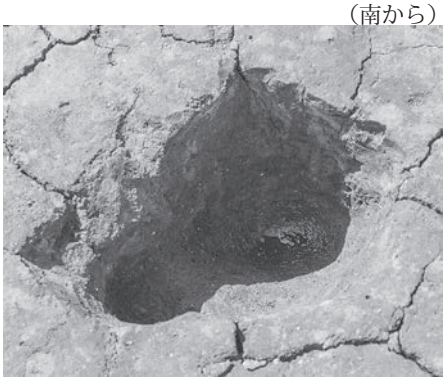
5．Ｂ５区３面204号ピット礎石出土状態（南から）



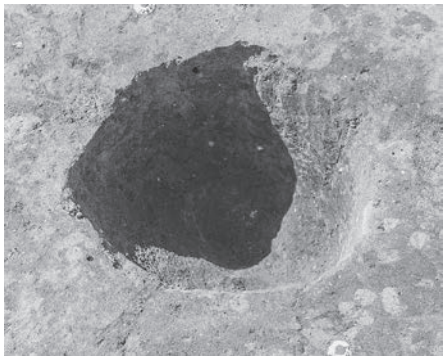
6．Ｂ５区３面205号ピット全景（南から）



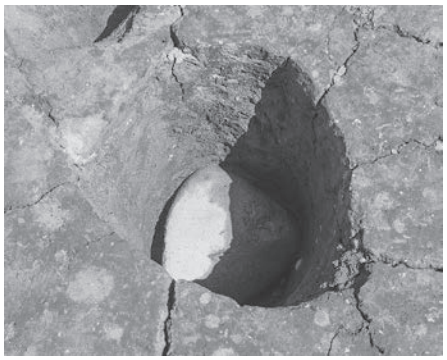
7．Ｂ５区３面206号ピット全景（南から）



8．Ｂ５区３面208号ピット全景（南から）



9．Ｂ５区３面224号ピット全景（南から）



10．Ｂ５区３面263号ピット礎石出土状態（南から）

11．Ｂ５区３面263号ピット全景（南から）

12．Ｂ５区３面ピット群（東から）

1．Ｂ４区４面１号水田全景（西から）

2．Ｂ４区４面１号水田全景（南から）

3．Ｂ４区４面１号水田畦土層断面（南から）

4．Ｂ４区４面北壁土層断面（南から）

1．Ｃ１区４面２号水田全景(北から)

2．Ｃ１区４面２号水田畦検出状況(東から)

3．Ｃ１区４面２号水田畦検出状況(西から)

4．Ｃ１区４面２号水田畦検出状況(南から)

5．Ｃ１区土層断面(北から)

1．Ｂ４区５面全景(北から)

2．Ｂ４区５面全景(南から)

3．Ｂ４区５面全景(西から)

4．Ｂ４区５面10号溝全景(南から)

1．Ｂ４区５面11号溝全景(南から)

2．Ｂ４区５面11号溝土層断面(西から)

3．Ｂ４区５面17号溝全景(北から)

4．Ｂ４区５面17号溝全景(南から)

5．Ｂ４区５面調査区北東部全景(西から)

6．Ｂ４区５面17号溝土層断面(西から)

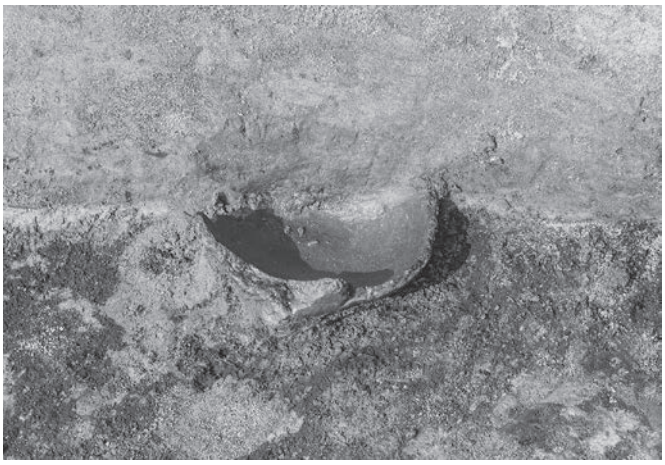
7．Ｂ４区５面北壁土層断面(南から)

1．Ｂ４区５面遺物出土状態(南から)

2．Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)

3．Ｂ４区５面遺物出土状態(北西から)

4．Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)

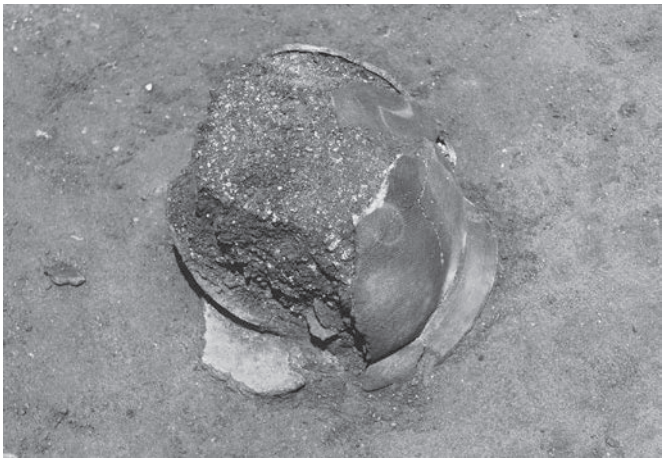


5．Ｂ４区５面遺物出土状態(東から)

1．Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)

2．Ｂ４区５面遺物出土状態(南から)

3．Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)



4．Ｂ４区５面遺物出土状態(南から)

5．Ｂ４区５面遺物出土状態(西から)

6．Ｂ４区５面遺物出土状態(東から)

7．Ｂ４区５面全景(南から)

8．Ｂ４区５面北壁土層断面(南から)

1．Ｂ５区６面全景(北西から)

2．Ｂ５区６面全景(北から)

3．Ｂ５区６面全景(西から)

4．Ｂ５区６面全景(南東から)

5．Ｂ５区６面全景(南から)

1．Ｂ５区６面20～22号溝全景（北西から）

2．Ｂ５区６面20号溝全景（東から）

3．Ｂ５区６面20号溝全景（北西から）

4．Ｂ５区６面20号溝土層断面（南から）

5．Ｂ５区６面21号溝全景（北西から）

6．Ｂ５区６面21号溝土層断面（南から）

7．Ｂ５区６面21号溝、40号土坑土層断面（北から）

1．Ｂ５区６面22号溝全景(北西から)

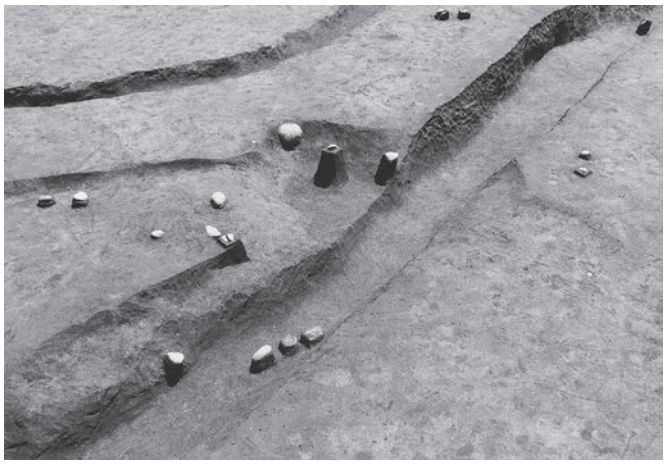
2．Ｂ５区６面22号溝土層断面(南西から)

3．Ｂ５区６面遺物出土状態(西から)

4．Ｂ５区６面遺物出土状態(南から)

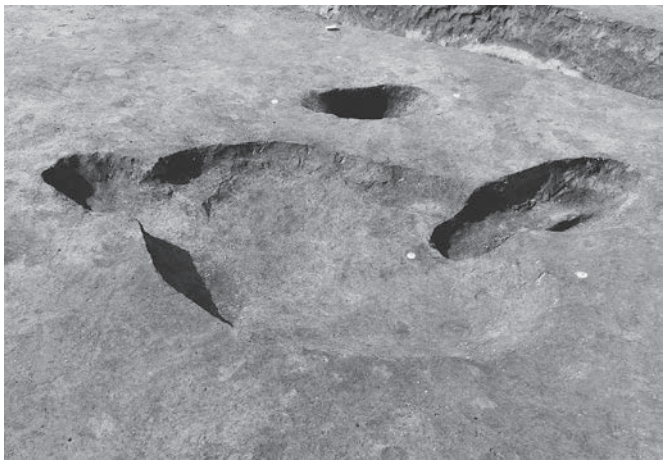
5．Ｂ５区６面遺物出土状態(北西から)

6．Ｂ５区６面遺物出土状態(南東から)



7．Ｂ５区６面21号溝、40号土坑遺物出土状態(北西から)

8．Ｂ５区６面40号土坑全景(南から)

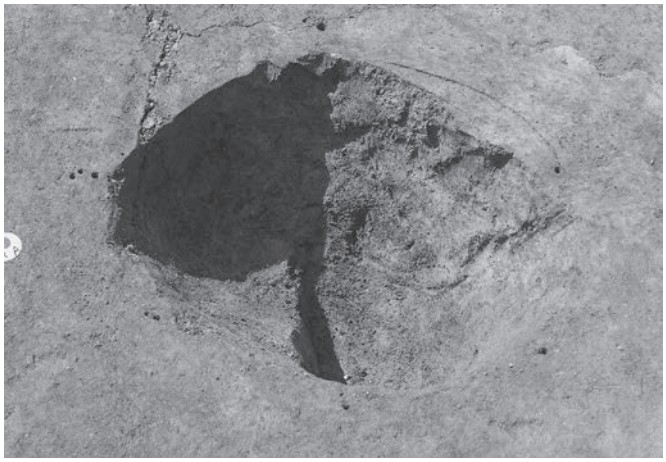


1．Ｂ５区６面41号土坑全景(南から)

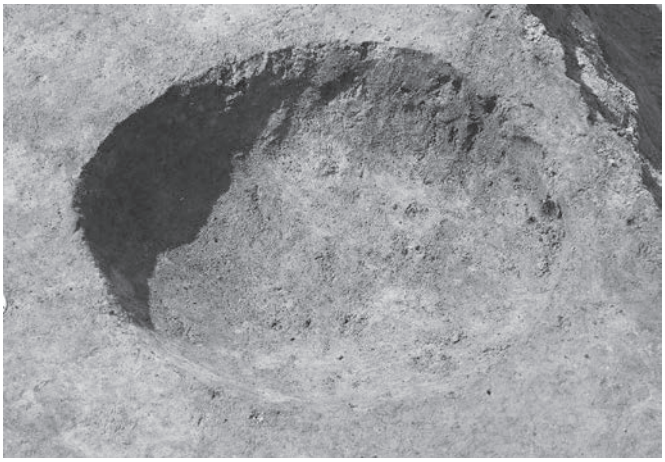
2．Ｂ５区６面41号土坑全景(西から)

3．Ｂ５区６面278号ピット全景(南から)

4．Ｂ５区６面279号ピット全景(南から)



5．Ｂ５区６面280号ピット全景(南から)



6．Ｂ５区６面281号ピット全景(南から)

7．Ｂ５区６面282号ピット全景(南から)

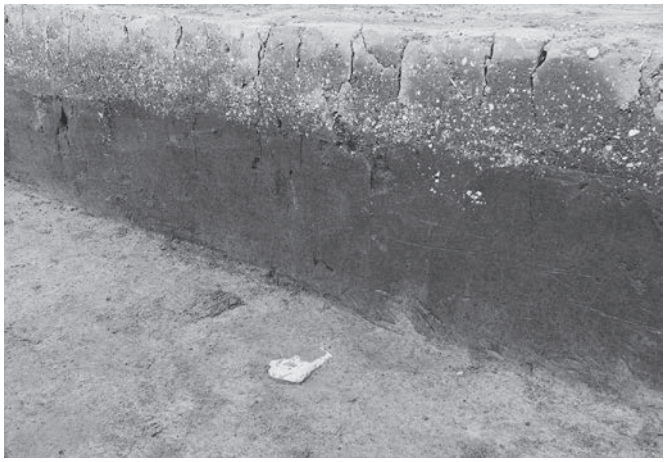
8．Ｂ５区６面283号ピット全景(南から)

1．Ｂ５区トレンチ全景(南から)

2．Ｂ５区東トレンチ(南から)

3．Ｂ５区中央トレンチ(北から)

4．Ｂ５区西トレンチ(北から)



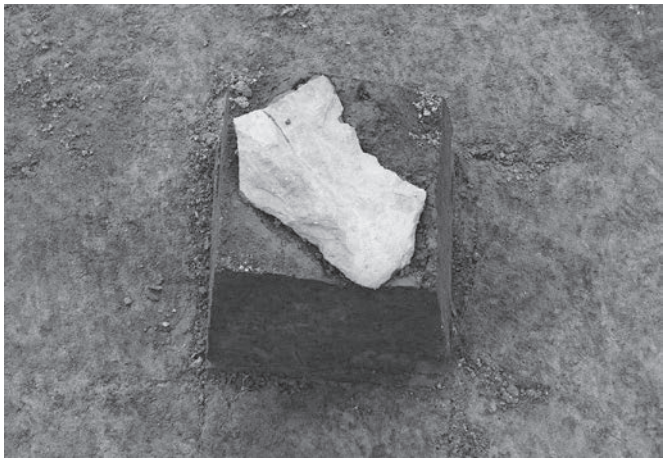
5．Ｂ５区東トレンチ遺物出土状態(南西から)

6．Ｂ５区西トレンチ遺物出土状態(東から)

7．Ｂ５区西トレンチ遺物出土状態(南から)

1．Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(南東から)

2．Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(南から)



3．Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(東から)

4．Ｂ５区６面東トレンチ遺物出土状態(東から)

5．Ｂ５区６面西トレンチ遺物出土状態(東から)

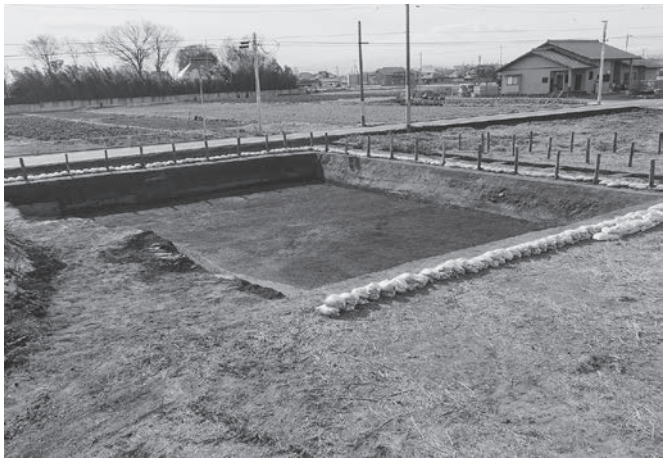
6．Ｂ５区６面西トレンチ遺物出土状態(東から)

7．Ｂ５区６面調査風景(北西から)

8．Ｂ５区土層断面(南から)

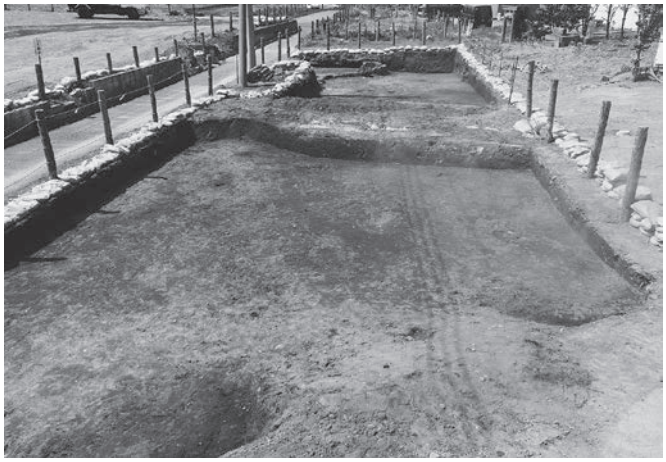
1．Ａ１区調査区全景(南から)

2．Ｂ１区調査区全景(北から)



3．Ｂ２区調査区全景(北東から)

4．Ｂ６区調査区全景(北から)



5．Ｃ１区調査区全景(南から)

6．Ｃ２区調査区全景(南西から)

7．Ｃ３区調査区全景(西から)

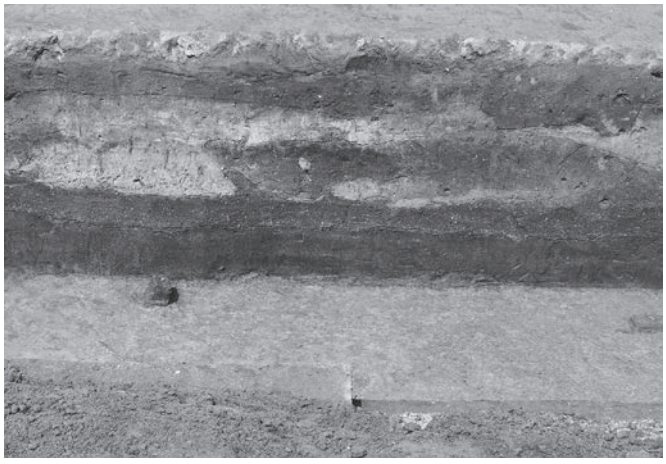
8．Ｃ４区調査区全景(南東から)

1．Ｂ４区土層堆積状況No.２

２．Ｂ４区土層堆積状況No.４

３．Ｂ４区土層堆積状況No.５

４．Ｃ１区土層堆積状況No.９



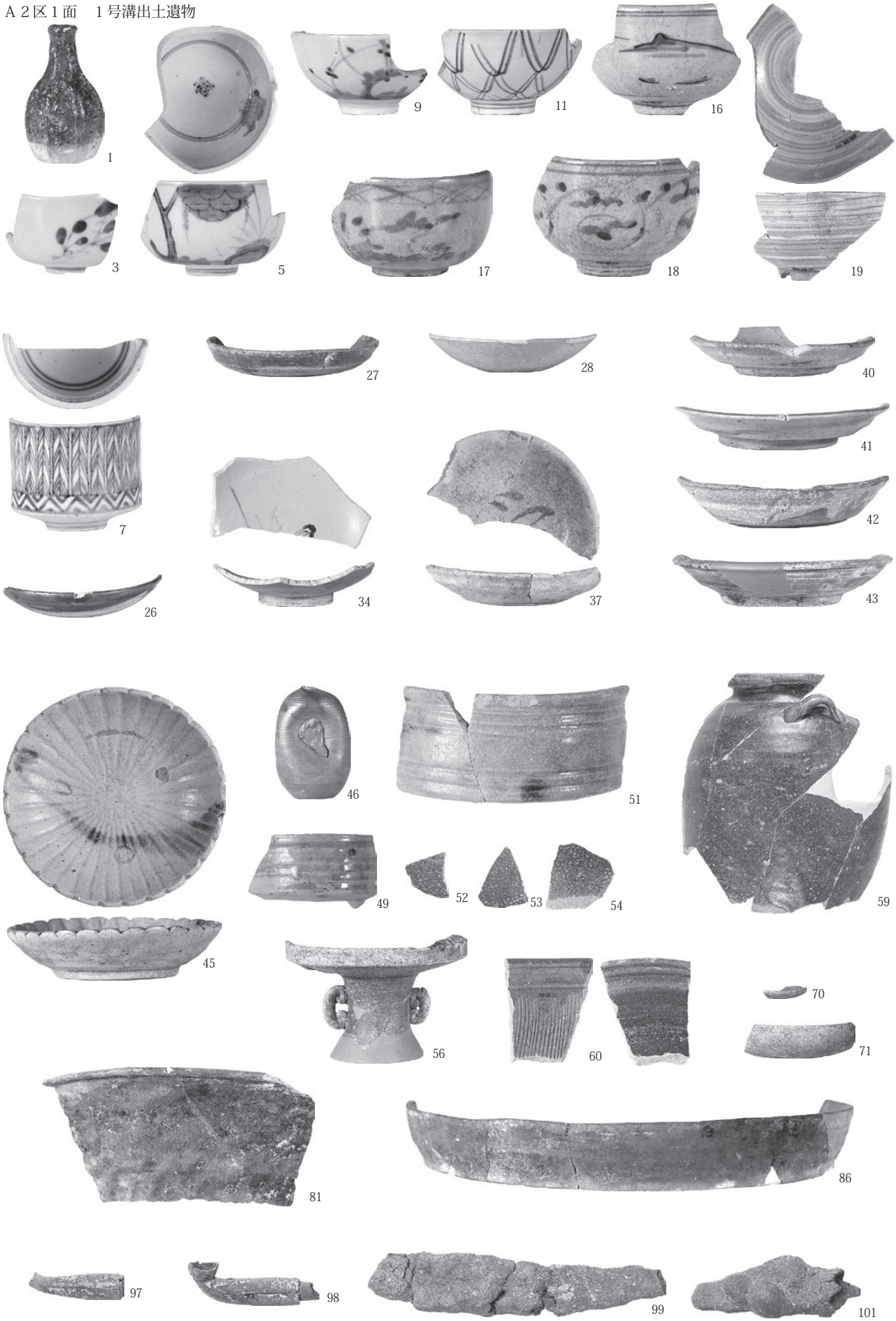
５．Ｃ１区土層堆積状況No.10

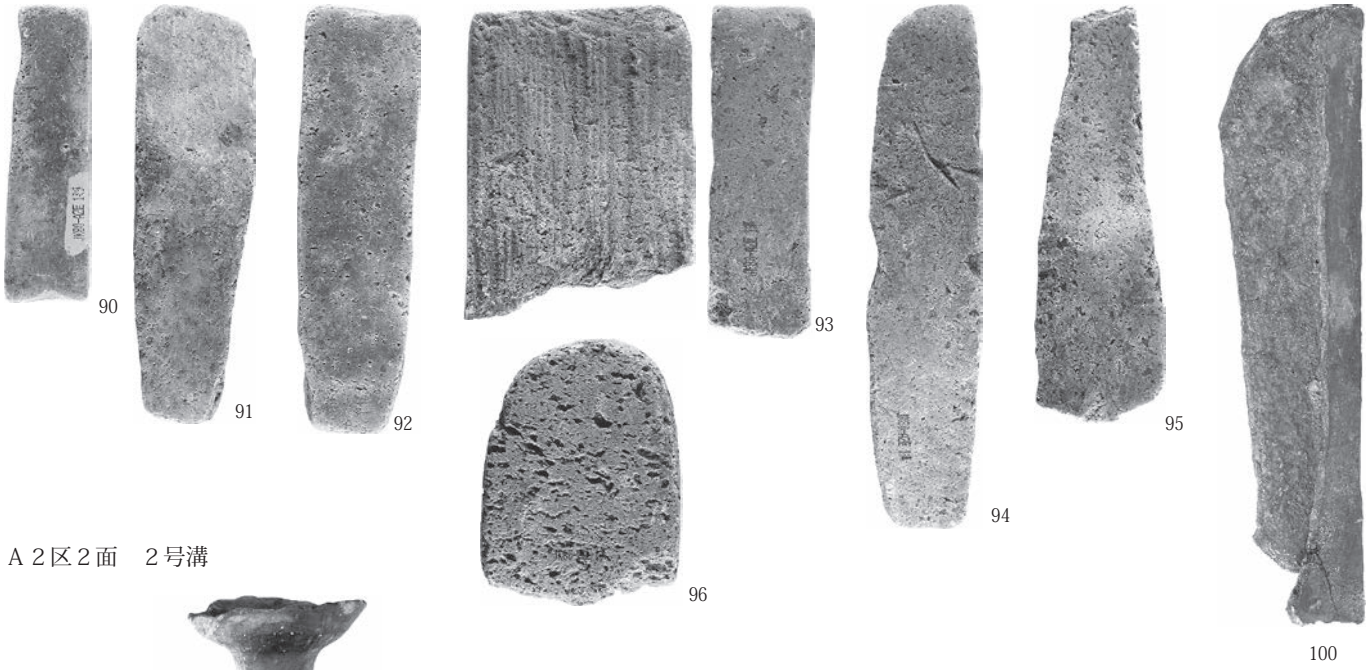
６．Ｃ３区土層堆積状況No.12

７．Ｃ４区土層堆積状況No.13

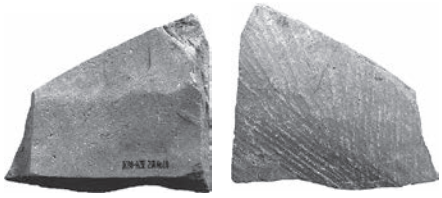
PL.48

Ａ２区１面　１号溝出土遺物



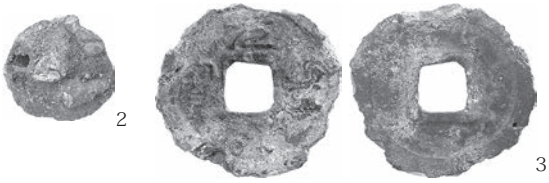


A２区２面　２号溝



A２区２面　４号溝出土遺物

A２区３面 遺構外出土遺物



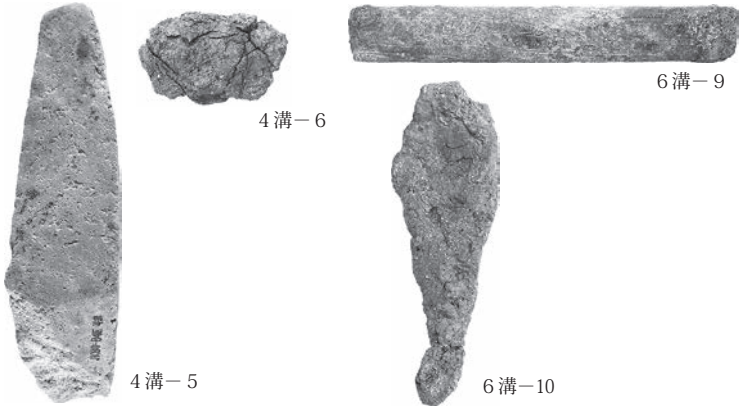
１号地下式土坑

２号地下式土坑

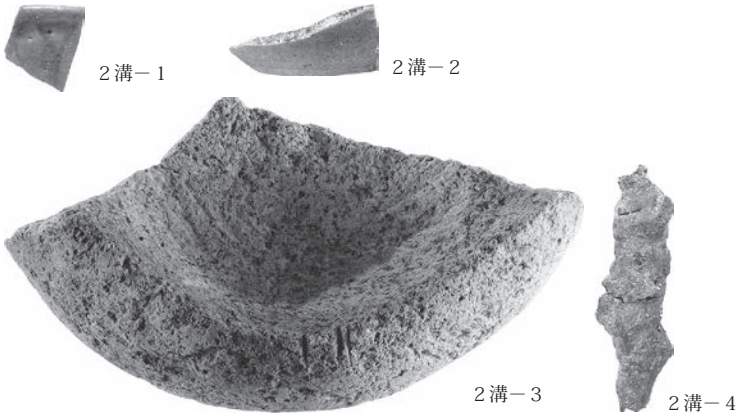
A２区３面 ３号溝

B４区１面　１号堅穴状遺構出土遺物

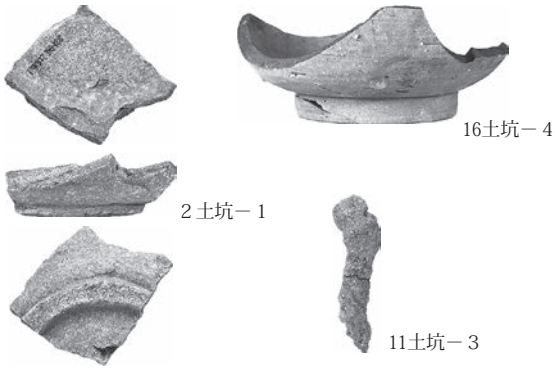
B４区１面　４・６号溝出土遺物



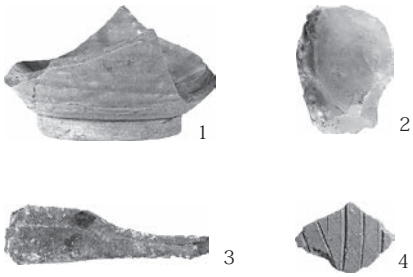
B４区１面　２号溝出土遺物



B４区１面　２・11・20号土坑出土遺物

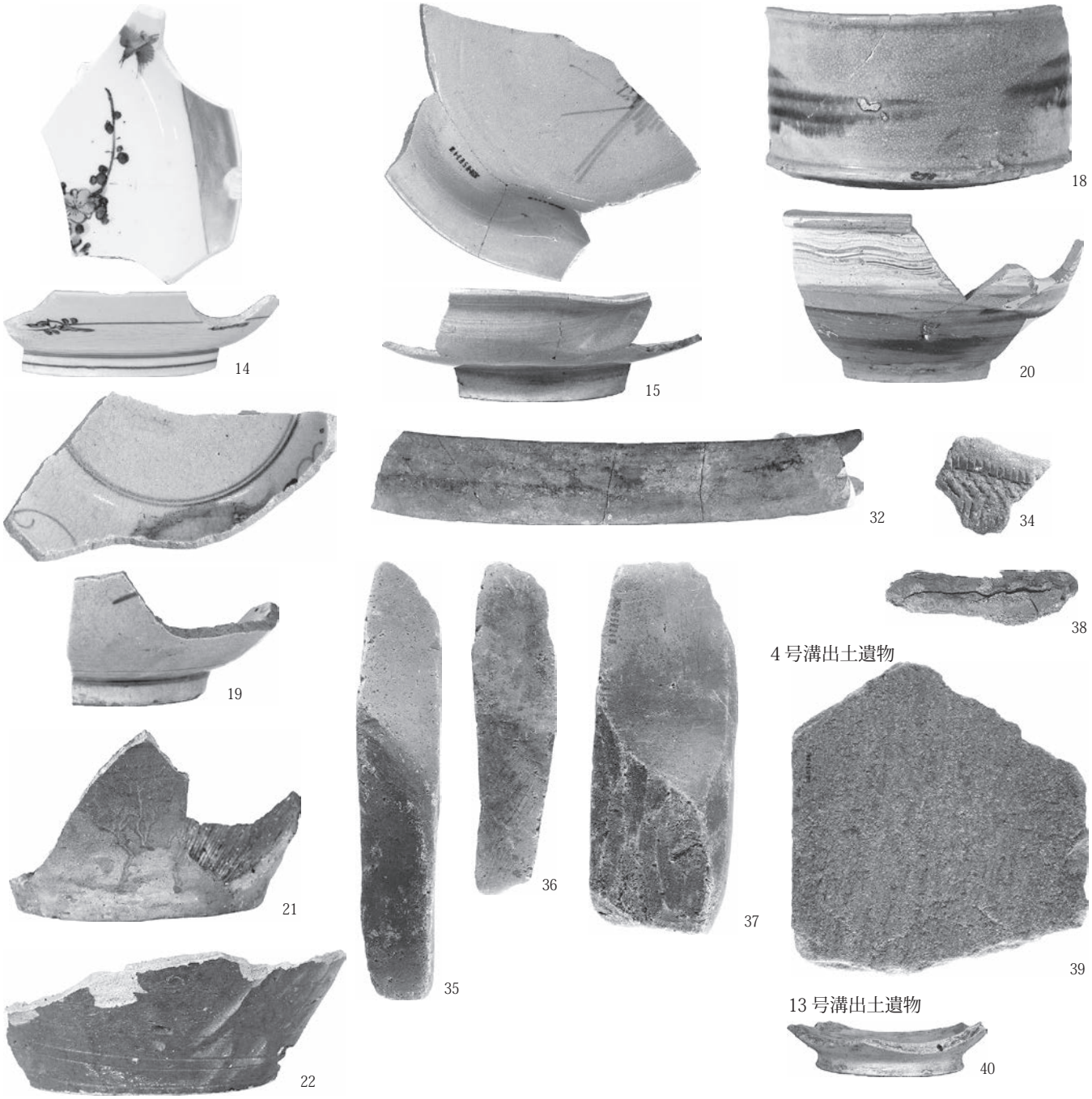


B４・C１区１面　遺構外出土遺物

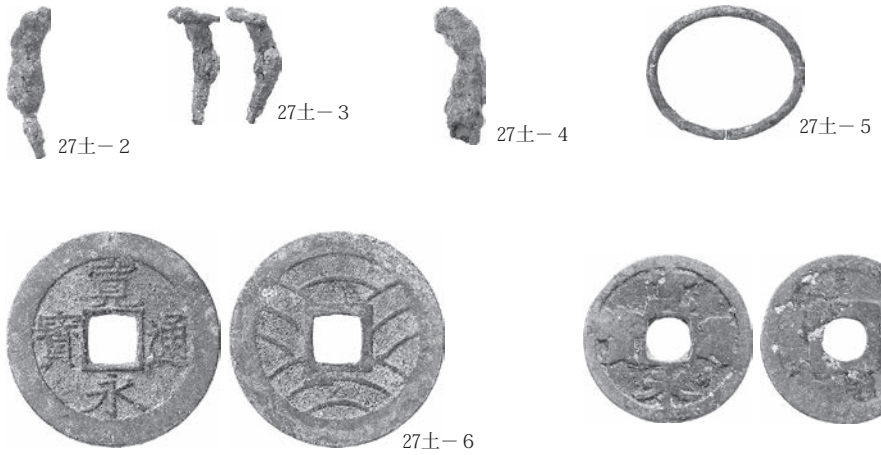


C１区２面　９号溝出土遺物

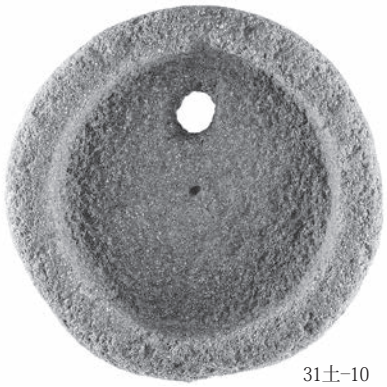
B５区２面　３・４号溝出土遺物



B５・C１区２面　土坑出土遺物



C１区２面　１号畑出土遺物


31土-10

31土-11

B４区２面出土遺物

1

2

3

4

5

6

30土-9

B５区２面出土遺物

7

8

9

10

11

14

12

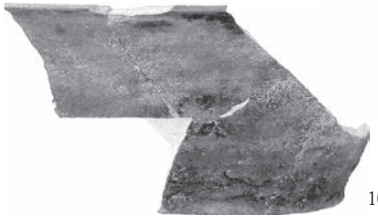
13

15

18

19

20


16

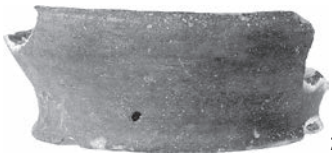
21

22

23

24

C１区２面出土遺物


25

C４区２面出土遺物

26

B５区３面　260号ピット出土遺物

260ピット―1

C１区３面遺構外出土遺物

29

28

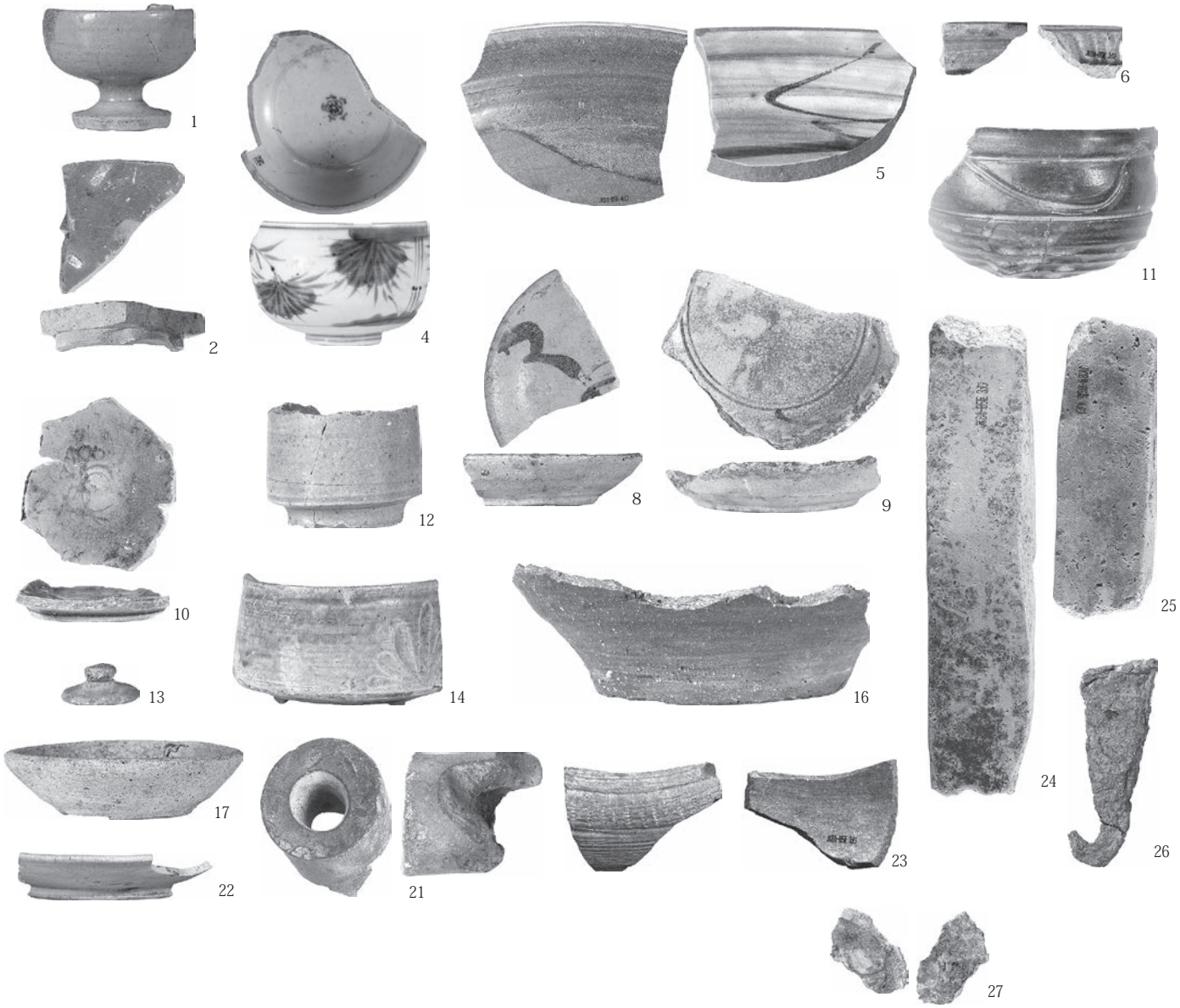
B６区３面遺構外出土遺物

3

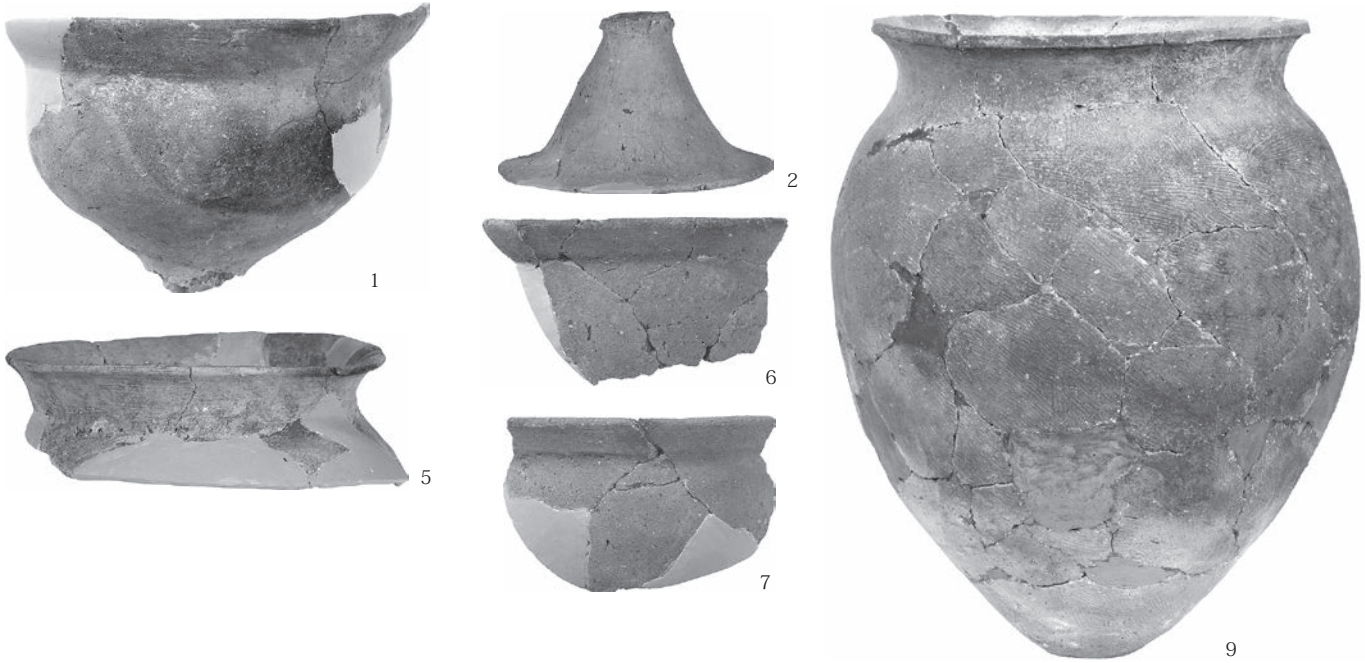
B区４面遺構外出土遺物

1

Ｂ５区３面　遺構外出土遺物



Ｂ４区５面　遺構外出土遺物



PL.54

Ｂ５区６面　20号溝出土遺物

20溝―１

21溝―２

Ｂ５・Ｃ１区６面　遺構外出土遺物

1

2

3

4

5

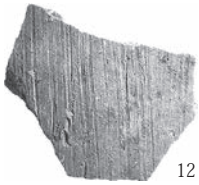
7

6

10

11

8



12

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	かわばたやましたいせき
書 名	川端山下遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その３)報告書
巻　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	626
編著者名	都木直人
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20170310
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かわばたやましたいせき
遺 跡 名	川端山下遺跡(前橋市0903遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかわばたまち
遺跡所在地	群馬県前橋市川端町
市町村コード	10201
遺跡番号	0903（旧番号00808）
北緯（世界測地系）	362603
東経（世界測地系）	1403627
調査期間	20121201-20130630
調査面積	8031.76
調査原因	道路建設
種　別	包蔵地/集落/生産
主な時代	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
遺跡概要	縄文時代・弥生時代-溝３+土坑２+ピット６-土器+石器/古墳時代前-溝３-土器/古墳時代-水田２-土器/古代-竪穴住居１+溝４+畦１+耕作痕１+土坑５+ピット88-土器+石器+陶磁器+金属器/中・近世-竪穴状遺構１+溝10+畑１+井戸１+地下式土坑２+土坑11+ピット112+石垣１-土器+石器+陶磁器+金属器+通貨/近世-竪穴状遺構１+溝9+土坑26+ピット72-土器+石器+陶磁器+金属器+鉄滓
特記事項	Ａ区の２号溝から在地系土器の灯火台、２号地下式土坑から吊り金具、Ａ区の１号溝及びＢ区から前橋藩窯で焼成された陶磁器、Ｃ１区27号土坑から南鐐二朱銀形土製品が出土した。
要約	本遺跡は赤城山南西麓の広瀬川低地帯に位置している。細ヶ沢川、大堰川、桃ノ木川などの河川が密集しており、それらの後背湿地上にある。細ヶ沢川旧流路右岸の微高地から中・近世の溝による区画が見つかり屋敷跡と推定される。５世紀洪水層下では水田の畦が確認された。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第626集

川端山下遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その３)報告書

平成29(2017)年３月３日　印刷
平成29(2017)年３月10日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／朝日印刷工業株式会社